

平成22年度診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成23年度調査）
回復期リハビリテーションにおける質の評価、がん患者リハビリテ
ーションの創設など、リハビリテーション見直しの影響調査

報 告 書

目 次

I. 調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査対象・方法	2
II. 結果の概要	4
1. 回復期リハビリテーション病棟を有する病院	4
2. 亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病院	82
3. その他の疾患別リハビリテーション料の届出病院	136
4. 疾患別リハビリテーション料の届出診療所の概況	155
5. 疾患別リハビリテーションの外来患者の概況	166
6. がん患者リハビリテーション料の届出病院の概況	174
III. まとめ	181
IV. 調査票	204

I. 調査の概要

1. 目的

本調査「回復期リハビリテーションにおける質の評価、がん患者リハビリテーションの創設など、リハビリテーション見直しの影響調査」は以下の事項を目的とする。

- ・回復期リハビリテーション病棟入院料に係る診療報酬の見直しの影響調査
- ・リハビリテーション提供体制加算の創設等、亜急性期入院医療管理料に係る診療報酬の見直しの影響調査
- ・がん患者リハビリテーション料の創設に伴う影響調査
- ・急性期・維持期のリハビリテーションの医療保険における位置づけの把握
- ・外来リハビリテーションの医療保険における位置づけの把握

<調査のねらい>

- 各リハビリテーション料を算定している保険医療機関におけるリハビリテーションの提供体制の把握
- 回復期リハビリテーション病棟、亜急性期入院医療管理料算定病棟における、施設ごとの入院時の患者の状況の把握
- 介護保険サービス提供事業者との連携状況の把握
- 患者毎の各種リハビリテーションの提供状況の把握 / 等

2. 調査対象・方法

(1) 調査対象

① 施設票

- ・回復期リハビリテーション病棟入院料の届出をする全ての病院 1,124 施設 (1,064 施設)
- ・亜急性期入院医療管理料の届出をする全ての病院 1,314 施設 (1,276 施設)
- ・がん患者リハビリテーション料の届出をする全ての病院 119 施設 (103 施設)
- ・上記以外の疾患別リハビリテーション料の届出をしている全国の病院、一般診療所から無作為抽出を行った各 500 施設

② 病棟票

- ・回復期リハビリテーション病棟入院料の届出病院の全ての回復期リハビリテーション病棟
- ・亜急性期入院医療管理料の届出病院の全ての亜急性期入院医療管理料算定病室を含む病棟

③ 退棟患者票

- ・回復期リハビリテーション病棟入院料の届出病院の全ての回復期リハビリテーション病棟から、平成23年6月1カ月間に退棟した全ての患者
- ・亜急性期入院医療管理料の届出病院の全ての亜急性期入院医療管理料算定病室を含む病棟から、平成23年6月1カ月間に退棟した全ての患者 (亜急性期入院医療管理料1算定患者)

④ 外来患者票

- ・がん患者リハビリテーション料の届出病院を除く全ての調査対象施設において、平成23年8月31日に疾患別リハビリテーション料を算定した全ての外来患者

※調査客体数は上記のとおりである。調査客体は全国の保険医療機関等のうち、東日本大震災の影響が甚大な地域を除外した上で無作為抽出した。また、東日本大震災による被災地として配慮すべき地域については、調査発送前に電話により調査可否についての確認を実施した。この結果、発送数は、上記の()内の数値となった。以下、回収率はこの発送数に対する回収数の割合としている。

(2) 調査方法

- ・郵送発送、郵送回収

(3) 回収状況

図表 1-2-1 回収状況

調査種別	発送数	有効回収数	回収率
① 回復期リハビリテーション病棟入院料の届出病院	1,064 件	393 件	36.9%
病棟票		475 件	
退棟患者票		6,850 件	
② 亜急性期入院医療管理料の届出病院	1,276 件	404 件	31.7%
病棟票		503 件	
退棟患者票		1,456 件	
③ ①・②以外の疾患別リハビリテーション料の届出病院	500 件	178 件	35.6%
④ 疾患別リハビリテーション料の届出診療所	500 件	132 件	26.4%
⑤ ①～④の外来患者票		17,225 件	
⑥ がん患者リハビリテーション料の届出病院	103 件	68 件	66.0%

II. 結果の概要

1. 回復期リハビリテーション病棟を有する病院

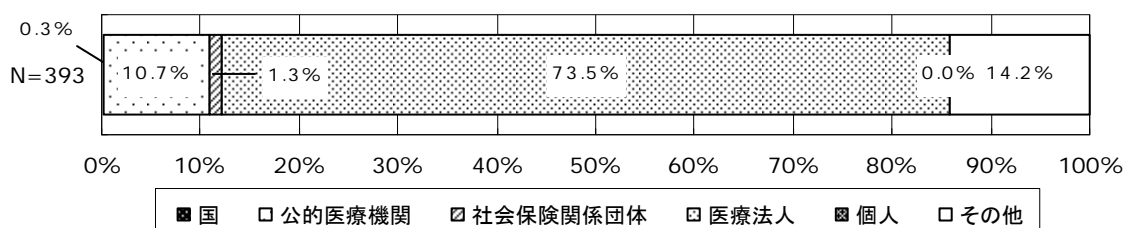
1) 回復期リハビリテーション病棟を有する病院の概況

(1) 概況

① 開設主体

回復期リハビリテーション病棟を有する病院の開設者についてみると「医療法人」73.5%が最も多く、次いで「その他」14.2%、「公的医療機関」10.7%などとなっていた。

図表 2-1-1 開設主体



② 併設施設・事業所

併設施設・事業所についてみると「居宅介護支援事業所」52.4%が最も多く、次いで「通所リハビリテーション事業所」51.4%、「訪問看護ステーション」45.0%などとなっていた。

図表 2-1-2 併設施設・事業所【複数回答】

	施設数	割合
居宅介護支援事業所	206 件	52.4%
通所リハビリテーション事業所	202 件	51.4%
訪問看護ステーション	177 件	45.0%
訪問リハビリテーション事業所	134 件	34.1%
介護老人保健施設	125 件	31.8%
訪問介護事業所	88 件	22.4%
通所介護事業所	67 件	17.0%
短期入所療養介護事業所	65 件	16.5%
短期入所生活介護事業所	33 件	8.4%
認知症対応型共同生活介護事業所	31 件	7.9%
介護老人福祉施設	28 件	7.1%
訪問看護事業所（訪問看護ステーション以外）	27 件	6.9%
小規模多機能型居宅介護事業所	17 件	4.3%
特定施設入居者生活介護事業所	6 件	1.5%
訪問入浴介護事業所	5 件	1.3%
総 数	393 件	

届出しているリハビリテーション料についてみると「運動器リハビリテーション料（Ⅰ）」97.2%が最も多く、次いで「脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）」91.6%、「呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）」60.8%などとなっていた。

図表 2-1-3 届出しているリハビリテーション料【複数回答】

	施設数	割合
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	40 件	10.2%
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅱ）	4 件	1.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	360 件	91.6%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）	32 件	8.1%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）	4 件	1.0%
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	382 件	97.2%
運動器リハビリテーション料（Ⅱ）	86 件	21.9%
運動器リハビリテーション料（Ⅲ）	4 件	1.0%
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	239 件	60.8%
呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）	14 件	3.6%
難病患者リハビリテーション料	3 件	0.8%
障害児（者）リハビリテーション料	6 件	1.5%
がん患者リハビリテーション料	16 件	4.1%
集団コミュニケーション療法料	124 件	31.6%
総 数	393 件	

(2) 入院患者の概況

① 診療報酬の算定状況

平成 21 年 6 月と平成 23 年 6 月の診療報酬の算定状況についてみると、平成 21 年 6 月の「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」の算定病院は 77.1%であったが、平成 23 年 6 月の「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」の算定病院は 90.3%であった。

また、「重症患者回復病棟加算」の算定病院は平成 21 年 6 月が 64.9%、平成 23 年 6 月が 85.0%であった。

図表 2-1-4 回復期リハビリテーション病棟入院料等特定入院料の算定状況

	施設数		割合	
	H21.6	H23.6	H21.6	H23.6
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	303 件	355 件	77.1%	90.3%
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	41 件	41 件	10.4%	10.4%
重症患者回復病棟加算	255 件	334 件	64.9%	85.0%
休日リハビリテーション提供体制加算	-	258 件	-	65.6%
リハビリテーション充実加算	-	127 件	-	32.3%
亜急性期入院医療管理料 1	76 件	100 件	19.3%	25.4%
亜急性期入院医療管理料 2	11 件	11 件	2.8%	2.8%
リハビリテーション提供体制加算	-	43 件	-	10.9%
無回答	13 件	2 件	3.3%	0.5%
総 数	393 件	393 件		

② 許可病床数・病床利用率

病院全体の許可病床数についてみると「100床以上149床以下」23.4%が最も多く、次いで「150床以上199床以下」22.1%、「50床以上99床以下」16.8%などとなっており、平均200.7床であった。

また、病床種類別にみると、一般病床のうち回復期リハビリテーション病棟入院料の算定病床は平均23.1床（病床利用率88.3%）、療養病床のうちの回復期リハビリテーション病棟入院料の算定病床は平均35.2床（病床利用率90.4%）であった。

図表 2-1-5 許可病床数の分布

	施設数	割合
20床以上 49床以下	9件	2.3%
50床以上 99床以下	66件	16.8%
100床以上 149床以下	92件	23.4%
150床以上 199床以下	87件	22.1%
200床以上 299床以下	63件	16.0%
300床以上 399床以下	44件	11.2%
400床以上 499床以下	12件	3.1%
500床以上	16件	4.1%
無回答	4件	1.0%
合計	393件	100.0%
平均	200.7床	

図表 2-1-6 1施設当たり病床種類別病床数・病床利用率

	病床数	病床利用率
一般病床	123.8床	81.1%
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料	23.1床	88.3%
【再掲】亜急性期入院医療管理料1	3.1床	86.7%
【再掲】亜急性期入院医療管理料2	0.7床	87.3%
【再掲】障害者施設等入院基本料	8.7床	87.0%
療養病床（医療保険適用）	59.0床	91.1%
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料	35.2床	90.4%
療養病床（介護保険適用）	9.3床	94.6%
精神病床	8.9床	86.0%
結核病床	0.9床	53.3%
感染症病床	0.1床	0.0%
施設数	358件	

※許可病床数、在院延べ患者数のいずれについても回答のあった358施設について集計

③ 疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者の状況

平成 23 年 6 月に疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」2.9%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」15.1%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」5.8%、「運動器リハビリテーション料」3.8%、「呼吸器リハビリテーション料」5.9%であった。

図表 2-1-7 1 施設当たりの入院延べ患者数（H23.6）

	施設数	入院患者延べ数	割合
心大血管疾患リハビリテーション料	40 件	132.9 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		3.9 人	2.9%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	339 件	1,879.1 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		283.4 人	15.1%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	334 件	603.3 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		35.1 人	5.8%
運動器リハビリテーション料	334 件	1,060.4 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		39.9 人	3.8%
呼吸器リハビリテーション料	210 件	77.3 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		4.6 人	5.9%
障害児（者）リハビリテーション料	6 件	0.0 人	

※各疾患別リハビリテーション料の届出施設のうち、入院患者延べ数の回答があった施設について集計

疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者の平成 21 年 6 月と平成 23 年 6 月の平均在院日数をみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」17.8 日、28.9 日、「脳血管疾患等リハビリテーション料」104.4 日、100.1 日、「運動器リハビリテーション料」72.9 日、70.3 日、「呼吸器リハビリテーション料」48.8 日、47.4 日であった。

図表 2-1-8 平均在院日数（H21.6・H23.6）

	施設数	H21.6	H23.6
心大血管疾患リハビリテーション料	17 件	17.8 日	28.9 日
脳血管疾患等リハビリテーション料	236 件	104.4 日	100.1 日
【再掲】廃用症候群以外			109.2 日
【再掲】廃用症候群			76.6 日
運動器リハビリテーション料	270 件	72.9 日	70.3 日
呼吸器リハビリテーション料	57 件	48.8 日	47.4 日

※各疾患別リハビリテーション料等の届出施設のうち、平成 21 年 6 月、平成 23 年 6 月の平均在院日数の回答があった施設について集計

平成 21 年 6 月 1 日時点、平成 23 年 6 月 1 日時点で疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」0.0%、3.2%、「脳血管疾患等リハビリテーション料」10.7%、10.6%、「運動器リハビリテーション料」5.2%、3.4%、「呼吸器リハビリテーション料」7.8%、8.2%であった。

図表 2-1-9 標準的算定日数を超えた算定患者の割合 (H21.6.1・H23.6.1)

	施設数	H21.6	H23.6
心大血管疾患リハビリテーション料	24 件	0.0%	3.2%
脳血管疾患等リハビリテーション料	276 件	10.7%	10.6%
【再掲】廃用症候群以外			10.8%
【再掲】廃用症候群			4.1%
運動器リハビリテーション料	281 件	5.2%	3.4%
呼吸器リハビリテーション料	87 件	7.8%	8.2%

※各疾患別リハビリテーション料等の届出施設のうち、平成 21 年 6 月 1 日、平成 23 年 6 月 1 日の標準的算定日数を超えた算定患者の割合の回答があった施設について集計

(3) 疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者の概況

疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合、そのうち要介護認定を受けている患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」21.2%、4.5%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」41.6%、11.0%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」28.6%、9.9%、「運動器リハビリテーション料」20.4%、3.6%、「呼吸器リハビリテーション料」31.1%、4.7%であった。

図表 2-1-10 1施設当たり外来延べ患者数（H23.6）

	施設数	外来患者延べ数	割合
心大血管疾患リハビリテーション料	37件	27.6人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		5.9人	21.2%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		1.2人	4.5%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	244件	178.0人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		74.1人	41.6%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		19.5人	11.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	284件	4.8人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		1.4人	28.6%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		0.5人	9.9%
運動器リハビリテーション料	233件	272.8人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		55.6人	20.4%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		9.8人	3.6%
呼吸器リハビリテーション料	195件	1.5人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		0.5人	31.1%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		0.1人	4.7%

※各疾患別リハビリテーション料の届出施設のうち、外来患者延べ数の回答があった施設について集計

(4) 通所リハビリテーションの実施状況

① 通所リハビリテーションの実施施設の状況

通所リハビリテーションの実施状況についてみると、「実施していない」59.3%、「実施している」38.9%であった。

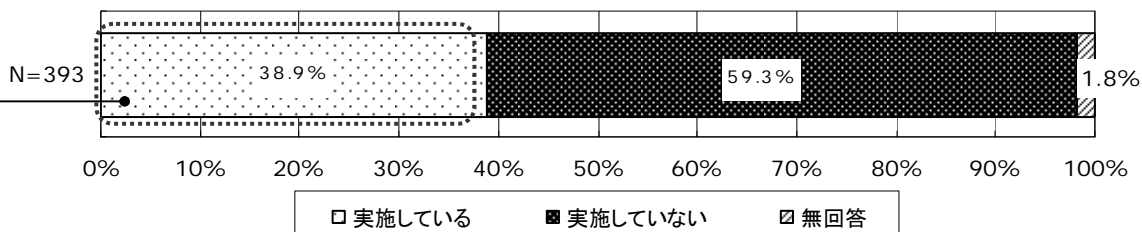
通所リハビリテーションの実施施設について、平成23年6月における実施日数をみると、「26日」54.2%、「22日」26.1%などとなっており、平均24.5日であった。また、1施設当たりの利用者延べ人数をみると1施設当たり624.1人であった。なお、「1時間以上2時間未満」の利用者延べ数は34.7人（5.6%）であった。

また、通所リハビリテーションに従事する1施設当たり職員数は専従11.1人、専任5.8人であった。

機能訓練室の状況については「医療保険と介護保険で別の機能訓練室を利用」66.0%、「医療保険と介護保険で1つの機能訓練室を利用」33.3%であった。

利用者の送迎状況については「実施している」91.5%、「実施していない」8.5%であった。

図表 2-1-11 通所リハビリテーションの実施状況



図表 2-1-12 実施日数 (H23.6)

	施設数	割合
20日以内	6件	3.9%
21日	1件	0.7%
22日	40件	26.1%
23日	1件	0.7%
24日	1件	0.7%
25日	4件	2.6%
26日	83件	54.2%
27日	0件	0.0%
28日	0件	0.0%
29日	0件	0.0%
30日	8件	5.2%
無回答	9件	5.9%
合計	153件	100.0%
平均	24.5日	

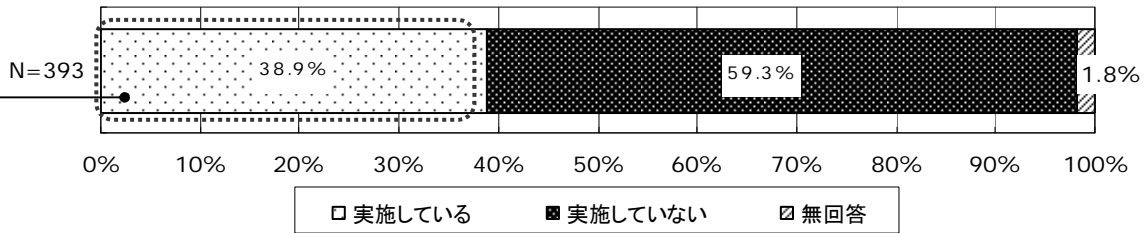
図表 2-1-13 1施設当たり利用者延べ人数 (H23.6)

	延べ人数	割合
1時間以上 2時間未満	34.7人	5.6%
2時間以上 3時間未満	14.7人	2.4%
3時間以上 4時間未満	67.2人	10.8%
4時間以上 6時間未満	67.0人	10.7%
6時間以上 8時間未満	440.5人	70.6%
合計	624.1人	100.0%
施設数	143件	

※1. 通所リハビリテーションの実施施設のうち、介護保険における通所リハビリテーション費を算定した利用者延べ数の回答があった143件について集計

※2. 1時間以上2時間未満の通所リハビリテーションを実施している施設は50施設

図表 2-1-11 通所リハビリテーションの実施状況【再掲】

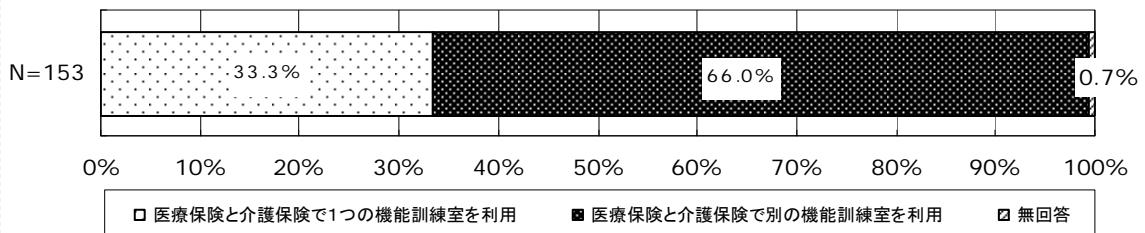


図表 2-1-14 通所リハビリテーションに従事する1施設当たり職員数（実人数）

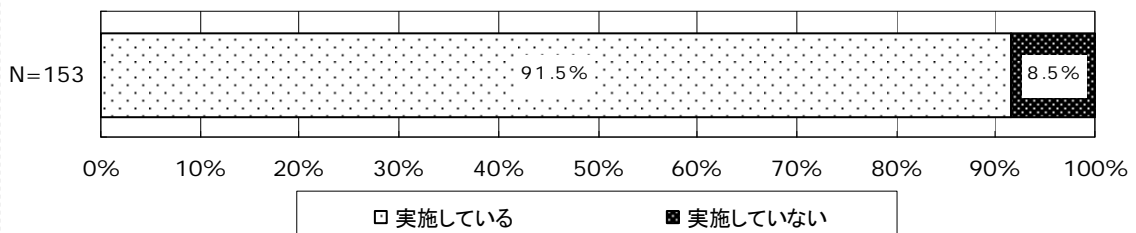
	専従	専任
医師	0.0人	1.4人
看護師	0.8人	0.5人
准看護師	0.6人	0.1人
理学療法士	1.4人	1.5人
作業療法士	0.7人	1.0人
言語聴覚士	0.1人	0.5人
その他の職種	7.5人	0.8人
合計	11.1人	5.8人
施設数	152件	

※通所リハビリテーションの実施設のうち、担当部署に従事する職員数の回答があった152施設について集計

図表 2-1-15 機能訓練室の状況



図表 2-1-16 利用者の送迎の実施状況

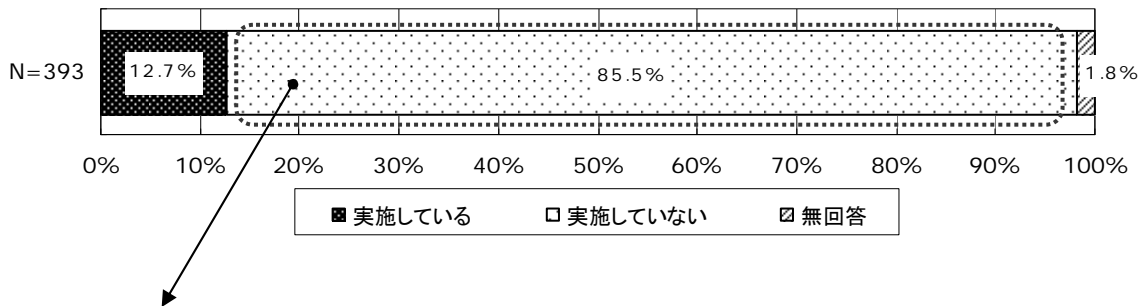


② 通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設の状況

また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況についてみると、「実施していない」85.5%、「実施している」12.7%であった。

さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して実施していない理由を尋ねたところ、「利用者の送迎体制を整えることが困難」45.8%が最も多く、次いで「通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる」38.1%、「通所リハビリに専従する人員を確保できない」34.5%などとなっていた。

図表 2-1-17 通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況

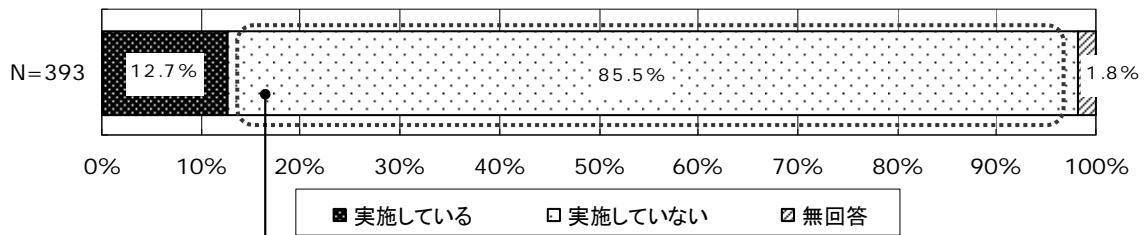


図表 2-1-18 通所リハビリ（1時間以上2時間未満）を実施していない理由【複数回答】

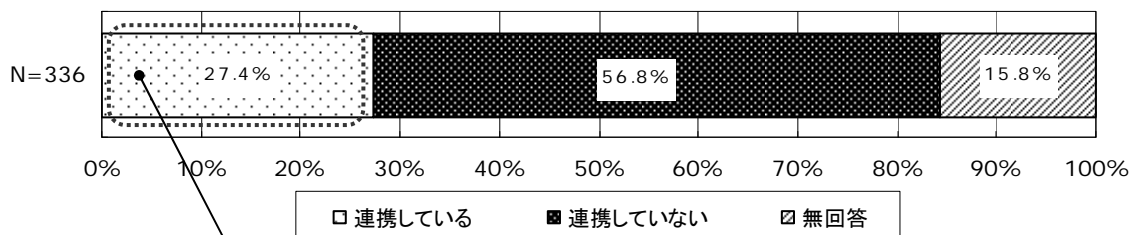
	施設数	割合
利用者の送迎体制を整えることが困難	154 件	45.8%
通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる	128 件	38.1%
通所リハビリに専従する人員を確保できない	116 件	34.5%
通所リハビリの報酬では採算がとれない	66 件	19.6%
外来の医師の負担が重くなる	60 件	17.9%
維持期のリハビリは現行の13単位の使い勝手がよい	53 件	15.8%
介護報酬の請求事務の負担が大きい	26 件	7.7%
ケアマネジャーとの連携をとることが負担である	20 件	6.0%
患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きい	20 件	6.0%
患者にとって、要介護認定の申請が負担である	7 件	2.1%
1時間以上2時間未満の制度が新設されたことを知らなかった	1 件	0.3%
その他	75 件	22.3%
無回答	55 件	16.4%
総 数	336 件	

また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携していない」56.8%、「連携している」27.4%となっていた。さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している施設に対して、連携している外部の介護サービス事業者数を尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均 23.3 事業所、通所リハビリテーション事業所は平均 5.3 事業所であった。

図表 2-1-17 通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況【再掲】



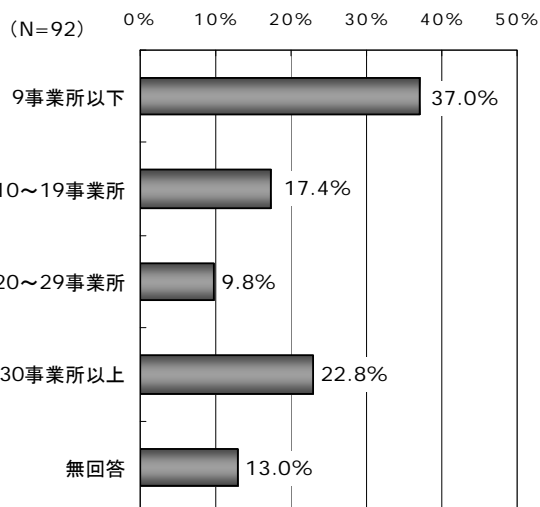
図表 2-1-19 外部の介護サービス事業者との連携状況



図表 2-1-20 連携している外部のサービス事業者数の分布

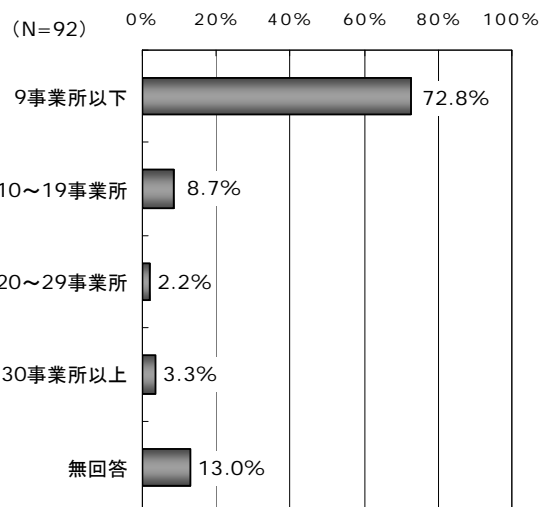
【居宅介護支援事業所】

平均 23.3 事業所



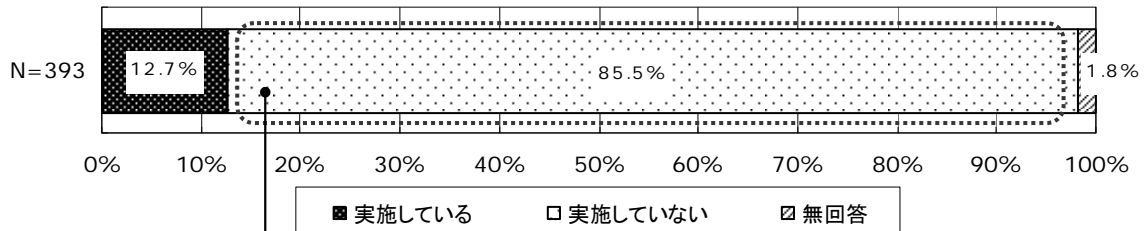
【通所リハビリテーション事業所】

平均 5.3 事業所

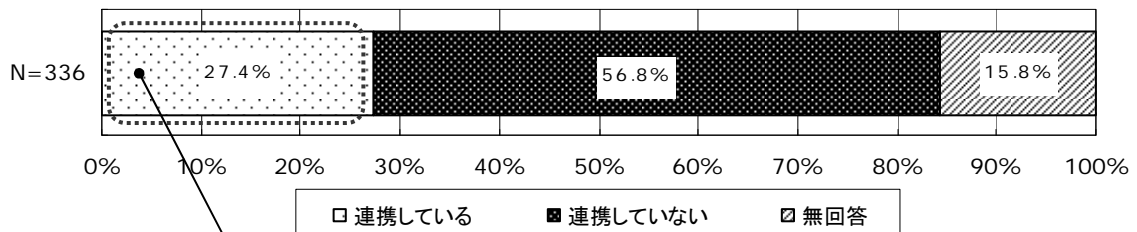


また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している事業所に対して、連携している外部のサービス事業者への紹介患者数（平成23年6月）について尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均5.0人、通所リハビリテーション事業所は平均1.8人であった。

図表 2-1-17 通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況【再掲】



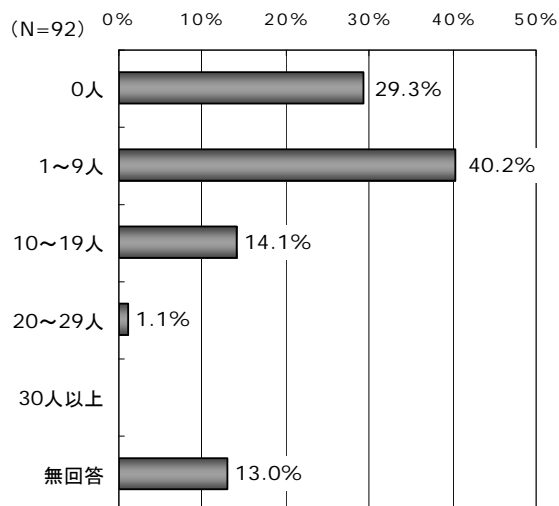
図表 2-1-19 外部の介護サービス事業者との連携状況【再掲】



図表 2-1-21 連携している外部のサービス事業者への紹介患者数の分布（H23.6）

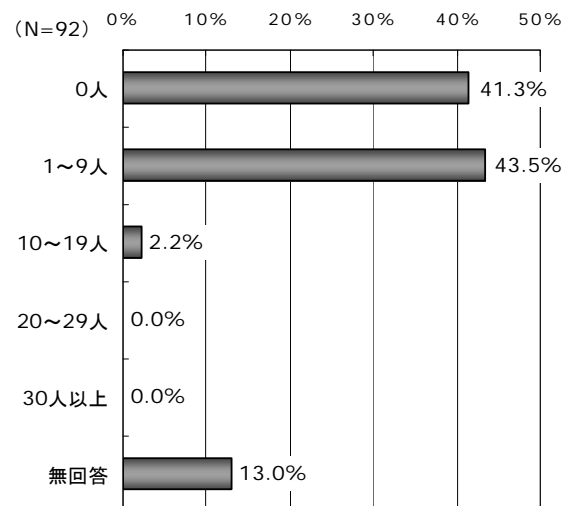
【居宅介護支援事業所】

平均 5.0 人



【通所リハビリテーション事業所】

平均 1.8 人



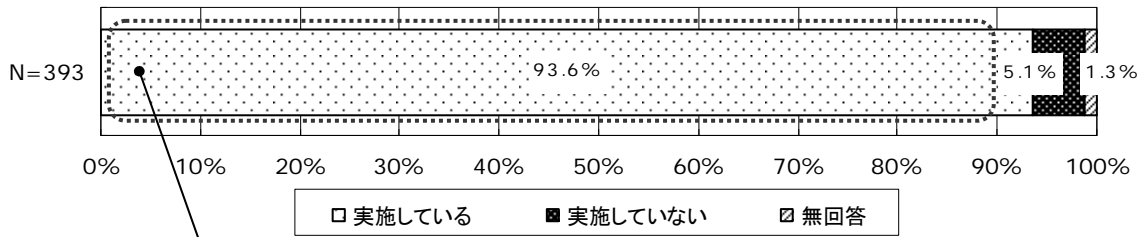
(5) 退院支援の実施状況

退院支援の実施状況についてみると、「実施している」93.6%、「実施していない」5.1%であった。また、実施施設のうち89.1%の施設で「(退院支援の担当部署)設置している」との回答であった。

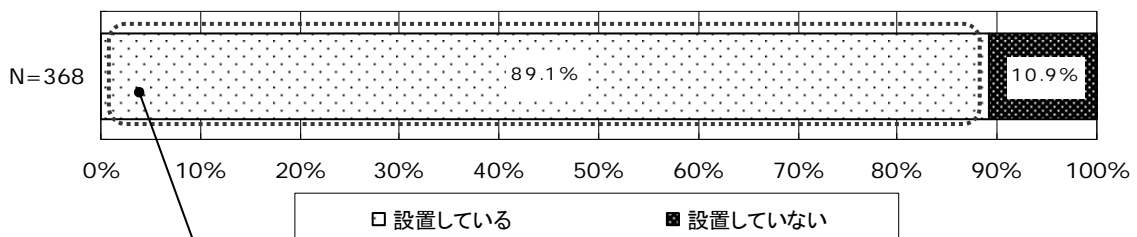
なお、退院支援の担当部署の従事する1施設当たり職員数は専従3.1人、専任1.7人であり、主な活動内容としては「退院後の居場所に関する調整」96.6%、「利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援」96.3%、「要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整」96.0%などとなっていた。

また、退院支援の実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携している」80.7%、「連携していない」14.4%となっていた。さらに、退院支援の実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している施設に対して、連携している外部の介護サービス事業者数を尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均29.7事業所、通所リハビリテーション事業所は平均30.4事業所、介護保険施設は平均19.1施設であった。

図表 2-1-22 退院支援の実施状況



図表 2-1-23 退院支援の担当部署の設置状況の実施状況



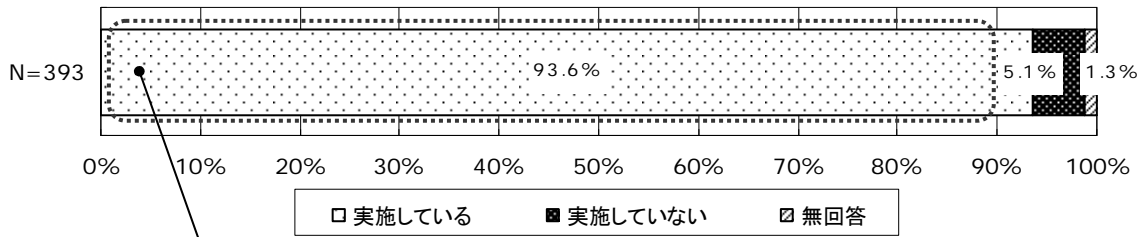
図表 2-1-24 退院支援の担当部署に従事する1施設当たり職員数（実人数）

	専 従	専 任
看 護 師	0.5 人	0.5 人
准 看 護 師	0.1 人	0.1 人
ソーシャルワーカー	2.3 人	0.9 人
【再掲】社会福祉士	2.0 人	0.8 人
その他の職種	0.2 人	0.2 人
合 計	3.1 人	1.7 人
施設数	326 件	

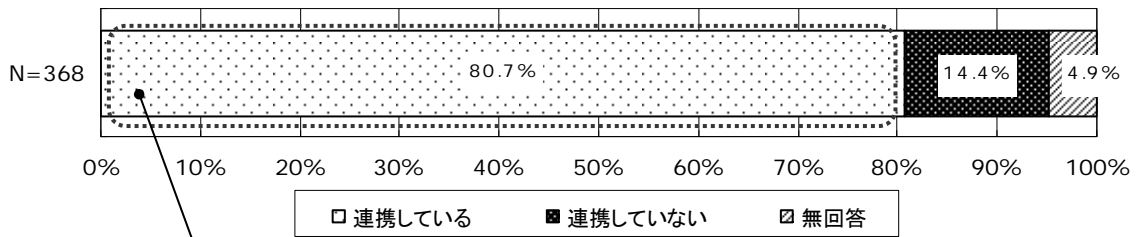
図表 2-1-25 退院支援の担当部署の活動内容【複数回答】

	施設数	割 合
退院後の居場所に関する調整	317 件	96.6%
利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援	316 件	96.3%
要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整	315 件	96.0%
退院当日や退院後の療養相談	244 件	74.4%
患者や家族に対するカウンセリングと精神的支援	232 件	70.7%
入院中の治療方針に関する説明と退院までの見通しの説明	150 件	45.7%
継続的な療養管理が可能な状態となるまでの期間と退院日の設定	139 件	42.4%
患者への治療に係る目標管理と退院指導	125 件	38.1%
家族への介護技術と医療技術の指導	94 件	28.7%
退院後の定期的な患者の状態確認	59 件	18.0%
その他	16 件	4.9%
無回答	4 件	1.2%
総 数	328 件	

図表 2-1-22 退院支援の実施状況【再掲】



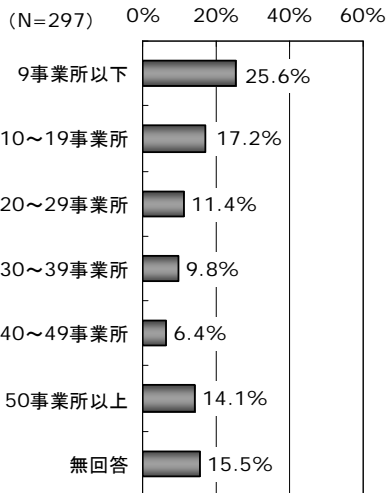
図表 2-1-26 退院支援時の介護サービス事業者との連携状況



図表 2-1-27 連携している外部のサービス事業者数の分布

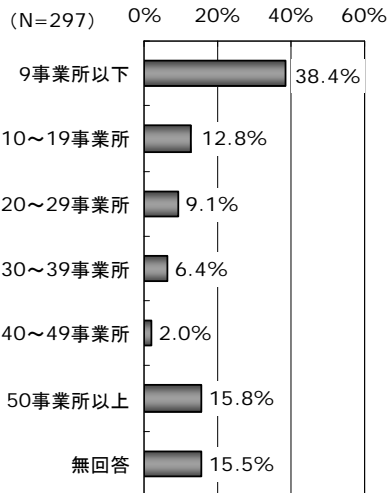
【居宅介護支援事業所】

平均 29.7 事業所



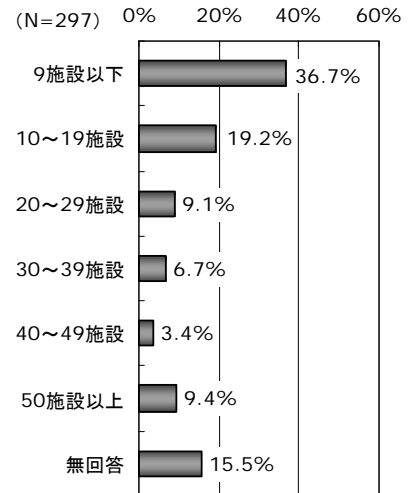
【通所リハビリテーション事業所】

平均 30.4 事業所



【介護保険施設】

平均 19.1 施設



(5) 職員体制の状況

職員体制についてみると、1施設当たり 223.4 人（常勤 203.6 人、非常勤 19.9 人（常勤換算））であった。

また、平日・土曜日・日曜日における医療保険によるリハビリテーションに係る業務の専任・専従職員の出勤状況についてみると、土曜日の出勤職員数（常勤換算）は平日の 70.4%、日曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 47.2%であった。

なお、休日リハビリテーション提供体制加算の算定施設では、土曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 75.4%、日曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 54.5%であった。

一方で、休日リハビリテーション提供体制加算の非算定施設では、土曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 56.5%、日曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 26.8%であった。

図表 2-1-28 1施設当たり職員数（常勤換算人数）

	常 勤	非常勤 (常勤換算)	合 計
医 師	16.2 人	4.1 人	20.3 人
【再掲】日本リハビリテーション医学会認定臨床医	0.6 人	0.0 人	0.6 人
【再掲】日本リハビリテーション医学会専門医	0.6 人	0.1 人	0.6 人
【再掲】リハビリテーション科の医師	1.3 人	0.2 人	1.5 人
看 護 師	88.8 人	7.0 人	95.8 人
准 看 護 師	16.8 人	2.9 人	19.6 人
看護補助者	29.6 人	4.8 人	34.4 人
薬 剤 師	5.5 人	0.3 人	5.8 人
理学療法士	22.3 人	0.3 人	22.6 人
作業療法士	14.5 人	0.2 人	14.7 人
言語聴覚士	5.7 人	0.1 人	5.8 人
臨床心理士	0.3 人	0.0 人	0.4 人
義肢装具士	0.0 人	0.0 人	0.0 人
柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	0.3 人	0.0 人	0.3 人
ソーシャルワーカー	3.5 人	0.1 人	3.6 人
【再掲】社会福祉士	2.9 人	0.1 人	2.9 人
合 計	203.6 人	19.9 人	223.4 人
施設数	368 件		

※職員数の回答があった 368 施設について集計

図表 2-1-29 1施設当たり平日・土曜日・日曜日における
医療保険によるリハビリテーションに係る業務の専任・専従職員の出勤状況
【全体】

			常 勤	非常勤 (実人数)	合 計
平 日	医 師	専 任	3.9 人	0.3 人	4.2 人
	看 護 師	専 従	9.6 人	0.8 人	10.4 人
	准 看 護 師	専 従	2.7 人	0.4 人	3.2 人
	理学療法士	専 従	15.4 人	0.1 人	15.5 人
	作業療法士	専 従	9.8 人	0.1 人	9.9 人
	言語聴覚士	専 従	4.0 人	0.1 人	4.1 人
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.2 人	0.0 人	0.2 人
	合 計			45.6 人	1.9 人
土曜日	医 師	専 任	2.0 人 (52.5%)	0.3 人 (96.5%)	2.4 人 (55.9%)
	看 護 師	専 従	7.4 人 (77.2%)	1.1 人 (130.7%)	8.5 人 (81.4%)
	准 看 護 師	専 従	2.1 人 (76.7%)	0.6 人 (141.3%)	2.7 人 (85.9%)
	理学療法士	専 従	9.7 人 (63.2%)	0.8 人 (626.7%)	10.5 人 (67.9%)
	作業療法士	専 従	6.3 人 (64.1%)	0.5 人 (642.3%)	6.8 人 (68.5%)
	言語聴覚士	専 従	2.4 人 (58.8%)	0.1 人 (148.5%)	2.5 人 (60.9%)
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.1 人 (49.3%)	0.0 人 (40.0%)	0.1 人 (48.8%)
	合 計			30.0 人 (65.7%)	3.5 人 (180.9%)
日曜日	医 師	専 任	0.7 人 (18.7%)	0.3 人 (76.5%)	1.0 人 (23.2%)
	看 護 師	専 従	6.5 人 (67.7%)	0.2 人 (27.9%)	6.7 人 (64.5%)
	准 看 護 師	専 従	2.1 人 (79.0%)	0.2 人 (36.1%)	2.3 人 (72.9%)
	理学療法士	専 従	6.6 人 (42.8%)	0.0 人 (15.6%)	6.6 人 (42.6%)
	作業療法士	専 従	4.4 人 (45.0%)	0.0 人 (7.7%)	4.4 人 (44.7%)
	言語聴覚士	専 従	1.4 人 (33.8%)	0.0 人 (3.0%)	1.4 人 (33.1%)
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.1 人 (30.7%)	0.0 人 (0.0%)	0.1 人 (28.8%)
	合 計			21.8 人 (47.7%)	0.7 人 (35.1%)
施設数			346 件		

※平日、土曜日、日曜日に出勤した、医療保険によるリハビリテーションに係る業務に専任、専従している職員数の回答があった 346 施設について集計。

土曜日、日曜日の下段の（ ）内の数値は平日に対する割合。

【休日リハビリテーション提供体制加算の算定施設】

			常 勤	非常勤 (実人数)	合 計
平 日	医 師	専 任	3.7 人	0.4 人	4.1 人
	看 護 師	専 従	11.4 人	1.1 人	12.5 人
	准 看 護 師	専 従	3.0 人	0.5 人	3.5 人
	理学療法士	専 従	16.5 人	0.1 人	16.6 人
	作業療法士	専 従	10.8 人	0.1 人	10.8 人
	言語聴覚士	専 従	4.5 人	0.1 人	4.5 人
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.2 人	0.0 人	0.3 人
	合 計			50.0 人	2.3 人
土曜日	医 師	専 任	2.1 人 (55.2%)	0.4 人 (94.5%)	2.4 人 (59.0%)
	看 護 師	専 従	8.8 人 (76.9%)	1.4 人 (125.9%)	10.1 人 (81.2%)
	准 看 護 師	専 従	2.3 人 (77.6%)	0.8 人 (158.4%)	3.1 人 (89.1%)
	理学療法士	専 従	11.3 人 (68.4%)	1.2 人 (837.5%)	12.4 人 (74.8%)
	作業療法士	専 従	7.5 人 (69.7%)	0.7 人 (1000.0%)	8.2 人 (75.6%)
	言語聴覚士	専 従	2.9 人 (65.0%)	0.2 人 (247.1%)	3.1 人 (68.0%)
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.1 人 (43.6%)	0.0 人 (50.0%)	0.1 人 (44.1%)
	合 計			34.9 人 (69.8%)	4.6 人 (201.0%)
日曜日	医 師	専 任	0.8 人 (20.5%)	0.3 人 (80.2%)	1.1 人 (26.2%)
	看 護 師	専 従	7.6 人 (67.1%)	0.3 人 (27.1%)	7.9 人 (63.6%)
	准 看 護 師	専 従	2.4 人 (82.2%)	0.2 人 (42.5%)	2.6 人 (76.5%)
	理学療法士	専 従	8.8 人 (53.5%)	0.0 人 (21.9%)	8.9 人 (53.3%)
	作業療法士	専 従	6.0 人 (56.1%)	0.0 人 (6.3%)	6.0 人 (55.8%)
	言語聴覚士	専 従	1.9 人 (41.8%)	0.0 人 (5.9%)	1.9 人 (41.3%)
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.1 人 (40.0%)	0.0 人 (0.0%)	0.1 人 (37.3%)
	合 計			27.7 人 (55.3%)	0.9 人 (37.8%)
施設数			231 件		

※平日、土曜日、日曜日に出勤した、医療保険によるリハビリテーションに係る業務に専任、専従している職員数の回答があった施設のうち、休日リハビリテーション加算の算定施設 231 施設について集計。
土曜日、日曜日の下段の（ ）内の数値は平日に対する割合。

【休日リハビリテーション提供体制加算の非算定施設】

			常 勤	非常勤 (実人数)	合 計
平 日	医 師	専 任	4.2 人	0.2 人	4.4 人
	看 護 師	専 従	6.0 人	0.3 人	6.3 人
	准 看 護 師	専 従	2.3 人	0.4 人	2.6 人
	理学療法士	専 従	13.2 人	0.1 人	13.3 人
	作業療法士	専 従	7.9 人	0.1 人	8.0 人
	言語聴覚士	専 従	3.2 人	0.1 人	3.3 人
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.2 人	0.0 人	0.2 人
	合 計			36.9 人	1.3 人
土曜日	医 師	専 任	2.0 人 (47.7%)	0.2 人 (104.2%)	2.2 人 (50.4%)
	看 護 師	専 従	4.6 人 (77.9%)	0.5 人 (163.9%)	5.2 人 (82.2%)
	准 看 護 師	専 従	1.7 人 (74.3%)	0.4 人 (95.2%)	2.0 人 (77.3%)
	理学療法士	専 従	6.6 人 (49.9%)	0.1 人 (107.7%)	6.7 人 (50.4%)
	作業療法士	専 従	3.9 人 (48.8%)	0.1 人 (70.0%)	3.9 人 (49.0%)
	言語聴覚士	専 従	1.3 人 (41.6%)	0.1 人 (43.8%)	1.4 人 (41.7%)
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.1 人 (65.0%)	0.0 人 (0.0%)	0.1 人 (61.9%)
	合 計			20.2 人 (54.8%)	1.3 人 (107.0%)
日曜日	医 師	専 任	0.6 人 (15.4%)	0.1 人 (62.5%)	0.8 人 (17.7%)
	看 護 師	専 従	4.2 人 (70.1%)	0.1 人 (33.3%)	4.3 人 (68.3%)
	准 看 護 師	専 従	1.6 人 (70.4%)	0.1 人 (19.0%)	1.7 人 (63.2%)
	理学療法士	専 従	2.0 人 (15.1%)	0.0 人 (0.0%)	2.0 人 (15.0%)
	作業療法士	専 従	1.1 人 (14.3%)	0.0 人 (10.0%)	1.1 人 (14.2%)
	言語聴覚士	専 従	0.4 人 (11.5%)	0.0 人 (0.0%)	0.4 人 (11.0%)
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.0 人 (5.0%)	0.0 人 (0.0%)	0.0 人 (4.8%)
	合 計			9.9 人 (26.9%)	0.3 人 (25.4%)
施設数			113 件		

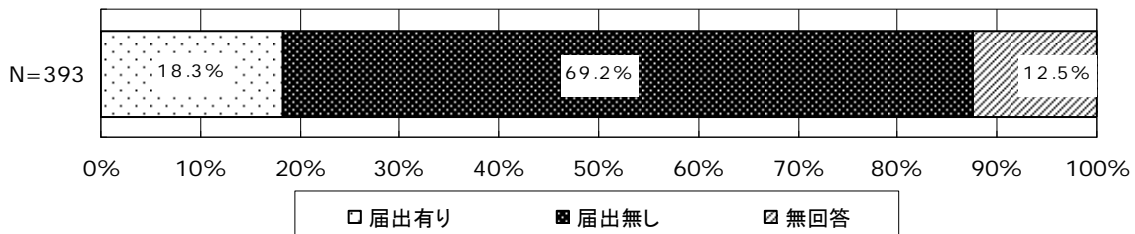
※平日、土曜日、日曜日に出動した、医療保険によるリハビリテーションに係る業務に専任、専従している職員数の回答があった施設のうち、休日リハビリテーション加算の非算定施設 113 施設について集計。
土曜日、日曜日の下段の（ ）内の数値は平日に対する割合。

(6) 地域連携クリティカルパスの導入状況

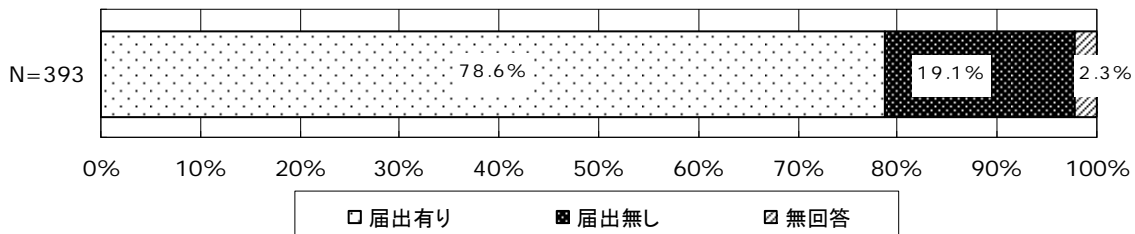
地域連携診療計画管理料の届出状況についてみると、「届出無し」69.2%、「届出有り」18.3%であった。また、地域連携診療計画退院時指導料の届出状況についてみると、「届出有り」78.6%、「届出無し」19.1%であった。

なお、大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平成 21 年度と平成 22 年度の平均在院日数をみると、大腿骨頸部骨折は 69.9 日、68.8 日であり、脳卒中は 92.0 日、87.7 日であった。また、回復期リハビリテーション病棟入院料、重症患者回復期病棟加算、リハビリテーション充実加算、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別に平均在院日数をみたものが、図表 2-1-33～図表 2-1-36 である。

図表 2-1-30 地域連携診療計画管理料の届出状況



図表 2-1-31 地域連携診療計画退院時指導料の届出状況



図表 2-1-32 大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平均在院日数

	施設数	H21 年度	H22 年度
大腿骨頸部骨折の入院患者の平均在院日数	203 件	69.9 日	68.8 日
【再掲】地域連携診療計画管理料の算定患者	18 件	45.3 日	54.9 日
【再掲】地域連携診療計画退院時指導料の算定患者	133 件	59.0 日	59.4 日
脳卒中の入院患者の平均在院日数	215 件	92.0 日	87.7 日
【再掲】地域連携診療計画管理料の算定患者	22 件	76.8 日	80.0 日
【再掲】地域連携診療計画退院時指導料の算定患者	162 件	86.4 日	86.7 日

※平成 21 年度、平成 22 年度の平均在院日数の回答があった施設について集計

図表 2-1-33 回復期リハビリテーション病棟入院料の区分別にみた
大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平均在院日数

		施設数	H21 年度	H22 年度
大腿骨頸部骨折の入院患者の平均在院日数	入院料 1	189 件	66.4 日	66.1 日
	入院料 2	12 件	95.5 日	70.9 日
脳卒中の入院患者の平均在院日数	入院料 1	201 件	89.6 日	84.8 日
	入院料 2	12 件	104.4 日	118.5 日

※平成 21 年度、平成 22 年度の平均在院日数の回答があった施設について集計

図表 2-1-34 重症患者回復期病棟加算の算定の有無別にみた
大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平均在院日数

		施設数	H21 年度	H22 年度
大腿骨頸部骨折の入院患者の平均在院日数	算定有り	178 件	66.8 日	66.2 日
	算定無し	12 件	60.5 日	62.9 日
脳卒中の入院患者の平均在院日数	算定有り	191 件	89.7 日	84.7 日
	算定無し	11 件	87.6 日	80.5 日

※平成 21 年度、平成 22 年度の平均在院日数の回答があった施設について集計

図表 2-1-35 リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみた
大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平均在院日数

		施設数	H21 年度	H22 年度
大腿骨頸部骨折の入院患者の平均在院日数	算定有り	82 件	75.1 日	71.0 日
	算定無し	120 件	63.4 日	63.1 日
脳卒中の入院患者の平均在院日数	算定有り	88 件	96.8 日	96.0 日
	算定無し	126 件	86.0 日	79.7 日

※平成 21 年度、平成 22 年度の平均在院日数の回答があった施設について集計

図表 2-1-36 休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみた
大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平均在院日数

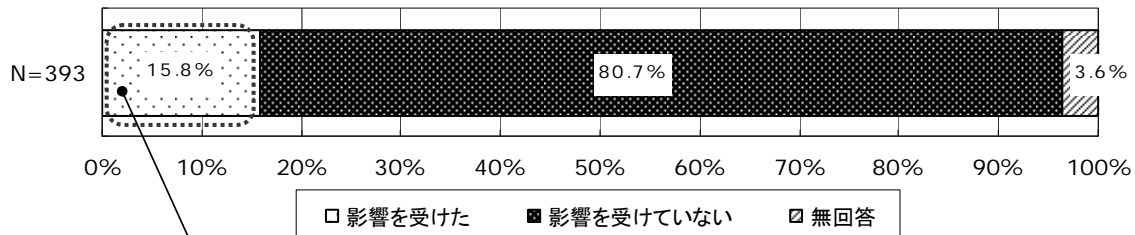
		施設数	H21 年度	H22 年度
大腿骨頸部骨折の入院患者の平均在院日数	算定有り	145 件	74.6 日	69.4 日
	算定無し	57 件	51.7 日	58.4 日
脳卒中の入院患者の平均在院日数	算定有り	155 件	96.5 日	93.0 日
	算定無し	59 件	74.5 日	68.9 日

※平成 21 年度、平成 22 年度の平均在院日数の回答があった施設について集計

(7) 東日本大震災による影響

東日本大震災による影響についてみると、「影響を受けていない」80.7%、「影響を受けた」15.8%であった。また、「影響を受けた」と回答のあった施設にその内容を尋ねたところ、「外来患者が減少した」38.7%が最も多く、次いで「入院患者が減少した」33.9%、「人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が減少した」22.6%などとなっていた。

図表 2-1-37 東日本大震災による影響の有無



図表 2-1-38 東日本大震災による影響の内容【複数回答】

	施設数	割合
外来患者が減少した	24 件	38.7%
入院患者が減少した	21 件	33.9%
人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が減少した	14 件	22.6%
入院患者が増加した	12 件	19.4%
入院患者の平均在院日数が長くなった	10 件	16.1%
入院患者の増減により、リハビリの人員体制が厚くなった	9 件	14.5%
外来患者が増加した	7 件	11.3%
人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が増加した	7 件	11.3%
入院患者の平均在院日数が短くなった	6 件	9.7%
入院患者の増減により、リハビリの人員体制が薄くなった	6 件	9.7%
その他	17 件	27.4%
総 数	62 件	

2) 回復期リハビリテーション病棟の概況

(1) 病棟の概況

回復期リハビリテーション病棟の算定している診療報酬についてみると、「回復期リハビリテーション病棟入院料1」91.8%、「回復期リハビリテーション病棟入院料2」8.2%、「重症患者回復病棟加算」80.2%、「休日リハビリテーション提供体制加算」66.9%、「リハビリテーション充実加算」35.6%であった。

1病棟当たり病床数及び入院患者数をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では45.7床、41.1人、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では40.2床、31.7人であった。

平成21年6月、平成23年6月の平均在院日数は、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では75.9日、76.4日、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では60.9日、58.1日であった。

また、平成21年6月、平成23年6月の病床利用率は、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では89.2%、90.6%、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では80.6%、81.6%であった。

図表 2-1-40 算定している診療報酬【複数回答】

	病棟数	割合
回復期リハビリテーション病棟入院料1	436 件	91.8%
回復期リハビリテーション病棟入院料2	39 件	8.2%
重症患者回復病棟加算	381 件	80.2%
休日リハビリテーション提供体制加算	318 件	66.9%
リハビリテーション充実加算	169 件	35.6%
総 数	475 件	

図表 2-1-41 1 病棟当たり病床数・入院患者数

	病床数		入院患者数	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
一般病床	18.8 床	21.7 床	16.8 人	16.3 人
療養病床	27.0 床	18.5 床	24.4 人	15.5 人
合 計	45.7 床	40.2 床	41.1 人	31.7 人
【再掲】非適応患者			1.3 人	1.1 人
【再々掲】算定上限日数を超えた患者			0.5 人	0.2 人
【再々掲】算定対象外の患者			0.7 人	0.9 人
施設数	351 件	31 件	351 件	31 件

※許可病床数、在院延べ患者数のいずれについても回答のあった病棟について集計

図表 2-1-42 平均在院日数

	入院料1		入院料2	
	H21.6	H23.6	H21.6	H23.6
平均在院日数	75.9 日	76.4 日	60.9 日	58.1 日
施設数	390 件		21 件	

※平成 21 年 6 月、平成 23 年 6 月のいずれについても、平均在院日数の回答があった病棟について集計

図表 2-1-43 病床利用率

	入院料1		入院料2	
	H21.6	H23.6	H21.6	H23.6
病床利用率	89.2%	90.6%	80.6%	81.6%
施設数	388 件		21 件	

※平成 21 年 6 月、平成 23 年 6 月のいずれについても、病床利用率の回答があった病棟について集計

(2) 病棟の人員配置

回復期リハビリテーション病棟の医師の配置人数についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では40床当たり専従0.3人、専任2.1人、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では40床当たり専従0.1人、専任2.3人であった。

また、医師の配置人数について、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では40床当たり専従0.3人、専任2.3人、加算無しの病棟では40床当たり専従0.4人、専任1.7人であった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では40床当たり専従0.3人、専任2.5人、加算無しの病棟では40床当たり専従0.3人、専任1.8人であった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では40床当たり専従0.3人、専任2.1人、加算無しの病棟では40床当たり専従0.3人、専任1.9人であった。

次に、回復期リハビリテーション病棟のコメディカルの配置人数についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では40床当たり専従33.9人、専任12.0人、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では40床当たり専従28.5人、専任7.7人であった。

また、コメディカルの配置人数について、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では40床当たり専従34.2人、専任12.4人、加算無しの病棟では40床当たり専従31.8人、専任8.4人であった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では40床当たり専従37.3人、専任16.3人、加算無しの病棟では40床当たり専従31.1人、専任8.6人であった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では40床当たり専従35.5人、専任13.1人、加算無しの病棟では40床当たり専従29.2人、専任8.5人であった。

図表 2-1-44 40床当たり医師数（実人数）

【入院料区分別】

	入院料1		入院料2	
	専 従	専 任	専 従	専 任
医 師	0.3人	2.1人	0.1人	2.3人
【再掲】日本リハビリテーション医学会認定臨床医	0.1人	0.4人	0.0人	0.5人
【再掲】日本リハビリテーション医学会専門医	0.1人	0.4人	0.0人	0.2人
病棟数	345件		25件	

※職員数の回答があった病棟について集計

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別】

	加算有り		加算無し	
	専 従	専 任	専 従	専 任
医 師	0.3人	2.3人	0.4人	1.7人
【再掲】日本リハビリテーション医学会認定臨床医	0.1人	0.4人	0.1人	0.2人
【再掲】日本リハビリテーション医学会専門医	0.1人	0.5人	0.0人	0.3人
病棟数	309件		36件	

※職員数の回答があった病棟について集計

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

	加算有り		加算無し	
	専 従	専 任	専 従	専 任
医 師	0.3人	2.5人	0.3人	1.8人
【再掲】日本リハビリテーション医学会認定臨床医	0.1人	0.5人	0.1人	0.3人
【再掲】日本リハビリテーション医学会専門医	0.1人	0.6人	0.0人	0.3人
病棟数	146件		224件	

※職員数の回答があった病棟について集計

【休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	加算有り		加算無し	
	専 従	専 任	専 従	専 任
医 師	0.3人	2.1人	0.3人	1.9人
【再掲】日本リハビリテーション医学会認定臨床医	0.1人	0.4人	0.1人	0.4人
【再掲】日本リハビリテーション医学会専門医	0.1人	0.4人	0.0人	0.4人
病棟数	256件		114件	

※職員数の回答があった病棟について集計

図表 2-1-45 40床当たり職員数（実人数）

【入院料区分別】

	入院料1		入院料2	
	専従	専任	専従	専任
看護師	11.6人	0.7人	10.6人	0.8人
准看護師	3.2人	0.3人	3.5人	0.4人
看護補助者	8.2人	0.5人	8.2人	0.8人
薬剤師	0.1人	0.5人	0.1人	0.4人
理学療法士	5.1人	4.0人	3.3人	2.1人
作業療法士	3.8人	2.8人	1.8人	1.7人
言語聴覚士	0.9人	1.7人	0.2人	0.8人
ソーシャルワーカー	0.6人	0.8人	0.5人	0.4人
【再掲】社会福祉士の資格保有者	0.5人	0.6人	0.4人	0.4人
合計	33.9人	12.0人	28.5人	7.7人
病棟数	345件		25件	

※職員数、病床数の回答があった病棟について集計

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別】

	加算有り		加算無し	
	専従	専任	専従	専任
看護師	11.8人	0.7人	10.6人	0.1人
准看護師	3.1人	0.3人	3.7人	0.0人
看護補助者	8.1人	0.5人	8.5人	0.2人
薬剤師	0.1人	0.6人	0.1人	0.4人
理学療法士	5.2人	4.1人	4.2人	3.1人
作業療法士	3.9人	2.9人	2.9人	2.2人
言語聴覚士	0.9人	1.8人	0.8人	1.2人
ソーシャルワーカー	0.6人	0.8人	0.5人	0.6人
【再掲】社会福祉士の資格保有者	0.5人	0.7人	0.4人	0.6人
合計	34.2人	12.4人	31.8人	8.4人
病棟数	309件		36件	

※職員数、病床数の回答があった病棟について集計

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

	加算有り		加算無し	
	専 従	専 任	専 従	専 任
看 護 師	12.3 人	1.0 人	11.1 人	0.4 人
准 看 護 師	2.7 人	0.4 人	3.5 人	0.2 人
看護補助者	8.5 人	0.8 人	7.9 人	0.4 人
薬 剤 師	0.2 人	0.7 人	0.1 人	0.4 人
理学療法士	6.2 人	5.6 人	4.2 人	2.7 人
作業療法士	4.9 人	3.9 人	2.8 人	1.9 人
言語聴覚士	1.3 人	2.3 人	0.5 人	1.2 人
ソーシャルワーカー	0.7 人	0.8 人	0.5 人	0.7 人
【再掲】社会福祉士の資格保有者	0.6 人	0.7 人	0.5 人	0.7 人
合 計	37.3 人	16.3 人	31.1 人	8.6 人
病棟数	146 件		224 件	

※職員数、病床数の回答があった病棟について集計

【休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	加算有り		加算無し	
	専 従	専 任	専 従	専 任
看 護 師	11.6 人	0.9 人	11.6 人	0.3 人
准 看 護 師	3.2 人	0.4 人	3.3 人	0.1 人
看護補助者	8.4 人	0.6 人	7.6 人	0.3 人
薬 剤 師	0.1 人	0.6 人	0.1 人	0.4 人
理学療法士	5.7 人	4.3 人	3.3 人	3.0 人
作業療法士	4.3 人	3.0 人	2.2 人	2.1 人
言語聴覚士	1.0 人	1.9 人	0.4 人	1.1 人
ソーシャルワーカー	0.7 人	0.8 人	0.4 人	0.7 人
【再掲】社会福祉士の資格保有者	0.6 人	0.7 人	0.3 人	0.5 人
合 計	35.5 人	13.1 人	29.2 人	8.5 人
病棟数	256 件		114 件	

※職員数、病床数の回答があった病棟について集計

(3) 新入棟患者の状況

① 入棟時の日常生活機能評価

回復期リハビリテーション病棟の平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月における新入棟患者の日常生活機能評価についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では平均 6.9 点、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では平均 4.9 点であった。

また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均 6.9 点、加算無しの病棟では平均 7.2 点であった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均 7.2 点、加算無しの病棟では平均 6.5 点であった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均 7.0 点、加算無しの病棟では平均 6.3 点であった。

図表 2-1-46 入棟時の日常生活機能評価の分布 (H23.4~6)

【入院料区分別】

	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
0 点	1,834 人	311 人	9.8%	19.4%
1 点以上 4 点以下	5,625 人	595 人	29.9%	37.2%
5 点以上 9 点以下	5,440 人	447 人	28.9%	27.9%
10 点以上 14 点以下	4,570 人	191 人	24.3%	11.9%
15 点以上 19 点以下	1,338 人	57 人	7.1%	3.6%
合 計	18,807 人	1,601 人	100.0%	100.0%
平 均	6.9 点	4.9 点		
病棟数	378 件	33 件		

※日常生活機能評価の回答があった病棟について集計

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
0 点	1,621 人	213 人	10.0%	8.2%
1 点以上 4 点以下	4,819 人	806 人	29.7%	31.1%
5 点以上 9 点以下	4,733 人	707 人	29.2%	27.3%
10 点以上 14 点以下	3,950 人	620 人	24.4%	24.0%
15 点以上 19 点以下	1,096 人	242 人	6.8%	9.4%
合 計	16,219 人	2,588 人	100.0%	100.0%
平 均	6.9 点	7.2 点		
病棟数	328 件	50 件		

※日常生活機能評価の回答があった病棟について集計

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
0点	562人	1,583人	8.1%	11.8%
1点以上 4点以下	1,950人	4,270人	27.9%	31.8%
5点以上 9点以下	2,229人	3,658人	31.9%	27.2%
10点以上 14点以下	1,677人	3,084人	24.0%	23.0%
15点以上 19点以下	559人	836人	8.0%	6.2%
合計	6,977人	13,431人	100.0%	100.0%
平均	7.2点	6.5点		
病棟数	151件	260件		

※日常生活機能評価の回答があった病棟について集計

【休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
0点	1,167人	978人	8.7%	14.0%
1点以上 4点以下	3,997人	2,223人	29.7%	31.9%
5点以上 9点以下	4,085人	1,802人	30.4%	25.9%
10点以上 14点以下	3,242人	1,519人	24.1%	21.8%
15点以上 19点以下	947人	448人	7.0%	6.4%
合計	13,438人	6,970人	100.0%	100.0%
平均	7.0点	6.3点		
病棟数	277件	134件		

※日常生活機能評価の回答があった病棟について集計

② 主たる原因疾患

回復期リハビリテーション病棟の平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月における新入棟患者の主たる原因疾患についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では「脳血管疾患」44.1%が最も多く、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」49.0%が最も多かった。

また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算の算定の有無に関わらず、「脳血管疾患」44.2%、43.2%が最も多かった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では「脳血管疾患」53.2%が最も多く、加算無しの病棟では「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」37.3%が最も多かった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では「脳血管疾患」45.6%が最も多く、加算無しの病棟では「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」38.6%が最も多かった。

図表 2-1-47 主たる原因疾患（H23.4～6）

【入院料区分別】

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
脳血管疾患	8,289人	328人	44.1%	20.5%
脊髄損傷	332人	11人	1.8%	0.7%
頭部外傷	313人	6人	1.7%	0.4%
その他の脳神経系疾患	298人	0人	1.6%	0.0%
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	5,921人	784人	31.5%	49.0%
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	486人	40人	2.6%	2.5%
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	901人	274人	4.8%	17.1%
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	1,980人	144人	10.5%	9.0%
その他の疾患	287人	14人	1.5%	0.9%
合計	18,807人	1,601人	100.0%	100.0%
病棟数	378件	33件		

※主たる原因疾患の回答があった病棟について集計

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
脳血管疾患	7,172人	1,117人	44.2%	43.2%
脊髄損傷	296人	36人	1.8%	1.4%
頭部外傷	272人	41人	1.7%	1.6%
その他の脳神経系疾患	247人	51人	1.5%	2.0%
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	5,127人	794人	31.6%	30.7%
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	409人	77人	2.5%	3.0%
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	769人	132人	4.7%	5.1%
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	1,689人	291人	10.4%	11.2%
その他の疾患	238人	49人	1.5%	1.9%
合計	16,219人	2,588人	100.0%	100.0%
病棟数	328件	50件		

※主たる原因疾患の回答があった病棟について集計

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
脳血管疾患	3,715 人	4,902 人	53.2%	36.5%
脊髄損傷	164 人	179 人	2.4%	1.3%
頭部外傷	142 人	177 人	2.0%	1.3%
その他の脳神経系疾患	133 人	165 人	1.9%	1.2%
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	1,701 人	5,004 人	24.4%	37.3%
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	82 人	444 人	1.2%	3.3%
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	252 人	923 人	3.6%	6.9%
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	668 人	1,456 人	9.6%	10.8%
その他の疾患	120 人	181 人	1.7%	1.3%
合計	6,977 人	13,431 人	100.0%	100.0%
病棟数	151 件	260 件		

※主たる原因疾患の回答があった病棟について集計

【休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
脳血管疾患	6,125 人	2,492 人	45.6%	35.8%
脊髄損傷	255 人	88 人	1.9%	1.3%
頭部外傷	235 人	84 人	1.7%	1.2%
その他の脳神経系疾患	201 人	97 人	1.5%	1.4%
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	4,018 人	2,687 人	29.9%	38.6%
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	288 人	238 人	2.1%	3.4%
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	587 人	588 人	4.4%	8.4%
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	1,518 人	606 人	11.3%	8.7%
その他の疾患	211 人	90 人	1.6%	1.3%
合計	13,438 人	6,970 人	100.0%	100.0%
病棟数	277 件	134 件		

※主たる原因疾患の回答があった病棟について集計

③ 合併症等の状態

回復期リハビリテーション病棟の平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月における新入棟患者の合併症等の状態についてみると、「合併症を有する状態」との回答は、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では 37.8%、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟で 26.3%であった。なお、「重度の認知症を有する状態」は、それぞれ 9.9%、8.1%であった。

また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、「合併症を有する状態」との回答は、加算有りの病棟で 37.7%、加算無しの病棟で 38.5%であった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、「合併症を有する状態」との回答は、加算有りの病棟で 45.3%、加算無しの病棟で 32.5%であった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、「合併症を有する状態」との回答は、加算有りの病棟で 38.8%、加算無しの病棟で 33.2%であった。

図表 2-1-48 合併症等の状態 (H23.4~6)

【入院料区分別・複数回答】

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
合併症を有する状態	7,113 人	421 人	37.8%	26.3%
中心静脈栄養を行っている状態	21 人	4 人	0.1%	0.2%
重度の認知症を有する状態	1,866 人	130 人	9.9%	8.1%
気管切開を有する状態	110 人	1 人	0.6%	0.1%
人工透析を行っている状態	12 人	0 人	0.1%	0.0%
家族等の身寄りがない状態	297 人	35 人	1.6%	2.2%
総 数	18,807 人	1,601 人		
病棟数	378 件	33 件		

※合併症等の状態の回答があった病棟について集計

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別・複数回答】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
合併症を有する状態	6,116 人	997 人	37.7%	38.5%
中心静脈栄養を行っている状態	17 人	4 人	0.1%	0.2%
重度の認知症を有する状態	1,576 人	290 人	9.7%	11.2%
気管切開を有する状態	89 人	21 人	0.5%	0.8%
人工透析を行っている状態	10 人	2 人	0.1%	0.1%
家族等の身寄りがない状態	249 人	48 人	1.5%	1.9%
総 数	16,219 人	2,588 人		
病棟数	328 件	997 件		

※合併症等の状態の回答があった病棟について集計

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別・複数回答】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
合併症を有する状態	3,164 人	4,370 人	45.3%	32.5%
中心静脈栄養を行っている状態	3 人	22 人	0.0%	0.2%
重度の認知症を有する状態	766 人	1,230 人	11.0%	9.2%
気管切開を有する状態	53 人	58 人	0.8%	0.4%
人工透析を行っている状態	3 人	9 人	0.0%	0.1%
家族等の身寄りがいない状態	92 人	240 人	1.3%	1.8%
合 計	6,977 人	13,431 人		
病棟数	151 件	260 件		

※合併症等の状態の回答があった病棟について集計

【休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別・複数回答】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
合併症を有する状態	5,217 人	2,317 人	38.8%	33.2%
中心静脈栄養を行っている状態	19 人	6 人	0.1%	0.1%
重度の認知症を有する状態	1,391 人	605 人	10.4%	8.7%
気管切開を有する状態	71 人	40 人	0.5%	0.6%
人工透析を行っている状態	6 人	6 人	0.0%	0.1%
家族等の身寄りがいない状態	234 人	98 人	1.7%	1.4%
総 数	13,438 人	6,970 人		
病棟数	277 件	134 件		

※合併症等の状態の回答があった病棟について集計

④ 入棟前の居場所

回復期リハビリテーション病棟の平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月における新入棟患者の入棟前の居場所についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」47.3%が最も多く、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では「自院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」69.0%が最も多かった。

また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」49.1%が最も多く、加算無しの病棟では「自院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」52.0%が最も多かった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」67.0%が最も多く、加算無しの病棟では「自院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」57.5%が最も多かった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」53.0%が最も多く、加算無しの病棟では「自院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」60.7%が最も多かった。

図表 2-1-49 入棟前の居場所 (H23.4~6)

【入院料区分別】

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
① 他の回復期リハビリテーション病棟 [自院]	121人	29人	0.6%	1.8%
② ①を除く一般病床 [自院]	8,312人	1,105人	44.2%	69.0%
③ ①を除く療養病床 [自院]	199人	21人	1.1%	1.3%
④ ①~③を除くその他の病床 [自院]	31人	0人	0.2%	0.0%
⑤ 回復期リハビリテーション病棟 [他院]	288人	17人	1.5%	1.1%
⑥ ⑤を除く一般病床 [他院]	8,903人	398人	47.3%	24.9%
⑦ ⑤を除く療養病床 [他院]	117人	1人	0.6%	0.1%
⑧ ⑤~⑦を除くその他の病床 [他院]	268人	2人	1.4%	0.1%
⑨ 有床診療所	35人	0人	0.2%	0.0%
⑩ 介護老人保健施設 (老人保健施設)	25人	2人	0.1%	0.1%
⑪ 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	19人	1人	0.1%	0.1%
⑫ 認知症高齢者グループホーム	6人	0人	0.0%	0.0%
⑬ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス)	25人	1人	0.1%	0.1%
⑭ 高齢者専用賃貸住宅	7人	0人	0.0%	0.0%
⑮ 障害者支援施設	1人	0人	0.0%	0.0%
⑯ 在宅	443人	23人	2.4%	1.4%
⑰ その他	7人	1人	0.0%	0.1%
合計	18,807人	1,601人	100.0%	100.0%
病棟数	378件	33件		

※入棟前の居場所の回答があった病棟について集計

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別・複数回答】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 他の回復期リハビリテーション病棟 [自院]	109人	12人	0.7%	0.5%
② ①を除く一般病床 [自院]	6,967人	1,345人	43.0%	52.0%
③ ①を除く療養病床 [自院]	115人	84人	0.7%	3.2%
④ ①~③を除くその他の病床 [自院]	30人	1人	0.2%	0.0%
⑤ 回復期リハビリテーション病棟 [他院]	206人	82人	1.3%	3.2%
⑥ ⑤を除く一般病床 [他院]	7,960人	943人	49.1%	36.4%
⑦ ⑤を除く療養病床 [他院]	116人	1人	0.7%	0.0%
⑧ ⑤~⑦を除くその他の病床 [他院]	254人	14人	1.6%	0.5%
⑨ 有床診療所	34人	1人	0.2%	0.0%
⑩ 介護老人保健施設 (老人保健施設)	23人	2人	0.1%	0.1%
⑪ 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	14人	5人	0.1%	0.2%
⑫ 認知症高齢者グループホーム	6人	0人	0.0%	0.0%
⑬ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス)	15人	10人	0.1%	0.4%
⑭ 高齢者専用賃貸住宅	7人	0人	0.0%	0.0%
⑮ 障害者支援施設	0人	1人	0.0%	0.0%
⑯ 在宅	356人	87人	2.2%	3.4%
⑰ その他	7人	0人	0.0%	0.0%
合計	16,219人	2,588人	100.0%	100.0%
病棟数	328件	50件		

※入棟前の居場所の回答があった病棟について集計

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 他の回復期リハビリテーション病棟 [自院]	37人	113人	0.5%	0.8%
② ①を除く一般病床 [自院]	1,697人	7,720人	24.3%	57.5%
③ ①を除く療養病床 [自院]	97人	123人	1.4%	0.9%
④ ①～③を除くその他の病床 [自院]	1人	30人	0.0%	0.2%
⑤ 回復期リハビリテーション病棟 [他院]	124人	181人	1.8%	1.3%
⑥ ⑤を除く一般病床 [他院]	4,676人	4,625人	67.0%	34.4%
⑦ ⑤を除く療養病床 [他院]	86人	32人	1.2%	0.2%
⑧ ⑤～⑦を除くその他の病床 [他院]	106人	164人	1.5%	1.2%
⑨ 有床診療所	3人	32人	0.0%	0.2%
⑩ 介護老人保健施設（老人保健施設）	14人	13人	0.2%	0.1%
⑪ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	10人	10人	0.1%	0.1%
⑫ 認知症高齢者グループホーム	2人	4人	0.0%	0.0%
⑬ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	3人	23人	0.0%	0.2%
⑭ 高齢者専用賃貸住宅	2人	5人	0.0%	0.0%
⑮ 障害者支援施設	0人	1人	0.0%	0.0%
⑯ 在宅	118人	348人	1.7%	2.6%
⑰ その他	1人	7人	0.0%	0.1%
合計	6,977人	13,431人	100.0%	100.0%
病棟数	151件	260件		

※入棟前の居場所の回答があった病棟について集計

【休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 他の回復期リハビリテーション病棟 [自院]	68人	82人	0.5%	1.2%
② ①を除く一般病床 [自院]	5,188人	4,229人	38.6%	60.7%
③ ①を除く療養病床 [自院]	162人	58人	1.2%	0.8%
④ ①～③を除くその他の病床 [自院]	3人	28人	0.0%	0.4%
⑤ 回復期リハビリテーション病棟 [他院]	171人	134人	1.3%	1.9%
⑥ ⑤を除く一般病床 [他院]	7,125人	2,176人	53.0%	31.2%
⑦ ⑤を除く療養病床 [他院]	94人	24人	0.7%	0.3%
⑧ ⑤～⑦を除くその他の病床 [他院]	223人	47人	1.7%	0.7%
⑨ 有床診療所	30人	5人	0.2%	0.1%
⑩ 介護老人保健施設（老人保健施設）	23人	4人	0.2%	0.1%
⑪ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	16人	4人	0.1%	0.1%
⑫ 認知症高齢者グループホーム	5人	1人	0.0%	0.0%
⑬ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	16人	10人	0.1%	0.1%
⑭ 高齢者専用賃貸住宅	6人	1人	0.0%	0.0%
⑮ 障害者支援施設	0人	1人	0.0%	0.0%
⑯ 在宅	301人	165人	2.2%	2.4%
⑰ その他	7人	1人	0.1%	0.0%
合計	13,438人	6,970人	100.0%	100.0%
病棟数	277件	134件		

※入棟前の居場所の回答があった病棟について集計

(4) 退棟患者の状況

① 退棟時の日常生活機能評価の改善状況

回復期リハビリテーション病棟から、平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月に退棟した患者について、入棟時に日常生活機能評価が 10 点以上だった患者で、退棟時に 3 点以上改善していた患者の割合をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では 67.1%、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では 81.9%であった。ただし、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟は入棟時に日常生活機能評価が 10 点以上だった患者が 30.3%であるのに対して、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では 14.5%であった。

また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 68.1%、加算無しの病棟では 61.6%であった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 63.5%、加算無しの病棟では 70.0%であった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 66.1%、加算無しの病棟では 70.8%であった。

次に、平成 23 年 4 月から 6 月までの重症患者回復率についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では 61.2%、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では 37.5%であった。

また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 61.9%、加算無しの病棟では 56.1%であった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 59.9%、加算無しの病棟では 59.3%であった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 60.2%、加算無しの病棟では 58.0%であった。

図表 2-1-50 退棟患者のうち、入棟時に日常生活機能評価が10点以上だった患者で、退棟時に3点以上改善していた患者の割合（H23.4～6）

【入院料区分別】

	患者数		割合			
	入院料1	入院料2	入院料1		入院料2	
退棟患者数	20,627人	1,481人	100.0%		100.0%	
【再掲】入棟時に10点以上	6,258人	215人	30.3%	100.0%	14.5%	100.0%
【再掲】退棟時に3点以上改善	4,201人	176人	20.4%	67.1%	11.9%	81.9%
病棟数	407件	32件				

※該当患者数の回答があった病棟について集計

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別・複数回答】

	患者数		割合			
	加算有り	加算無し	加算有り		加算無し	
退棟患者数	17,875人	2,752人	100.0%		100.0%	
【再掲】入棟時に10点以上	5,332人	926人	29.8%	100.0%	33.6%	100.0%
【再掲】退棟時に3点以上改善	3,631人	570人	20.3%	68.1%	20.7%	61.6%
病棟数	354件	53件				

※該当患者数の回答があった病棟について集計

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

	患者数		割合			
	加算有り	加算無し	加算有り		加算無し	
退棟患者数	7,622人	14,486人	100.0%		100.0%	
【再掲】入棟時に10点以上	2,379人	4,094人	31.2%	100.0%	28.3%	100.0%
【再掲】退棟時に3点以上改善	1,511人	2,866人	19.8%	63.5%	19.8%	70.0%
病棟数	160件	279件				

※該当患者数の回答があった病棟について集計

【休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	患者数		割合			
	加算有り	加算無し	加算有り		加算無し	
退棟患者数	14,586人	7,522人	100.0%		100.0%	
【再掲】入棟時に10点以上	4,412人	2,061人	30.2%	100.0%	27.4%	100.0%
【再掲】退棟時に3点以上改善	2,918人	1,459人	20.0%	66.1%	19.4%	70.8%
病棟数	294件	145件				

※該当患者数の回答があった病棟について集計

図表 2-1-51 重症患者回復率の分布 (H23.4～6)

【入院料区分別】

	施設数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
30%未満	18件	10件	4.1%	25.6%
30%以上 40%未満	34件	8件	7.8%	20.5%
40%以上 50%未満	52件	2件	11.9%	5.1%
50%以上 60%未満	78件	6件	17.9%	15.4%
60%以上 70%未満	102件	2件	23.4%	5.1%
70%以上 80%未満	73件	2件	16.7%	5.1%
80%以上	61件	1件	14.0%	2.6%
無回答	18件	8件	4.1%	20.5%
合計	436件	39件	100.0%	100.0%
平均	61.2%	37.5%		
【参考】平成21年度調査時の平均	55.7%	47.3%		

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別】

	施設数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
30%未満	13件	5件	3.4%	9.1%
30%以上 40%未満	28件	6件	7.3%	10.9%
40%以上 50%未満	46件	6件	12.1%	10.9%
50%以上 60%未満	66件	12件	17.3%	21.8%
60%以上 70%未満	89件	13件	23.4%	23.6%
70%以上 80%未満	65件	8件	17.1%	14.5%
80%以上	58件	3件	15.2%	5.5%
無回答	16件	2件	4.2%	3.6%
合計	381件	55件	100.0%	100.0%
平均	61.9%	56.1%		
【参考】平成21年度調査時の平均	56.2%	54.7%		

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

	施設数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
30%未満	7 件	21 件	4.1%	6.9%
30%以上 40%未満	17 件	25 件	10.1%	8.2%
40%以上 50%未満	22 件	32 件	13.0%	10.5%
50%以上 60%未満	28 件	56 件	16.6%	18.3%
60%以上 70%未満	38 件	66 件	22.5%	21.6%
70%以上 80%未満	33 件	42 件	19.5%	13.7%
80%以上	19 件	43 件	11.2%	14.1%
無回答	5 件	21 件	3.0%	6.9%
合 計	169 件	306 件	100.0%	100.0%
平 均	59.9%	59.3%		

【休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	施設数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
30%未満	14 件	14 件	4.4%	8.9%
30%以上 40%未満	29 件	13 件	9.1%	8.3%
40%以上 50%未満	38 件	16 件	11.9%	10.2%
50%以上 60%未満	53 件	31 件	16.7%	19.7%
60%以上 70%未満	78 件	26 件	24.5%	16.6%
70%以上 80%未満	53 件	22 件	16.7%	14.0%
80%以上	43 件	19 件	13.5%	12.1%
無回答	10 件	16 件	3.1%	10.2%
合 計	318 件	157 件	100.0%	100.0%
平 均	60.2%	58.0%		

② 退棟後の居場所

回復期リハビリテーション病棟から、平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月に退棟した患者について、退棟後の居場所が「在宅」であった割合についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では 69.1%、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では 73.7%であった。

また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 69.4%、加算無しの病棟では 66.6%であった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 67.9%、加算無しの病棟では 70.2%であった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 67.5%、加算無しの病棟では 73.1%であった。

次に、平成 23 年 4 月から 6 月までの在宅復帰率についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では 77.3%、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では 75.8%であった。

また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 77.4%、加算無しの病棟では 76.6%であった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 76.0%、加算無しの病棟では 77.9%であった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 76.7%、加算無しの病棟では 78.4%であった。

図表 2-1-52 退棟後の居場所 (H23.4~6)

【入院料区分別】

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
① 在宅	14,248 人	1,092 人	69.1%	73.7%
② 他の回復期リハビリテーション病棟 [自院]	39 人	0 人	0.2%	0.0%
③ ②を除く一般病床 [自院]	809 人	70 人	3.9%	4.7%
④ ②を除く療養病床 [自院]	346 人	30 人	1.7%	2.0%
⑤ ②~④を除くその他の病床 [自院]	59 人	10 人	0.3%	0.7%
⑥ 回復期リハビリテーション病棟 [他院]	133 人	16 人	0.6%	1.1%
⑦ ⑥を除く一般病床 [他院]	1,279 人	54 人	6.2%	3.6%
⑧ ⑥を除く療養病床 [他院]	554 人	29 人	2.7%	2.0%
⑨ ⑥~⑧を除くその他の病床 [他院]	127 人	7 人	0.6%	0.5%
⑩ 有床診療所	70 人	2 人	0.3%	0.1%
⑪ 介護老人保健施設 (老人保健施設)	1,543 人	106 人	7.5%	7.2%
⑫ 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	370 人	18 人	1.8%	1.2%
⑬ 認知症高齢者グループホーム	158 人	6 人	0.8%	0.4%
⑭ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス)	507 人	21 人	2.5%	1.4%
⑮ 高齢者専用賃貸住宅	122 人	3 人	0.6%	0.2%
⑯ 障害者支援施設	54 人	1 人	0.3%	0.1%
⑰ 死亡	124 人	12 人	0.6%	0.8%
⑱ その他	85 人	4 人	0.4%	0.3%
合計	20,627 人	1,481 人	100.0%	100.0%
病棟数	407 件	32 件		
【参考】平成 21 年度調査時における在宅の割合			68.9%	66.2%

※退棟後の居場所の回答があった病棟について集計

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別・複数回答】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 在宅	12,414 人	1,834 人	69.4%	66.6%
② 他の回復期リハビリテーション病棟 [自院]	39 人	0 人	0.2%	0.0%
③ ②を除く一般病床 [自院]	669 人	140 人	3.7%	5.1%
④ ②を除く療養病床 [自院]	304 人	42 人	1.7%	1.5%
⑤ ②~④を除くその他の病床 [自院]	42 人	17 人	0.2%	0.6%
⑥ 回復期リハビリテーション病棟 [他院]	111 人	22 人	0.6%	0.8%
⑦ ⑥を除く一般病床 [他院]	1,108 人	171 人	6.2%	6.2%
⑧ ⑥を除く療養病床 [他院]	481 人	73 人	2.7%	2.7%
⑨ ⑥~⑧を除くその他の病床 [他院]	112 人	15 人	0.6%	0.5%
⑩ 有床診療所	63 人	7 人	0.4%	0.3%
⑪ 介護老人保健施設 (老人保健施設)	1,360 人	183 人	7.6%	6.6%
⑫ 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	276 人	94 人	1.5%	3.4%
⑬ 認知症高齢者グループホーム	134 人	24 人	0.7%	0.9%
⑭ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス)	431 人	76 人	2.4%	2.8%
⑮ 高齢者専用賃貸住宅	101 人	21 人	0.6%	0.8%
⑯ 障害者支援施設	51 人	3 人	0.3%	0.1%
⑰ 死亡	105 人	19 人	0.6%	0.7%
⑱ その他	74 人	11 人	0.4%	0.4%
合計	17,875 人	2,752 人	100.0%	100.0%
病棟数	354 件	53 件		
【参考】平成 21 年度調査時における在宅の割合			68.6%	69.5%

※退棟後の居場所の回答があった病棟について集計

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 在宅	5,173 人	10,167 人	67.9%	70.2%
② 他の回復期リハビリテーション病棟【自院】	20 人	19 人	0.3%	0.1%
③ ②を除く一般病床【自院】	184 人	695 人	2.4%	4.8%
④ ②を除く療養病床【自院】	126 人	250 人	1.7%	1.7%
⑤ ②～④を除くその他の病床【自院】	23 人	46 人	0.3%	0.3%
⑥ 回復期リハビリテーション病棟【他院】	34 人	115 人	0.4%	0.8%
⑦ ⑥を除く一般病床【他院】	637 人	696 人	8.4%	4.8%
⑧ ⑥を除く療養病床【他院】	196 人	387 人	2.6%	2.7%
⑨ ⑥～⑧を除くその他の病床【他院】	51 人	83 人	0.7%	0.6%
⑩ 有床診療所	17 人	55 人	0.2%	0.4%
⑪ 介護老人保健施設（老人保健施設）	615 人	1,034 人	8.1%	7.1%
⑫ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	145 人	243 人	1.9%	1.7%
⑬ 認知症高齢者グループホーム	52 人	112 人	0.7%	0.8%
⑭ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	178 人	350 人	2.3%	2.4%
⑮ 高齢者専用賃貸住宅	63 人	62 人	0.8%	0.4%
⑯ 障害者支援施設	26 人	29 人	0.3%	0.2%
⑰ 死亡	43 人	93 人	0.6%	0.6%
⑱ その他	39 人	50 人	0.5%	0.3%
合計	7,622 人	14,486 人	100.0%	100.0%
病棟数	160 件	279 件		

※退棟後の居場所の回答があった病棟について集計

【休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 在宅	9,844 人	5,496 人	67.5%	73.1%
② 他の回復期リハビリテーション病棟【自院】	23 人	16 人	0.2%	0.2%
③ ②を除く一般病床【自院】	517 人	362 人	3.5%	4.8%
④ ②を除く療養病床【自院】	288 人	88 人	2.0%	1.2%
⑤ ②～④を除くその他の病床【自院】	34 人	35 人	0.2%	0.5%
⑥ 回復期リハビリテーション病棟【他院】	90 人	59 人	0.6%	0.8%
⑦ ⑥を除く一般病床【他院】	1,036 人	297 人	7.1%	3.9%
⑧ ⑥を除く療養病床【他院】	375 人	208 人	2.6%	2.8%
⑨ ⑥～⑧を除くその他の病床【他院】	92 人	42 人	0.6%	0.6%
⑩ 有床診療所	54 人	18 人	0.4%	0.2%
⑪ 介護老人保健施設（老人保健施設）	1,150 人	499 人	7.9%	6.6%
⑫ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	293 人	95 人	2.0%	1.3%
⑬ 認知症高齢者グループホーム	111 人	53 人	0.8%	0.7%
⑭ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	369 人	159 人	2.5%	2.1%
⑮ 高齢者専用賃貸住宅	96 人	29 人	0.7%	0.4%
⑯ 障害者支援施設	41 人	14 人	0.3%	0.2%
⑰ 死亡	95 人	41 人	0.7%	0.5%
⑱ その他	78 人	11 人	0.5%	0.1%
合計	14,586 人	7,522 人	100.0%	100.0%
病棟数	294 件	145 件		

※退棟後の居場所の回答があった病棟について集計

図表 2-1-53 在宅復帰率の分布 (H23.4~6)

【入院料区分別】

	施設数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
50%未満	3件	3件	0.7%	7.7%
50%以上 60%未満	8件	2件	1.8%	5.1%
60%以上 70%未満	68件	6件	15.6%	15.4%
70%以上 80%未満	175件	9件	40.1%	23.1%
80%以上 90%未満	141件	11件	32.3%	28.2%
90%以上	28件	7件	6.4%	17.9%
無回答	13件	1件	3.0%	2.6%
合計	436件	39件	100.0%	100.0%
平均	77.3%	75.8%		
【参考】平成21年度調査時の平均	75.8%	72.7%		

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別】

	施設数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
50%未満	2件	1件	0.5%	1.8%
50%以上 60%未満	7件	1件	1.8%	1.8%
60%以上 70%未満	59件	9件	15.5%	16.4%
70%以上 80%未満	156件	19件	40.9%	34.5%
80%以上 90%未満	117件	24件	30.7%	43.6%
90%以上	28件	0件	7.3%	0.0%
無回答	12件	1件	3.1%	1.8%
合計	381件	55件	100.0%	100.0%
平均	77.4%	76.6%		
【参考】平成21年度調査時の平均	75.7%	76.0%		

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

	施設数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
50%未満	2件	4件	1.2%	1.3%
50%以上 60%未満	5件	5件	3.0%	1.6%
60%以上 70%未満	26件	48件	15.4%	15.7%
70%以上 80%未満	76件	108件	45.0%	35.3%
80%以上 90%未満	55件	97件	32.5%	31.7%
90%以上	4件	31件	2.4%	10.1%
無回答	1件	13件	0.6%	4.2%
合計	169件	306件	100.0%	100.0%
平均	76.0%	77.9%		

【休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	施設数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
50%未満	4件	2件	1.3%	1.3%
50%以上 60%未満	7件	3件	2.2%	1.9%
60%以上 70%未満	54件	20件	17.0%	12.7%
70%以上 80%未満	133件	51件	41.8%	32.5%
80%以上 90%未満	95件	57件	29.9%	36.3%
90%以上	21件	14件	6.6%	8.9%
無回答	4件	10件	1.3%	6.4%
合計	318件	157件	100.0%	100.0%
平均	76.7%	78.4%		

(5) リハビリテーションの実施体制

標準算定日数内のリハビリテーションの実施状況を、平日・土曜日・日曜日別に1人1日当たり実施単位数で見ると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平日 6.2 単位、土曜日 5.3 単位、日曜日 3.9 単位、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平日 4.9 単位、土曜日 3.8 単位、日曜日 2.3 単位であった。

また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平日 6.3 単位、土曜日 5.5 単位、日曜日 4.0 単位、加算無しの病棟では平日 5.8 単位、土曜日 4.2 単位、日曜日 2.7 単位であった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平日 7.6 単位、土曜日 6.9 単位、日曜日 5.9 単位、加算無しの病棟では平日 5.3 単位、土曜日 4.2 単位、日曜日 2.5 単位であった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平日 6.5 単位、土曜日 5.9 単位、日曜日 5.0 単位、加算無しの病棟では平日 5.3 単位、土曜日 3.6 単位、日曜日 1.0 単位であった。

次に、標準算定日数超のリハビリテーションの実施状況を、平日・土曜日・日曜日別に1人1日当たり実施単位数で見ると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平日 2.4 単位、土曜日 1.8 単位、日曜日 1.5 単位、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平日 0.6 単位、土曜日 0.6 単位、日曜日 0.4 単位であった。

図表 2-1-54 標準算定日数内の平日・土曜日・日曜日別にみた1人当たり実施単位数

【入院料区分別】

		病棟数	対象者数	1人当たり 実施単位数
入院料1	平日	383件	40.7人	6.2単位/日
	土曜日		38.0人	5.3単位/日
	日曜日		32.9人	3.9単位/日
入院料2	平日	34件	32.0人	4.9単位/日
	土曜日		29.9人	3.8単位/日
	日曜日		24.1人	2.3単位/日

※平日・土曜日・日曜日別の実施対象者数、実施単位数の回答があった病棟について集計

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別】

		病棟数	対象者数	1人当たり 実施単位数
加算有り	平日	336件	40.8人	6.3単位/日
	土曜日		38.3人	5.5単位/日
	日曜日		33.6人	4.0単位/日
加算無し	平日	47件	39.9人	5.8単位/日
	土曜日		35.9人	4.2単位/日
	日曜日		28.2人	2.7単位/日

※平日・土曜日・日曜日別の実施対象者数、実施単位数の回答があった病棟について集計

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

		病棟数	対象者数	1人当たり 実施単位数
加算有り	平日	153件	41.4人	7.6単位/日
	土曜日		40.8人	6.9単位/日
	日曜日		38.8人	5.9単位/日
加算無し	平日	264件	39.2人	5.3単位/日
	土曜日		35.3人	4.2単位/日
	日曜日		28.4人	2.5単位/日

※平日・土曜日・日曜日別の実施対象者数、実施単位数の回答があった病棟について集計

【休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

		病棟数	対象者数	1人当たり 実施単位数
加算有り	平日	287件	40.6人	6.5単位/日
	土曜日		39.5人	5.9単位/日
	日曜日		38.4人	5.0単位/日
加算無し	平日	130件	38.6人	5.3単位/日
	土曜日		32.5人	3.6単位/日
	日曜日		18.5人	1.0単位/日

※平日・土曜日・日曜日別の実施対象者数、実施単位数の回答があった病棟について集計

図表 2-1-55 標準算定日数超の平日・土曜日・日曜日別にみた1人当たり実施単位数

		病棟数	対象者数	1人当たり 実施単位数
入院料1	平日	335 件	1.4 人	2.4 単位/日
	土曜日		1.1 人	1.8 単位/日
	日曜日		0.9 人	1.5 単位/日
入院料2	平日	26 件	0.3 人	0.6 単位/日
	土曜日		0.3 人	0.6 単位/日
	日曜日		0.2 人	0.4 単位/日

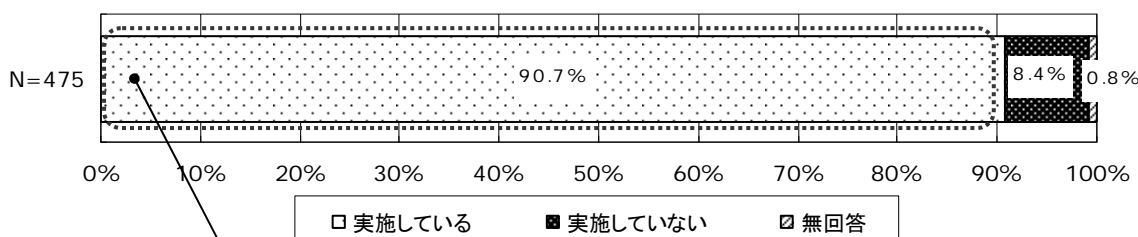
※平日・土曜日・日曜日別の実施対象者数、実施単位数の回答があった病棟について集計

(6) 退院支援の実施状況

① 病棟における退院支援の実施状況

病棟における退院支援の実施状況についてみると、「実施している」90.7%、「実施していない」8.4%であった。なお、退院支援の専従する1病棟当たり職員数は5.0人であり、主な活動内容としては「退院後の居場所に関する調整」95.6%、「要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整」94.9%などとなっていた。

図表 2-1-56 退院支援の実施状況



図表 2-1-57 退院支援に専従する1病棟当たり職員数（実人数）

	職員数
看護師	2.1人
准看護師	0.4人
ソーシャルワーカー	1.7人
【再掲】社会福祉士	1.4人
事務職員	0.1人
その他の職種	0.7人
合計	5.0人
施設数	315件

※退院支援に専従する職員数の回答があった315施設について集計

図表 2-1-58 退院支援の内容【複数回答】

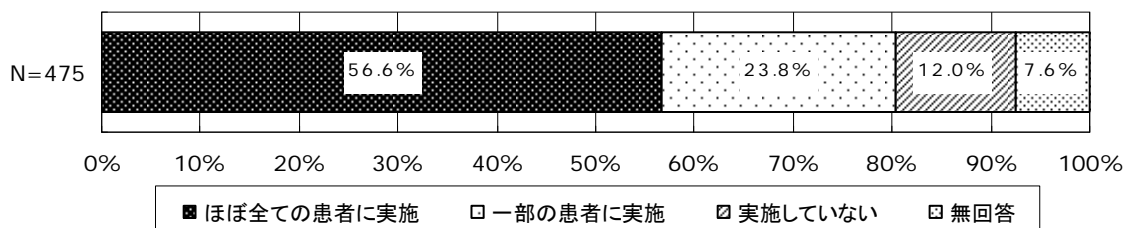
	病棟数	割合
退院後の居場所に関する調整	412件	95.6%
要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整	409件	94.9%
利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援	405件	94.0%
退院当日や退院後の療養相談	323件	74.9%
患者や家族に対するカウンセリングと精神的支援	307件	71.2%
入院中の治療方針に関する説明と退院までの見通しの説明	289件	67.1%
継続的な療養管理が可能な状態となるまでの期間と退院日の設定	276件	64.0%
患者への治療に係る目標管理と退院指導	263件	61.0%
家族への介護技術と医療技術の指導	246件	57.1%
退院後の定期的な患者の状態確認	85件	19.7%
その他	23件	5.3%
無回答	10件	2.3%
総数	431件	

② 退院時リハビリテーション指導料、介護支援連携指導料に該当する指導の実施状況

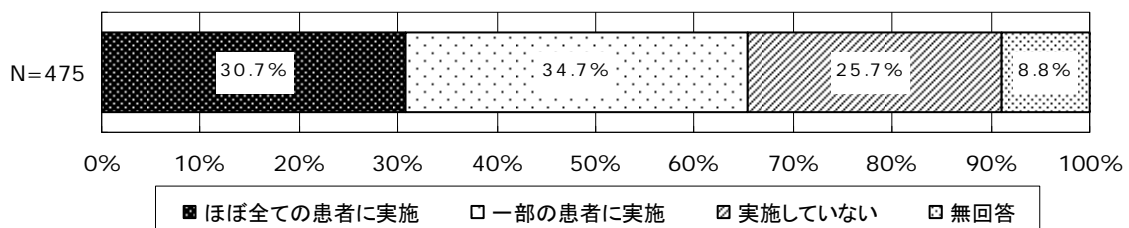
退院時リハビリテーション指導料に該当する指導の実施状況についてみると、「ほぼ全ての患者に実施」56.6%が最も多く、次いで「一部の患者に実施」23.8%、「実施していない」12.0%となっていた。

また、介護支援連携指導料に該当する指導の実施状況についてみると、「一部の患者に実施」34.7%が最も多く、次いで「ほぼ全ての患者に実施」30.7%、「実施していない」25.7%となっていた。

図表 2-1-59 退院時リハビリテーション指導料に該当する指導の実施状況



図表 2-1-60 介護支援連携指導料に該当する指導の実施状況



3) 回復期リハビリテーション病棟の退棟患者の概況

(1) 患者の基本的属性

① 性別・年齢

平成 23 年 6 月 1 カ月間に回復期リハビリテーション病棟から退棟した患者について、性別をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では「男性」43.1%、「女性」56.9%、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では「男性」33.7%、「女性」66.3%であった。また、平均年齢は、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟は 75.0 歳、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟は 76.4 歳であった。

図表 2-1-61 性別

	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
男 性	2,758 人	154 人	43.1%	33.7%
女 性	3,635 人	303 人	56.9%	66.3%
合 計	6,393 人	457 人	100.0%	100.0%

図表 2-1-62 年齢

	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
40 歳未満	143 人	5 人	2.2%	1.1%
40 歳以上 49 歳以下	169 人	14 人	2.6%	3.1%
50 歳以上 59 歳以下	429 人	26 人	6.7%	5.7%
60 歳以上 64 歳以下	488 人	28 人	7.6%	6.1%
65 歳以上 69 歳以下	530 人	34 人	8.3%	7.4%
70 歳以上 74 歳以下	761 人	48 人	11.9%	10.5%
75 歳以上 79 歳以下	1,091 人	79 人	17.1%	17.3%
80 歳以上 84 歳以下	1,209 人	107 人	18.9%	23.4%
85 歳以上 89 歳以下	996 人	75 人	15.6%	16.4%
90 歳以上	577 人	41 人	9.0%	9.0%
合 計	6,393 人	457 人	100.0%	100.0%
平 均	75.0 歳	76.4 歳		

② 要介護度

要介護度についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「非該当・未申請」22.6%が最も多く、次いで「要介護3」11.0%、「要介護2」10.8%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「非該当・未申請」27.8%が最も多く、次いで「要介護2」12.0%、「介護保険の対象外」9.4%などとなっていた。

図表 2-1-63 要介護度

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
介護保険の対象外	441人	43人	6.9%	9.4%
非該当・未申請	1,445人	127人	22.6%	27.8%
要支援1	219人	20人	3.4%	4.4%
要支援2	325人	33人	5.1%	7.2%
要介護1	619人	36人	9.7%	7.9%
要介護2	688人	55人	10.8%	12.0%
要介護3	702人	38人	11.0%	8.3%
要介護4	645人	38人	10.1%	8.3%
要介護5	392人	14人	6.1%	3.1%
無回答	917人	53人	14.3%	11.6%
合計	6,393人	457人	100.0%	100.0%

③ 介護者の状況

介護者の状況についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「常時、介護者（家族・友人等）が1人いる」32.4%が最も多く、次いで「独居ではないが、日中は家族が仕事等で不在」24.6%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「常時、介護者（家族・友人等）が1人いる」33.3%が最も多く、次いで「独居であり、介護者は全くいない」23.6%などとなっていた。

図表 2-1-64 介護者の状況

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
独居であり、介護者は全くいない	1,224人	108人	19.1%	23.6%
独居ではないが、家族等が高齢・病気等のため、介護者は全くいない	465人	25人	7.3%	5.5%
独居ではないが、日中は家族が仕事等で不在	1,573人	87人	24.6%	19.0%
常時、介護者（家族・友人等）が1人いる	2,074人	152人	32.4%	33.3%
常時、介護者（家族・友人等）が複数いる	646人	65人	10.1%	14.2%
無回答	411人	20人	6.4%	4.4%
合計	6,393人	457人	100.0%	100.0%

(2) 入棟時の状況

① 主たる原因疾患、合併症等の状態

入棟時の主たる原因疾患についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「脳血管疾患」46.3%が最も多く、次いで「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」31.3%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」40.9%が最も多く、次いで「脳血管疾患」20.8%などとなっていた。

また、主たる原因疾患別にみた発症・受傷日から入棟日までの平均日数をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「脳血管疾患」37.6日、「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」30.6日などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」34.4日、「脳血管疾患」37.7日などとなっていた。

次に、合併症等の状態をみると、「合併症を有する状態」の割合は、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では41.2%、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では34.6%であった。

また、「脳血管疾患群」と「筋骨格系疾患群」に区分してみると、「脳血管疾患群」では回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟で46.0%、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では47.2%、「筋骨格系疾患群」では回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟で34.0%、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では28.5%であった。

図表 2-1-65 主たる原因疾患

	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
脳神経系疾患群	3,255 人	108 人	50.9%	23.6%
脳血管疾患	2,961 人	95 人	46.3%	20.8%
脊髄損傷	109 人	7 人	1.7%	1.5%
頭部外傷	114 人	6 人	1.8%	1.3%
その他の脳神経系疾患	71 人	0 人	1.1%	0.0%
筋骨格系疾患群	2,438 人	291 人	38.1%	63.7%
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	2,004 人	187 人	31.3%	40.9%
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	149 人	27 人	2.3%	5.9%
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	285 人	77 人	4.5%	16.8%
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	587 人	50 人	9.2%	10.9%
その他の疾患	113 人	8 人	1.8%	1.8%
合 計	6,393 人	457 人	100.0%	100.0%

図表 2-1-66 主たる原因疾患別にみた発症・受症日から入棟日までの平均日数

	入院料 1	入院料 2
脳神経系疾患群	38.0 日	37.8 日
脳血管疾患	37.6 日	37.7 日
脊髄損傷	40.9 日	36.1 日
頭部外傷	40.9 日	42.0 日
その他の脳神経系疾患	44.6 日	-
筋骨格系疾患群	30.1 日	35.0 日
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	30.6 日	34.4 日
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	23.7 日	25.5 日
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	29.5 日	40.0 日
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	28.4 日	29.3 日
その他の疾患	36.4 日	34.3 日

図表 2-1-67 合併症等の状態【複数回答】

【全 体】

	患者数		割 合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
合併症を有する状態	2,634 人	158 人	41.2%	34.6%
中心静脈栄養を行っている状態	9 人	0 人	0.1%	0.0%
重度の認知症を有する状態	558 人	33 人	8.7%	7.2%
気管切開を有する状態	47 人	1 人	0.7%	0.2%
人工透析を行っている状態	2 人	0 人	0.0%	0.0%
総 数	6,393 人	457 人		

【脳神経系疾患群】

	患者数		割 合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
合併症を有する状態	1,497 人	51 人	46.0%	47.2%
中心静脈栄養を行っている状態	4 人	0 人	0.1%	0.0%
重度の認知症を有する状態	245 人	9 人	7.5%	8.3%
気管切開を有する状態	34 人	0 人	1.0%	0.0%
人工透析を行っている状態	1 人	0 人	0.0%	0.0%
総 数	3,255 人	108 人		

【筋骨格系疾患群】

	患者数		割 合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
合併症を有する状態	829 人	83 人	34.0%	28.5%
中心静脈栄養を行っている状態	1 人	0 人	0.0%	0.0%
重度の認知症を有する状態	239 人	20 人	9.8%	6.9%
気管切開を有する状態	1 人	0 人	0.0%	0.0%
人工透析を行っている状態	0 人	0 人	0.0%	0.0%
総 数	2,438 人	291 人		

② 入棟前の居場所

入棟前の居場所についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」44.5%が最も多く、次いで「自院の急性期病床」26.5%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「自院の急性期病床」39.4%が最も多く、次いで「在宅」24.1%などとなっていた。

また、「脳神経系疾患群」と「筋骨格系疾患群」に区分してみると、「脳神経系疾患群」では、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟で「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」54.0%が最も多く、次いで「自院の急性期病床」21.8%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「自院の急性期病床」37.0%が最も多く、次いで「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」35.2%などとなっていた。

「筋骨格系疾患群」では、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟で「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」33.5%が最も多く、次いで「自院の急性期病床」32.1%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「自院の急性期病床」40.9%が最も多く、次いで「在宅」26.5%などとなっていた。

図表 2-1-68 入棟前の居場所
【全 体】

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
① 在宅	922人	110人	14.4%	24.1%
② 急性期病床【自院】	1,691人	180人	26.5%	39.4%
③ 他の回復期リハビリテーション病棟【自院】	4人	0人	0.1%	0.0%
④ ②～③を除く一般病床【自院】	579人	44人	9.1%	9.6%
⑤ ②～③を除く療養病床【自院】	21人	4人	0.3%	0.9%
⑥ ②～⑤を除くその他の病床【自院】	6人	0人	0.1%	0.0%
⑦ 回復期リハビリテーション病棟【他院】	57人	1人	0.9%	0.2%
⑧ ⑦を除く一般病床【他院】	2,845人	105人	44.5%	23.0%
⑨ ⑦を除く療養病床【他院】	15人	0人	0.2%	0.0%
⑩ ⑦～⑨を除くその他の病床【他院】	73人	0人	1.1%	0.0%
⑪ 有床診療所	15人	0人	0.2%	0.0%
⑫ 介護老人保健施設（老人保健施設）	24人	1人	0.4%	0.2%
⑬ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	29人	4人	0.5%	0.9%
⑭ 認知症高齢者グループホーム	12人	1人	0.2%	0.2%
⑮ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	28人	3人	0.4%	0.7%
⑯ 高齢者専用賃貸住宅	3人	1人	0.0%	0.2%
⑰ 障害者支援施設	7人	1人	0.1%	0.2%
⑱ その他	11人	0人	0.2%	0.0%
無回答	51人	2人	0.8%	0.4%
合 計	6,393人	457人	100.0%	100.0%

【脳神経系疾患群】

	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
① 在宅	383 人	19 人	11.8%	17.6%
② 急性期病床 [自院]	708 人	40 人	21.8%	37.0%
③ 他の回復期リハビリテーション病棟 [自院]	2 人	0 人	0.1%	0.0%
④ ②～③を除く一般病床 [自院]	256 人	6 人	7.9%	5.6%
⑤ ②～③を除く療養病床 [自院]	3 人	2 人	0.1%	1.9%
⑥ ②～⑤を除くその他の病床 [自院]	5 人	0 人	0.2%	0.0%
⑦ 回復期リハビリテーション病棟 [他院]	42 人	0 人	1.3%	0.0%
⑧ ⑦を除く一般病床 [他院]	1,759 人	38 人	54.0%	35.2%
⑨ ⑦を除く療養病床 [他院]	7 人	0 人	0.2%	0.0%
⑩ ⑦～⑨を除くその他の病床 [他院]	37 人	0 人	1.1%	0.0%
⑪ 有床診療所	2 人	0 人	0.1%	0.0%
⑫ 介護老人保健施設 (老人保健施設)	8 人	1 人	0.2%	0.9%
⑬ 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	9 人	0 人	0.3%	0.0%
⑭ 認知症高齢者グループホーム	1 人	0 人	0.0%	0.0%
⑮ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス)	6 人	1 人	0.2%	0.9%
⑯ 高齢者専用賃貸住宅	1 人	1 人	0.0%	0.9%
⑰ 障害者支援施設	3 人	0 人	0.1%	0.0%
⑱ その他	5 人	0 人	0.2%	0.0%
無回答	18 人	0 人	0.6%	0.0%
合 計	3,255 人	108 人	100.0%	100.0%

【筋骨格系疾患群】

	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
① 在宅	444 人	77 人	18.2%	26.5%
② 急性期病床 [自院]	783 人	119 人	32.1%	40.9%
③ 他の回復期リハビリテーション病棟 [自院]	2 人	0 人	0.1%	0.0%
④ ②～③を除く一般病床 [自院]	237 人	28 人	9.7%	9.6%
⑤ ②～③を除く療養病床 [自院]	9 人	0 人	0.4%	0.0%
⑥ ②～⑤を除くその他の病床 [自院]	1 人	0 人	0.0%	0.0%
⑦ 回復期リハビリテーション病棟 [他院]	14 人	1 人	0.6%	0.3%
⑧ ⑦を除く一般病床 [他院]	816 人	56 人	33.5%	19.2%
⑨ ⑦を除く療養病床 [他院]	7 人	0 人	0.3%	0.0%
⑩ ⑦～⑨を除くその他の病床 [他院]	29 人	0 人	1.2%	0.0%
⑪ 有床診療所	13 人	0 人	0.5%	0.0%
⑫ 介護老人保健施設 (老人保健施設)	13 人	0 人	0.5%	0.0%
⑬ 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	10 人	4 人	0.4%	1.4%
⑭ 認知症高齢者グループホーム	11 人	1 人	0.5%	0.3%
⑮ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス)	16 人	2 人	0.7%	0.7%
⑯ 高齢者専用賃貸住宅	2 人	0 人	0.1%	0.0%
⑰ 障害者支援施設	2 人	1 人	0.1%	0.3%
⑱ その他	5 人	0 人	0.2%	0.0%
無回答	24 人	2 人	1.0%	0.7%
合 計	2,438 人	291 人	100.0%	100.0%

③ 日常生活機能評価

入棟時の日常生活機能評価についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均 6.4 点、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平均 4.6 点であった。

また、主たる原因疾患別に日常生活機能評価をみると、「脳神経系疾患群」は回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟で平均 7.1 点、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟で平均 6.5 点であった。

「筋骨格系疾患群」では、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟で平均 5.3 点、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟で平均 3.7 点であった。

図表 2-1-69 日常生活機能評価

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
0点	623人	81人	9.7%	17.7%
1点以上 4点以下	1,968人	182人	30.8%	39.8%
5点以上 9点以下	1,922人	120人	30.1%	26.3%
10点以上 14点以下	1,504人	60人	23.5%	13.1%
15点以上 19点以下	376人	14人	5.9%	3.1%
総数	6,393人	457人	100.0%	100.0%
平均	6.4点	4.6点		

図表 2-1-70 主たる原因疾患別にみた日常生活機能評価

	入院料1	入院料2
脳神経系疾患群	7.1点	6.5点
脳血管疾患	7.3点	6.5点
脊髄損傷	5.9点	4.0点
頭部外傷	6.5点	8.3点
その他の脳神経系疾患	4.4点	-
筋骨格系疾患群	5.3点	3.7点
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	5.7点	4.6点
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	4.0点	3.2点
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	3.3点	1.9点
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	7.6点	6.6点
その他の疾患	4.2点	0.4点

(3) リハビリテーションの実施状況

入棟日の属する翌週 1 週間のリハビリテーションの実施状況をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では平均 34.4 単位、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では平均 24.6 単位であった。

また、退棟日の属する前週 1 週間のリハビリテーションの実施状況をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では平均 35.6 単位、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では平均 25.8 単位であった。

図表 2-1-71 リハビリテーションの実施状況

【入棟日の属する週の翌週 1 週間・全体】				
	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
10 単位未満	277 人	28 人	4.3%	6.1%
10 単位以上 19 単位以下	947 人	148 人	14.8%	32.4%
20 単位以上 29 単位以下	1,195 人	145 人	18.7%	31.7%
30 単位以上 39 単位以下	1,324 人	71 人	20.7%	15.5%
40 単位以上 49 単位以下	1,184 人	55 人	18.5%	12.0%
50 単位以上 59 単位以下	857 人	9 人	13.4%	2.0%
60 単位以上 69 単位以下	342 人	0 人	5.3%	0.0%
70 単位以上	11 人	0 人	0.2%	0.0%
無回答	256 人	1 人	4.0%	0.2%
合計	6,393 人	457 人	100.0%	100.0%
平均	34.4 単位	24.6 単位		

【退棟日の属する週の前週 1 週間・全体】				
	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
10 単位未満	257 人	22 人	4.0%	4.8%
10 単位以上 19 単位以下	826 人	143 人	12.9%	31.3%
20 単位以上 29 単位以下	1,118 人	138 人	17.5%	30.2%
30 単位以上 39 単位以下	1,344 人	71 人	21.0%	15.5%
40 単位以上 49 単位以下	1,277 人	63 人	20.0%	13.8%
50 単位以上 59 単位以下	977 人	19 人	15.3%	4.2%
60 単位以上 69 単位以下	327 人	0 人	5.1%	0.0%
70 単位以上	11 人	0 人	0.2%	0.0%
無回答	256 人	1 人	4.0%	0.2%
合計	6,393 人	457 人	100.0%	100.0%
平均	35.6 単位	25.8 単位		

次に、「脳神経系疾患群」について入棟日の属する翌週 1 週間のリハビリテーションの実施状況をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では平均 39.5 単位、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では平均 31.4 単位であった。

また、退棟日の属する前週 1 週間のリハビリテーションの実施状況をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では平均 40.0 単位、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では平均 32.7 単位であった。

【入棟日の属する週の翌週 1 週間・脳神経系疾患群】

	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
10 単位未満	98 人	3 人	3.0%	2.8%
10 単位以上 19 単位以下	201 人	9 人	6.2%	8.3%
20 単位以上 29 単位以下	496 人	37 人	15.2%	34.3%
30 単位以上 39 単位以下	681 人	33 人	20.9%	30.6%
40 単位以上 49 単位以下	751 人	22 人	23.1%	20.4%
50 単位以上 59 単位以下	625 人	4 人	19.2%	3.7%
60 単位以上 69 単位以下	270 人	0 人	8.3%	0.0%
70 単位以上	5 人	0 人	0.2%	0.0%
無回答	128 人	0 人	3.9%	0.0%
合 計	3,255 人	108 人	100.0%	100.0%
平 均	39.5 単位	31.4 単位		

【退棟日の属する週の前週 1 週間・脳神経系疾患群】

	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
10 単位未満	93 人	3 人	2.9%	2.8%
10 単位以上 19 単位以下	178 人	14 人	5.5%	13.0%
20 単位以上 29 単位以下	480 人	28 人	14.7%	25.9%
30 単位以上 39 単位以下	684 人	27 人	21.0%	25.0%
40 単位以上 49 単位以下	759 人	25 人	23.3%	23.1%
50 単位以上 59 単位以下	685 人	11 人	21.0%	10.2%
60 単位以上 69 単位以下	238 人	0 人	7.3%	0.0%
70 単位以上	10 人	0 人	0.3%	0.0%
無回答	128 人	0 人	3.9%	0.0%
合 計	3,255 人	108 人	100.0%	100.0%
平 均	40.0 単位	32.7 単位		

次に、「筋骨格系疾患群」について入棟日の属する翌週 1 週間のリハビリテーションの実施状況をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では平均 28.4 単位、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では平均 22.2 単位であった。

また、退棟日の属する前週 1 週間のリハビリテーションの実施状況をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では平均 30.4 単位、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では平均 23.6 単位であった。

【入棟日の属する週の翌週 1 週間・筋骨格系疾患群】

	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
10 単位未満	124 人	19 人	5.1%	6.5%
10 単位以上 19 単位以下	625 人	123 人	25.6%	42.3%
20 単位以上 29 単位以下	555 人	89 人	22.8%	30.6%
30 単位以上 39 単位以下	510 人	31 人	20.9%	10.7%
40 単位以上 49 単位以下	315 人	24 人	12.9%	8.2%
50 単位以上 59 単位以下	158 人	4 人	6.5%	1.4%
60 単位以上 69 単位以下	45 人	0 人	1.8%	0.0%
70 単位以上	4 人	0 人	0.2%	0.0%
無回答	102 人	1 人	4.2%	0.3%
合計	2,438 人	291 人	100.0%	100.0%
平均	28.4 単位	22.2 単位		

【退棟日の属する週の前週 1 週間・筋骨格系疾患群】

	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
10 単位未満	119 人	14 人	4.9%	4.8%
10 単位以上 19 単位以下	536 人	112 人	22.0%	38.5%
20 単位以上 29 単位以下	508 人	91 人	20.8%	31.3%
30 単位以上 39 単位以下	514 人	35 人	21.1%	12.0%
40 単位以上 49 単位以下	399 人	31 人	16.4%	10.7%
50 単位以上 59 単位以下	202 人	7 人	8.3%	2.4%
60 単位以上 69 単位以下	57 人	0 人	2.3%	0.0%
70 単位以上	1 人	0 人	0.0%	0.0%
無回答	102 人	1 人	4.2%	0.3%
合計	2,438 人	291 人	100.0%	100.0%
平均	30.4 単位	23.6 単位		

(4) 退棟時の状況

① 平均在棟日数

主たる原因疾患別に平均在棟日数をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「脳神経系疾患群」87.7日、「筋骨格系疾患群」56.0日などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「脳神経系疾患群」84.0日、「筋骨格系疾患群」49.6日などとなっていた。

図表 2-1-72 主たる原因疾患別にみた平均在棟日数

	入院料1	入院料2
脳神経系疾患群	87.7日	84.0日
脳血管疾患	88.1日	82.4日
脊髄損傷	96.5日	90.4日
頭部外傷	78.9日	101.7日
その他の脳神経系疾患	69.5日	-
筋骨格系疾患群	56.0日	49.6日
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	57.5日	57.7日
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	48.8日	39.2日
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	49.0日	33.6日
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	59.3日	72.3日
その他の疾患	59.3日	29.3日

② 退棟後の居場所

退棟後の居場所についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「在宅」67.9%が最も多く、次いで「介護老人保健施設」8.1%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟でも「在宅」71.6%が最も多く、次いで「介護老人保健施設」8.8%などとなっていた。

図表 2-1-73 退棟後の居場所
【全 体】

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
① 在宅	4,339人	327人	67.9%	71.6%
② 急性期病床【自院】	116人	14人	1.8%	3.1%
③ 他の回復期リハビリテーション病棟【自院】	3人	0人	0.0%	0.0%
④ ②～③を除く一般病床【自院】	89人	6人	1.4%	1.3%
⑤ ②～③を除く療養病床【自院】	104人	8人	1.6%	1.8%
⑥ ②～⑤を除くその他の病床【自院】	15人	6人	0.2%	1.3%
⑦ 回復期リハビリテーション病棟【他院】	40人	7人	0.6%	1.5%
⑧ ⑦を除く一般病床【他院】	365人	15人	5.7%	3.3%
⑨ ⑦を除く療養病床【他院】	175人	6人	2.7%	1.3%
⑩ ⑦～⑨を除くその他の病床【他院】	55人	2人	0.9%	0.4%
⑪ 有床診療所	10人	0人	0.2%	0.0%
⑫ 介護老人保健施設（老人保健施設）	516人	40人	8.1%	8.8%
⑬ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	120人	9人	1.9%	2.0%
⑭ 認知症高齢者グループホーム	54人	3人	0.8%	0.7%
⑮ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	210人	5人	3.3%	1.1%
⑯ 高齢者専用賃貸住宅	55人	2人	0.9%	0.4%
⑰ 障害者支援施設	20人	1人	0.3%	0.2%
⑱ 死亡	19人	3人	0.3%	0.7%
⑲ その他	34人	1人	0.5%	0.2%
無回答	54人	2人	0.8%	0.4%
合 計	6,393人	457人	100.0%	100.0%

【脳神経系疾患群】

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
① 在宅	2,098人	62人	64.5%	57.4%
② 急性期病床〔自院〕	50人	4人	1.5%	3.7%
③ 他の回復期リハビリテーション病棟〔自院〕	3人	0人	0.1%	0.0%
④ ②～③を除く一般病床〔自院〕	53人	4人	1.6%	3.7%
⑤ ②～③を除く療養病床〔自院〕	55人	0人	1.7%	0.0%
⑥ ②～⑤を除くその他の病床〔自院〕	12人	2人	0.4%	1.9%
⑦ 回復期リハビリテーション病棟〔他院〕	24人	3人	0.7%	2.8%
⑧ ⑦を除く一般病床〔他院〕	232人	5人	7.1%	4.6%
⑨ ⑦を除く療養病床〔他院〕	119人	4人	3.7%	3.7%
⑩ ⑦～⑨を除くその他の病床〔他院〕	34人	0人	1.0%	0.0%
⑪ 有床診療所	5人	0人	0.2%	0.0%
⑫ 介護老人保健施設（老人保健施設）	298人	18人	9.2%	16.7%
⑬ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	52人	1人	1.6%	0.9%
⑭ 認知症高齢者グループホーム	22人	1人	0.7%	0.9%
⑮ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	97人	0人	3.0%	0.0%
⑯ 高齢者専用賃貸住宅	29人	1人	0.9%	0.9%
⑰ 障害者支援施設	13人	0人	0.4%	0.0%
⑱ 死亡	9人	1人	0.3%	0.9%
⑲ その他	15人	1人	0.5%	0.9%
無回答	35人	1人	1.1%	0.9%
合計	3,255人	108人	100.0%	100.0%

【筋骨格系疾患群】

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
① 在宅	1,815人	233人	74.4%	80.1%
② 急性期病床〔自院〕	47人	8人	1.9%	2.7%
③ 他の回復期リハビリテーション病棟〔自院〕	0人	0人	0.0%	0.0%
④ ②～③を除く一般病床〔自院〕	24人	1人	1.0%	0.3%
⑤ ②～③を除く療養病床〔自院〕	28人	0人	1.1%	0.0%
⑥ ②～⑤を除くその他の病床〔自院〕	1人	3人	0.0%	1.0%
⑦ 回復期リハビリテーション病棟〔他院〕	12人	4人	0.5%	1.4%
⑧ ⑦を除く一般病床〔他院〕	85人	8人	3.5%	2.7%
⑨ ⑦を除く療養病床〔他院〕	28人	2人	1.1%	0.7%
⑩ ⑦～⑨を除くその他の病床〔他院〕	17人	2人	0.7%	0.7%
⑪ 有床診療所	3人	0人	0.1%	0.0%
⑫ 介護老人保健施設（老人保健施設）	164人	15人	6.7%	5.2%
⑬ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	49人	8人	2.0%	2.7%
⑭ 認知症高齢者グループホーム	28人	2人	1.1%	0.7%
⑮ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	79人	3人	3.2%	1.0%
⑯ 高齢者専用賃貸住宅	18人	1人	0.7%	0.3%
⑰ 障害者支援施設	5人	1人	0.2%	0.3%
⑱ 死亡	3人	0人	0.1%	0.0%
⑲ その他	17人	0人	0.7%	0.0%
無回答	15人	0人	0.6%	0.0%
合計	2,438人	291人	100.0%	100.0%

③ 退棟時における日常生活機能評価の変化

退棟時における日常生活機能評価の変化についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均3.6点改善、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平均2.9点改善であった。

また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均3.6点改善、加算無しの病棟では平均3.6点改善であった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均3.8点改善、加算無しの病棟では平均3.3点改善であった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均3.7点改善、加算無しの病棟では平均3.2点改善であった。

次に、「脳神経系疾患群」についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均4.2点改善、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平均4.4点改善であった。

また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均4.2点改善、加算無しの病棟では平均4.5点改善であった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均4.3点改善、加算無しの病棟では平均4.1点改善であった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均4.2点改善、加算無しの病棟では平均4.0点改善であった。

さらに、「筋骨格系疾患群」についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均2.4点改善、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平均1.9点改善であった。

また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均2.4点改善、加算無しの病棟では平均2.1点改善であった。

同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均2.7点改善、加算無しの病棟では平均2.2点改善であった。

さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均2.4点改善、加算無しの病棟では平均2.2点改善であった。

図表 2-1-74 退棟時における日常生活機能評価の変化（全体）

【入院料区分別】

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
15点以上 19点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
10点以上 14点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
5点以上 9点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
1点以上 4点以下の悪化	88人	2人	1.4%	0.4%
0点（変化なし）	2,487人	210人	38.9%	46.0%
1点以上 4点以下の改善	1,783人	135人	27.9%	29.5%
5点以上 9点以下の改善	1,164人	64人	18.2%	14.0%
10点以上 14点以下の改善	639人	31人	10.0%	6.8%
15点以上 19点以下の改善	232人	15人	3.6%	3.3%
総数	6,393人	457人	100.0%	100.0%
平均	+3.6点	+2.9点		

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
15点以上 19点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
10点以上 14点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
5点以上 9点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
1点以上 4点以下の悪化	79人	9人	1.3%	2.0%
0点（変化なし）	2,302人	185人	38.8%	40.8%
1点以上 4点以下の改善	1,665人	118人	28.0%	26.0%
5点以上 9点以下の改善	1,087人	77人	18.3%	17.0%
10点以上 14点以下の改善	597人	42人	10.1%	9.3%
15点以上 19点以下の改善	210人	22人	3.5%	4.9%
総数	5,940人	453人	100.0%	100.0%
平均	+3.6点	+3.6点		

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
15点以上 19点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
10点以上 14点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
5点以上 9点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
1点以上 4点以下の悪化	35人	55人	1.4%	1.3%
0点（変化なし）	935人	1,762人	37.2%	40.6%
1点以上 4点以下の改善	671人	1,247人	26.7%	28.8%
5点以上 9点以下の改善	493人	735人	19.6%	16.9%
10点以上 14点以下の改善	275人	395人	10.9%	9.1%
15点以上 19点以下の改善	104人	143人	4.1%	3.3%
総数	2,513人	4,337人	100.0%	100.0%
平均	+3.8点	+3.3点		

【休日リハビリテーション提供加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
15点以上 19点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
10点以上 14点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
5点以上 9点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
1点以上 4点以下の悪化	60人	30人	1.3%	1.4%
0点（変化なし）	1,832人	865人	38.5%	41.4%
1点以上 4点以下の改善	1,315人	603人	27.6%	28.8%
5点以上 9点以下の改善	881人	347人	18.5%	16.6%
10点以上 14点以下の改善	476人	194人	10.0%	9.3%
15点以上 19点以下の改善	195人	52人	4.1%	2.5%
総数	4,759人	2,091人	100.0%	100.0%
平均	+3.7点	+3.2点		

図表 2-1-75 退棟時における日常生活機能評価の変化（脳神経系疾患群）

【入院料区分別】

	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
15 点以上 19 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
10 点以上 14 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
5 点以上 9 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
1 点以上 4 点以下の悪化	14 人	0 人	0.4%	0.0%
0 点（変化なし）	1,187 人	38 人	36.5%	35.2%
1 点以上 4 点以下の改善	858 人	25 人	26.4%	23.1%
5 点以上 9 点以下の改善	619 人	28 人	19.0%	25.9%
10 点以上 14 点以下の改善	416 人	12 人	12.8%	11.1%
15 点以上 19 点以下の改善	161 人	5 人	4.9%	4.6%
総 数	3,255 人	108 人	100.0%	100.0%
平 均	+4.2 点	+4.4 点		

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
15 点以上 19 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
10 点以上 14 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
5 点以上 9 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
1 点以上 4 点以下の悪化	13 人	1 人	0.4%	0.4%
0 点（変化なし）	1,131 人	94 人	36.5%	35.1%
1 点以上 4 点以下の改善	815 人	68 人	26.3%	25.4%
5 点以上 9 点以下の改善	588 人	59 人	19.0%	22.0%
10 点以上 14 点以下の改善	398 人	30 人	12.9%	11.2%
15 点以上 19 点以下の改善	150 人	16 人	4.8%	6.0%
総 数	3,095 人	268 人	100.0%	100.0%
平 均	+4.2 点	+4.5 点		

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
15点以上 19点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
10点以上 14点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
5点以上 9点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
1点以上 4点以下の悪化	8人	6人	0.6%	0.3%
0点（変化なし）	519人	706人	35.7%	37.0%
1点以上 4点以下の改善	374人	509人	25.7%	26.7%
5点以上 9点以下の改善	285人	362人	19.6%	19.0%
10点以上 14点以下の改善	192人	236人	13.2%	12.4%
15点以上 19点以下の改善	76人	90人	5.2%	4.7%
総数	1,454人	1,909人	100.0%	100.0%
平均	+4.3点	+4.1点		

【休日リハビリテーション提供加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
15点以上 19点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
10点以上 14点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
5点以上 9点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
1点以上 4点以下の悪化	10人	4人	0.4%	0.4%
0点（変化なし）	878人	347人	36.6%	36.0%
1点以上 4点以下の改善	611人	272人	25.5%	28.2%
5点以上 9点以下の改善	459人	188人	19.1%	19.5%
10点以上 14点以下の改善	308人	120人	12.8%	12.4%
15点以上 19点以下の改善	132人	34人	5.5%	3.5%
総数	2,398人	965人	100.0%	100.0%
平均	+4.2点	+4.0点		

図表 2-1-76 退棟時における日常生活機能評価の変化（筋骨格系疾患群）

【入院料区分別】

	患者数		割合	
	入院料 1	入院料 2	入院料 1	入院料 2
15 点以上 19 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
10 点以上 14 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
5 点以上 9 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
1 点以上 4 点以下の悪化	64 人	2 人	2.6%	0.7%
0 点（変化なし）	1,108 人	151 人	45.4%	51.9%
1 点以上 4 点以下の改善	719 人	96 人	29.5%	33.0%
5 点以上 9 点以下の改善	405 人	25 人	16.6%	8.6%
10 点以上 14 点以下の改善	119 人	15 人	4.9%	5.2%
15 点以上 19 点以下の改善	23 人	2 人	0.9%	0.7%
総 数	2,438 人	291 人	100.0%	100.0%
平 均	+2.4 点	+1.9 点		

【重症患者回復病棟加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
15 点以上 19 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
10 点以上 14 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
5 点以上 9 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
1 点以上 4 点以下の悪化	56 人	8 人	2.5%	3.6%
0 点（変化なし）	995 人	113 人	44.9%	50.4%
1 点以上 4 点以下の改善	659 人	60 人	29.8%	26.8%
5 点以上 9 点以下の改善	374 人	31 人	16.9%	13.8%
10 点以上 14 点以下の改善	109 人	10 人	4.9%	4.5%
15 点以上 19 点以下の改善	21 人	2 人	0.9%	0.9%
総 数	2,214 人	224 人	100.0%	100.0%
平 均	+2.4 点	+2.1 点		

【リハビリテーション充実加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
15点以上 19点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
10点以上 14点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
5点以上 9点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
1点以上 4点以下の悪化	20人	46人	2.5%	2.4%
0点（変化なし）	353人	906人	43.7%	47.2%
1点以上 4点以下の改善	228人	587人	28.2%	30.6%
5点以上 9点以下の改善	156人	274人	19.3%	14.3%
10点以上 14点以下の改善	42人	92人	5.2%	4.8%
15点以上 19点以下の改善	9人	16人	1.1%	0.8%
総数	808人	1,921人	100.0%	100.0%
平均	+2.7点	+2.2点		

【休日リハビリテーション提供加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
15点以上 19点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
10点以上 14点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
5点以上 9点以下の悪化	0人	0人	0.0%	0.0%
1点以上 4点以下の悪化	41人	25人	2.3%	2.7%
0点（変化なし）	805人	454人	44.7%	48.9%
1点以上 4点以下の改善	548人	267人	30.4%	28.8%
5点以上 9点以下の改善	309人	121人	17.2%	13.0%
10点以上 14点以下の改善	82人	52人	4.6%	5.6%
15点以上 19点以下の改善	16人	9人	0.9%	1.0%
総数	1,801人	928人	100.0%	100.0%
平均	+2.4点	+2.2点		

④ 退棟決定の状況

退棟決定の状況についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「特に問題なく、予定通りに退棟できた」58.5%が最も多く、次いで「予定よりも早く退棟できた」14.0%などとなっていた。

また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟でも「特に問題なく、予定通りに退棟できた」62.4%が最も多く、次いで「予定よりも早く退棟できた」14.0%などとなっていた。

図表 2-1-77 退棟決定の状況

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
予定よりも早く退棟できた	930人	64人	14.5%	14.0%
特に問題なく、予定通りに退棟できた	3,742人	285人	58.5%	62.4%
病状悪化等の理由により、退棟が延びていた	269人	18人	4.2%	3.9%
入所・入院する施設の都合で、退棟が延びていた	269人	16人	4.2%	3.5%
在家族の受け入れ態勢が整わず、退棟が延びていた	290人	20人	4.5%	4.4%
介護保険サービスの利用開始待ちで、退棟が延びていた	60人	6人	0.9%	1.3%
その他	597人	38人	9.3%	8.3%
無回答	236人	10人	3.7%	2.2%
合計	6,393人	457人	100.0%	100.0%

(5) 退棟後の状況

退棟後の通院先についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「他院の外來」42.4%が最も多いが、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「自院の外來」38.7%が最も多くなっていた。

また、退院後の方針については、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟のいずれにおいても「リハビリを利用しない」27.6%、37.9%が最も多くなっていた。

なお、退院後に介護保険のリハビリを利用した患者について、サービス内容をみると、「通院リハビリ」68.1%、71.2%、「訪問リハビリ」21.4%、20.3%となっていた。

図表 2-1-78 通院先

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
自院の外來	1,578人	177人	24.7%	38.7%
他院の外來	2,695人	107人	42.2%	23.4%
なし	289人	44人	4.5%	9.6%
不明	194人	15人	3.0%	3.3%
無回答	1,637人	114人	25.6%	24.9%
合計	6,393人	457人	100.0%	100.0%

図表 2-1-79 退院後の方針

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
介護保険のリハビリを利用	1,287人	59人	20.1%	12.9%
医療保険のリハビリを利用	672人	65人	10.5%	14.2%
リハビリを利用しない	1,762人	173人	27.6%	37.9%
不明	637人	19人	10.0%	4.2%
無回答	2,035人	141人	31.8%	30.9%
合計	6,393人	457人	100.0%	100.0%

図表 2-1-80 退院後に利用した介護保険のリハビリテーション【複数回答】

	患者数		割合	
	入院料1	入院料2	入院料1	入院料2
通所リハビリ	876人	42人	68.1%	71.2%
訪問リハビリ	275人	12人	21.4%	20.3%
その他	203人	7人	15.8%	11.9%
総数	1,287人	59人		

2. 亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病院

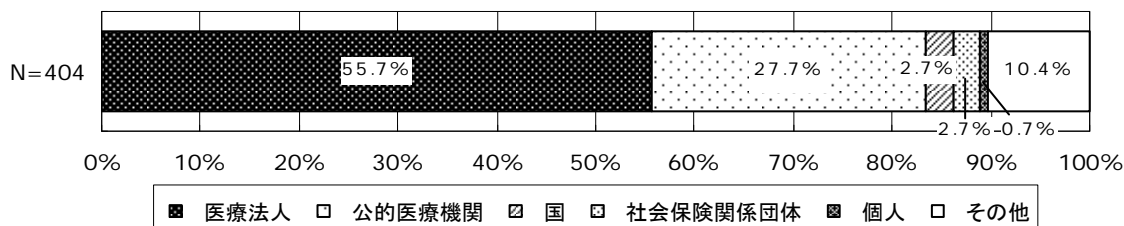
1) 亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病院の概況

(1) 概況

① 開設主体

亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病院の開設者についてみると「医療法人」55.7%が最も多く、次いで「公的医療機関」27.7%「その他」10.4%などとなっていた。

図表 2-2-1 開設主体



② 併設施設・事業所

併設施設・事業所についてみると「居宅介護支援事業所」39.6%が最も多く、次いで「訪問看護ステーション」36.6%、「通所リハビリテーション事業所」27.0%などとなっていた。

図表 2-2-2 併設施設・事業所【複数回答】

	施設数	割合
居宅介護支援事業所	160 件	39.6%
訪問看護ステーション	148 件	36.6%
通所リハビリテーション事業所	109 件	27.0%
介護老人保健施設	99 件	24.5%
訪問リハビリテーション事業所	79 件	19.6%
訪問介護事業所	62 件	15.3%
短期入所療養介護事業所	51 件	12.6%
通所介護事業所	43 件	10.6%
訪問看護事業所（訪問看護ステーション以外）	24 件	5.9%
認知症対応型共同生活介護事業所	24 件	5.9%
短期入所生活介護事業所	17 件	4.2%
介護老人福祉施設	15 件	3.7%
小規模多機能型居宅介護事業所	14 件	3.5%
特定施設入居者生活介護事業所	2 件	0.5%
訪問入浴介護事業所	1 件	0.2%
総 数	404 件	

③ 届出しているリハビリテーション料

届出しているリハビリテーション料についてみると「運動器リハビリテーション料（Ⅰ）」83.4%が最も多く、次いで「呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）」67.1%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）」51.5%などとなっていた。

図表 2-2-3 届出しているリハビリテーション料【複数回答】

	施設数	割合
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	50 件	12.4%
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅱ）	12 件	3.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	208 件	51.5%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）	117 件	29.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）	75 件	18.6%
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	337 件	83.4%
運動器リハビリテーション料（Ⅱ）	136 件	33.7%
運動器リハビリテーション料（Ⅲ）	21 件	5.2%
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	271 件	67.1%
呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）	37 件	9.2%
難病患者リハビリテーション料	2 件	0.5%
障害児（者）リハビリテーション料	10 件	2.5%
がん患者リハビリテーション料	21 件	5.2%
集団コミュニケーション療法料	75 件	18.6%
無回答	2 件	0.5%
総 数	404 件	

(2) 入院患者の概況

① 診療報酬の算定状況

平成 21 年 6 月と平成 23 年 6 月の診療報酬の算定状況についてみると、平成 21 年 6 月の「亜急性期入院医療管理料 1」の算定病院は 72.3%であったが、平成 23 年 6 月の「亜急性期入院医療管理料 1」の算定病院は 91.6%であった。

また、平成 23 年 6 月の「リハビリテーション提供体制加算」の算定病院は 24.8%であった。

図表 2-2-4 回復期リハビリテーション病棟入院料等特定入院料の算定状況

	施設数		割合	
	H21.6	H23.6	H21.6	H23.6
回復期リハビリテーション病棟入院料 1	87 件	100 件	21.5%	24.8%
回復期リハビリテーション病棟入院料 2	8 件	11 件	2.0%	2.7%
重症患者回復病棟加算	73 件	94 件	18.1%	23.3%
休日リハビリテーション提供体制加算	-	69 件	-	17.1%
リハビリテーション充実加算	-	28 件	-	6.9%
亜急性期入院医療管理料 1	292 件	370 件	72.3%	91.6%
亜急性期入院医療管理料 2	27 件	32 件	6.7%	7.9%
リハビリテーション提供体制加算	-	100 件	-	24.8%
無回答	15 件	2 件	3.7%	0.5%
総 数	404 件	404 件		

② 許可病床数・病床利用率

病院全体の許可病床数についてみると「150床以上 199床以下」22.5%が最も多く、次いで「100床以上 149床以下」17.8%、「50床以上 99床以下」15.8%などとなっており、平均202.1床であった。

また、病床種類別にみると、亜急性期入院医療管理料1の算定病床は平均11.5床（病床利用率82.8%）、亜急性期入院医療管理料2の算定病床は平均1.7床（病床利用率82.8%）であった。

図表 2-2-5 許可病床数の分布

	施設数	割合
20床以上 49床以下	16件	4.0%
50床以上 99床以下	64件	15.8%
100床以上 149床以下	72件	17.8%
150床以上 199床以下	91件	22.5%
200床以上 299床以下	52件	12.9%
300床以上 399床以下	55件	13.6%
400床以上 499床以下	23件	5.7%
500床以上	10件	2.5%
無回答	21件	5.2%
合計	404件	100.0%
平均	202.1床	

図表 2-2-6 1施設当たり病床種類別病床数・病床利用率

	1施設当たり 病床数	病床利用率
一般病床	169.1床	77.2%
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料	6.9床	90.9%
【再掲】亜急性期入院医療管理料1	11.5床	82.8%
【再掲】亜急性期入院医療管理料2	1.7床	82.8%
【再掲】障害者施設等入院基本料	9.3床	85.3%
療養病床（医療保険適用）	22.3床	89.5%
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料	6.8床	91.6%
療養病床（介護保険適用）	4.7床	94.3%
精神病床	3.0床	79.5%
結核病床	2.3床	42.8%
感染症病床	0.3床	5.6%
施設数	325件	

※許可病床数、在院延べ患者数のいずれについても回答のあった325施設について集計

③ 疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者の状況

平成 23 年 6 月に疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」4.3%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」17.3%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」6.5%、「運動器リハビリテーション料」3.2%、「呼吸器リハビリテーション料」10.1%であった。

図表 2-2-7 1 施設当たり入院延べ患者数（H23.6）

	施設数	1 施設当たり 入院患者 延べ数	割 合
心大血管疾患リハビリテーション料	55 件	149.5 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		6.4 人	4.3%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	331 件	895.7 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		154.5 人	17.3%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	327 件	439.3 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		28.7 人	6.5%
運動器リハビリテーション料	339 件	954.3 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		30.3 人	3.2%
呼吸器リハビリテーション料	251 件	104.2 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		10.6 人	10.1%
障害児（者）リハビリテーション料	4 件	293.0 人	

※各疾患別リハビリテーション料の届出施設のうち、入院患者延べ数の回答があった施設について集計

疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者の平成 21 年 6 月と平成 23 年 6 月の平均在院日数をみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」22.7 日、24.9 日、「脳血管疾患等リハビリテーション料」82.2 日、70.5 日、「運動器リハビリテーション料」51.2 日、53.4 日、「呼吸器リハビリテーション料」50.0 日、53.4 日であった。

図表 2-2-8 平均在院日数（H21.6・H23.6）

	施設数	H21.6	H23.6
心大血管疾患リハビリテーション料	26 件	22.7 日	24.9 日
脳血管疾患等リハビリテーション料	208 件	82.2 日	70.5 日
【再掲】廃用症候群以外			74.9 日
【再掲】廃用症候群			58.4 日
運動器リハビリテーション料	260 件	51.2 日	53.4 日
呼吸器リハビリテーション料	117 件	50.0 日	53.4 日

※各疾患別リハビリテーション料等の届出施設のうち、平成 21 年 6 月、平成 23 年 6 月の平均在院日数の回答があった施設について集計

平成 21 年 6 月 1 日時点、平成 23 年 6 月 1 日時点で疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」1.2%、0.9%、「脳血管疾患等リハビリテーション料」9.3%、9.9%、「運動器リハビリテーション料」3.8%、3.7%、「呼吸器リハビリテーション料」7.2%、8.2%であった。

図表 2-2-9 標準的算定日数を超えた算定患者の割合 (H21.6.1・H23.6.1)

	施設数	H21.6	H23.6
心大血管疾患リハビリテーション料	43 件	1.2%	0.9%
脳血管疾患等リハビリテーション料	226 件	9.3%	9.9%
【再掲】廃用症候群以外			11.6%
【再掲】廃用症候群			3.9%
運動器リハビリテーション料	270 件	3.8%	3.7%
呼吸器リハビリテーション料	147 件	7.2%	8.2%

※各疾患別リハビリテーション料等の届出施設のうち、平成 21 年 6 月 1 日、平成 23 年 6 月 1 日の標準的算定日数を超えた算定患者の割合の回答があった施設について集計

(3) 疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者の概況

疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合、そのうち要介護認定を受けている患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」15.0%、2.4%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」41.2%、8.9%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」15.6%、6.4%、「運動器リハビリテーション料」19.7%、3.7%、「呼吸器リハビリテーション料」18.6%、4.7%であった。

図表 2-2-10 1施設当たり外来延べ患者数（H23.6）

	施設数	1施設当たり 外来患者 延べ数	割合
心大血管疾患リハビリテーション料	52件	24.6人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		3.7人	15.0%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		0.6人	2.4%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	253件	98.1人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		40.4人	41.2%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		8.8人	8.9%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	301件	7.3人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		1.1人	15.6%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		0.5人	6.4%
運動器リハビリテーション料	238件	325.5人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		64.2人	19.7%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		12.2人	3.7%
呼吸器リハビリテーション料	228件	3.1人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		0.6人	18.6%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		0.1人	4.7%

※各疾患別リハビリテーション料の届出施設のうち、外来患者延べ数の回答があった施設について集計

(4) 通所リハビリテーションの実施状況

① 通所リハビリテーション実施施設の状況

通所リハビリテーションの実施状況についてみると、「実施していない」77.5%、「実施している」19.3%であった。

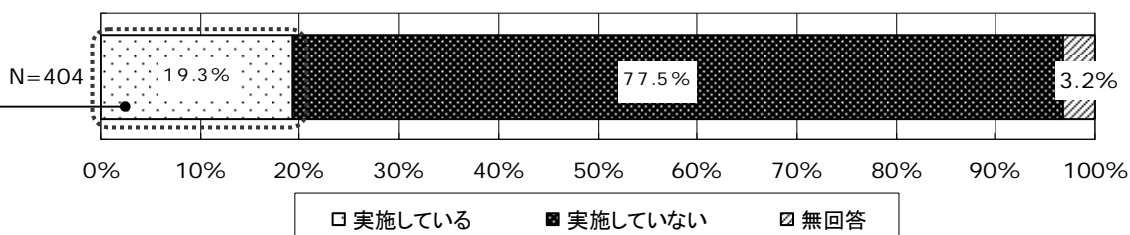
通所リハビリテーションの実施施設について、平成23年6月における実施日数をみると、「26日」50.0%、「22日」28.2%などとなっており、平均24.8日であった。また、1施設当たりの利用者延べ人数をみると1施設当たり610.7人であった。なお、「1時間以上2時間未満」の利用者延べ数は15.6人（2.6%）であった。

また、通所リハビリテーションに従事する1施設当たり職員数は専従9.8人、専任4.9人であった。

機能訓練室の状況については「医療保険と介護保険で別の機能訓練室を利用」65.4%、「医療保険と介護保険で1つの機能訓練室を利用」34.6%であった。

利用者の送迎状況については「実施している」91.0%、「実施していない」9.0%であった。

図表 2-2-11 通所リハビリテーションの実施状況



図表 2-2-12 実施日数 (H23.6)

	施設数	割合
20 日以内	1 件	1.3%
21 日	3 件	3.8%
22 日	22 件	28.2%
23 日	0 件	0.0%
24 日	1 件	1.3%
25 日	0 件	0.0%
26 日	39 件	50.0%
27 日	0 件	0.0%
28 日	1 件	1.3%
29 日	0 件	0.0%
30 日	5 件	6.4%
無回答	6 件	7.7%
合計	78 件	100.0%
平均	24.8 日	

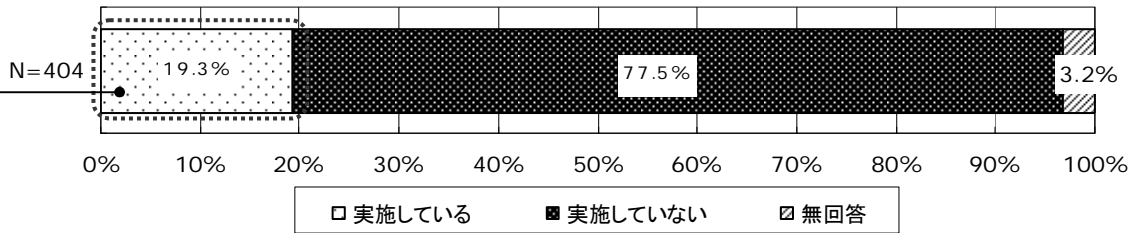
図表 2-2-13 1 施設当たり利用者延べ人数 (H23.6)

	延べ人数	割合
1 時間以上 2 時間未満	15.6 人	2.6%
2 時間以上 3 時間未満	7.1 人	1.2%
3 時間以上 4 時間未満	51.3 人	8.4%
4 時間以上 6 時間未満	79.0 人	12.9%
6 時間以上 8 時間未満	457.8 人	75.0%
合計	610.7 人	100.0%
施設数	71 件	

※1. 通所リハビリテーションの実施施設のうち、介護保険における通所リハビリテーション費を算定した利用者延べ数の回答があった71件について集計

※2. 1時間以上2時間未満の通所リハビリテーションを実施している施設は 20 施設

図表 2-2-11 通所リハビリテーションの実施状況【再掲】

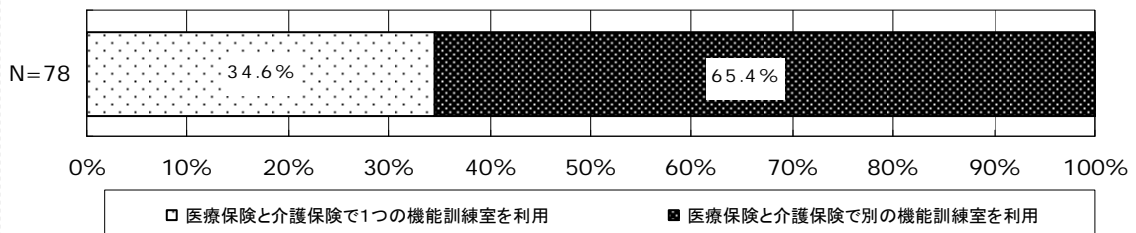


図表 2-2-14 通所リハビリテーションに従事する1施設当たり職員数（実人数）

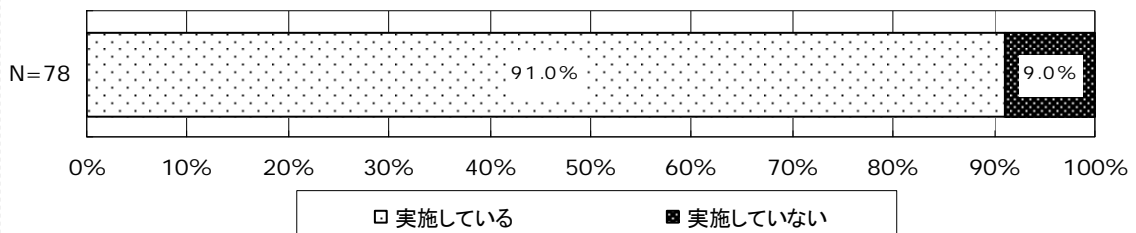
	専従	専任
医師	0.0人	1.2人
看護師	0.6人	0.6人
准看護師	0.5人	0.1人
理学療法士	1.4人	1.3人
作業療法士	0.7人	0.6人
言語聴覚士	0.1人	0.3人
その他の職種	6.5人	0.8人
合計	9.8人	4.9人
施設数	78件	

※通所リハビリテーションの実実施施設のうち、担当部署に従事する職員数の回答があった78施設について集計

図表 2-2-15 機能訓練室の状況



図表 2-2-16 利用者の送迎の実施状況

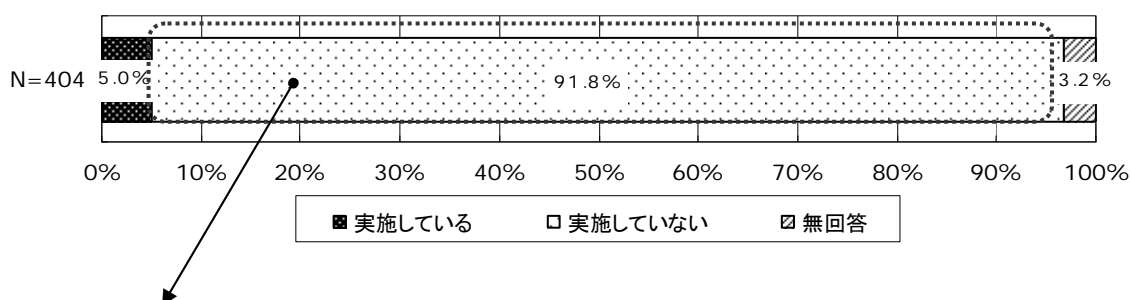


② 通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設の状況

また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況についてみると、「実施していない」91.8%、「実施している」3.2%であった。

さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して実施していない理由を尋ねたところ、「通所リハビリに専従する人員を確保できない」44.2%が最も多く、「利用者の送迎体制を整えることが困難」40.7%、次いで「通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる」36.1%などとなっていた。

図表 2-2-17 通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況

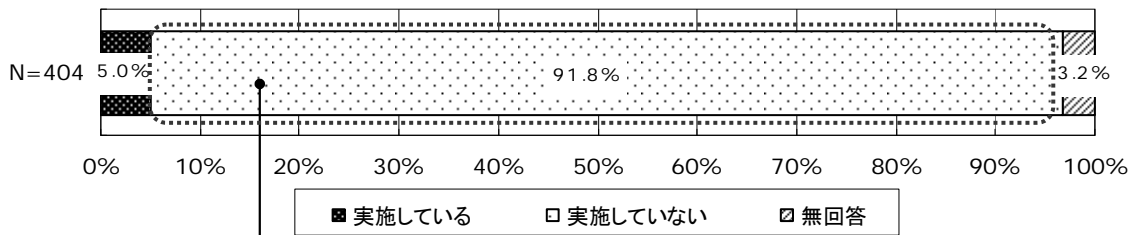


図表 2-2-18 通所リハビリ（1時間以上2時間未満）を実施していない理由【複数回答】

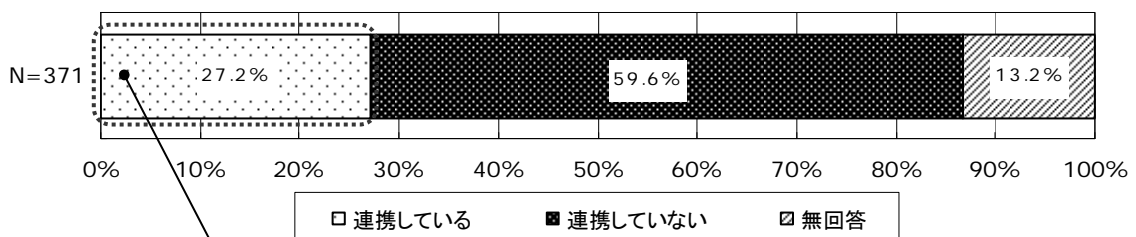
	施設数	割合
通所リハビリに専従する人員を確保できない	164 件	44.2%
利用者の送迎体制を整えることが困難	151 件	40.7%
通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる	134 件	36.1%
外来の医師の負担が重くなる	77 件	20.8%
通所リハビリの報酬では採算がとれない	55 件	14.8%
維持期のリハビリは現行の13単位の使い勝手がよい	48 件	12.9%
介護報酬の請求事務の負担が大きい	36 件	9.7%
患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きい	20 件	5.4%
ケアマネジャーとの連携をとることが負担である	17 件	4.6%
患者にとって、要介護認定の申請が負担である	7 件	1.9%
1時間以上2時間未満の制度が新設されたことを知らなかった	3 件	0.8%
その他	79 件	21.3%
無回答	61 件	16.4%
総 数	371 件	

また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携していない」59.6%、「連携している」27.2%となっていた。さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している施設に対して、連携している外部の介護サービス事業者数を尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均 18.3 事業所、通所リハビリテーション事業所は平均 4.7 事業所であった。

図表 2-2-17 通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況【再掲】



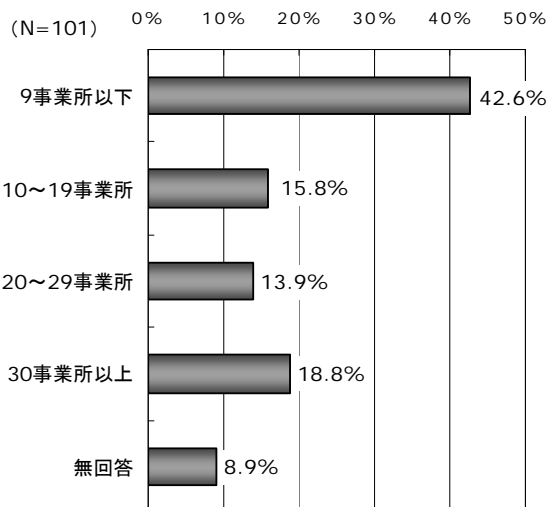
図表 2-2-19 外部の介護サービス事業者との連携状況



図表 2-2-20 連携している外部のサービス事業者数の分布

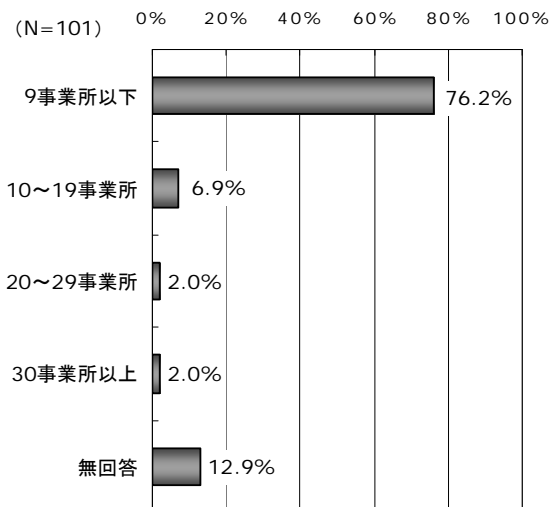
【居宅介護支援事業所】

平均 18.3 事業所



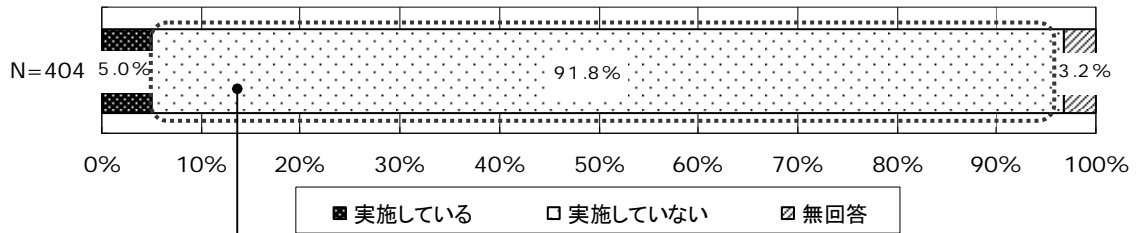
【通所リハビリテーション事業所】

平均 4.7 事業所

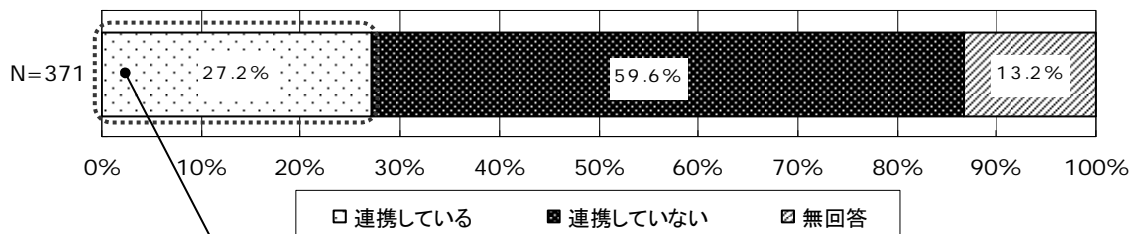


また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している事業所に対して、連携している外部のサービス事業者への紹介患者数（平成23年6月）について尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均4.6人、通所リハビリテーション事業所は平均1.8人であった。

図表 2-2-17 通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況【再掲】



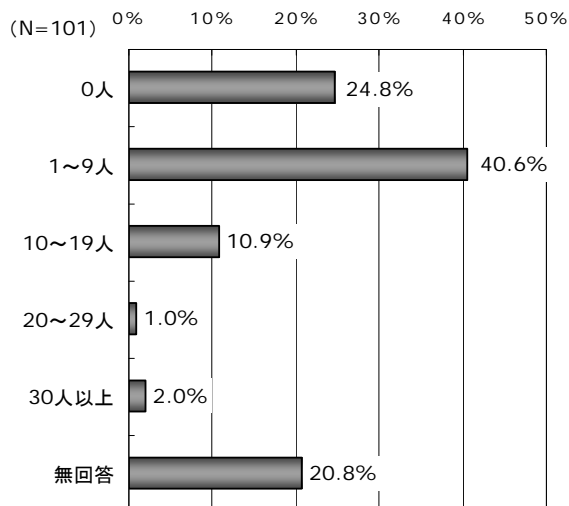
図表 2-2-19 外部の介護サービス事業者との連携状況【再掲】



図表 2-2-21 連携している外部のサービス事業者への紹介患者数の分布（H23.6）

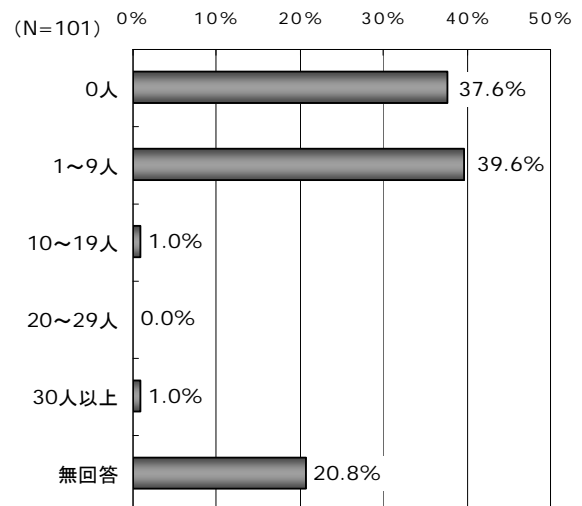
【居宅介護支援事業所】

平均 4.6 人



【通所リハビリテーション事業所】

平均 1.8 人



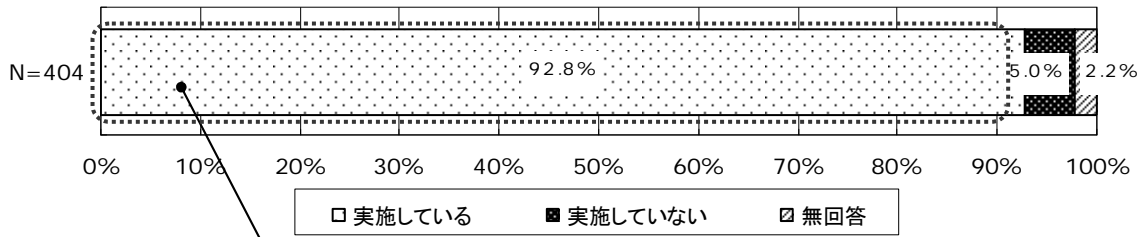
(5) 退院支援の実施状況

退院支援の実施状況についてみると、「実施している」92.8%、「実施していない」5.0%であった。また、実施施設のうち88.8%の施設で「(退院支援の担当部署)設置している」との回答であった。

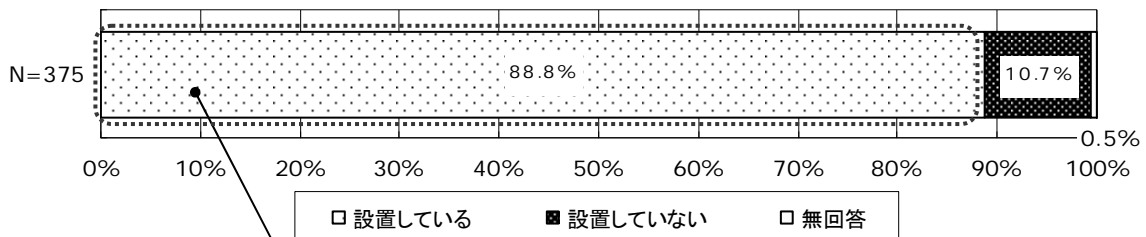
なお、退院支援の担当部署の従事する1施設当たり職員数は専従2.2人、専任1.7人であり、主な活動内容としては「退院後の居場所に関する調整」95.5%、「利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援」93.7%、「要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整」92.2%などとなっていた。

また、退院支援の実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携している」80.5%、「連携していない」14.4%となっていた。さらに、退院支援の実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している施設に対して、連携している外部の介護サービス事業者数を尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均24.1事業所、通所リハビリテーション事業所は平均23.8事業所、介護保険施設は平均14.7施設であった。

図表 2-2-22 退院支援の実施状況



図表 2-2-23 退院支援の担当部署の設置状況の実施状況



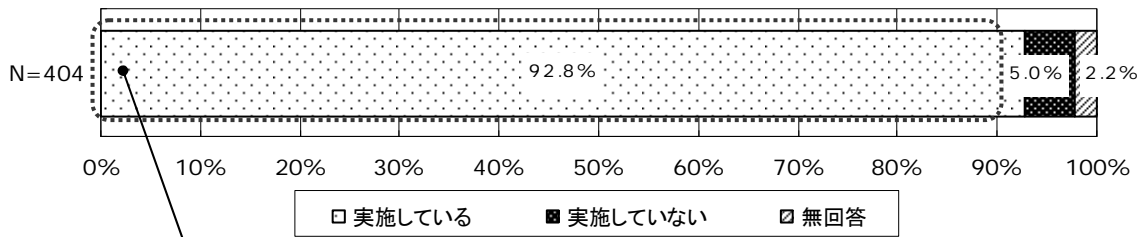
図表 2-2-24 退院支援の担当部署に従事する1施設当たり職員数（実人数）

	専従	専任
看護師	0.5人	0.7人
准看護師	0.0人	0.1人
ソーシャルワーカー	1.6人	0.7人
【再掲】社会福祉士	1.3人	0.6人
その他の職種	0.2人	0.3人
合計	2.2人	1.7人
施設数	331件	

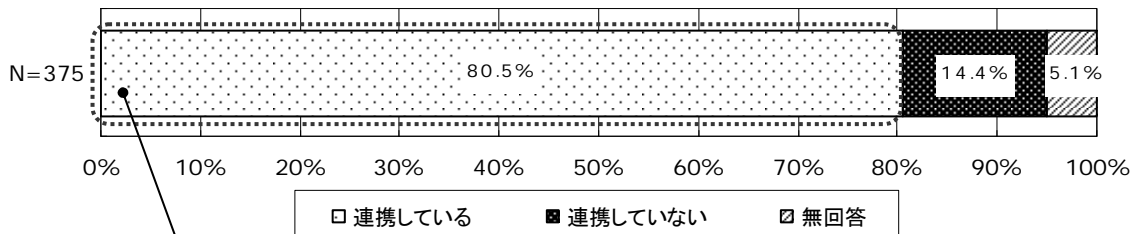
図表 2-2-25 退院支援の担当部署の活動内容【複数回答】

	施設数	割合
退院後の居場所に関する調整	318件	95.5%
利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援	312件	93.7%
要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整	307件	92.2%
退院当日や退院後の療養相談	265件	79.6%
患者や家族に対するカウンセリングと精神的支援	218件	65.5%
患者への治療に係る目標管理と退院指導	118件	35.4%
継続的な療養管理が可能な状態となるまでの期間と退院日の設定	114件	34.2%
入院中の治療方針に関する説明と退院までの見通しの説明	111件	33.3%
家族への介護技術と医療技術の指導	92件	27.6%
退院後の定期的な患者の状態確認	57件	17.1%
その他	17件	5.1%
無回答	6件	1.8%
総数	333件	

図表 2-2-22 退院支援の実施状況【再掲】



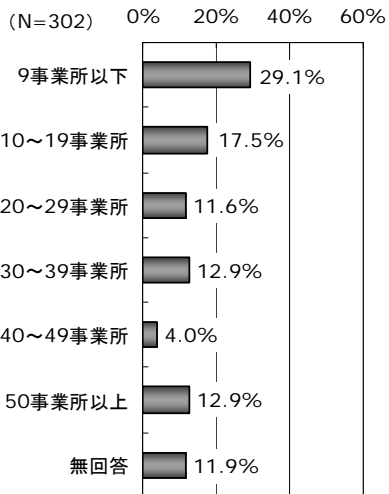
図表 2-2-26 退院支援時の介護サービス事業者との連携状況



図表 2-2-27 連携している外部のサービス事業者数の分布

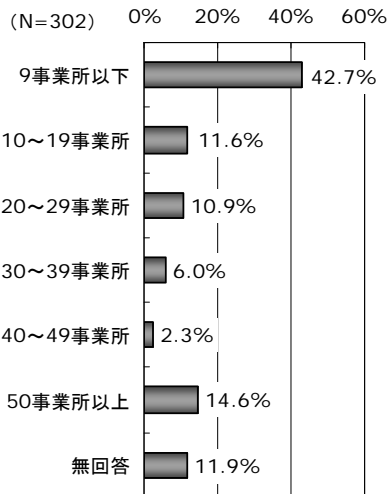
【居宅介護支援事業所】

平均 24.1 事業所



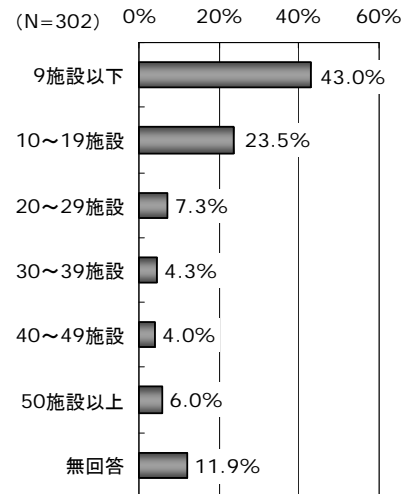
【通所リハビリテーション事業所】

平均 23.8 事業所



【介護保険施設】

平均 14.7 施設



(6) 職員体制の状況

職員体制についてみると、1施設当たり 219.2 人（常勤 195.0 人、非常勤 24.2 人（常勤換算））であった。

また、平日・土曜日・日曜日における医療保険によるリハビリテーションに係る業務の専任・専従職員の出勤状況についてみると、土曜日の出勤職員数（常勤換算）は平日の 59.2%、日曜日の出勤職員数（常勤換算）は平日の 29.9%であった。

図表 2-2-28 1施設当たり職員数（常勤換算人数）

	常 勤	非常勤 (常勤換算)	合 計
医 師	21.1 人	4.9 人	26.0 人
【再掲】日本リハビリテーション医学会認定臨床医	0.3 人	0.0 人	0.3 人
【再掲】日本リハビリテーション医学会専門医	0.3 人	0.0 人	0.3 人
【再掲】リハビリテーション科の医師	0.8 人	0.1 人	0.9 人
看 護 師	111.1 人	9.8 人	120.9 人
准 看 護 師	14.1 人	2.9 人	17.0 人
看護補助者	19.8 人	5.5 人	25.3 人
薬 剤 師	6.2 人	0.5 人	6.7 人
理学療法士	11.7 人	0.3 人	12.0 人
作業療法士	5.9 人	0.1 人	6.1 人
言語聴覚士	2.3 人	0.1 人	2.4 人
臨床心理士	0.1 人	0.0 人	0.2 人
義肢装具士	0.0 人	0.0 人	0.0 人
柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	0.3 人	0.0 人	0.3 人
ソーシャルワーカー	2.3 人	0.1 人	2.5 人
【再掲】社会福祉士	1.9 人	0.1 人	2.0 人
合 計	195.0 人	24.2 人	219.2 人
施設数	359 件		

※職員数の回答があった 359 施設について集計

図表 2-2-29 平日・土曜日・日曜日における
医療保険によるリハビリテーションに係る業務の専任・専従職員の出勤状況

			常 勤	非常勤 (実人数)	合 計
平 日	医 師	専 任	3.0 人	0.2 人	3.3 人
	看 護 師	専 従	2.4 人	0.3 人	2.6 人
	准 看 護 師	専 従	0.9 人	0.2 人	1.1 人
	理学療法士	専 従	8.3 人	0.1 人	8.4 人
	作業療法士	専 従	4.1 人	0.0 人	4.2 人
	言語聴覚士	専 従	1.7 人	0.1 人	1.7 人
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.2 人	0.0 人	0.3 人
	合 計			20.7 人	0.9 人
土曜日	医 師	専 任	1.4 人 (47.1%)	0.2 人 (73.5%)	1.6 人 (49.0%)
	看 護 師	専 従	1.8 人 (75.2%)	0.3 人 (121.6%)	2.1 人 (79.8%)
	准 看 護 師	専 従	0.8 人 (84.1%)	0.1 人 (98.0%)	0.9 人 (86.1%)
	理学療法士	専 従	4.6 人 (55.0%)	0.2 人 (174.4%)	4.8 人 (56.7%)
	作業療法士	専 従	2.2 人 (54.3%)	0.1 人 (261.5%)	2.3 人 (56.3%)
	言語聴覚士	専 従	0.9 人 (50.7%)	0.0 人 (76.2%)	0.9 人 (51.6%)
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.1 人 (50.0%)	0.0 人 (33.3%)	0.1 人 (48.8%)
	合 計			11.8 人 (56.9%)	1.0 人 (112.3%)
日曜日	医 師	専 任	0.3 人 (11.0%)	0.1 人 (41.0%)	0.4 人 (13.2%)
	看 護 師	専 従	1.6 人 (67.0%)	0.1 人 (22.7%)	1.6 人 (62.5%)
	准 看 護 師	専 従	0.7 人 (76.1%)	0.1 人 (33.3%)	0.7 人 (69.9%)
	理学療法士	専 従	2.0 人 (24.3%)	0.0 人 (17.9%)	2.0 人 (24.2%)
	作業療法士	専 従	1.2 人 (28.2%)	0.0 人 (23.1%)	1.2 人 (28.2%)
	言語聴覚士	専 従	0.4 人 (23.0%)	0.0 人 (0.0%)	0.4 人 (22.2%)
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.0 人 (15.4%)	0.0 人 (0.0%)	0.0 人 (14.3%)
	合 計			6.2 人 (30.1%)	0.2 人 (26.9%)
施設数			335 件		

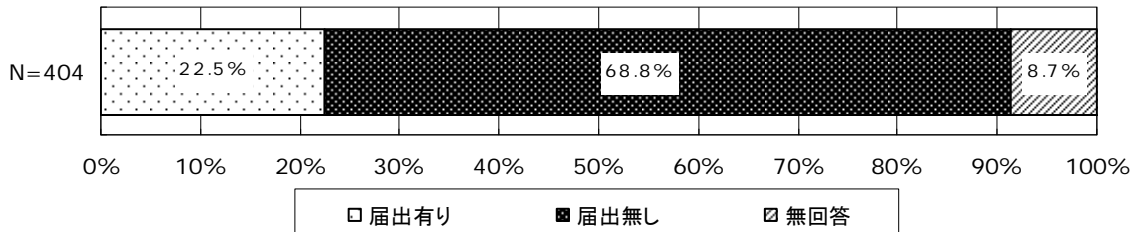
※平日、土曜日、日曜日に出勤した、医療保険によるリハビリテーションに係る業務に専任、専従している職員数の回答があった 335 施設について集計。土曜日、日曜日の下段の（ ）内の数値は平日に対する割合。

(7) 地域連携クリティカルパスの導入状況

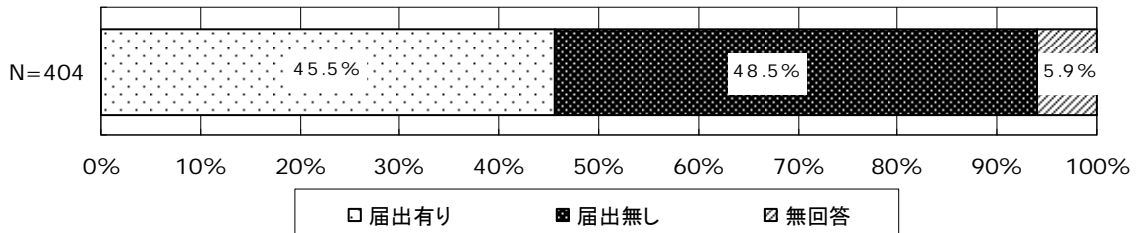
地域連携診療計画管理料の届出状況についてみると、「届出無し」68.8%、「届出有り」22.5%であった。また、地域連携診療計画退院時指導料の届出状況についてみると、「届出有り」45.5%、「届出無し」48.5%であった。

なお、大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平成21年度と平成22年度の平均在院日数をみると、大腿骨頸部骨折は53.1日、50.3日であり、脳卒中は64.7日、62.9日であった。

図表 2-2-30 地域連携診療計画管理料の届出状況



図表 2-2-31 地域連携診療計画退院時指導料の届出状況



図表 2-2-32 大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平均在院日数

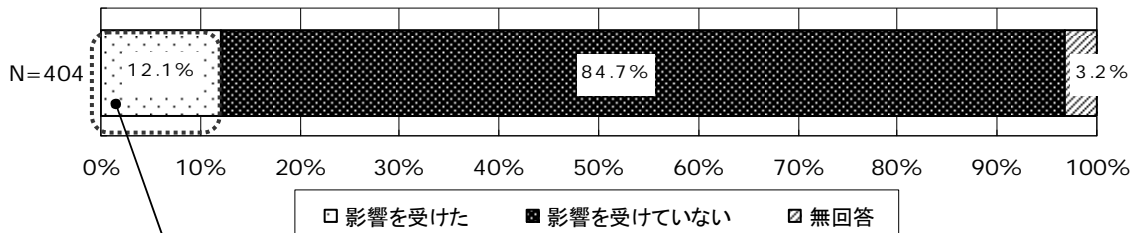
	施設数	H21 年度	H22 年度
大腿骨頸部骨折の入院患者の平均在院日数	147 件	53.1 日	50.3 日
【再掲】地域連携診療計画管理料の算定患者	26 件	34.3 日	35.3 日
【再掲】地域連携診療計画退院時指導料の算定患者	52 件	51.8 日	52.8 日
脳卒中の入院患者の平均在院日数	138 件	64.7 日	62.9 日
【再掲】地域連携診療計画管理料の算定患者	35 件	38.0 日	44.8 日
【再掲】地域連携診療計画退院時指導料の算定患者	50 件	72.5 日	72.6 日

※平成21年度、平成22年度の平均在院日数の回答があった施設について集計

(8) 東日本大震災による影響

東日本大震災による影響についてみると、「影響を受けていない」84.7%、「影響を受けた」12.1%であった。また、「影響を受けた」と回答のあった施設にその内容を尋ねたところ、「外来患者が減少した」46.9%が最も多く、次いで「入院患者が減少した」36.7%、「入院患者の平均在院日数が長くなった」20.4%などとなっていた。

図表 2-2-33 東日本大震災による影響の有無



図表 2-2-34 東日本大震災による影響の内容【複数回答】

	施設数	割合
外来患者が減少した	23 件	46.9%
入院患者が減少した	18 件	36.7%
入院患者の平均在院日数が長くなった	10 件	20.4%
入院患者が増加した	9 件	18.4%
外来患者が増加した	9 件	18.4%
入院患者の平均在院日数が短くなった	8 件	16.3%
人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が減少した	8 件	16.3%
入院患者の増減により、リハビリの人員体制が厚くなった	5 件	10.2%
入院患者の増減により、リハビリの人員体制が薄くなった	4 件	8.2%
人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が増加した	3 件	6.1%
その他	13 件	26.5%
総 数	49 件	

2) 亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病棟の概況

(1) 病棟の概況

亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病棟の算定している診療報酬についてみると、「亜急性期入院医療管理料1」94.8%、「亜急性期入院医療管理料2」5.2%、「リハビリテーション提供体制加算」20.9%であった。

1病棟当たり病床数及び入院患者数をみると、亜急性期入院医療管理料1算定病床は8.2床、6.7人、亜急性期入院医療管理料2算定病床は13.1床、9.9人であった。

平成21年6月、平成23年6月の平均在院日数は、亜急性期入院医療管理料1算定病床では43.2日、38.5日、亜急性期入院医療管理料2算定病床では30.8日、27.9日であった。

また、平成21年6月、平成23年6月の病床利用率は、亜急性期入院医療管理料1算定病床は84.7%、83.6%、亜急性期入院医療管理料2算定病床では76.1%、76.6%であった。

図表 2-2-35 算定している診療報酬【複数回答】

	病棟数	割合
亜急性期入院医療管理料 1	477 件	94.8%
亜急性期入院医療管理料 2	26 件	5.2%
リハビリテーション提供体制加算	105 件	20.9%
総 数	503 件	

図表 2-2-36 1 病棟当たり病床数・入院患者数

	病床数		入院患者数	
	管理料 1	管理料 2	管理料 1	管理料 2
亜急性期入院医療管理料の算定病床	8.2 床	13.1 床	6.7 人	9.9 人
【再掲】算定上限日数を超えた患者数			0.0 人	0.2 人
その他の一般病床	39.3 床	38.2 床	30.7 人	29.1 人
合 計	47.4 床	51.3 床	37.4 人	39.1 人
施設数	376 件	19 件	376 件	19 件

※許可病床数、在院延べ患者数のいずれについても回答のあった病棟について集計

図表 2-2-37 1 病棟当たり病床数・入院患者数

	管理料 1		管理料 2	
	H21.6	H23.6	H21.6	H23.6
平均在院日数	21.2 日	22.0 日	18.0 日	17.9 日
【再掲】亜急性期入院医療管理料算定病床	43.2 日	38.5 日	30.8 日	27.9 日
施設数	225 件		11 件	

※平成 21 年 6 月、平成 23 年 6 月のいずれについても、平均在院日数の回答があった病棟について集計

図表 2-2-38 病床利用率

	管理料 1		管理料 2	
	H21.6	H23.6	H21.6	H23.6
病床利用率	81.6%	80.7%	79.8%	81.0%
【再掲】亜急性期入院医療管理料算定病床	84.7%	83.6%	76.1%	76.6%
施設数	224 件		12 件	

※平成 21 年 6 月、平成 23 年 6 月のいずれについても、病床利用率の回答があった病棟について集計

(2) 病棟の人員配置

亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病棟の医師の配置人数についてみると、亜急性期入院医療管理料1算定病棟では40床当たり専従0.2人、専任6.3人、亜急性期入院医療管理料2算定病棟では40床当たり専従0.8人、専任4.9人であった。

また、医師の配置人数について、リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では40床当たり専従0.2人、専任9.4人、加算無しの病棟では40床当たり専従0.2人、専任5.4人であった。

次に、亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病棟のコメディカルの配置人数についてみると、亜急性期入院医療管理料1算定病棟では40床当たり専従23.2人、専任8.3人、亜急性期入院医療管理料2算定病棟では40床当たり専従21.4人、専任8.0人であった。

また、コメディカルの配置人数について、リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では40床当たり専従23.0人、専任13.5人、加算無しの病棟では40床当たり専従23.1人、専任7.1人であった。

図表 2-2-39 40床当たり医師数（実人数）

【入院管理料区分別】

	管理料1		管理料2	
	専 従	専 任	専 従	専 任
医 師	0.2人	6.3人	0.8人	4.9人
【再掲】日本リハビリテーション医学会認定臨床医	0.0人	0.2人	0.0人	0.1人
【再掲】日本リハビリテーション医学会専門医	0.0人	0.1人	0.0人	0.0人
病棟数	312件		17件	

※職員数の回答があった病棟について集計

【リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	加算有り		加算無し	
	専 従	専 任	専 従	専 任
医 師	0.2人	9.4人	0.2人	5.4人
【再掲】日本リハビリテーション医学会認定臨床医	0.0人	0.3人	0.0人	0.1人
【再掲】日本リハビリテーション医学会専門医	0.0人	0.3人	0.0人	0.1人
病棟数	63件		266件	

※職員数の回答があった病棟について集計

図表 2-2-40 40床当たり職員数（実人数）

【入院管理料区分別】

	管理料1		管理料2	
	専従	専任	専従	専任
看護師	16.2人	1.8人	15.1人	2.7人
准看護師	1.9人	0.4人	2.3人	0.3人
看護補助者	4.0人	0.6人	2.9人	0.9人
薬剤師	0.1人	0.8人	0.3人	1.1人
理学療法士	0.5人	2.4人	0.6人	1.7人
作業療法士	0.2人	1.3人	0.0人	0.7人
言語聴覚士	0.1人	0.5人	0.0人	0.1人
ソーシャルワーカー	0.2人	0.4人	0.3人	0.4人
【再掲】社会福祉士の資格保有者	0.1人	0.3人	0.3人	0.3人
合計	23.2人	8.3人	21.4人	8.0人
病棟数	322件		17件	

※職員数、病床数の回答があった病棟について集計

【リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	加算有り		加算無し	
	専従	専任	専従	専任
看護師	15.2人	2.8人	16.3人	1.6人
准看護師	2.7人	0.5人	1.8人	0.3人
看護補助者	3.6人	0.7人	4.1人	0.6人
薬剤師	0.1人	1.8人	0.1人	0.6人
理学療法士	0.7人	3.7人	0.4人	2.1人
作業療法士	0.3人	2.2人	0.2人	1.1人
言語聴覚士	0.1人	1.0人	0.1人	0.4人
ソーシャルワーカー	0.2人	0.8人	0.1人	0.4人
【再掲】社会福祉士の資格保有者	0.2人	0.5人	0.1人	0.3人
合計	23.0人	13.5人	23.1人	7.1人
病棟数	62件		277件	

※職員数、病床数の回答があった病棟について集計

(3) 亜急性期入院医療管理料1の新入棟患者の状況

① 入棟時の日常生活機能評価

亜急性期入院医療管理料1算定病床の平成23年4月から6月までの3か月における新入棟患者の日常生活機能評価についてリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病床では平均5.3点、加算無しの病床では平均4.9点であった。

図表 2-2-41 入棟時の日常生活機能評価の分布 (H23.4~6)
【リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
0点	283人	1,257人	21.7%	29.4%
1点以上 4点以下	467人	1,376人	35.9%	32.1%
5点以上 9点以下	273人	750人	21.0%	17.5%
10点以上 14点以下	190人	552人	14.6%	12.9%
15点以上 19点以下	89人	345人	6.8%	8.1%
合計	1,302人	4,280人	100.0%	100.0%
平均	5.3点	4.9点		
病棟数	54件	223件		

※日常生活機能評価の回答があった病棟について集計

② 主たる原因疾患

亜急性期入院医療管理料1算定病床の平成23年4月から6月までの3か月における新入棟患者の主たる原因疾患についてリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算の有無に関わらず「その他の疾患」28.3%、37.5%が最も多かった。

図表 2-2-42 主たる原因疾患 (H23.4~6)
【リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
脳血管疾患	173人	337人	13.3%	7.9%
脊髄損傷	9人	22人	0.7%	0.5%
頭部外傷	8人	31人	0.6%	0.7%
その他の脳神経系疾患	27人	55人	2.1%	1.3%
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	360人	1,070人	27.6%	25.0%
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	83人	378人	6.4%	8.8%
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	102人	363人	7.8%	8.5%
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	171人	421人	13.1%	9.8%
その他の疾患	369人	1,603人	28.3%	37.5%
合計	1,302人	4,280人	100.0%	100.0%
病棟数	54件	223件		

※主たる原因疾患の回答があった病棟について集計

③ 合併症等の状態

亜急性期入院医療管理料1算定病床の平成23年4月から6月までの3か月における新入棟患者の合併症等の状態についてリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、「合併症を有する状態」との回答は、加算有りの病棟で29.5%、加算無しの病棟で26.3%であった。また、「回復期リハビリテーションを必要とする状態」については、加算有りの病棟で58.4%、加算無しの病棟で40.9%であった。

図表 2-2-43 合併症等の状態（H23.4～6）

【リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別・複数回答】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
合併症を有する状態	384	1,126	29.5%	26.3%
中心静脈栄養を行っている状態	7	61	0.5%	1.4%
重度の認知症を有する状態	111	198	8.5%	4.6%
気管切開を有する状態	1	7	0.1%	0.2%
人工透析を行っている状態	19	22	1.5%	0.5%
家族等の身寄りがいない状態	18	92	1.4%	2.1%
回復期リハビリテーションを必要とする状態	760	1,752	58.4%	40.9%
総数	1,302	4,280	100.0%	100.0%
病棟数	54	223		

※合併症等の状態の回答があった病棟について集計

④ 入棟前の居場所

亜急性期入院医療管理料1算定病床の平成23年4月から6月までの3か月における新入棟患者の入棟前の居場所についてリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算の有無に関わらず「自院の急性期病床」79.3%、72.6%が最も多かった。

図表 2-2-44 入棟前の居場所 (H23.4~6)
【リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 急性期病床〔自院〕	1,032人	3,108人	79.3%	72.6%
② ①を除く一般病床〔自院〕	111人	615人	8.5%	14.4%
③ 療養病床〔自院〕	14人	2人	1.1%	0.0%
④ ①~③を除くその他の病床〔自院〕	0人	2人	0.0%	0.0%
⑤ 急性期病床〔他院〕	65人	40人	5.0%	0.9%
⑥ ⑤を除く一般病床〔他院〕	3人	68人	0.2%	1.6%
⑦ 療養病床〔他院〕	0人	29人	0.0%	0.7%
⑧ ⑤~⑦を除くその他の病床〔他院〕	0人	8人	0.0%	0.2%
⑨ 有床診療所	2人	9人	0.2%	0.2%
⑩ 介護老人保健施設（老人保健施設）	4人	38人	0.3%	0.9%
⑪ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	2人	19人	0.2%	0.4%
⑫ 認知症高齢者グループホーム	1人	6人	0.1%	0.1%
⑬ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	1人	14人	0.1%	0.3%
⑭ 高齢者専用賃貸住宅	0人	0人	0.0%	0.0%
⑮ 障害者支援施設	0人	2人	0.0%	0.0%
⑯ 在宅	67人	257人	5.1%	6.0%
⑰ その他	0人	63人	0.0%	1.5%
合計	1,302人	4,280人	100.0%	100.0%
病棟数	54件	223件		

※入棟前の居場所の回答があった病棟について集計

(4) 亜急性期入院医療管理料1の退棟患者の状況

① 退棟時の日常生活機能評価の改善状況

亜急性期入院医療管理料1算定病床から、平成23年4月から6月までの3カ月に退棟した患者について、入棟時に日常生活機能評価が10点以上だった患者で、退棟時に3点以上改善していた患者の割合をリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では10.8%、加算無しの病棟では7.9%であった。

図表 2-2-45 退棟患者のうち、入棟時に日常生活機能評価が10点以上だった患者で、退棟時に3点以上改善していた患者の割合（H23.4～6）

【リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
退棟患者数	1,869人	7,345人	100.0%	100.0%
【再掲】入棟時に10点以上	311人	890人	16.6%	12.1%
【再掲】退棟時に3点以上改善	202人	583人	10.8%	7.9%
病棟数	87件	348件		

※該当患者数の回答があった病棟について集計

② 退棟後の居場所

亜急性期入院医療管理料1算定病床から、平成23年4月から6月までの3カ月に退棟した患者について、退棟後の居場所が「在宅」であった割合をリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では72.7%、加算無しの病棟では77.2%であった。

図表 2-2-46 退棟後の居場所（H23.4～6）
【リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 在宅	1,359人	5,672人	72.7%	77.2%
② 一般病床〔自院〕	87人	290人	4.7%	3.9%
③ 療養病床〔自院〕	23人	77人	1.2%	1.0%
④ ②～③を除くその他の病床〔自院〕	14人	75人	0.7%	1.0%
⑤ 一般病床〔他院〕	36人	157人	1.9%	2.1%
⑥ 療養病床〔他院〕	35人	97人	1.9%	1.3%
⑦ ⑤～⑥を除くその他の病床〔他院〕	14人	37人	0.7%	0.5%
⑧ 有床診療所	2人	20人	0.1%	0.3%
⑨ 介護老人保健施設（老人保健施設）	155人	436人	8.3%	5.9%
⑩ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	54人	168人	2.9%	2.3%
⑪ 認知症高齢者グループホーム	9人	36人	0.5%	0.5%
⑫ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	50人	98人	2.7%	1.3%
⑬ 高齢者専用賃貸住宅	6人	20人	0.3%	0.3%
⑭ 障害者支援施設	0人	8人	0.0%	0.1%
⑮ 死亡	15人	95人	0.8%	1.3%
⑯ その他	10人	59人	0.5%	0.8%
合計	1,869人	7,345人	100.0%	100.0%
病棟数	87件	348件		

※退棟後の居場所の回答があった病棟について集計

③ 退院時リハビリテーション指導料、介護支援連携指導料の算定状況

亜急性期入院医療管理料1算定病床から、平成23年4月から6月までの3カ月に退棟した患者について、退院時リハビリテーション指導料の算定割合をリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では50.1%、加算無しの病棟では42.4%であった。

同様に、介護支援連携指導料の算定割合をリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では13.8%、加算無しの病棟では8.8%であった。

図表 2-2-47 退棟患者のうち、退院時リハビリテーション指導料、介護支援連携指導料算定患者の割合（H23.4～6）

【リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
退棟患者数	1,869人	7,345人	100.0%	100.0%
【再掲】退院時リハビリテーション料を算定	937人	3,114人	50.1%	42.4%
【再掲】介護支援連携指導料を算定	257人	644人	13.8%	8.8%
病棟数	87件	348件		

(5) 亜急性期入院医療管理料2の新入棟患者の状況

亜急性期入院医療管理料2算定病床の平成23年4月から6月までの3カ月における新入棟患者の入棟前の居場所についてみると、「自院の亜急性期入院医療管理料算定病床以外からの転床」が98.4%であった。

図表 2-2-48 入棟前の居場所（H23.4～6）

	患者数	割合
自宅や介護施設等から直接入院	8人	0.7%
自院の亜急性期入院医療管理料算定病床以外からの転床	1,077人	98.4%
【再掲】自院の急性期病床からの転床	1,044人	95.3%
他院からの転院	10人	0.9%
【再掲】他院の急性期病床からの転床	10人	0.9%
合計	1,095人	100.0%
病棟数	26件	

(6) 亜急性期入院医療管理料 2 の退棟患者の状況

亜急性期入院医療管理料 2 算定病床から、平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月に退棟した患者について、入棟時に日常生活機能評価が 10 点以上だった患者で、退棟時に 3 点以上改善していた患者の割合は 63.7%であった。

退棟後の居場所が「在宅」であった割合は 82.2%であった。

また、退院時リハビリテーション指導料の算定割合は 30.6%、介護支援連携指導料の算定割合は 3.1%であった。

図表 2-2-49 退棟患者のうち、入棟時に日常生活機能評価が 10 点以上だった患者で、退棟時に 3 点以上改善していた患者の割合 (H23.4~6)

	患者数	割合	
退棟患者数	922 人	100.0%	
【再掲】入棟時に 10 点以上	146 人	15.8%	100.0%
【再掲】退棟時に 3 点以上改善	93 人	10.1%	63.7%
病棟数	24 件		

※該当患者数の回答があった病棟について集計

図表 2-2-50 退棟後の居場所 (H23.4~6)

	患者数	割合
① 在宅	758 人	82.2%
② 一般病床 [自院]	31 人	3.4%
③ 療養病床 [自院]	2 人	0.2%
④ ②~③を除くその他の病床 [自院]	0 人	0.0%
⑤ 一般病床 [他院]	25 人	2.7%
⑥ 療養病床 [他院]	11 人	1.2%
⑦ ⑤~⑥を除くその他の病床 [他院]	9 人	1.0%
⑧ 有床診療所	0 人	0.0%
⑨ 介護老人保健施設 (老人保健施設)	35 人	3.8%
⑩ 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	20 人	2.2%
⑪ 認知症高齢者グループホーム	7 人	0.8%
⑫ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス)	13 人	1.4%
⑬ 高齢者専用賃貸住宅	6 人	0.7%
⑭ 障害者支援施設	1 人	0.1%
⑮ 死亡	0 人	0.0%
⑯ その他	4 人	0.4%
合計	922 人	100.0%
病棟数	24 件	

※退棟後の居場所の回答があった病棟について集計

図表 2-2-51 退棟患者のうち、退院時リハビリテーション指導料、介護支援連携指導料算定患者の割合 (H23.4~6)

	患者数	割合
退棟患者数	922 人	100.0%
【再掲】退院時リハビリテーション料を算定	282 人	30.6%
【再掲】介護支援連携指導料を算定	29 人	3.1%
病棟数	24 件	

※該当患者数の回答があった病棟について集計

(7) リハビリテーションの実施体制

標準算定日数内のリハビリテーションの実施状況を、平日・土曜日・日曜日別に1人1日当たり実施単位数で見ると、亜急性期入院医療管理料1算定病棟では平日2.6単位、土曜日1.6単位、日曜日0.4単位、亜急性期入院医療管理料2算定病棟では平日2.5単位、土曜日1.4単位、日曜日0.7単位であった。

また、リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平日3.8単位、土曜日3.3単位、日曜日1.5単位、加算無しの病棟では平日2.8単位、土曜日0.5単位、日曜日0.0単位であった。

次に、標準算定日数内のリハビリテーションの実施状況を、平日・土曜日・日曜日別に1人1日当たり実施単位数で見ると、亜急性期入院医療管理料1算定病棟では平日0.2単位、土曜日0.1単位、日曜日0.1単位、亜急性期入院医療管理料2算定病棟では平日0.2単位、土曜日0.2単位、日曜日0.2単位であった。

図表 2-2-52 平日・土曜日・日曜日別にみた1人当たり実施単位数

【入院管理料区分別】

		病棟数	対象者数	1人当たり 実施単位数
管理料1	平日	330件	6.8人	2.6単位/日
	土曜日		4.0人	1.6単位/日
	日曜日		1.4人	0.4単位/日
管理料2	平日	34件	9.6人	2.5単位/日
	土曜日		6.2人	1.4単位/日
	日曜日		2.3人	0.7単位/日

※平日・土曜日・日曜日別の実施対象者数、実施単位数の回答があった病棟について集計

【リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別・複数回答】

		病棟数	対象者数	1人当たり 実施単位数
加算有り	平日	77件	9.6人	3.8単位/日
	土曜日		8.6人	3.3単位/日
	日曜日		4.9人	1.5単位/日
加算無し	平日	272件	2.2人	2.8単位/日
	土曜日		1.1人	0.5単位/日
	日曜日		0.2人	0.0単位/日

※平日・土曜日・日曜日別の実施対象者数、実施単位数の回答があった病棟について集計

図表 2-2-53 標準算定日数内の平日・土曜日・日曜日別にみた1人当たり実施単位数

		病棟数	対象者数	1人当たり 実施単位数
管理料1	平日	311件	0.1人	0.2単位/日
	土曜日		0.0人	0.1単位/日
	日曜日		0.0人	0.1単位/日
管理料2	平日	20件	0.1人	0.2単位/日
	土曜日		0.1人	0.2単位/日
	日曜日		0.1人	0.2単位/日

※平日・土曜日・日曜日別の実施対象者数、実施単位数の回答があった病棟について集計

(8) 退院支援の実施状況

病棟における退院支援の実施状況についてみると、「実施している」84.3%、「実施していない」7.6%であった。なお、退院支援の専従する1病棟当たり職員数は2.6人であり、主な活動内容としては「退院後の居場所に関する調整」88.7%、「利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援」87.7%などとなっていた。

図表 2-2-54 退院支援の実施状況

	病棟数	割合
実施している	424 件	84.3%
実施していない	38 件	7.6%
無回答	41 件	8.2%
合計	503 件	100.0%

図表 2-2-55 退院支援に専従する1病棟当たり職員数（実人数）

	職員数
看護師	0.9 人
准看護師	0.1 人
ソーシャルワーカー	1.3 人
【再掲】社会福祉士	1.0 人
事務職員	0.2 人
その他の職種	0.1 人
合計	2.6 人
施設数	298 件

※退院支援に専従する職員数の回答があった298施設について集計

図表 2-2-56 退院支援の内容【複数回答】

	病棟数	割合
退院後の居場所に関する調整	375 件	88.7%
利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援	371 件	87.7%
要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整	362 件	85.6%
退院当日や退院後の療養相談	297 件	70.2%
患者や家族に対するカウンセリングと精神的支援	256 件	60.5%
継続的な療養管理が可能な状態となるまでの期間と退院日の設定	193 件	45.6%
入院中の治療方針に関する説明と退院までの見通しの説明	192 件	45.4%
患者への治療に係る目標管理と退院指導	191 件	45.2%
家族への介護技術と医療技術の指導	166 件	39.2%
退院後の定期的な患者の状態確認	69 件	16.3%
その他	12 件	2.8%
無回答	23 件	5.4%
総数	423 件	

3) 亜急性期入院医療管理料1を算定された退棟患者の概況

(1) 患者の基本的属性

① 性別・年齢

平成23年6月1カ月間に亜急性期入院医療管理料1算定病床から退棟した患者について、性別をみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「男性」33.4%、「女性」66.6%、加算無しの病棟では「男性」36.4%、「女性」63.6%であった。また、平均年齢は、加算有りの病棟は74.6歳、加算無しの病棟は74.2歳であった。

図表 2-2-57 性別

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
男 性	164 人	351 人	33.4%	36.4%
女 性	327 人	614 人	66.6%	63.6%
合 計	491 人	965 人	100.0%	100.0%

図表 2-2-58 年齢

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
40 歳未満	17 人	37 人	3.5%	3.8%
40 歳以上 49 歳以下	17 人	32 人	3.5%	3.3%
50 歳以上 59 歳以下	27 人	67 人	5.5%	6.9%
60 歳以上 64 歳以下	39 人	57 人	7.9%	5.9%
65 歳以上 69 歳以下	32 人	75 人	6.5%	7.8%
70 歳以上 74 歳以下	63 人	107 人	12.8%	11.1%
75 歳以上 79 歳以下	97 人	174 人	19.8%	18.0%
80 歳以上 84 歳以下	77 人	171 人	15.7%	17.7%
85 歳以上 89 歳以下	62 人	158 人	12.6%	16.4%
90 歳以上	60 人	87 人	12.2%	9.0%
合 計	491 人	965 人	100.0%	100.0%
平 均	74.6 歳	74.2 歳		

② 要介護度

要介護度についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「非該当・未申請」23.8%が最も多く、次いで「介護保険の対象外」14.7%、「要介護3」9.2%などとなっていた。また、加算無しの病棟でも「非該当・未申請」26.2%が最も多く、次いで「介護保険の対象外」16.7%、「要介護2」7.6%などとなっていた。

図表 2-2-59 要介護度

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
介護保険の対象外	72人	161人	14.7%	16.7%
非該当・未申請	117人	253人	23.8%	26.2%
要支援1	21人	21人	4.3%	2.2%
要支援2	35人	51人	7.1%	5.3%
要介護1	36人	66人	7.3%	6.8%
要介護2	38人	73人	7.7%	7.6%
要介護3	45人	59人	9.2%	6.1%
要介護4	31人	45人	6.3%	4.7%
要介護5	32人	42人	6.5%	4.4%
無回答	64人	194人	13.0%	20.1%
合計	491人	965人	100.0%	100.0%

③ 介護者の状況

介護者の状況についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「独居ではないが、日中は家族が仕事等で不在」27.5%が最も多く、次いで「常時、介護者（家族・友人等）が1人いる」27.1%などとなっていた。また、加算無しの病棟は「常時、介護者（家族・友人等）が1人いる」28.0%が最も多く、次いで「独居ではないが、日中は家族が仕事等で不在」25.7%などとなっていた。

図表 2-2-60 介護者の状況

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
独居であり、介護者は全くいない	96人	171人	19.6%	17.7%
独居ではないが、家族等が高齢・病気等のため、介護者は全くいない	31人	77人	6.3%	8.0%
独居ではないが、日中は家族が仕事等で不在	135人	248人	27.5%	25.7%
常時、介護者（家族・友人等）が1人いる	133人	270人	27.1%	28.0%
常時、介護者（家族・友人等）が複数いる	56人	118人	11.4%	12.2%
無回答	40人	81人	8.1%	8.4%
合計	491人	965人	100.0%	100.0%

(2) 入棟時の状況

① 主たる原因疾患、合併症等の状態

入棟時の主たる原因疾患についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」27.7%が最も多く、次いで「その他の疾患」22.8%などとなっていた。また、加算無しの病棟でも「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」35.6%が最も多く、次いで「その他の疾患」22.0%などとなっていた。

また、主たる原因疾患別にみた発症・受傷日から入棟日までの平均日数をみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「脳神経系疾患群」36.7日、「筋骨格系疾患群」28.1日などとなっていた。また、加算無しの病棟では「脳神経系疾患群」59.4日、「筋骨格系疾患群」37.7日などとなっていた。

次に、合併症等の状態をみると、「合併症を有する状態」の割合は、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では28.9%、加算無しの病棟では23.3%であった。

また、「脳血管疾患群」と「筋骨格系疾患群」に区分してみると、「脳血管疾患群」ではリハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟で40.3%、加算無しの病棟では33.3%、「筋骨格系疾患群」ではリハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟で25.3%、加算無しの病棟では18.2%であった。

図表 2-2-61 主たる原因疾患

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
脳神経系疾患群	77人	120人	15.7%	12.4%
脳血管疾患	67人	92人	13.6%	9.5%
脊髄損傷	2人	8人	0.4%	0.8%
頭部外傷	3人	7人	0.6%	0.7%
その他の脳神経系疾患	5人	13人	1.0%	1.3%
筋骨格系疾患群	225人	532人	45.8%	55.1%
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	136人	344人	27.7%	35.6%
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	45人	100人	9.2%	10.4%
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	44人	88人	9.0%	9.1%
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	77人	101人	15.7%	10.5%
その他の疾患	112人	212人	22.8%	22.0%
合計	491人	965人	100.0%	100.0%

図表 2-2-62 主たる原因疾患別にみた発症・受症日から入棟日までの平均日数

	加算有り	加算無し
脳神経系疾患群	36.7日	59.4日
脳血管疾患	35.9日	61.3日
脊髄損傷	57.5日	41.3日
頭部外傷	53.3日	33.9日
その他の脳神経系疾患	28.8日	71.0日
筋骨格系疾患群	28.1日	37.7日
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	24.4日	33.4日
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	33.7日	45.9日
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	33.4日	45.0日
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	31.2日	33.6日
その他の疾患	44.3日	45.0日

図表 2-2-63 合併症等の状態【複数回答】

【全 体】

	患者数		割 合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
合併症を有する状態	142 人	225 人	28.9%	23.3%
中心静脈栄養を行っている状態	1 人	10 人	0.2%	1.0%
重度の認知症を有する状態	36 人	46 人	7.3%	4.8%
気管切開を有する状態	1 人	2 人	0.2%	0.2%
人工透析を行っている状態	4 人	5 人	0.8%	0.5%
総 数	491 人	965 人		

【脳神経系疾患群】

	患者数		割 合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
合併症を有する状態	31 人	40 人	40.3%	33.3%
中心静脈栄養を行っている状態	0 人	2 人	0.0%	1.7%
重度の認知症を有する状態	6 人	6 人	7.8%	5.0%
気管切開を有する状態	0 人	0 人	0.0%	0.0%
人工透析を行っている状態	2 人	0 人	2.6%	0.0%
総 数	77 人	120 人		

【筋骨格系疾患群】

	患者数		割 合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
合併症を有する状態	57 人	97 人	25.3%	18.2%
中心静脈栄養を行っている状態	1 人	1 人	0.4%	0.2%
重度の認知症を有する状態	15 人	17 人	6.7%	3.2%
気管切開を有する状態	1 人	1 人	0.4%	0.2%
人工透析を行っている状態	0 人	4 人	0.0%	0.8%
総 数	225 人	532 人		

② 入棟前の居場所

入棟前の居場所についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算の有無に関わらず、「自院の急性期病床」54.0%、61.8%が最も多く、次いで「在宅」20.8%、22.7%などとなっていた。

また、「脳神経系疾患群」と「筋骨格系疾患群」に区分してみると、「脳神経系疾患群」では、リハビリテーション提供体制加算の加算の有無に関わらず、「自院の急性期病床」45.5%、60.8%が最も多く、次いで「在宅」23.4%、22.5%などとなっていた。

「筋骨格系疾患群」でも、リハビリテーション提供体制加算の加算の有無に関わらず、「自院の急性期病床」55.6%、63.2%が最も多く、次いで「在宅」20.4%、22.9%などとなっていた。

図表 2-2-64 入棟前の居場所
【全体】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 在宅	102人	219人	20.8%	22.7%
② 急性期病床【自院】	265人	596人	54.0%	61.8%
③ 他の回復期リハビリテーション病棟【自院】	1人	0人	0.2%	0.0%
④ ②～③を除く一般病床【自院】	87人	105人	17.7%	10.9%
⑤ ②～③を除く療養病床【自院】	0人	0人	0.0%	0.0%
⑥ ②～⑤を除くその他の病床【自院】	1人	1人	0.2%	0.1%
⑦ 回復期リハビリテーション病棟【他院】	0人	4人	0.0%	0.4%
⑧ ⑦を除く一般病床【他院】	16人	18人	3.3%	1.9%
⑨ ⑦を除く療養病床【他院】	0人	0人	0.0%	0.0%
⑩ ⑦～⑨を除くその他の病床【他院】	2人	1人	0.4%	0.1%
⑪ 有床診療所	0人	1人	0.0%	0.1%
⑫ 介護老人保健施設（老人保健施設）	7人	4人	1.4%	0.4%
⑬ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	4人	2人	0.8%	0.2%
⑭ 認知症高齢者グループホーム	2人	2人	0.4%	0.2%
⑮ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	1人	4人	0.2%	0.4%
⑯ 高齢者専用賃貸住宅	0人	1人	0.0%	0.1%
⑰ 障害者支援施設	1人	0人	0.2%	0.0%
⑱ その他	1人	1人	0.2%	0.1%
無回答	1人	6人	0.2%	0.6%
合計	491人	965人	100.0%	100.0%

【脳神経系疾患群】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 在宅	18人	27人	23.4%	22.5%
② 急性期病床〔自院〕	35人	73人	45.5%	60.8%
③ 他の回復期リハビリテーション病棟〔自院〕	0人	0人	0.0%	0.0%
④ ②～③を除く一般病床〔自院〕	14人	12人	18.2%	10.0%
⑤ ②～③を除く療養病床〔自院〕	0人	0人	0.0%	0.0%
⑥ ②～⑤を除くその他の病床〔自院〕	1人	0人	1.3%	0.0%
⑦ 回復期リハビリテーション病棟〔他院〕	0人	1人	0.0%	0.8%
⑧ ⑦を除く一般病床〔他院〕	4人	4人	5.2%	3.3%
⑨ ⑦を除く療養病床〔他院〕	0人	0人	0.0%	0.0%
⑩ ⑦～⑨を除くその他の病床〔他院〕	1人	1人	1.3%	0.8%
⑪ 有床診療所	0人	0人	0.0%	0.0%
⑫ 介護老人保健施設（老人保健施設）	1人	0人	1.3%	0.0%
⑬ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	1人	0人	1.3%	0.0%
⑭ 認知症高齢者グループホーム	1人	0人	1.3%	0.0%
⑮ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	0人	0人	0.0%	0.0%
⑯ 高齢者専用賃貸住宅	0人	0人	0.0%	0.0%
⑰ 障害者支援施設	0人	0人	0.0%	0.0%
⑱ その他	0人	0人	0.0%	0.0%
無回答	1人	2人	1.3%	1.7%
合計	77人	120人	100.0%	100.0%

【筋骨格系疾患群】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 在宅	46人	122人	20.4%	22.9%
② 急性期病床〔自院〕	125人	336人	55.6%	63.2%
③ 他の回復期リハビリテーション病棟〔自院〕	0人	0人	0.0%	0.0%
④ ②～③を除く一般病床〔自院〕	40人	59人	17.8%	11.1%
⑤ ②～③を除く療養病床〔自院〕	0人	0人	0.0%	0.0%
⑥ ②～⑤を除くその他の病床〔自院〕	0人	1人	0.0%	0.2%
⑦ 回復期リハビリテーション病棟〔他院〕	0人	0人	0.0%	0.0%
⑧ ⑦を除く一般病床〔他院〕	6人	6人	2.7%	1.1%
⑨ ⑦を除く療養病床〔他院〕	0人	0人	0.0%	0.0%
⑩ ⑦～⑨を除くその他の病床〔他院〕	1人	0人	0.4%	0.0%
⑪ 有床診療所	0人	1人	0.0%	0.2%
⑫ 介護老人保健施設（老人保健施設）	2人	1人	0.9%	0.2%
⑬ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	1人	1人	0.4%	0.2%
⑭ 認知症高齢者グループホーム	1人	1人	0.4%	0.2%
⑮ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	1人	2人	0.4%	0.4%
⑯ 高齢者専用賃貸住宅	0人	0人	0.0%	0.0%
⑰ 障害者支援施設	1人	0人	0.4%	0.0%
⑱ その他	1人	0人	0.4%	0.0%
無回答	0人	2人	0.0%	0.4%
合計	225人	532人	100.0%	100.0%

③ 日常生活機能評価

入棟時の日常生活機能評価についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では平均 4.6 点、加算無しの病棟では平均 3.9 点であった。

また、主たる原因疾患別に日常生活機能評価をみると、「脳神経系疾患群」はリハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟で平均 7.3 点、加算無しの病棟で平均 6.5 点であった。

「筋骨格系疾患群」では、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟で平均 3.8 点、加算無しの病棟で平均 3.1 点であった。

図表 2-2-65 日常生活機能評価

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
0 点	125 人	283 人	25.5%	29.3%
1 点以上 4 点以下	183 人	359 人	37.3%	37.2%
5 点以上 9 点以下	89 人	186 人	18.1%	19.3%
10 点以上 14 点以下	62 人	104 人	12.6%	10.8%
15 点以上 19 点以下	32 人	33 人	6.5%	3.4%
総 数	491 人	965 人	100.0%	100.0%
平 均	4.6 点	3.9 点		

図表 2-1-66 主たる原因疾患別にみた日常生活機能評価

	加算有り	加算無し
脳神経系疾患群	7.3 点	6.5 点
脳血管疾患	7.2 点	7.2 点
脊髄損傷	1.0 点	5.3 点
頭部外傷	9.0 点	4.0 点
その他の脳神経系疾患	10.6 点	4.2 点
筋骨格系疾患群	3.8 点	3.1 点
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	4.7 点	3.8 点
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	2.6 点	2.3 点
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	2.2 点	1.6 点
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	6.7 点	6.6 点
その他の疾患	2.9 点	3.1 点

(3) リハビリテーションの実施状況

入棟日の属する翌週 1 週間のリハビリテーションの実施状況をみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では平均 20.8 単位、加算無しの病棟では平均 10.2 単位であった。

また、退棟日の属する前週 1 週間のリハビリテーションの実施状況をみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では平均 21.2 単位、加算無しの病棟では平均 10.9 単位であった。

図表 2-2-67 リハビリテーションの実施状況

【入棟日の属する週の翌週 1 週間・全体】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
10 単位未満	70 人	461 人	14.3%	47.8%
10 単位以上 19 単位以下	178 人	376 人	36.3%	39.0%
20 単位以上 29 単位以下	134 人	66 人	27.3%	6.8%
30 単位以上 39 単位以下	68 人	20 人	13.8%	2.1%
40 単位以上 49 単位以下	19 人	3 人	3.9%	0.3%
50 単位以上 59 単位以下	8 人	0 人	1.6%	0.0%
60 単位以上 69 単位以下	0 人	0 人	0.0%	0.0%
70 単位以上	4 人	1 人	0.8%	0.1%
無回答	10 人	38 人	2.0%	3.9%
合計	491 人	965 人	100.0%	100.0%
平均	20.8 単位	10.2 単位		

【退棟日の属する週の前週 1 週間・全体】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
10 単位未満	62 人	410 人	12.6%	42.5%
10 単位以上 19 単位以下	176 人	412 人	35.8%	42.7%
20 単位以上 29 単位以下	147 人	85 人	29.9%	8.8%
30 単位以上 39 単位以下	62 人	16 人	12.6%	1.7%
40 単位以上 49 単位以下	22 人	3 人	4.5%	0.3%
50 単位以上 59 単位以下	8 人	1 人	1.6%	0.1%
60 単位以上 69 単位以下	0 人	0 人	0.0%	0.0%
70 単位以上	4 人	0 人	0.8%	0.0%
無回答	10 人	38 人	2.0%	3.9%
合計	491 人	965 人	100.0%	100.0%
平均	21.2 単位	10.9 単位		

【入棟日の属する週の翌週1週間・脳神経系疾患群】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
10 単位未満	11 人	36 人	14.3%	30.0%
10 単位以上 19 単位以下	16 人	48 人	20.8%	40.0%
20 単位以上 29 単位以下	21 人	22 人	27.3%	18.3%
30 単位以上 39 単位以下	15 人	10 人	19.5%	8.3%
40 単位以上 49 単位以下	10 人	1 人	13.0%	0.8%
50 単位以上 59 単位以下	4 人	0 人	5.2%	0.0%
60 単位以上 69 単位以下	0 人	0 人	0.0%	0.0%
70 単位以上	0 人	0 人	0.0%	0.0%
無回答	0 人	3 人	0.0%	2.5%
合 計	77 人	120 人	100.0%	100.0%
平 均	25.3 単位	14.2 単位		

【退棟日の属する週の前週1週間・脳神経系疾患群】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
10 単位未満	9 人	32 人	11.7%	26.7%
10 単位以上 19 単位以下	16 人	49 人	20.8%	40.8%
20 単位以上 29 単位以下	24 人	27 人	31.2%	22.5%
30 単位以上 39 単位以下	13 人	7 人	16.9%	5.8%
40 単位以上 49 単位以下	13 人	1 人	16.9%	0.8%
50 単位以上 59 単位以下	2 人	1 人	2.6%	0.8%
60 単位以上 69 単位以下	0 人	0 人	0.0%	0.0%
70 単位以上	0 人	0 人	0.0%	0.0%
無回答	0 人	3 人	0.0%	2.5%
合 計	77 人	120 人	100.0%	100.0%
平 均	25.5 単位	15.0 単位		

【入棟日の属する週の翌週1週間・筋骨格系疾患群】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
10 単位未満	30 人	257 人	13.3%	48.3%
10 単位以上 19 単位以下	95 人	219 人	42.2%	41.2%
20 単位以上 29 単位以下	70 人	29 人	31.1%	5.5%
30 単位以上 39 単位以下	23 人	7 人	10.2%	1.3%
40 単位以上 49 単位以下	2 人	0 人	0.9%	0.0%
50 単位以上 59 単位以下	0 人	0 人	0.0%	0.0%
60 単位以上 69 単位以下	0 人	0 人	0.0%	0.0%
70 単位以上	3 人	1 人	1.3%	0.2%
無回答	2 人	19 人	0.9%	3.6%
合 計	225 人	532 人	100.0%	100.0%
平 均	19.6 単位	10.0 単位		

【退棟日の属する週の前週1週間・筋骨格系疾患群】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
10 単位未満	23 人	223 人	10.2%	41.9%
10 単位以上 19 単位以下	100 人	248 人	44.4%	46.6%
20 単位以上 29 単位以下	75 人	33 人	33.3%	6.2%
30 単位以上 39 単位以下	20 人	8 人	8.9%	1.5%
40 単位以上 49 単位以下	2 人	1 人	0.9%	0.2%
50 単位以上 59 単位以下	0 人	0 人	0.0%	0.0%
60 単位以上 69 単位以下	0 人	0 人	0.0%	0.0%
70 単位以上	3 人	0 人	1.3%	0.0%
無回答	2 人	19 人	0.9%	3.6%
合 計	225 人	532 人	100.0%	100.0%
平 均	19.6 単位	10.5 単位		

(4) 退棟時の状況

① 平均在棟日数

主たる原因疾患別に平均在棟日数をみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「脳神経系疾患群」41.3日、「筋骨格系疾患群」39.3日などとなっていた。また、加算無しの病棟では「脳神経系疾患群」39.6日、「筋骨格系疾患群」33.6日などとなっていた。

図表 2-2-68 主たる原因疾患別にみた入棟日から退棟日までの平均日数

	加算有り	加算無し
脳神経系疾患群	41.3日	39.6日
脳血管疾患	41.5日	40.1日
脊髄損傷	55.5日	43.3日
頭部外傷	22.0日	35.1日
その他の脳神経系疾患	41.2日	36.5日
筋骨格系疾患群	39.3日	33.6日
大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折	42.0日	36.1日
大腿骨、骨盤、脊椎等の神経、筋、靭帯損傷	38.8日	31.3日
股関節又は膝関節の置換手術後の状態	31.6日	26.3日
外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群	31.2日	30.9日
その他の疾患	37.5日	33.0日

② 退棟後の居場所

退棟後の居場所についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算の有無に関わらず、「在宅」76.0%、77.7%が最も多く、次いで「介護老人保健施設」6.9%、5.4%などとなっていた。

図表 2-2-69 退棟後の居場所
【全 体】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 在宅	373 人	750 人	76.0%	77.7%
② 急性期病床 [自院]	14 人	33 人	2.9%	3.4%
③ 他の回復期リハビリテーション病棟 [自院]	2 人	4 人	0.4%	0.4%
④ ②～③を除く一般病床 [自院]	7 人	15 人	1.4%	1.6%
⑤ ②～③を除く療養病床 [自院]	6 人	3 人	1.2%	0.3%
⑥ ②～⑤を除くその他の病床 [自院]	0 人	0 人	0.0%	0.0%
⑦ 回復期リハビリテーション病棟 [他院]	5 人	3 人	1.0%	0.3%
⑧ ⑦を除く一般病床 [他院]	8 人	18 人	1.6%	1.9%
⑨ ⑦を除く療養病床 [他院]	7 人	10 人	1.4%	1.0%
⑩ ⑦～⑨を除くその他の病床 [他院]	1 人	0 人	0.2%	0.0%
⑪ 有床診療所	0 人	2 人	0.0%	0.2%
⑫ 介護老人保健施設（老人保健施設）	34 人	52 人	6.9%	5.4%
⑬ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	11 人	17 人	2.2%	1.8%
⑭ 認知症高齢者グループホーム	1 人	9 人	0.2%	0.9%
⑮ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	15 人	18 人	3.1%	1.9%
⑯ 高齢者専用賃貸住宅	0 人	5 人	0.0%	0.5%
⑰ 障害者支援施設	1 人	1 人	0.2%	0.1%
⑱ 死亡	0 人	4 人	0.0%	0.4%
⑲ その他	0 人	4 人	0.0%	0.4%
無回答	6 人	17 人	1.2%	1.8%
合 計	491 人	965 人	100.0%	100.0%

【脳神経系疾患群】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 在宅	48人	77人	62.3%	64.2%
② 急性期病床〔自院〕	2人	6人	2.6%	5.0%
③ 他の回復期リハビリテーション病棟〔自院〕	1人	0人	1.3%	0.0%
④ ②～③を除く一般病床〔自院〕	2人	2人	2.6%	1.7%
⑤ ②～③を除く療養病床〔自院〕	2人	2人	2.6%	1.7%
⑥ ②～⑤を除くその他の病床〔自院〕	0人	0人	0.0%	0.0%
⑦ 回復期リハビリテーション病棟〔他院〕	2人	2人	2.6%	1.7%
⑧ ⑦を除く一般病床〔他院〕	1人	6人	1.3%	5.0%
⑨ ⑦を除く療養病床〔他院〕	4人	2人	5.2%	1.7%
⑩ ⑦～⑨を除くその他の病床〔他院〕	0人	0人	0.0%	0.0%
⑪ 有床診療所	0人	1人	0.0%	0.8%
⑫ 介護老人保健施設（老人保健施設）	10人	10人	13.0%	8.3%
⑬ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	0人	3人	0.0%	2.5%
⑭ 認知症高齢者グループホーム	0人	2人	0.0%	1.7%
⑮ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	5人	3人	6.5%	2.5%
⑯ 高齢者専用賃貸住宅	0人	1人	0.0%	0.8%
⑰ 障害者支援施設	0人	0人	0.0%	0.0%
⑱ 死亡	0人	0人	0.0%	0.0%
⑲ その他	0人	1人	0.0%	0.8%
無回答	0人	2人	0.0%	1.7%
合計	77人	120人	100.0%	100.0%

【筋骨格系疾患群】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
① 在宅	185人	455人	82.2%	85.5%
② 急性期病床〔自院〕	4人	15人	1.8%	2.8%
③ 他の回復期リハビリテーション病棟〔自院〕	0人	2人	0.0%	0.4%
④ ②～③を除く一般病床〔自院〕	2人	9人	0.9%	1.7%
⑤ ②～③を除く療養病床〔自院〕	2人	1人	0.9%	0.2%
⑥ ②～⑤を除くその他の病床〔自院〕	0人	0人	0.0%	0.0%
⑦ 回復期リハビリテーション病棟〔他院〕	3人	1人	1.3%	0.2%
⑧ ⑦を除く一般病床〔他院〕	3人	5人	1.3%	0.9%
⑨ ⑦を除く療養病床〔他院〕	1人	2人	0.4%	0.4%
⑩ ⑦～⑨を除くその他の病床〔他院〕	1人	0人	0.4%	0.0%
⑪ 有床診療所	0人	1人	0.0%	0.2%
⑫ 介護老人保健施設（老人保健施設）	7人	12人	3.1%	2.3%
⑬ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	6人	7人	2.7%	1.3%
⑭ 認知症高齢者グループホーム	0人	5人	0.0%	0.9%
⑮ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	7人	9人	3.1%	1.7%
⑯ 高齢者専用賃貸住宅	0人	1人	0.0%	0.2%
⑰ 障害者支援施設	1人	0人	0.4%	0.0%
⑱ 死亡	0人	0人	0.0%	0.0%
⑲ その他	0人	1人	0.0%	0.2%
無回答	3人	6人	1.3%	1.1%
合計	225人	532人	100.0%	100.0%

③ 退棟時における日常生活機能評価の変化

退棟時における日常生活機能評価の変化についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では平均 3.0 点改善、加算無し病棟では平均 2.4 点改善であった。

次に、「脳神経系疾患群」についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では平均 5.7 点改善、加算無し病棟では平均 4.8 点改善であった。

さらに、「筋骨格系疾患群」についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では平均 1.8 点改善、加算無し病棟では平均 1.4 点改善であった。

図表 2-2-70 退棟時における日常生活機能評価の変化

【全 体】

	患者数		割 合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
15 点以上 19 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
10 点以上 14 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
5 点以上 9 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
1 点以上 4 点以下の悪化	5 人	25 人	1.0%	2.6%
0 点（変化なし）	257 人	515 人	52.3%	53.4%
1 点以上 4 点以下の改善	121 人	234 人	24.6%	24.2%
5 点以上 9 点以下の改善	37 人	105 人	7.5%	10.9%
10 点以上 14 点以下の改善	45 人	59 人	9.2%	6.1%
15 点以上 19 点以下の改善	26 人	27 人	5.3%	2.8%
総 数	491 人	965 人	100.0%	100.0%
平 均	+3.0 点	+2.4 点		

【脳神経疾患群】

	患者数		割 合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
15 点以上 19 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
10 点以上 14 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
5 点以上 9 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
1 点以上 4 点以下の悪化	0 人	2 人	0.0%	1.7%
0 点（変化なし）	21 人	41 人	27.3%	34.2%
1 点以上 4 点以下の改善	25 人	26 人	32.5%	21.7%
5 点以上 9 点以下の改善	9 人	26 人	11.7%	21.7%
10 点以上 14 点以下の改善	11 人	17 人	14.3%	14.2%
15 点以上 19 点以下の改善	11 人	8 人	14.3%	6.7%
総 数	77 人	120 人	100.0%	100.0%
平 均	+5.7 点	+4.8 点		

【筋骨格系疾患群】

	患者数		割 合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
15 点以上 19 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
10 点以上 14 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
5 点以上 9 点以下の悪化	0 人	0 人	0.0%	0.0%
1 点以上 4 点以下の悪化	4 人	19 人	1.8%	3.6%
0 点（変化なし）	139 人	327 人	61.8%	61.5%
1 点以上 4 点以下の改善	52 人	129 人	23.1%	24.2%
5 点以上 9 点以下の改善	13 人	36 人	5.8%	6.8%
10 点以上 14 点以下の改善	16 人	15 人	7.1%	2.8%
15 点以上 19 点以下の改善	1 人	6 人	0.4%	1.1%
総 数	225 人	532 人	100.0%	100.0%
平 均	+1.8 点	+1.4 点		

④ 退棟決定の状況

退棟決定の状況についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「特に問題なく、予定通りに退棟できた」65.8%が最も多く、次いで「予定よりも早く退棟できた」12.0%などとなっていた。

また、加算無しの病棟でも「特に問題なく、予定通りに退棟できた」65.0%が最も多く、次いで「予定よりも早く退棟できた」8.4%などとなっていた。

図表 2-2-71 退棟決定の状況

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
予定よりも早く退棟できた	59人	81人	12.0%	8.4%
特に問題なく、予定通りに退棟できた	323人	627人	65.8%	65.0%
病状悪化等の理由により、退棟が延びていた	19人	62人	3.9%	6.4%
入所・入院する施設の都合で、退棟が延びていた	18人	48人	3.7%	5.0%
在家族の受け入れ態勢が整わず、退棟が延びていた	32人	46人	6.5%	4.8%
介護保険サービスの利用開始待ちで、退棟が延びていた	9人	25人	1.8%	2.6%
その他	16人	51人	3.3%	5.3%
無回答	15人	25人	3.1%	2.6%
合計	491人	965人	100.0%	100.0%

(5) 退棟後の状況

退棟後の通院先についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算の有無に関わらず、「自院の外来」50.1%、60.5%が最も多く、次いで「他院の外来」20.6%、12.0%などとなっていた。

また、退院後の方針については、リハビリテーション提供体制加算の加算の有無に関わらず、「リハビリを利用しない」32.6%、38.0%が最も多く、次いで「医療保険のリハビリを利用」24.2%、19.5%などとなっていた。

なお、退院後に介護保険のリハビリを利用した患者について、サービス内容をみると、「通所リハビリ」65.7%、62.6%、「訪問リハビリ」17.9%、17.8%となっていた。

図表 2-2-72 通院先

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
自院の外来	246人	584人	50.1%	60.5%
他院の外来	101人	116人	20.6%	12.0%
なし	42人	66人	8.6%	6.8%
不明	18人	25人	3.7%	2.6%
無回答	84人	174人	17.1%	18.0%
合計	491人	965人	100.0%	100.0%

図表 2-2-73 退院後の方針

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
介護保険のリハビリを利用	67人	107人	13.6%	11.1%
医療保険のリハビリを利用	119人	188人	24.2%	19.5%
リハビリを利用しない	160人	367人	32.6%	38.0%
不明	38人	74人	7.7%	7.7%
無回答	107人	229人	21.8%	23.7%
合計	491人	965人	100.0%	100.0%

図表 2-2-74 退院後に利用した介護保険のリハビリテーション【複数回答】

	患者数		割合	
	加算有り	加算無し	加算有り	加算無し
通所リハビリ	44人	67人	65.7%	62.6%
訪問リハビリ	12人	19人	17.9%	17.8%
その他	11人	21人	16.4%	19.6%
総数	67人	107人		

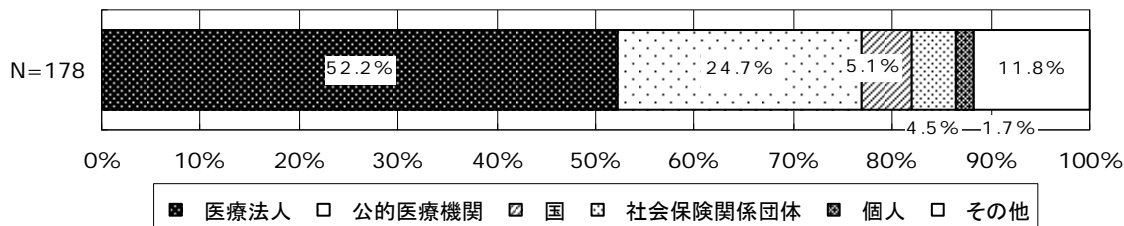
3. その他の疾患別リハビリテーション料の届出病院

(1) その他の疾患別リハビリテーション料の届出病院の概況

① 開設主体

その他の疾患別リハビリテーション料の届出病院の開設者についてみると「医療法人」52.2%が最も多く、次いで「公的医療機関」24.7%、「その他」11.8%などとなっていた。

図表 2-3-1 開設主体



② 併設施設・事業所

併設施設・事業所についてみると「通所リハビリテーション事業所」29.8%が最も多く、次いで「居宅介護支援事業所」28.7%、「訪問看護ステーション」27.0%などとなっていた。

図表 2-3-2 併設施設・事業所【複数回答】

	施設数	割合
通所リハビリテーション事業所	53 件	29.8%
居宅介護支援事業所	51 件	28.7%
訪問看護ステーション	48 件	27.0%
介護老人保健施設	30 件	16.9%
訪問リハビリテーション事業所	27 件	15.2%
通所介護事業所	22 件	12.4%
短期入所療養介護事業所	18 件	10.1%
訪問介護事業所	17 件	9.6%
訪問看護事業所（訪問看護ステーション以外）	11 件	6.2%
認知症対応型共同生活介護事業所	9 件	5.1%
短期入所生活介護事業所	6 件	3.4%
介護老人福祉施設	4 件	2.2%
小規模多機能型居宅介護事業所	4 件	2.2%
訪問入浴介護事業所	2 件	1.1%
特定施設入居者生活介護事業所	2 件	1.1%
総 数	178 件	

③ 届出しているリハビリテーション料

届出しているリハビリテーション料についてみると「運動器リハビリテーション料（Ⅰ）」59.0%が最も多く、次いで「呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）」43.3%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）」34.8%などとなっていた。

図表 2-3-3 届出しているリハビリテーション料【複数回答】

	施設数	割合
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	16 件	9.0%
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅱ）	1 件	0.6%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	45 件	25.3%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）	57 件	32.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）	62 件	34.8%
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	105 件	59.0%
運動器リハビリテーション料（Ⅱ）	69 件	38.8%
運動器リハビリテーション料（Ⅲ）	33 件	18.5%
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	77 件	43.3%
呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）	29 件	16.3%
難病患者リハビリテーション料	1 件	0.6%
障害児（者）リハビリテーション料	9 件	5.1%
がん患者リハビリテーション料	6 件	3.4%
集団コミュニケーション療法料	21 件	11.8%
無回答	3 件	1.7%
総 数	178 件	

(2) 入院患者の概況

① 許可病床数・病床利用率

病院全体の許可病床数についてみると「100床以上 149床以下」25.3%が最も多く、次いで「50床以上 99床以下」20.8%、「150床以上 199床以下」15.7%などとなっており、平均203.2床であった。

図表 2-3-4 許可病床数の分布

	施設数	割合
20床以上 49床以下	13件	7.3%
50床以上 99床以下	37件	20.8%
100床以上 149床以下	45件	25.3%
150床以上 199床以下	28件	15.7%
200床以上 299床以下	10件	5.6%
300床以上 399床以下	12件	6.7%
400床以上 499床以下	11件	6.2%
500床以上	15件	8.4%
無回答	7件	3.9%
合計	178件	100.0%
平均	203.2床	

図表 2-3-5 1施設当たり病床種別別病床数・病床利用率

	1施設当たり 病床数	病床利用率
一般病床	157.6床	80.0%
【再掲】障害者施設等入院基本料	6.8床	86.0%
療養病床（医療保険適用）	31.4床	93.5%
療養病床（介護保険適用）	9.1床	96.3%
精神病床	10.5床	86.1%
結核病床	1.6床	18.7%
感染症病床	0.2床	0.0%
合計	210.5床	82.5%
施設数	156件	

※許可病床数、在院延べ患者数のいずれについても回答のあった156施設について集計

② 疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者の状況

平成 23 年 6 月に疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」1.9%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」34.1%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」9.4%、「運動器リハビリテーション料」10.8%、「呼吸器リハビリテーション料」12.6%であった。

図表 2-3-6 1 施設当たり入院延べ患者数（H23.6）

	施設数	1 施設当たり 入院患者 延べ数	割 合
心大血管疾患リハビリテーション料	15 件	317.0 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		5.9 人	1.9%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	134 件	796.6 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		271.6 人	34.1%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	129 件	324.7 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		30.4 人	9.4%
運動器リハビリテーション料	144 件	557.1 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		60.4 人	10.8%
呼吸器リハビリテーション料	82 件	107.4 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		13.6 人	12.6%
障害児（者）リハビリテーション料	7 件	223.6 人	

※各疾患別リハビリテーション料の届出施設のうち、入院患者延べ数の回答があった施設について集計

疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者の平成 21 年 6 月と平成 23 年 6 月の平均在院日数をみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」23.7 日、21.6 日、「脳血管疾患等リハビリテーション料」149.2 日、152.9 日、「運動器リハビリテーション料」100.9 日、120.0 日、「呼吸器リハビリテーション料」42.2 日、51.0 日であった。

図表 2-3-7 平均在院日数（H23.6）

	施設数	H21.6	H23.6
心大血管疾患リハビリテーション料	5 件	23.7 日	21.6 日
脳血管疾患等リハビリテーション料	87 件	149.2 日	152.9 日
【再掲】廃用症候群以外			169.3 日
【再掲】廃用症候群			65.0 日
運動器リハビリテーション料	113 件	100.9 日	120.0 日
呼吸器リハビリテーション料	42 件	42.2 日	51.0 日

※各疾患別リハビリテーション料等の届出施設のうち、平成 21 年 6 月 1 日、平成 23 年 6 月 1 日の標準的算定日数を超えた算定患者の割合の回答があった施設について集計

平成 21 年 6 月 1 日時点、平成 23 年 6 月 1 日時点で疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」8.4%、4.8%、「脳血管疾患等リハビリテーション料」18.0%、21.1%、「運動器リハビリテーション料」11.2%、13.5%、「呼吸器リハビリテーション料」5.8%、8.9%であった。

図表 2-3-8 標準的算定日数を超えた算定患者の割合 (H23.6.1)

	施設数	H21.6	H23.6
心大血管疾患リハビリテーション料	11 件	8.4%	4.8%
脳血管疾患等リハビリテーション料	101 件	18.0%	21.1%
【再掲】廃用症候群以外			23.4%
【再掲】廃用症候群			5.3%
運動器リハビリテーション料	118 件	11.2%	13.5%
呼吸器リハビリテーション料	51 件	5.8%	8.9%

※各疾患別リハビリテーション料等の届出施設のうち、平成 21 年 6 月 1 日、平成 23 年 6 月 1 日の標準的算定日数を超えた算定患者の割合の回答があった施設について集計

(3) 疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者の概況

平成 23 年 6 月に疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合、そのうち要介護認定を受けている患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」0.0%、0.0%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」42.6%、5.0%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」54.1%、5.7%、「運動器リハビリテーション料」21.3%、4.0%、「呼吸器リハビリテーション料」34.4%、0.0%であった。

図表 2-3-9 1 施設当たり外来延べ患者数（H23.6）

	施設数	1施設当たり 外来患者 延べ数	割合
心大血管疾患リハビリテーション料	12 件	15.9 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		0.0 人	0.0%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		0.0 人	0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	111 件	116.2 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		49.5 人	42.6%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		5.8 人	5.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	118 件	3.1 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		1.7 人	54.1%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		0.2 人	5.7%
運動器リハビリテーション料	119 件	187.5 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		39.9 人	21.3%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		7.4 人	4.0%
呼吸器リハビリテーション料	75 件	1.3 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		0.4 人	34.4%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		0.0 人	0.0%

※各疾患別リハビリテーション料の届出施設のうち、外来患者延べ数の回答があった施設について集計

(4) 通所リハビリテーションの実施状況

① 通所リハビリテーション実施施設の状況

通所リハビリテーションの実施状況についてみると、「実施していない」71.3%、「実施している」23.6%であった。

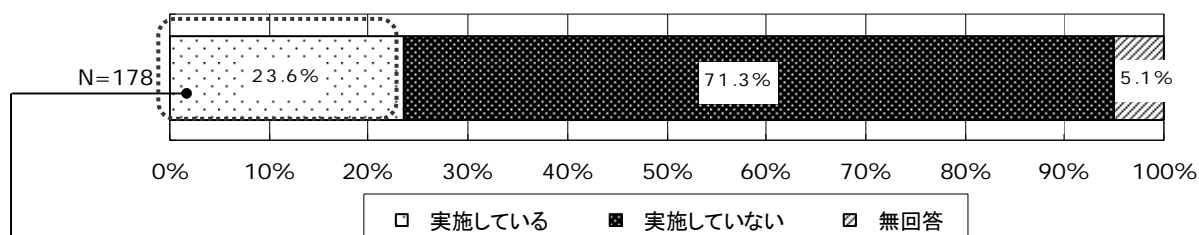
通所リハビリテーションの実施施設について、平成23年6月における実施日数をみると、「26日」50.0%、「22日」21.4%などとなっており、平均23.3日であった。また、1施設当たりの利用者延べ人数をみると1施設当たり430.1人であった。なお、「1時間以上2時間未満」の利用者延べ数は35.5人（8.3%）であった。

また、通所リハビリテーションに従事する1施設当たり職員数は専従8.0人、専任4.6人であった。

機能訓練室の状況については「医療保険と介護保険で別の機能訓練室を利用」54.8%、「医療保険と介護保険で1つの機能訓練室を利用」45.2%であった。

利用者の送迎状況については「実施している」97.6%、「実施していない」2.4%であった。

図表 2-3-10 通所リハビリテーションの実施状況



図表 2-3-11 実施日数 (H23.6)

	施設数	割合
20日以内	3件	7.1%
21日	2件	4.8%
22日	9件	21.4%
23日	0件	0.0%
24日	0件	0.0%
25日	1件	2.4%
26日	21件	50.0%
27日	1件	2.4%
28日	0件	0.0%
29日	0件	0.0%
30日	0件	0.0%
無回答	5件	11.9%
合計	42件	100.0%
平均	23.3日	

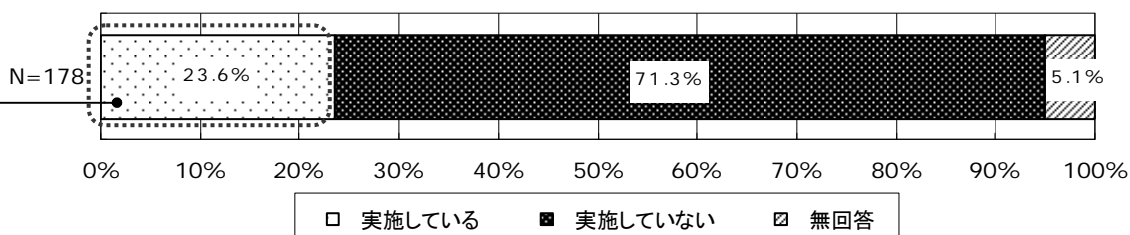
図表 2-3-12 1施設当たり利用者延べ人数 (H23.6)

	延べ人数	割合
1時間以上 2時間未満	35.5人	8.3%
2時間以上 3時間未満	2.3人	0.5%
3時間以上 4時間未満	40.0人	9.3%
4時間以上 6時間未満	80.2人	18.6%
6時間以上 8時間未満	272.1人	63.2%
合計	430.1人	100.0%
施設数	40件	

※1. 通所リハビリテーションの実施施設のうち、介護保険における通所リハビリテーション費を算定した利用者延べ数の回答があった40件について集計

※2. 1時間以上2時間未満の通所リハビリテーションを実施している施設は9施設

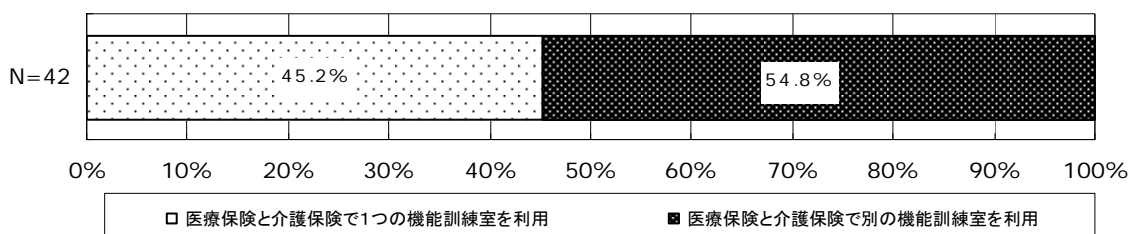
図表 2-3-10 通所リハビリテーションの実施状況【再掲】



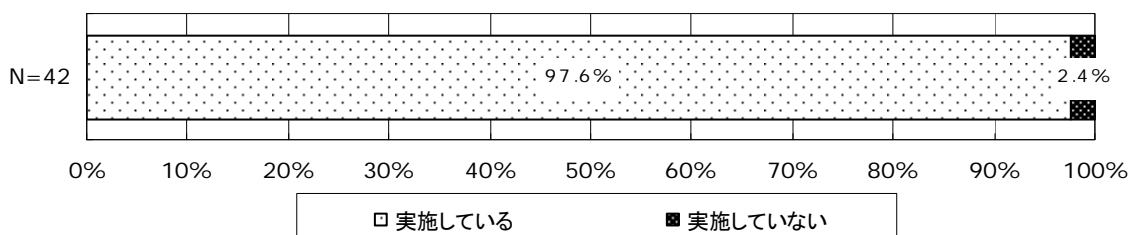
図表 2-3-13 通所リハビリテーションに従事する1施設当たり職員数（実人数）

	専従	専任
医師	0.0人	1.2人
看護師	0.7人	0.5人
准看護師	0.4人	0.1人
理学療法士	0.9人	1.1人
作業療法士	0.5人	0.6人
言語聴覚士	0.0人	0.3人
その他の職種	5.6人	0.8人
合計	8.0人	4.6人
施設数	42件	

図表 2-3-14 機能訓練室の状況



図表 2-3-15 利用者の送迎の実施状況

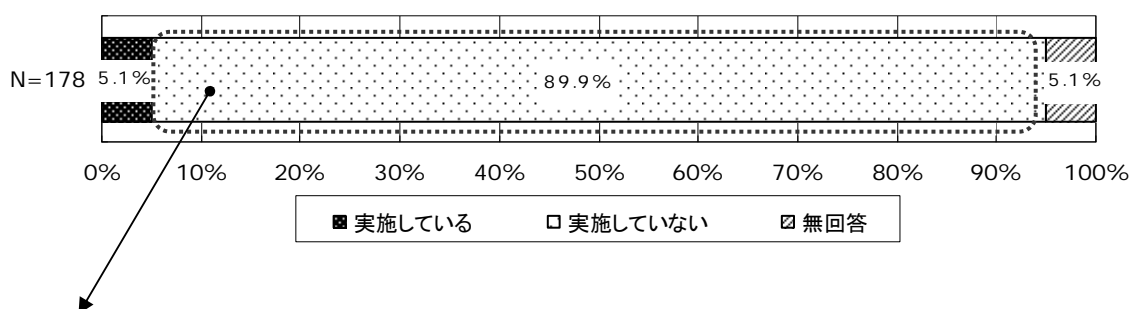


② 通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設の状況

また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況についてみると、「実施していない」89.9%、「実施している」5.1%であった。

さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して実施していない理由を尋ねたところ、「通所リハビリに専従する人員を確保できない」43.8%が最も多く、次いで「利用者の送迎体制を整えることが困難」41.3%、「通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる」35.6%などとなっていた。

図表 2-3-16 通所リハビリ（1時間以上2時間未満）の実施状況



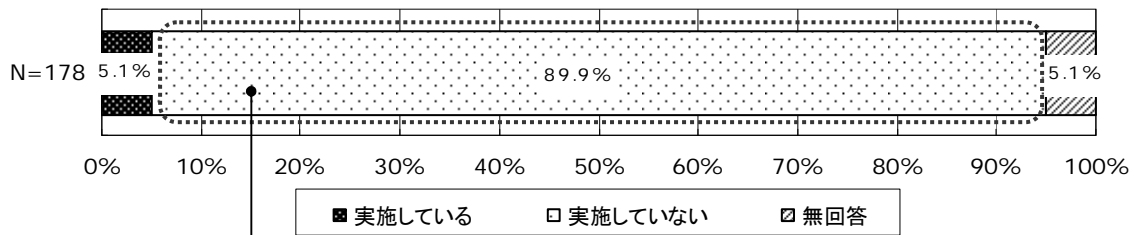
図表 2-3-17 通所リハビリ（1時間以上2時間未満）を実施していない理由【複数回答】

	施設数	割合
通所リハビリに専従する人員を確保できない	70件	43.8%
利用者の送迎体制を整えることが困難	66件	41.3%
通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる	57件	35.6%
外来の医師の負担が重くなる	35件	21.9%
維持期のリハビリは現行の13単位の使い勝手がよい	21件	13.1%
通所リハビリの報酬では採算がとれない	18件	11.3%
介護報酬の請求事務の負担が大きい	14件	8.8%
ケアマネジャーとの連携をとることが負担である	8件	5.0%
患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きい	6件	3.8%
患者にとって、要介護認定の申請が負担である	1件	0.6%
1時間以上2時間未満の制度が新設されたことを知らなかった	0件	0.0%
その他	46件	28.8%
無回答	17件	10.6%
総数	160件	

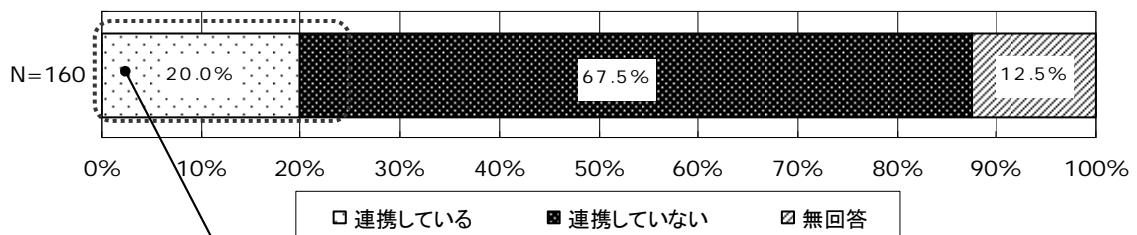
※通所リハビリテーションの未実施施設 127 施設、及び実施施設のうち1時間以上2時間未満の通所リハビリテーションの利用者のいない施設 33 施設の計 160 施設について集計

また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携していない」67.5%、「連携している」20.0%となっていた。さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している施設に対して、連携している外部の介護サービス事業者数を尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均9.6事業所、通所リハビリテーション事業所は平均2.3事業所であった。

図表 2-3-16 通所リハビリ（1時間以上2時間未満）の実施状況【再掲】



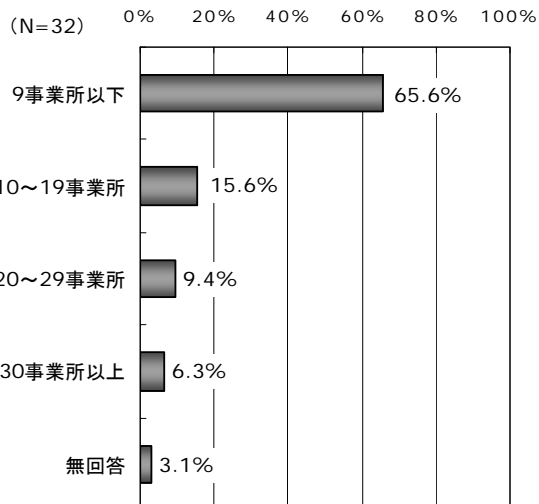
図表 2-3-18 外部の介護サービス事業者との連携状況



図表 2-3-19 連携している外部のサービス事業者数の分布

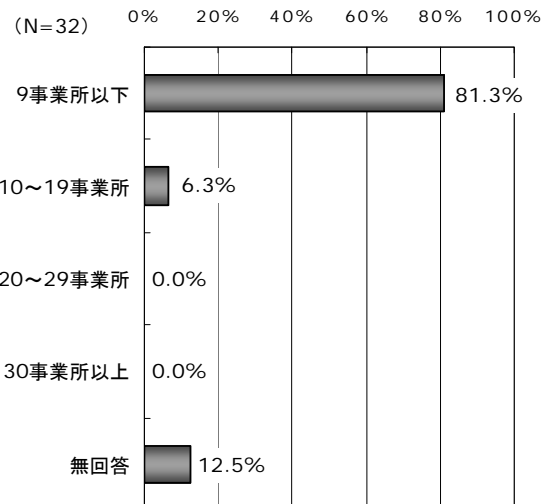
【居宅介護支援事業所】

平均 9.6 事業所



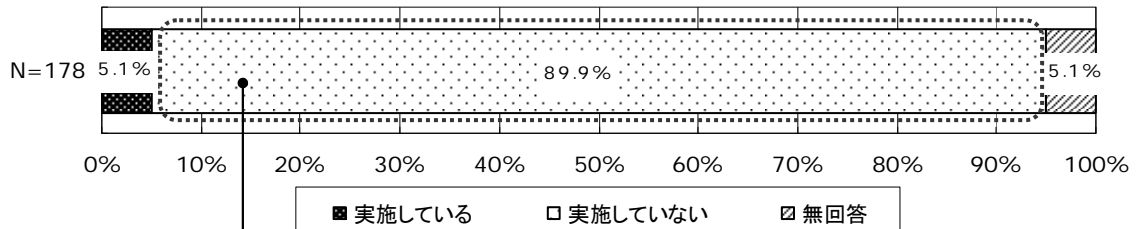
【通所リハビリテーション事業所】

平均 2.3 事業所

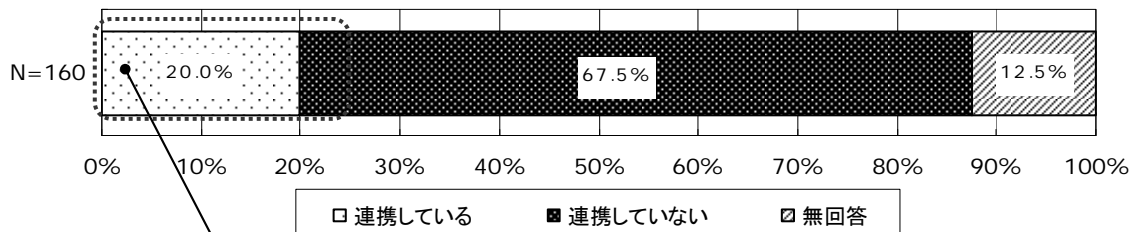


また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している事業所に対して、連携している外部のサービス事業者への紹介患者数（平成23年6月）について尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均3.9人、通所リハビリテーション事業所は平均0.8人であった。

図表 2-3-16 通所リハビリ（1時間以上2時間未満）の実施状況【再掲】



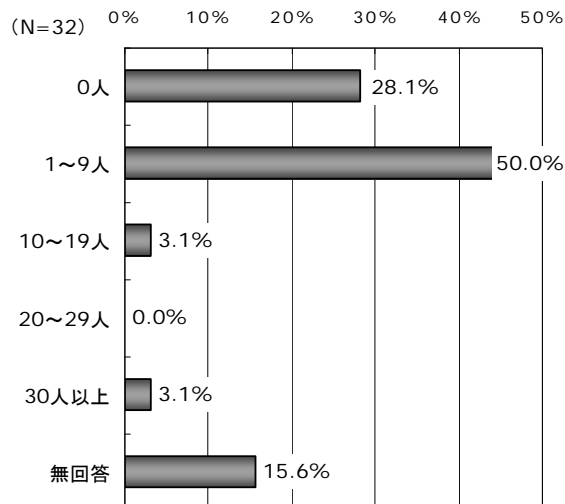
図表 2-3-18 外部の介護サービス事業者との連携状況【再掲】



図表 2-3-20 連携している外部のサービス事業者への紹介患者数の分布（H23.6）

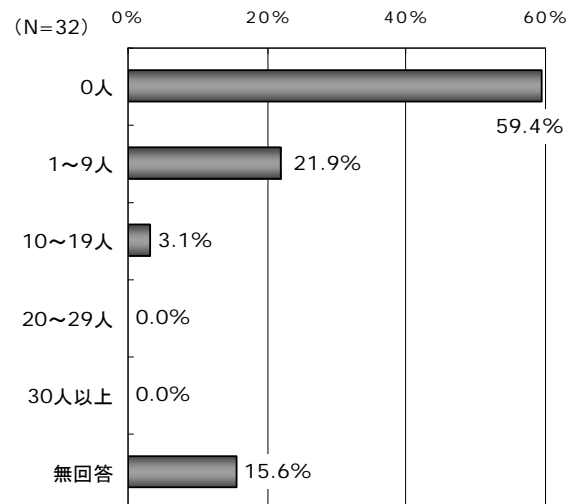
【居宅介護支援事業所】

平均 3.9 人



【通所リハビリテーション事業所】

平均 0.8 人



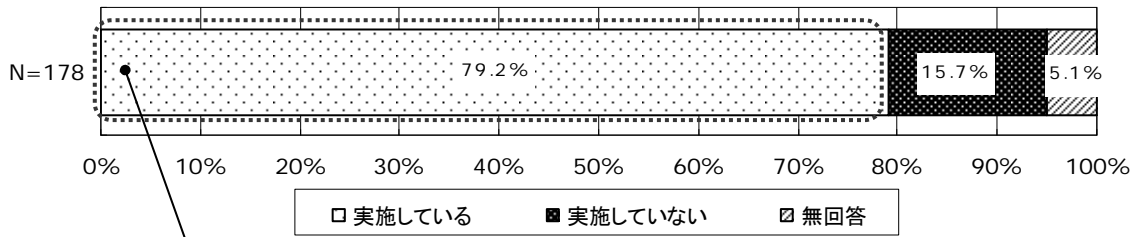
(5) 退院支援の実施状況

退院支援の実施状況についてみると、「実施している」79.2%、「実施していない」15.7%であった。また、実施施設のうち76.6%の施設で「(退院支援の担当部署)設置している」との回答であった。

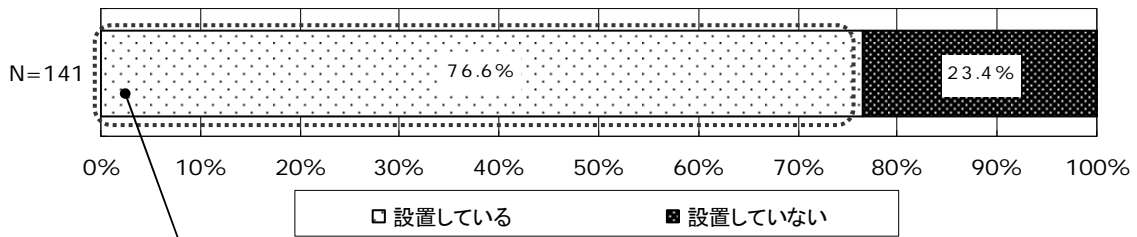
なお、退院支援の担当部署の従事する1施設当たり職員数は専従2.3人、専任1.3人であり、主な活動内容としては「退院後の居場所に関する調整」92.6%、「利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援」92.6%、「要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整」89.8%などとなっていた。

また、退院支援の実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携している」68.8%、「連携していない」27.0%となっていた。さらに、退院支援の実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している施設に対して、連携している外部の介護サービス事業者数を尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均16.5事業所、通所リハビリテーション事業所は平均14.4事業所、介護保険施設は平均11.9施設であった。

図表 2-3-21 退院支援の実施状況



図表 2-3-22 院支援の担当部署の設置状況の実施状況



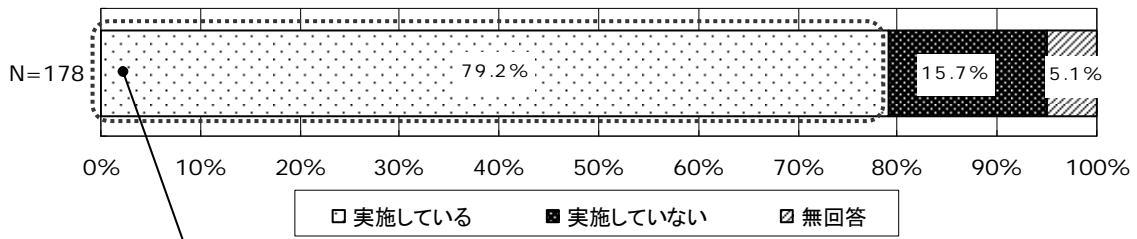
図表 2-3-23 退院支援の担当部署に従事する1施設当たり職員数（実人数）

	専従	専任
看護師	0.4人	0.5人
准看護師	0.0人	0.0人
ソーシャルワーカー	1.5人	0.6人
【再掲】社会福祉士	1.3人	0.4人
その他の職種	0.4人	0.2人
合計	2.3人	1.3人
施設数	108件	

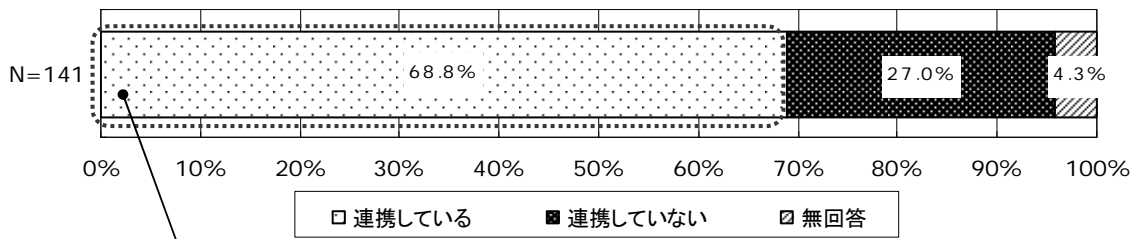
図表 2-3-24 退院支援の担当部署の活動内容【複数回答】

	施設数	割合
退院後の居場所に関する調整	100件	92.6%
利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援	100件	92.6%
要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整	97件	89.8%
退院当日や退院後の療養相談	78件	72.2%
患者や家族に対するカウンセリングと精神的支援	63件	58.3%
継続的な療養管理が可能な状態となるまでの期間と退院日の設定	34件	31.5%
患者への治療に係る目標管理と退院指導	33件	30.6%
入院中の治療方針に関する説明と退院までの見通しの説明	32件	29.6%
家族への介護技術と医療技術の指導	22件	20.4%
退院後の定期的な患者の状態確認	18件	16.7%
その他	5件	4.6%
無回答	3件	2.8%
総数	108件	

図表 2-3-20 退院支援の実施状況【再掲】



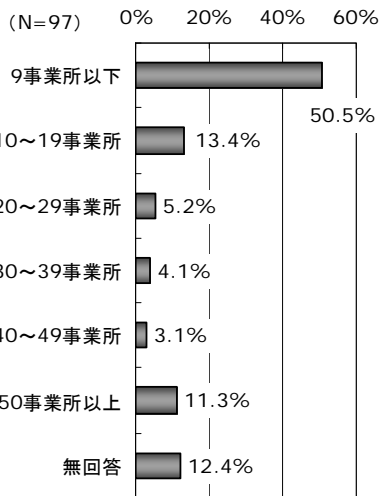
図表 2-3-25 退院支援時の介護サービス事業者との連携状況



図表 2-3-26 連携している外部のサービス事業者数の分布

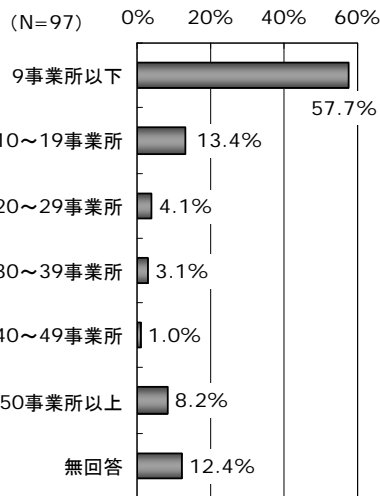
【居宅介護支援事業所】

平均 16.5 事業所



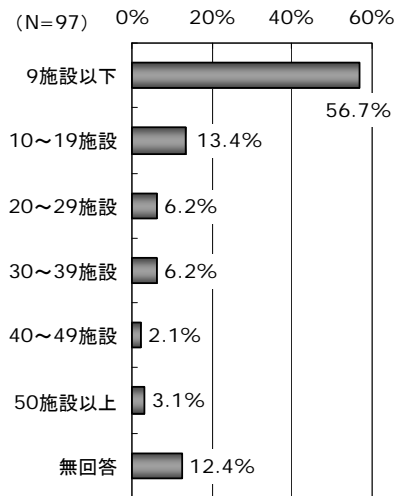
【通所リハビリテーション事業所】

平均 14.4 事業所



【介護保険施設】

平均 11.9 施設



(6) 職員体制の状況

職員体制についてみると、1施設当たり 224.8 人（常勤 198.4 人、非常勤 26.4 人（常勤換算））であった。

また、平日・土曜日・日曜日における医療保険によるリハビリテーションに係る業務の専任・専従職員の出勤状況についてみると、土曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 45.8%、日曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 15.8%であった。

図表 2-3-27 1施設当たり職員数（常勤換算人数）

	常 勤	非常勤 (常勤換算)	合 計
医 師	29.5 人	9.9 人	39.4 人
【再掲】日本リハビリテーション医学会認定臨床医	0.1 人	0.0 人	0.1 人
【再掲】日本リハビリテーション医学会専門医	0.2 人	0.0 人	0.2 人
【再掲】リハビリテーション科の医師	0.7 人	0.1 人	0.8 人
看 護 師	116.0 人	7.5 人	123.4 人
准 看 護 師	13.3 人	2.9 人	16.1 人
看護補助者	21.6 人	5.3 人	26.9 人
薬 剤 師	6.4 人	0.5 人	6.9 人
理学療法士	5.5 人	0.2 人	5.7 人
作業療法士	2.6 人	0.0 人	2.7 人
言語聴覚士	1.1 人	0.1 人	1.2 人
臨床心理士	0.2 人	0.1 人	0.3 人
義肢装具士	0.0 人	0.0 人	0.0 人
柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	0.3 人	0.0 人	0.3 人
ソーシャルワーカー	1.7 人	0.0 人	1.8 人
【再掲】社会福祉士	1.2 人	0.0 人	1.2 人
合 計	198.4 人	26.4 人	224.8 人
施設数	148 件		

※職員数の回答があった 148 施設について集計

図表 2-3-28 1 施設当たり平日・土曜日・日曜日における
医療保険によるリハビリテーションに係る業務の専任・専従職員の出勤状況

			常 勤	非常勤 (実人数)	合 計
平 日	医 師	専 任	3.4 人	0.2 人	3.5 人
	看 護 師	専 従	0.9 人	0.1 人	0.9 人
	准 看 護 師	専 従	0.2 人	0.0 人	0.2 人
	理学療法士	専 従	4.6 人	0.1 人	4.7 人
	作業療法士	専 従	1.9 人	0.0 人	1.9 人
	言語聴覚士	専 従	0.9 人	0.1 人	1.0 人
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.2 人	0.0 人	0.3 人
	合 計			12.1 人	0.4 人
土曜日	医 師	専 任	1.4 人 (42.5%)	0.1 人 (45.5%)	1.5 人 (42.6%)
	看 護 師	専 従	0.6 人 (71.0%)	0.1 人 (114.3%)	0.7 人 (73.3%)
	准 看 護 師	専 従	0.1 人 (87.0%)	0.1 人 (180.0%)	0.2 人 (103.6%)
	理学療法士	専 従	2.1 人 (44.8%)	0.1 人 (70.0%)	2.1 人 (45.2%)
	作業療法士	専 従	0.8 人 (42.6%)	0.0 人 (0.0%)	0.8 人 (42.2%)
	言語聴覚士	専 従	0.3 人 (28.6%)	0.0 人 (14.3%)	0.3 人 (27.8%)
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.1 人 (52.9%)	0.0 人 (0.0%)	0.1 人 (50.0%)
	合 計			5.5 人 (45.3%)	0.3 人 (62.5%)
日曜日	医 師	専 任	0.5 人 (15.0%)	0.0 人 (27.3%)	0.6 人 (15.6%)
	看 護 師	専 従	0.6 人 (66.9%)	0.0 人 (28.6%)	0.6 人 (64.9%)
	准 看 護 師	専 従	0.1 人 (82.6%)	0.0 人 (60.0%)	0.2 人 (78.6%)
	理学療法士	専 従	0.4 人 (7.9%)	0.0 人 (0.0%)	0.4 人 (7.7%)
	作業療法士	専 従	0.2 人 (9.8%)	0.0 人 (0.0%)	0.2 人 (9.7%)
	言語聴覚士	専 従	0.1 人 (5.6%)	0.0 人 (0.0%)	0.1 人 (5.3%)
	柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	0.1 人 (20.6%)	0.0 人 (0.0%)	0.1 人 (19.4%)
	合 計			1.9 人 (15.7%)	0.1 人 (19.6%)
施設数			138 件		

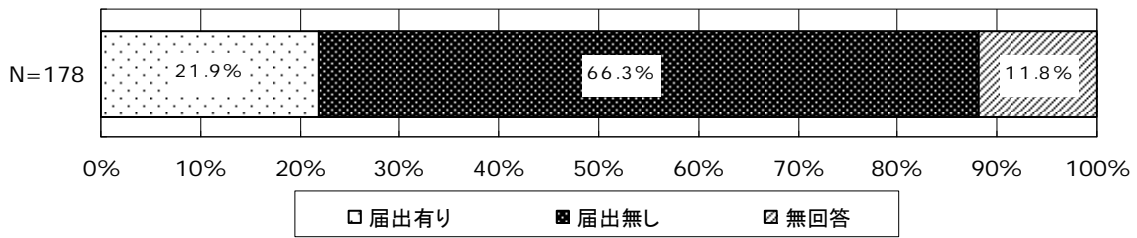
※平日、土曜日、日曜日に出勤した、医療保険によるリハビリテーションに係る業務に専任、専従している職員数の回答があった 138 施設について集計。土曜日、日曜日の下段の（ ）内の数値は平日に対する割合。

(7) 地域連携クリティカルパスの導入状況

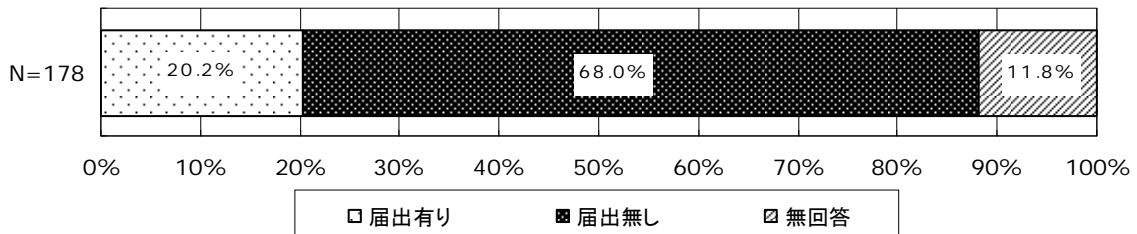
地域連携診療計画管理料の届出状況についてみると、「届出無し」66.3%、「届出有り」21.9%であった。また、地域連携診療計画退院時指導料の届出状況についてみると、「届出無し」68.0%、「届出有り」20.2%であった。

なお、大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平成21年度と平成22年度の平均在院日数をみると、大腿骨頸部骨折は54.8日、49.9日であり、脳卒中は49.6日、61.3日であった。

図表 2-3-29 地域連携診療計画管理料の届出状況



図表 2-3-30 地域連携診療計画退院時指導料の届出状況



図表 2-3-31 大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平均在院日数

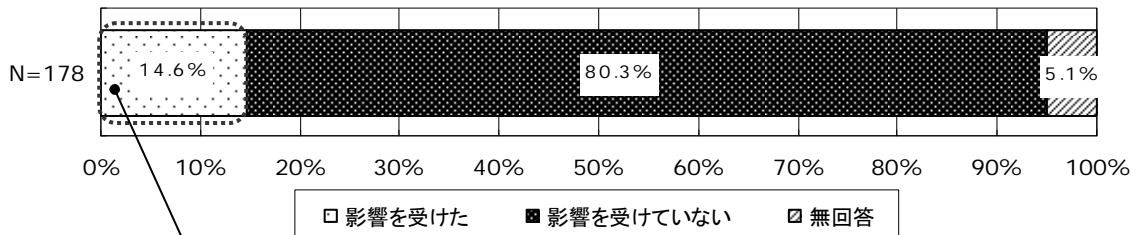
	施設数	H21 年度	H22 年度
大腿骨頸部骨折の入院患者の平均在院日数	39 件	54.8 日	49.9 日
【再掲】地域連携診療計画管理料の算定患者	17 件	27.1 日	28.2 日
【再掲】地域連携診療計画退院時指導料の算定患者	7 件	59.5 日	39.2 日
脳卒中の入院患者の平均在院日数	37 件	49.6 日	61.3 日
【再掲】地域連携診療計画管理料の算定患者	14 件	28.5 日	31.4 日
【再掲】地域連携診療計画退院時指導料の算定患者	6 件	53.8 日	68.0 日

※平成21年度、平成22年度の平均在院日数の回答があった施設について集計

(8) 東日本大震災による影響

東日本大震災による影響についてみると、「影響を受けていない」80.3%、「影響を受けた」14.6%であった。また、「影響を受けた」と回答のあった施設にその内容を尋ねたところ、「外来患者が減少した」34.6%が最も多く、次いで「入院患者が減少した」26.9%などとなっていた。

図表 2-3-32 東日本大震災による影響の有無



図表 2-3-33 東日本大震災による影響の内容【複数回答】

	施設数	割合
外来患者が減少した	9件	34.6%
入院患者が減少した	7件	26.9%
入院患者が増加した	6件	23.1%
外来患者が増加した	6件	23.1%
入院患者の平均在院日数が短くなった	6件	23.1%
入院患者の増減により、リハビリの人員体制が厚くなった	4件	15.4%
人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が増加した	4件	15.4%
入院患者の増減により、リハビリの人員体制が薄くなった	3件	11.5%
人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が減少した	3件	11.5%
入院患者の平均在院日数が長くなった	1件	3.8%
その他	10件	38.5%
総数	26件	

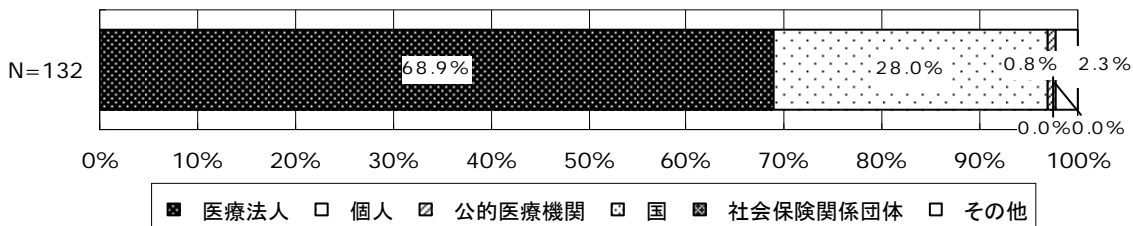
4. 疾患別リハビリテーション料の届出診療所の概況

(1) 回答診療所の概況

① 開設主体

疾患別リハビリテーション料の届出診療所の開設者についてみると「医療法人」68.9%が最も多く、次いで「個人」28.0%などとなっていた。

図表 2-4-1 開設主体



② 併設施設・事業所

併設施設・事業所についてみると「通所リハビリテーション事業所」26.5%が最も多く、次いで「居宅介護支援事業所」15.9%、「訪問リハビリテーション事業所」10.6%などとなっていた。

図表 2-4-2 併設施設・事業所【複数回答】

	施設数	割合
通所リハビリテーション事業所	35件	26.5%
居宅介護支援事業所	21件	15.9%
訪問リハビリテーション事業所	14件	10.6%
通所介護事業所	9件	6.8%
訪問介護事業所	7件	5.3%
介護老人保健施設	6件	4.5%
認知症対応型共同生活介護事業所	5件	3.8%
短期入所生活介護事業所	4件	3.0%
短期入所療養介護事業所	4件	3.0%
訪問看護事業所（訪問看護ステーション以外）	3件	2.3%
訪問看護ステーション	3件	2.3%
介護老人福祉施設	2件	1.5%
特定施設入居者生活介護事業所	2件	1.5%
小規模多機能型居宅介護事業所	1件	0.8%
訪問入浴介護事業所	0件	0.0%
総数	132件	

③ 届出しているリハビリテーション料

届出しているリハビリテーション料についてみると「運動器リハビリテーション料（Ⅱ）」58.3%が最も多く、次いで「運動器リハビリテーション料（Ⅲ）」40.9%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）」36.4%などとなっていた。

図表 2-4-3 届出しているリハビリテーション料【複数回答】

	施設数	割合
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	0 件	0.0%
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅱ）	0 件	0.0%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	5 件	3.8%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）	6 件	4.5%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）	48 件	36.4%
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	11 件	8.3%
運動器リハビリテーション料（Ⅱ）	77 件	58.3%
運動器リハビリテーション料（Ⅲ）	54 件	40.9%
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	4 件	3.0%
呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）	7 件	5.3%
難病患者リハビリテーション料	1 件	0.8%
障害児（者）リハビリテーション料	2 件	1.5%
がん患者リハビリテーション料	0 件	0.0%
集団コミュニケーション療法料	0 件	0.0%
無回答	1 件	0.8%
総 数	132 件	

(2) 入院患者の概況

① 診療所の種類

診療所の種類についてみると「無床診療所」76.5%、「有床診療所」23.5%であった。

図表 2-4-4 診療所の種類

	施設数	割合
有床診療所	31 件	23.5%
無床診療所	101 件	76.5%
合計	132 件	100.0%

② 疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者の状況

平成 23 年 6 月に疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」27.6%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」21.9%、「運動器リハビリテーション料」4.9%であった。

図表 2-4-5 1 施設当たり入院延べ患者数 (H23.6)

	施設数	入院患者延べ数	割合
心大血管疾患リハビリテーション料	0 件	-	-
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		-	-
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	18 件	79.7 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		22.0 人	27.6%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	16 件	21.4 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		4.7 人	21.9%
運動器リハビリテーション料	26 件	213.1 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		10.4 人	4.9%
呼吸器リハビリテーション料	4 件	0 人	-
【再掲】標準的算定日数を超えて算定		0 人	-

※各疾患別リハビリテーション料の届出施設のうち、入院患者延べ数の回答があった施設について集計

図表 2-4-6 平均在院日数 (H21.6・H23.6)

	施設数	H21.6	H23.6
心大血管疾患リハビリテーション料	0 件	-	-
脳血管疾患等リハビリテーション料	4 件	83.3 日	40.0 日
【再掲】廃用症候群以外			20.1 日
【再掲】廃用症候群			20.0 日
運動器リハビリテーション料	20 件	32.6 日	41.7 日
呼吸器リハビリテーション料	0 件	-	-

※各疾患別リハビリテーション料等の届出施設のうち、平成 21 年 6 月、平成 23 年 6 月の平均在院日数の回答があった施設について集計

平成 21 年 6 月 1 日時点、平成 23 年 6 月 1 日時点で疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「脳血管疾患等リハビリテーション料」6.3%、4.7%、「運動器リハビリテーション料」4.6%、7.4%であった。

図表 2-4-7 標準的算定日数を超えた算定患者の割合 (H21.6.1、H23.6.1)

	施設数	H21.6	H23.6
心大血管疾患リハビリテーション料	0 件	-	-
脳血管疾患等リハビリテーション料	13 件	6.3%	4.7%
【再掲】廃用症候群以外			7.5%
【再掲】廃用症候群			0.0%
運動器リハビリテーション料	22 件	4.6%	7.4%
呼吸器リハビリテーション料	5 件	-	-

※各疾患別リハビリテーション料等の届出施設のうち、平成 21 年 6 月 1 日、平成 23 年 6 月 1 日の標準的算定日数を超えた算定患者の割合の回答があった施設について集計

(3) 疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者の概況

平成 23 年 6 月に疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合、そのうち要介護認定を受けている患者の割合についてみると、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」71.5%、39.7%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」84.7%、27.4%、「運動器リハビリテーション料」20.8%、6.4%であった。

図表 2-4-8 1 施設当たり外来延べ患者数 (H23.6)

	施設数	1 施設当たり 外来患者 延べ数	割 合
心大血管疾患リハビリテーション料		-	-
【再掲】標準的算定日数を超えて算定	0 件	-	-
【再々掲】要介護認定を受けている患者		-	-
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）		141.6 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定	36 件	101.3 人	71.5%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		56.3 人	39.7%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）		21.4 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定	32 件	18.2 人	84.7%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		5.9 人	27.4%
運動器リハビリテーション料		626.4 人	100.0%
【再掲】標準的算定日数を超えて算定	76 件	130.2 人	20.8%
【再々掲】要介護認定を受けている患者		39.9 人	6.4%
呼吸器リハビリテーション料		-	-
【再掲】標準的算定日数を超えて算定	0 件	-	-
【再々掲】要介護認定を受けている患者		-	-

※各疾患別リハビリテーション料の届出施設のうち、外来患者延べ数の回答があった施設について集計

(4) 通所リハビリテーションの実施状況

① 通所リハビリテーション実施施設の状況

通所リハビリテーションの実施状況についてみると、「実施していない」66.7%、「実施している」25.0%であった。

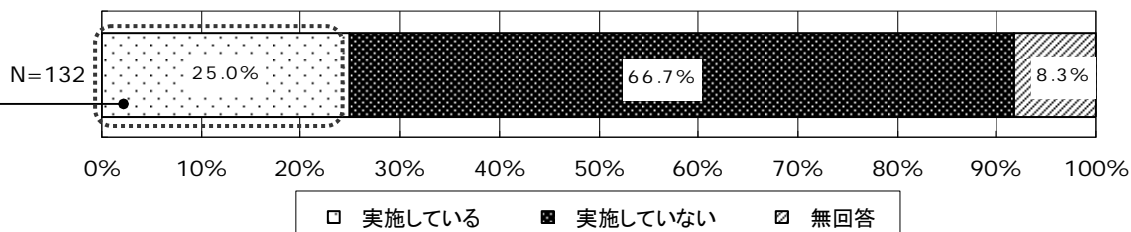
通所リハビリテーションの実施施設について、平成23年6月における実施日数をみると、「26日」33.3%、「20日以内」27.3%、「22日」24.2%などとなっており、平均20.8日であった。また、1施設当たりの利用者延べ人数をみると1施設当たり473.9人であった。なお、「1時間以上2時間未満」の利用者延べ数は30.4人（6.4%）であった。

また、通所リハビリテーションに従事する1施設当たり職員数は専従5.2人、専任5.9人であった。

機能訓練室の状況については「医療保険と介護保険で1つの機能訓練室を利用」60.6%、「医療保険と介護保険で別の機能訓練室を利用」36.4%であった。

利用者の送迎状況については「実施している」81.8%、「実施していない」12.1%であった。

図表 2-4-9 通所リハビリテーションの実施状況



図表 2-4-10 実施日数 (H23.6)

	施設数	割合
20 日以内	9 件	27.3%
21 日	3 件	9.1%
22 日	8 件	24.2%
23 日	0 件	0.0%
24 日	0 件	0.0%
25 日	1 件	3.0%
26 日	11 件	33.3%
27 日	0 件	0.0%
28 日	0 件	0.0%
29 日	0 件	0.0%
30 日	1 件	3.0%
合計	33 件	100.0%
平均	20.8 日	

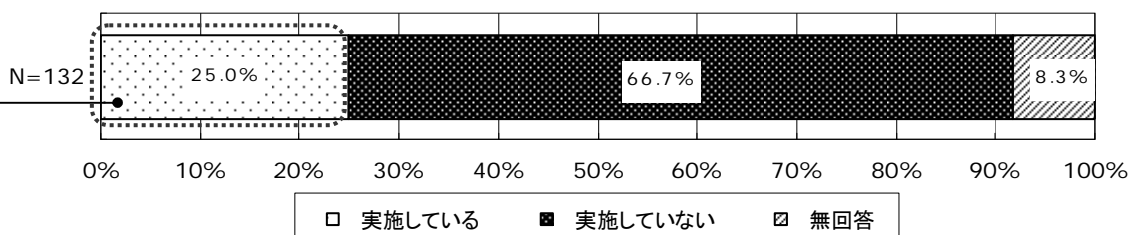
図表 2-4-11 1 施設当たり利用者延べ人数 (H23.6)

	延べ人数	割合
1 時間以上 2 時間未満	30.4 人	6.4%
2 時間以上 3 時間未満	25.6 人	5.4%
3 時間以上 4 時間未満	33.6 人	7.1%
4 時間以上 6 時間未満	54.3 人	11.5%
6 時間以上 8 時間未満	330.0 人	69.6%
合計	473.9 人	100.0%
施設数	29 件	

※ 1. 通所リハビリテーションの実施施設のうち、介護保険における通所リハビリテーション費を算定した利用者延べ数の回答があった 29 件について集計

※ 2. 1 時間以上 2 時間未満の通所リハビリテーションを実施している施設は 11 施設

図表 2-4-9 通所リハビリテーションの実施状況【再掲】

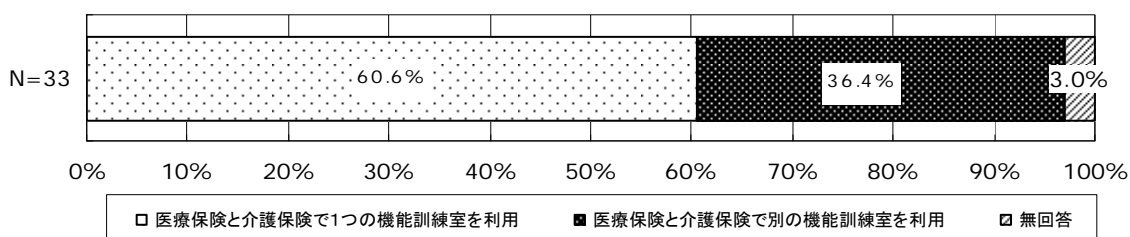


図表 2-4-12 通所リハビリテーションに従事する1施設当たり職員数（実人数）

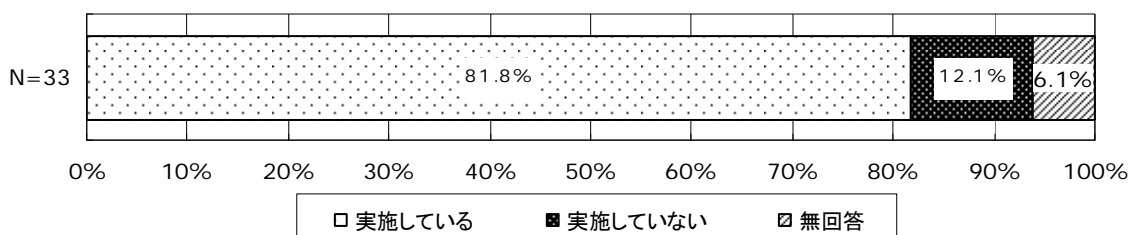
	専 従	専 任
医 師	0.3 人	1.1 人
看 護 師	0.4 人	1.0 人
准 看 護 師	0.3 人	0.2 人
理学療法士	0.7 人	1.2 人
作業療法士	0.3 人	0.4 人
言語聴覚士	0.2 人	0.1 人
その他の職種	3.0 人	1.9 人
合 計	5.2 人	5.9 人
施設数	23 件	

※通所リハビリテーションの実施設のうち、担当部署に従事する職員数の回答があった23施設について集計

図表 2-4-13 機能訓練室の状況



図表 2-4-14 利用者の送迎の実施状況

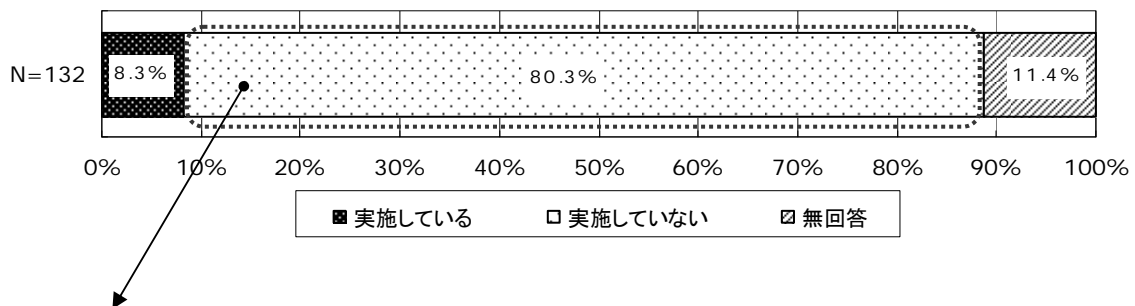


② 通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設の状況

また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況についてみると、「実施していない」80.3%、「実施している」8.3%であった。

さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して実施していない理由を尋ねたところ、「通所リハビリに専従する人員を確保できない」50.9%が最も多く、次いで「利用者の送迎体制を整えることが困難」50.0%、「通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる」45.3%などとなっていた。

図表 2-4-15 通所リハビリ（1時間以上2時間未満）の実施状況

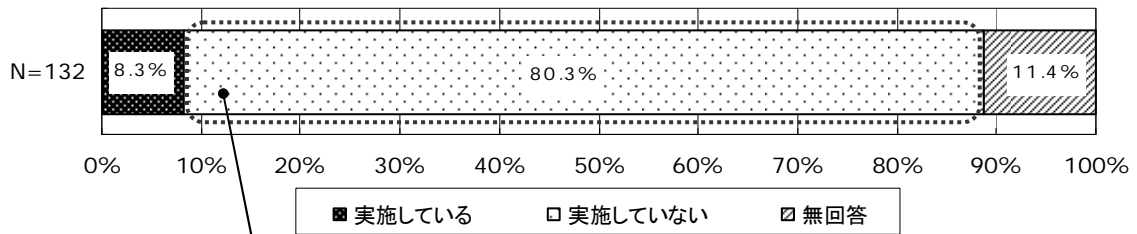


図表 2-4-16 通所リハビリ（1時間以上2時間未満）を実施していない理由【複数回答】

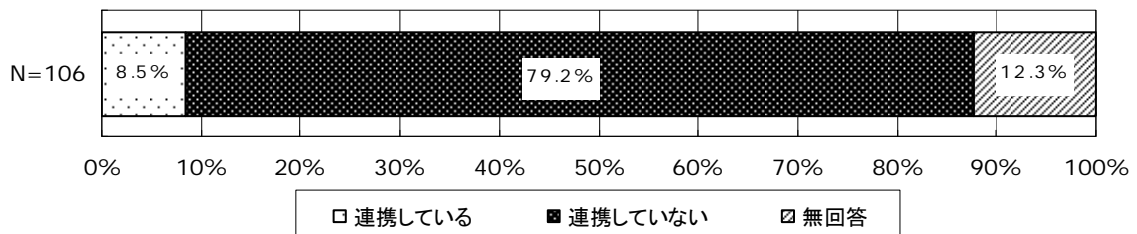
	施設数	割合
通所リハビリに専従する人員を確保できない	54 件	50.9%
利用者の送迎体制を整えることが困難	53 件	50.0%
通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる	48 件	45.3%
外来の医師の負担が重くなる	28 件	26.4%
介護報酬の請求事務の負担が大きい	24 件	22.6%
ケアマネジャーとの連携をとることが負担である	20 件	18.9%
維持期のリハビリは現行の13単位の使い勝手がよい	19 件	17.9%
通所リハビリの報酬では採算がとれない	17 件	16.0%
患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きい	15 件	14.2%
1時間以上2時間未満の制度が新設されたことを知らなかった	6 件	5.7%
患者にとって、要介護認定の申請が負担である	4 件	3.8%
その他	14 件	13.2%
無回答	13 件	12.3%
総 数	106 件	

また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携していない」79.2%、「連携している」8.5%となっていた。

図表 2-4-15 通所リハビリ（1時間以上2時間未満）の実施状況【再掲】



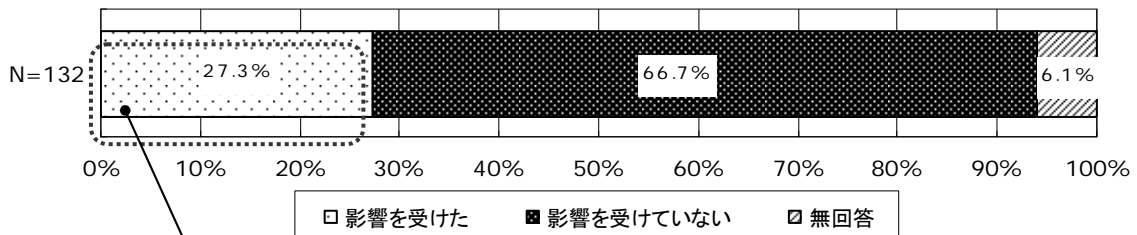
図表 2-4-17 外部の介護サービス事業者との連携状況



(5) 東日本大震災による影響

東日本大震災による影響についてみると、「影響を受けていない」66.7%、「影響を受けた」27.3%であった。また、「影響を受けた」と回答のあった施設にその内容を尋ねたところ、「外来患者が減少した」97.2%が最も多かった。

図表 2-4-18 東日本大震災による影響の有無



図表 2-4-19 東日本大震災による影響の内容【複数回答】

	施設数	割合
外来患者が減少した	35 件	97.2%
人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が減少した	5 件	13.9%
入院患者が減少した	2 件	5.6%
入院患者の平均在院日数が長くなった	1 件	2.8%
入院患者の増減により、リハビリの人員体制が薄くなった	1 件	2.8%
入院患者が増加した	0 件	0.0%
外来患者が増加した	0 件	0.0%
入院患者の平均在院日数が短くなった	0 件	0.0%
入院患者の増減により、リハビリの人員体制が厚くなった	0 件	0.0%
人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が増加した	0 件	0.0%
その他	2 件	5.6%
総 数	36 件	

5. 疾患別リハビリテーションの外来患者の概況

(1) 外来患者の基本的事項

① 性別・年齢

平成23年8月31日に疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者について、性別・年齢をみると、「男性」46.3%、「女性」53.5%、平均年齢60.5歳であった。

図表 2-5-1 性別

	患者数	割合
男 性	7,969 人	46.3%
女 性	9,217 人	53.5%
無回答	39 人	0.2%
合 計	17,225 人	100.0%

図表 2-5-2 年齢

	患者数	割合
40 歳未満	2,797 人	16.2%
40 歳以上 49 歳以下	1,202 人	7.0%
50 歳以上 59 歳以下	2,019 人	11.7%
60 歳以上 64 歳以下	1,840 人	10.7%
65 歳以上 69 歳以下	1,785 人	10.4%
70 歳以上 74 歳以下	2,319 人	13.5%
75 歳以上 79 歳以下	2,431 人	14.1%
80 歳以上 84 歳以下	1,768 人	10.3%
85 歳以上 89 歳以下	755 人	4.4%
90 歳以上	192 人	1.1%
無回答	117 人	0.7%
合 計	17,225 人	100.0%
平 均	60.5 歳	

② 要介護度

要介護度についてみると、「介護保険の対象外」33.8%が最も多く、次いで「非該当・未申請」32.0%などとなっていた。

図表 2-5-3 要介護度

	患者数	割合
介護保険の対象外	5,824	33.8%
非該当・未申請	5,510	32.0%
要支援1	275	1.6%
要支援2	349	2.0%
要介護1	275	1.6%
要介護2	375	2.2%
要介護3	192	1.1%
要介護4	128	0.7%
要介護5	60	0.3%
無回答	4,237	24.6%
合計	17,225	100.0%

③ 今回の受診時に算定したリハビリテーション料

今回の受診時に算定したリハビリテーション料は「運動器リハビリテーション料」72.5%が最も多く、次いで「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」24.5%などとなっていた。また、標準算定日数の状況を見ると、「前月中は標準算定日数以内であった」50.0%が最も多く、次いで「前月当初から標準算定日数を超えていた」32.4%などとなっていた。

図表 2-5-4 算定したリハビリテーション料

	患者数	割合
心大血管疾患リハビリテーション料	126人	0.7%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	4,227人	24.5%
脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	219人	1.3%
運動器リハビリテーション料	12,483人	72.5%
呼吸器リハビリテーション料	88人	0.5%
障害児（者）リハビリテーション料	82人	0.5%
合計	17,225人	100.0%

図表 2-5-5 標準算定日数の状況

	患者数	割合
前月中は標準算定日数以内であった	8,607人	50.0%
前月途中に標準算定日数を超えた	436人	2.5%
前月当初から標準算定日数を超えていた	5,577人	32.4%
無回答	2,605人	15.1%
合計	17,225人	100.0%

(2) 医学的観点から見た診察の必要が生ずる頻度

医学的観点から見た診察の必要が生ずる頻度についてみると、「月に1回程度の医師による診察でよい」64.5%が最も多く、次いで「週に1回、必ず医師による診察が必要」16.1%、「毎回必ず医師による診察が必要」8.5%などとなっていた。

図表 2-5-6 医学的観点から見た診察の必要が生ずる頻度

	患者数	割合
毎回必ず医師による診察が必要	1,456人	8.5%
週に1回、必ず医師による診察が必要	2,768人	16.1%
月に1回程度の医師による診察でよい	11,115人	64.5%
その他	1,349人	7.8%
無回答	537人	3.1%
合計	17,225人	100.0%

(3) リハビリテーション料の標準算定日数を超えている場合の状況

標準算定日数の状況として「前月途中で標準算定日数を超えた」及び「前月当初から標準算定日数を超えていた」患者について、その状態についてみると、「治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される」48.7%、「治療を継続することにより状態の維持が期待できると医学的に判断される」45.2%となっていた。

さらに、「治療を継続することにより状態の維持が期待できると医学的に判断される」と回答のあった患者について、介護保険によるリハビリテーションを利用しない理由についてみると、「維持期のリハビリは現行の13単位内で提供できるから」61.0%が最も多く、次いで「患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから」28.2%、「通所リハビリでは個別リハビリが受けられないから」17.9%などとなっていた。

図表 2-5-5 標準算定日数の状況【再掲】

	患者数	割合
前月中は標準算定日数以内であった	8,607人	50.0%
前月途中で標準算定日数を超えた	436人	2.5%
前月当初から標準算定日数を超えていた	5,577人	32.4%
無回答	2,605人	15.1%
合計	17,225人	100.0%

→ 図表 2-5-7 標準算定日数を超えていた患者の状況

	患者数	割合
治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される	2,926人	48.7%
治療を継続することにより状態の維持が期待できると医学的に判断される	2,720人	45.2%
無回答	367人	6.1%
合計	6,013人	100.0%

→ 図表 2-5-8 介護保険によるリハビリテーションを利用しない理由【複数回答】

	患者数	割合
維持期のリハビリは現行の13単位内で提供できるから	1,659人	61.0%
患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから	766人	28.2%
通所リハビリでは個別リハビリが受けられないから	486人	17.9%
通所リハビリではリハビリの質が不明であるから	401人	14.7%
自院・近隣で通所リハビリを提供していないから	141人	5.2%
患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから	58人	2.1%
現在、通院に当たり、訪問介護による送迎を利用しているから	32人	1.2%
ケアマネジャーと連携が取れず、ケアプランにリハビリテーションが含まれていないから	28人	1.0%
その他	603人	22.2%
無回答	53人	1.9%
総数	2,720人	

また、1カ月当たりの診療回数ごと、診療1回当たりのリハビリテーションの実施単位数ごとに理学療法、作業療法、言語療法の実施状況をみたものが図表 2-5-9～2-5-12 である。

図表 2-5-9 1カ月当たり診療回数の状況
【標準算定日数を月途中に超えた患者】

1月当たり診療回数	合 計	各療法を実施された人数		
		理学療法	作業療法	言語療法
1回	4人	4人	0人	0人
2回	3人	3人	0人	0人
3回	3人	2人	1人	0人
4回	12人	11人	1人	2人
5回	10人	6人	5人	1人
6回	3人	3人	0人	0人
7回	5人	4人	3人	1人
8回以上	38人	31人	16人	6人
合 計	78人	64人	26人	10人
平均診察回数	9.6回/月			

※有効回答のあった78人で集計

【標準算定日数を月当初に超えた患者】

1カ月当たり診療回数	合 計	各療法を実施された人数		
		理学療法	作業療法	言語療法
1回	81人	63人	18人	10人
2回	163人	143人	29人	15人
3回	180人	159人	52人	12人
4回	449人	391人	136人	45人
5回	295人	254人	84人	41人
6回	98人	81人	34人	12人
7回	95人	84人	31人	16人
8回以上	578人	537人	172人	51人
合 計	1,939人	1,712人	556人	202人
平均診察回数	6.0回/月			

※有効回答のあった1,939人で集計

図表 2-5-10 1 カ月当たり診療回数の状況（要介護認定者のみ）

【標準算定日数を月途中に超えた患者】

1 月当たり診療回数	合 計	各療法を実施された人数		
		理学療法	作業療法	言語療法
1 回	1 人	1 人	0 人	0 人
2 回	0 人	0 人	0 人	0 人
3 回	0 人	0 人	0 人	0 人
4 回	1 人	1 人	0 人	0 人
5 回	1 人	1 人	1 人	0 人
6 回	1 人	1 人	0 人	0 人
7 回	1 人	0 人	1 人	1 人
8 回以上	8 人	5 人	7 人	5 人
合 計	13 人	9 人	9 人	6 人
平均診察回数	11.8 回/月			

※有効回答のあった 13 人で集計

【標準算定日数を月当初に超えた患者】

1 カ月当たり診療回数	合 計	各療法を実施された人数		
		理学療法	作業療法	言語療法
1 回	8 人	6 人	3 人	1 人
2 回	23 人	18 人	8 人	3 人
3 回	18 人	17 人	7 人	1 人
4 回	69 人	61 人	32 人	10 人
5 回	35 人	34 人	14 人	5 人
6 回	12 人	11 人	4 人	1 人
7 回	17 人	14 人	7 人	6 人
8 回以上	92 人	85 人	36 人	17 人
合 計	274 人	246 人	111 人	44 人
平均診察回数	6.4 回			

※有効回答のあった 274 人で集計

図表 2-5-11 1日当たりリハビリテーション実施単位数の状況

【標準算定日数を月途中に超えた患者】

1日当たり実施単位数	合 計	各療法を実施された人数		
		理学療法	作業療法	言語療法
		1 単位	24 人	21 人
2 単位超 2 単位未満	14 人	11 人	6 人	2 人
3 単位以上 3 単位未満	18 人	13 人	6 人	4 人
4 単位以上 4 単位未満	9 人	6 人	6 人	1 人
5 単位以上 5 単位未満	5 人	5 人	3 人	1 人
5 単位以上 6 単位未満	1 人	1 人	0 人	0 人
6 単位以上	7 人	7 人	2 人	2 人
合 計	78 人	64 人	26 人	10 人
【再掲】診療 4 回/月、リハ 2 単位/日	5 人	4 人	0 人	1 人

※有効回答のあった 78 人で集計

【標準算定日数を月当初に超えた患者】

1日当たり実施単位数	合 計	各療法を実施された人数		
		理学療法	作業療法	言語療法
		1 単位	888 人	815 人
2 単位超 2 単位未満	338 人	298 人	110 人	30 人
3 単位以上 3 単位未満	497 人	412 人	193 人	88 人
4 単位以上 4 単位未満	128 人	108 人	74 人	37 人
5 単位以上 5 単位未満	57 人	52 人	33 人	22 人
5 単位以上 6 単位未満	10 人	10 人	7 人	6 人
6 単位以上	21 人	17 人	12 人	7 人
合 計	1,939 人	1,712 人	556 人	202 人
【再掲】診療 4 回/月、リハ 2 単位/日	137 人	111 人	49 人	17 人

※有効回答のあった 1,939 人で集計

図表 2-5-12 1日当たりリハビリテーション実施単位数の状況（要介護認定者のみ）

【標準算定日数を月途中に超えた患者】

1日当たり実施単位数	合 計	各療法を実施された人数		
		理学療法	作業療法	言語療法
1 単位	3 人	2 人	1 人	0 人
2 単位超 2 単位未満	1 人	1 人	0 人	1 人
3 単位以上 3 単位未満	2 人	1 人	2 人	2 人
4 単位以上 4 単位未満	4 人	2 人	3 人	0 人
5 単位以上 5 単位未満	1 人	1 人	1 人	1 人
5 単位以上 6 単位未満	0 人	0 人	0 人	0 人
6 単位以上	2 人	2 人	2 人	2 人
合 計	13 人	9 人	9 人	6 人
【再掲】診療 4 回/月、リハ 2 単位/日	0 人	0 人	0 人	0 人

※有効回答のあった 13 人で集計

【標準算定日数を月当初に超えた患者】

1日当たり実施単位数	合 計	各療法を実施された人数		
		理学療法	作業療法	言語療法
1 単位	93 人	85 人	18 人	2 人
2 単位超 2 単位未満	47 人	44 人	15 人	6 人
3 単位以上 3 単位未満	74 人	62 人	39 人	16 人
4 単位以上 4 単位未満	41 人	38 人	25 人	9 人
5 単位以上 5 単位未満	10 人	10 人	7 人	5 人
5 単位以上 6 単位未満	3 人	3 人	2 人	2 人
6 単位以上	6 人	4 人	5 人	4 人
合 計	274 人	246 人	111 人	44 人
【再掲】診療 4 回/月、リハ 2 単位/日	23 人	17 人	11 人	4 人

※有効回答のあった 274 人で集計

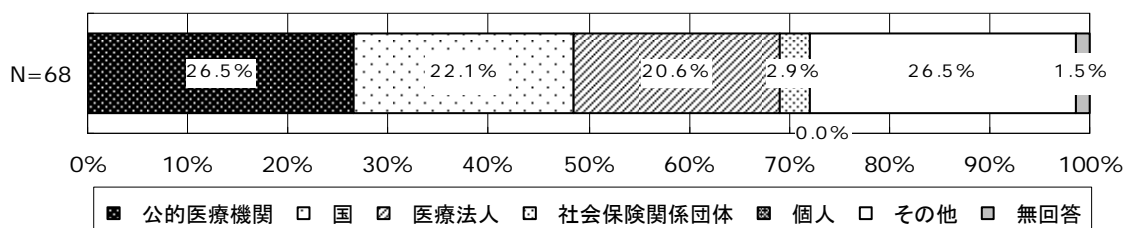
6. がん患者リハビリテーション料の届出病院の概況

(1) 回答病院の概況

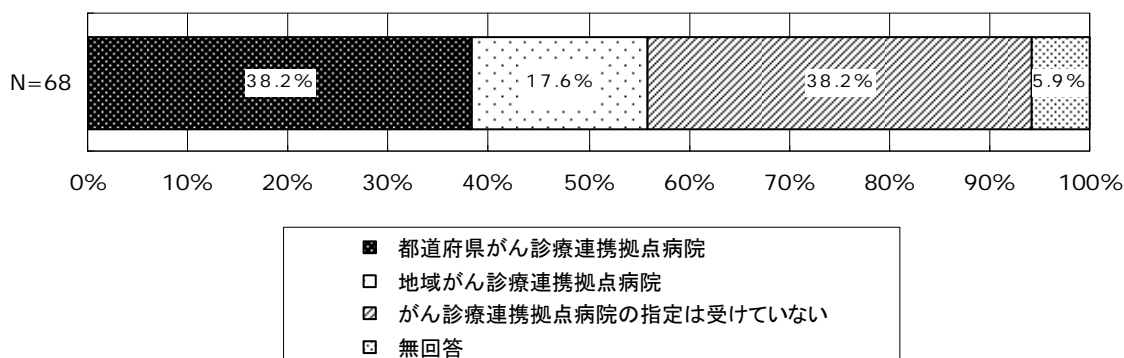
がん患者リハビリテーション料の届出病院の開設者についてみると「公的医療機関」と「その他」が26.5%で最も多く、次いで「国」22.1%、「医療法人」20.6%などとなっていた。

また、がん診療連携拠点病院の指定状況についてみると、「都道府県がん診療連携拠点病院」及び「がん診療連携拠点病院の指定は受けていない」が38.2%、「地域がん診療連携拠点病院」17.6%となっていた。

図表 2-6-1 開設主体



図表 2-6-2 がん診療連携拠点病院の指定状況



届出しているリハビリテーション料についてみると「呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）」97.1%が最も多く、次いで「運動器リハビリテーション料（Ⅰ）」86.8%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）」64.7%などとなっていた。

図表 2-6-3 届出しているリハビリテーション料【複数回答】

	施設数	割合
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	31 件	45.6%
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅱ）	1 件	1.5%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	44 件	64.7%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）	14 件	20.6%
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）	10 件	14.7%
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	59 件	86.8%
運動器リハビリテーション料（Ⅱ）	25 件	36.8%
運動器リハビリテーション料（Ⅲ）	0 件	0.0%
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	66 件	97.1%
呼吸器リハビリテーション料（Ⅱ）	0 件	0.0%
難病患者リハビリテーション料	0 件	0.0%
障害児（者）リハビリテーション料	1 件	1.5%
集団コミュニケーション療法料	19 件	27.9%
総 数	68 件	

平成 22 年度においてがん患者リハビリテーション料を算定した在院患者延べ数についてみると、「血液腫瘍により当該入院中に化学療法又は造血幹細胞移植を行った患者」36.6%が最も多く、次いで「原発性脳腫瘍又は転移性脳腫瘍の患者で当該入院中に手術又は放射線治療が施行された患者」29.6%、「食道がん・肺がん・縦隔腫瘍・胃がん、肝臓がん、胆嚢がん、膵臓がん、大腸がん」と診断され、入院中に閉鎖循環式麻酔により手術が施行された患者」14.9%などとなっていた。

図表 2-6-4 がん患者リハビリテーション料を算定した在院患者延べ数（H22 年度）

	在院患者延べ数	割合
食道がん・肺がん・縦隔腫瘍・胃がん、肝臓がん、胆嚢がん、膵臓がん、大腸がん」と診断され、入院中に閉鎖循環式麻酔により手術が施行された患者	15,400 人	14.9%
舌がん、口腔がん、咽頭がん、喉頭がん、その他頸部リンパ節郭清を必要とするがんにより入院し、当該入院中に放射線治療あるいは閉鎖循環式麻酔による手術が施行された患者	7,220 人	7.0%
乳がんに対し、腋窩リンパ節郭清を伴う悪性腫瘍手術が施行された患者	4,883 人	4.7%
骨軟部腫瘍又はがんの骨転移により当該入院中に患肢温存術又は切断術、創外固定又はピン固定等の固定術、化学療法もしくは放射線治療が施行された患者	7,503 人	7.3%
原発性脳腫瘍又は転移性脳腫瘍の患者で当該入院中に手術又は放射線治療が施行された患者	30,618 人	29.6%
血液腫瘍により当該入院中に化学療法又は造血幹細胞移植を行った患者	37,842 人	36.6%
合 計	103,466 人	100.0%

(2) 職種別にみた、がん患者に係るリハビリテーション計画作成への関与状況

職種別にみた、がん患者に係るリハビリテーション計画作成への関与状況についてみると、「必ず関与」との回答は医師 85.3%、理学療法士 76.5%、看護師 72.1%、作業療法士 44.1%、言語聴覚士 26.5%、准看護師 10.3%、社会福祉士 4.4%となっていた。

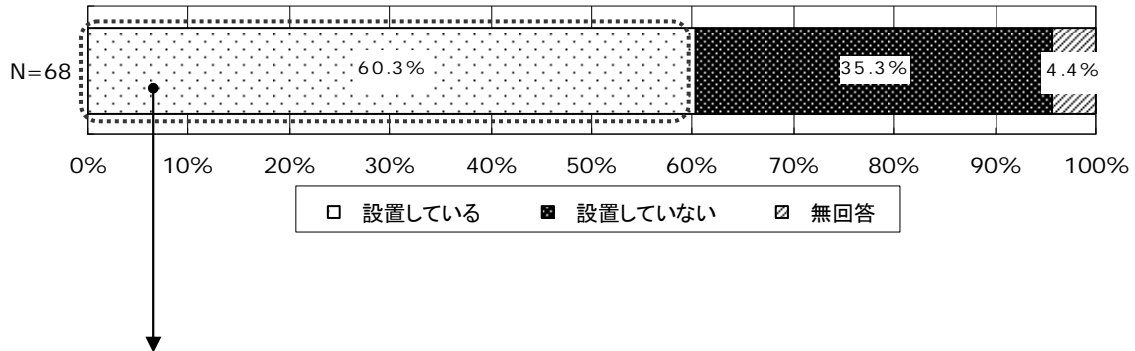
図表 2-6-5 職種別にみた、がん患者に係るリハビリテーション計画作成への関与状況

	施設数				割合			
	必ず関与	必要時間関与	関与なし	無回答	必ず関与	必要時間関与	関与なし	無回答
医師	58件	6件	1件	3件	85.3%	8.8%	1.5%	4.4%
看護師	49件	12件	4件	3件	72.1%	17.6%	5.9%	4.4%
准看護師	7件	9件	35件	17件	10.3%	13.2%	51.5%	25.0%
理学療法士	52件	13件	0件	3件	76.5%	19.1%	0.0%	4.4%
作業療法士	30件	17件	12件	9件	44.1%	25.0%	17.6%	13.2%
言語聴覚士	18件	29件	10件	11件	26.5%	42.6%	14.7%	16.2%
社会福祉士	3件	35件	21件	9件	4.4%	51.5%	30.9%	13.2%

(3) キャンサーボードの設置状況

キャンサーボードの設置状況についてみると、「設置している」60.3%、「設置していない」35.3%であった。また、設置施設に対してキャンサーボードの開催頻度を尋ねたところ、「月1～2回」46.3%、「週1回程度」34.1%などとなっていた。さらに、キャンサーボードへの参加職種については、「医師」及び「看護師」が100.0%であった。

図表 2-6-6 キャンサーボードの設置状況



図表 2-6-7 キャンサーボードの開催頻度

	施設数	割合
毎日	1件	2.4%
週2～3回程度	2件	4.9%
週1回程度	14件	34.1%
月1～2回	19件	46.3%
数カ月に1度	2件	4.9%
特に開催頻度を定めていない	2件	4.9%
無回答	1件	2.4%
合計	41件	100.0%

図表 2-6-8 キャンサーボード参加職種【複数回答】

	施設数	割合
医師	41件	100.0%
看護師	41件	100.0%
准看護師	4件	9.8%
理学療法士	22件	53.7%
作業療法士	16件	39.0%
言語聴覚士	15件	36.6%
社会福祉士	16件	39.0%
その他	28件	68.3%
総数	41件	

(4) がん患者リハビリテーション料の創設による改善点

がん患者リハビリテーション料の創設による改善点について尋ねたところ、「術前からリハビリテーションを提供できるようになった」50.0%が最も多く、次いで「スタッフのリハビリテーションに対する意識が向上した」48.5%、「化学療法等徐々に身体に変化がある場合でも早期介入が可能になった」45.6%などとなっていた。

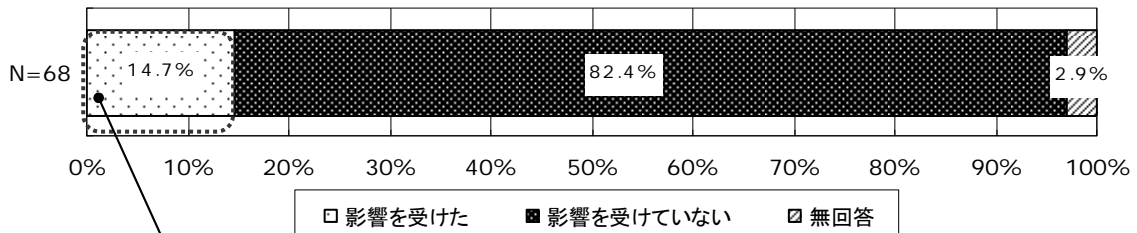
図表 2-6-9 がん患者リハビリテーション料の創設による改善点【複数回答】

	施設数	割合
術前からリハビリテーションを提供できるようになった	34 件	50.0%
スタッフのリハビリテーションに対する意識が向上した	33 件	48.5%
化学療法等徐々に身体に変化がある場合でも早期介入が可能になった	31 件	45.6%
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等のリハビリ関係職種の病棟の来棟頻度が増えた	24 件	35.3%
患者の状態像の早期回復が図られた	20 件	29.4%
バーセル指数やFIM等による評価を導入し、患者の状態像の把握ができた	12 件	17.6%
合併症が減少した	9 件	13.2%
転倒等のインシデントが減少した	3 件	4.4%
その他	7 件	10.3%
特に変化はない	14 件	20.6%
無回答	1 件	1.5%
総 数	68 件	

(5) 東日本大震災による影響

東日本大震災による影響についてみると、「影響を受けていない」82.4%、「影響を受けた」14.7%であった。また、「影響を受けた」と回答のあった施設にその内容を尋ねたところ、「外来患者が減少した」と「人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が増加した」が30.0%で最も多くなっていた。

図表 2-6-10 東日本大震災による影響の有無



図表 2-6-11 東日本大震災による影響の内容【複数回答】

	施設数	割合
外来患者が減少した	3件	30.0%
人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が増加した	3件	30.0%
入院患者の平均在院日数が長くなった	2件	20.0%
入院患者が増加した	2件	20.0%
人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が減少した	1件	10.0%
入院患者が減少した	1件	10.0%
入院患者の増減により、リハビリの人員体制が薄くなった	1件	10.0%
外来患者が増加した	1件	10.0%
入院患者の平均在院日数が短くなった	0件	0.0%
入院患者の増減により、リハビリの人員体制が厚くなった	0件	0.0%
その他	5件	50.0%
総数	10件	

Ⅲ. まとめ

1. 回復期リハビリテーション病棟を有する病院

- ・回復期リハビリテーション病棟を有する病院の開設者についてみると「医療法人」73.5%が最も多く、次いで「その他」14.2%、「公的医療機関」10.7%などとなっていた。
- ・併設施設・事業所についてみると「居宅介護支援事業所」52.4%が最も多く、次いで「通所リハビリテーション事業所」51.4%、「訪問看護ステーション」45.0%などとなっていた。
- ・届出しているリハビリテーション料についてみると「運動器リハビリテーション料（Ⅰ）」97.2%が最も多く、次いで「脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）」91.6%、「呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）」60.8%などとなっていた。
- ・平成21年6月と平成23年6月の診療報酬の算定状況についてみると、平成21年6月の「回復期リハビリテーション病棟入院料1」の算定病院は77.1%であったが、平成23年6月の「回復期リハビリテーション病棟入院料1」の算定病院は90.3%であった。
- ・また、「重症患者回復病棟加算」の算定病院は平成21年6月が64.9%、平成23年6月が85.0%であった。
- ・病院全体の許可病床数についてみると「100床以上149床以下」23.4%が最も多く、次いで「150床以上199床以下」22.1%、「50床以上99床以下」16.8%などとなっており、平均200.7床であった。
- ・また、病床種類別にみると、一般病床のうち回復期リハビリテーション病棟入院料の算定病床は平均23.1床（病床利用率88.3%）、療養病床のうちの回復期リハビリテーション病棟入院料の算定病床は平均35.2床（病床利用率90.4%）であった。
- ・平成23年6月に疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」2.9%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」15.1%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」5.8%、「運動器リハビリテーション料」3.8%、「呼吸器リハビリテーション料」5.9%であった。
- ・疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者の平成21年6月と平成23年6月の平均在院日数をみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」17.8日、28.9日、「脳血管疾患等リハビリテーション料」104.4日、100.1日、「運動器リハビリテーション料」72.9日、70.3日、「呼吸器リハビリテーション料」48.8日、47.4日であった。
- ・平成21年6月1日時点、平成23年6月1日時点に疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」0.0%、3.2%、「脳血管疾患等リハビリテーション料」10.7%、10.6%、「運動器リハビリテーション料」5.2%、3.4%、「呼吸器リハビリテーション料」7.8%、8.2%であった。
- ・疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者のうち、標準的算定日数を超えて算定し

ていた患者の割合、そのうち要介護認定を受けている患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」21.2%、4.5%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」41.6%、11.0%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」28.6%、9.9%、「運動器リハビリテーション料」20.4%、3.6%、「呼吸器リハビリテーション料」31.1%、4.7%であった。

- ・通所リハビリテーションの実施状況についてみると、「実施していない」59.3%、「実施している」38.9%であった。
- ・通所リハビリテーションの実施施設について、平成23年6月における実施日数をみると、「26日」54.2%、「22日」26.1%などとなっており、平均24.5日であった。また、1施設当たりの利用者延べ人数をみると1施設当たり624.1人であった。なお、「1時間以上2時間未満」の利用者延べ数は34.7人（5.6%）であった。
- ・また、通所リハビリテーションに従事する1施設当たり職員数は専従11.1人、専任5.8人であった。
- ・機能訓練室の状況については「医療保険と介護保険で別の機能訓練室を利用」66.0%、「医療保険と介護保険で1つの機能訓練室を利用」33.3%であった。
- ・利用者の送迎状況については「実施している」91.5%、「実施していない」8.5%であった。
- ・また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況についてみると、「実施していない」85.5%、「実施している」12.7%であった。
- ・さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して実施していない理由を尋ねたところ、「利用者の送迎体制を整えることが困難」45.8%が最も多く、次いで「通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる」38.1%、「通所リハビリに専従する人員を確保できない」34.5%などとなっていた。
- ・また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携していない」56.8%、「連携している」27.4%となっていた。さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している施設に対して、連携している外部の介護サービス事業者数を尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均23.3事業所、通所リハビリテーション事業所は平均5.3事業所であった。
- ・また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している事業所に対して、連携している外部のサービス事業者への紹介患者数（平成23年6月）について尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均5.0人、通所リハビリテーション事業所は平均1.8人であった。
- ・退院支援の実施状況についてみると、「実施している」93.6%、「実施していない」5.1%であった。また、実施施設のうち89.1%の施設で「（退院支援の担当部署）設置している」との回答であった。
- ・なお、退院支援の担当部署の従事する1施設当たり職員数は専従3.1人、専任1.7人であ

り、主な活動内容としては「退院後の居場所に関する調整」96.6%、「利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援」96.3%、「要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整」96.0%などとなっていた。

- ・また、退院支援の実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携している」80.7%、「連携していない」14.4%となっていた。さらに、退院支援の実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している施設に対して、連携している外部の介護サービス事業者数を尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均 29.7 事業所、通所リハビリテーション事業所は平均 30.4 事業所、介護保険施設は平均 19.1 施設であった。
- ・職員体制についてみると、1施設当たり 223.4 人（常勤 203.6 人、非常勤 19.9 人（常勤換算））であった。
- ・また、平日・土曜日・日曜日における医療保険によるリハビリテーションに係る業務の専任・専従職員の出勤状況についてみると、土曜日の出勤職員数（常勤換算）は平日の 70.4%、日曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 47.2%であった。
- ・なお、休日リハビリテーション提供体制加算の算定施設では、土曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 75.4%、日曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 54.5%であった。
- ・一方で、休日リハビリテーション提供体制加算の非算定施設では、土曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 56.5%、日曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 26.8%であった。
- ・地域連携診療計画管理料の届出状況についてみると、「届出無し」69.2%、「届出有り」18.3%であった。また、地域連携診療計画退院時指導料の届出状況についてみると、「届出有り」78.6%、「届出無し」19.1%であった。
- ・なお、大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平成 21 年度と平成 22 年度の平均在院日数をみると、大腿骨頸部骨折は 69.9 日、68.8 日であり、脳卒中は 92.0 日、87.7 日であった。
- ・東日本大震災による影響についてみると、「影響を受けていない」80.7%、「影響を受けた」15.8%であった。また、「影響を受けた」と回答のあった施設にその内容を尋ねたところ、「外来患者が減少した」38.7%が最も多く、次いで「入院患者が減少した」33.9%、「人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が減少した」22.6%などとなっていた。
- ・回復期リハビリテーション病棟の算定している診療報酬についてみると、「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」91.8%、「回復期リハビリテーション病棟入院料 2」8.2%、「重症患者回復病棟加算」80.2%、「休日リハビリテーション提供体制加算」66.9%、「リハビリテーション充実加算」35.6%であった。
- ・1病棟当たり病床数及び入院患者数をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では 45.7 床、41.1 人、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では 40.2 床、31.7 人であった。
- ・平成 21 年 6 月、平成 23 年 6 月の平均在院日数は、回復期リハビリテーション病棟入院料

1 算定病棟では 75.9 日、76.4 日、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では 60.9 日、58.1 日であった。

- ・また、平成 21 年 6 月、平成 23 年 6 月の病床利用率は、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では 89.2%、90.6%、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では 80.6%、81.6%であった。
- ・回復期リハビリテーション病棟の医師の配置人数についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では 40 床当たり専従 0.3 人、専任 2.1 人、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では 40 床当たり専従 0.1 人、専任 2.3 人であった。
- ・また、医師の配置人数について、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 40 床当たり専従 0.3 人、専任 2.3 人、加算無しの病棟では 40 床当たり専従 0.4 人、専任 1.7 人であった。
- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 40 床当たり専従 0.3 人、専任 2.5 人、加算無しの病棟では 40 床当たり専従 0.3 人、専任 1.8 人であった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 40 床当たり専従 0.3 人、専任 2.1 人、加算無しの病棟では 40 床当たり専従 0.3 人、専任 1.9 人であった。
- ・次に、回復期リハビリテーション病棟のコメディカルの配置人数についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では 40 床当たり専従 33.9 人、専任 12.0 人、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では 40 床当たり専従 28.5 人、専任 7.7 人であった。
- ・また、コメディカルの配置人数について、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 40 床当たり専従 34.2 人、専任 12.4 人、加算無しの病棟では 40 床当たり専従 31.8 人、専任 8.4 人であった。
- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 40 床当たり専従 37.3 人、専任 16.3 人、加算無しの病棟では 40 床当たり専従 31.1 人、専任 8.6 人であった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 40 床当たり専従 35.5 人、専任 13.1 人、加算無しの病棟では 40 床当たり専従 29.2 人、専任 8.5 人であった。
- ・回復期リハビリテーション病棟の平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月における新入棟患者の日常生活機能評価についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では平均 6.9 点、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では平均 4.9 点であった。
- ・また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均 6.9 点、

加算無しの病棟では平均 7.2 点であった。

- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均 7.2 点、加算無しの病棟では平均 6.5 点であった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均 7.0 点、加算無しの病棟では平均 6.3 点であった。
- ・回復期リハビリテーション病棟の平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月における新入棟患者の主たる原因疾患についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では「脳血管疾患」44.1%が最も多く、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」49.0%が最も多かった。
- ・また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算の算定の有無に関わらず、「脳血管疾患」44.2%、43.2%が最も多かった。
- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では「脳血管疾患」53.2%が最も多く、加算無しの病棟では「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」37.3%が最も多かった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では「脳血管疾患」45.6%が最も多く、加算無しの病棟では「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」38.6%が最も多かった。
- ・回復期リハビリテーション病棟の平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月における新入棟患者の合併症等の状態についてみると、「合併症を有する状態」との回答は、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では 37.8%、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟で 26.3%であった。なお、「重度の認知症を有する状態」は、それぞれ 9.9%、8.1%であった。
- ・また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、「合併症を有する状態」との回答は、加算有りの病棟で 37.7%、加算無しの病棟で 38.5%であった。
- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、「合併症を有する状態」との回答は、加算有りの病棟で 45.3%、加算無しの病棟で 32.5%であった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、「合併症を有する状態」との回答は、加算有りの病棟で 38.8%、加算無しの病棟で 33.2%であった。
- ・回復期リハビリテーション病棟の平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月における新入棟患者の入棟前の居場所についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」47.3%が最も多く、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では「自院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」69.0%が最も多かった。
- ・また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」49.1%が最も多く、加算無しの病棟では「自院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」52.0%が最も多かった。

- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」67.0%が最も多く、加算無しの病棟では「自院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」57.5%が最も多かった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」53.0%が最も多く、加算無しの病棟では「自院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」60.7%が最も多かった。
- ・回復期リハビリテーション病棟から、平成23年4月から6月までの3カ月に退棟した患者について、入棟時に日常生活機能評価が10点以上だった患者で、退棟時に3点以上改善していた患者の割合をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では67.1%、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では81.9%であった。ただし、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟は入棟時に日常生活機能評価が10点以上だった患者が30.3%であるのに対して、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では14.5%であった。
- ・また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では68.1%、加算無しの病棟では61.6%であった。
- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では63.5%、加算無しの病棟では70.0%であった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では66.1%、加算無しの病棟では70.8%であった。
- ・次に、平成23年4月から6月までの重症患者回復率についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では61.2%、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では37.5%であった。
- ・また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では61.9%、加算無しの病棟では56.1%であった。
- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では59.9%、加算無しの病棟では59.3%であった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では60.2%、加算無しの病棟では58.0%であった。
- ・回復期リハビリテーション病棟から、平成23年4月から6月までの3カ月に退棟した患者について、退棟後の居場所が「在宅」であった割合についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では69.1%、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では73.7%であった。
- ・また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では69.4%、加算無しの病棟では66.6%であった。

- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 67.9%、加算無しの病棟では 70.2%であった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 67.5%、加算無しの病棟では 73.1%であった。
- ・次に、平成 23 年 4 月から 6 月までの在宅復帰率についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では 77.3%、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では 75.8%であった。
- ・また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 77.4%、加算無しの病棟では 76.6%であった。
- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 76.0%、加算無しの病棟では 77.9%であった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 76.7%、加算無しの病棟では 78.4%であった。
- ・標準算定日数内のリハビリテーションの実施状況を、平日・土曜日・日曜日別に 1 人 1 日当たり実施単位数でみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では平日 6.2 単位、土曜日 5.3 単位、日曜日 3.9 単位、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では平日 4.9 単位、土曜日 3.8 単位、日曜日 2.3 単位であった。
- ・また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平日 6.3 単位、土曜日 5.5 単位、日曜日 4.0 単位、加算無しの病棟では平日 5.8 単位、土曜日 4.2 単位、日曜日 2.7 単位であった。
- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平日 7.6 単位、土曜日 6.9 単位、日曜日 5.9 単位、加算無しの病棟では平日 5.3 単位、土曜日 4.2 単位、日曜日 2.5 単位であった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平日 6.5 単位、土曜日 5.9 単位、日曜日 5.0 単位、加算無しの病棟では平日 5.3 単位、土曜日 3.6 単位、日曜日 1.0 単位であった。
- ・次に、標準算定日数超のリハビリテーションの実施状況を、平日・土曜日・日曜日別に 1 人 1 日当たり実施単位数でみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では平日 2.4 単位、土曜日 1.8 単位、日曜日 1.5 単位、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では平日 0.6 単位、土曜日 0.6 単位、日曜日 0.4 単位であった。
- ・病棟における退院支援の実施状況についてみると、「実施している」90.7%、「実施していない」8.4%であった。なお、退院支援の専従する 1 病棟当たり職員数は 5.0 人であり、主な活動内容としては「退院後の居場所に関する調整」95.6%、「要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整」94.9%などとなっていた。
- ・退院時リハビリテーション指導料に該当する指導の実施状況についてみると、「ほぼ全て

の患者に実施」56.6%が最も多く、次いで「一部の患者に実施」23.8%、「実施していない」12.0%となっていた。

- ・また、介護支援連携指導料に該当する指導の実施状況についてみると、「一部の患者に実施」34.7%が最も多く、次いで「ほぼ全ての患者に実施」30.7%、「実施していない」25.7%となっていた。
- ・平成23年6月1カ月間に回復期リハビリテーション病棟から退棟した患者について、性別をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「男性」43.1%、「女性」56.9%、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「男性」33.7%、「女性」66.3%であった。また、平均年齢は、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟は75.0歳、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟は76.4歳であった。
- ・要介護度についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「非該当・未申請」22.6%が最も多く、次いで「要介護3」11.0%、「要介護2」10.8%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「非該当・未申請」27.8%が最も多く、次いで「要介護2」12.0%、「介護保険の対象外」9.4%などとなっていた。
- ・介護者の状況についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「常時、介護者（家族・友人等）が1人いる」32.4%が最も多く、次いで「独居ではないが、日中は家族が仕事等で不在」24.6%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「常時、介護者（家族・友人等）が1人いる」33.3%が最も多く、次いで「独居であり、介護者は全くいない」23.6%などとなっていた。
- ・入棟時の主たる原因疾患についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「脳血管疾患」46.3%が最も多く、次いで「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」31.3%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」40.9%が最も多く、次いで「脳血管疾患」20.8%などとなっていた。
- ・また、主たる原因疾患別にみた発症・受傷日から入棟日までの平均日数をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「脳血管疾患」37.6日、「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」30.6日などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」34.4日、「脳血管疾患」37.7日などとなっていた。
- ・次に、合併症等の状態をみると、「合併症を有する状態」の割合は、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では41.2%、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では34.6%であった。
- ・また、「脳血管疾患群」と「筋骨格系疾患群」に区分してみると、「脳血管疾患群」では回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟で46.0%、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では47.2%、「筋骨格系疾患群」では回復期リハビリテーション病棟入

院料1算定病棟で34.0%、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では28.5%であった。

- ・入棟前の居場所についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」44.5%が最も多く、次いで「自院の急性期病床」26.5%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「自院の急性期病床」39.4%が最も多く、次いで「在宅」24.1%などとなっていた。
- ・また、「脳神経系疾患群」と「筋骨格系疾患群」に区分してみると、「脳神経系疾患群」では、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟で「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」54.0%が最も多く、次いで「自院の急性期病床」21.8%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「自院の急性期病床」37.0%が最も多く、次いで「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」35.2%などとなっていた。
- ・「筋骨格系疾患群」では、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟で「他院の一般病床（回復期リハビリテーション病棟を除く）」33.5%が最も多く、次いで「自院の急性期病床」32.1%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「自院の急性期病床」40.9%が最も多く、次いで「在宅」26.5%などとなっていた。
- ・入棟時の日常生活機能評価についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均6.4点、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平均4.6点であった。
- ・また、主たる原因疾患別に日常生活機能評価をみると、「脳神経系疾患群」は回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟で平均7.1点、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟で平均6.5点であった。
- ・「筋骨格系疾患群」では、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟で平均5.3点、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟で平均3.7点であった。
- ・入棟日の属する翌週1週間のリハビリテーションの実施状況をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均34.4単位、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平均24.6単位であった。
- ・また、退棟日の属する前週1週間のリハビリテーションの実施状況をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均35.6単位、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平均25.8単位であった。
- ・次に、「脳神経系疾患群」について入棟日の属する翌週1週間のリハビリテーションの実施状況をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均39.5単位、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平均31.4単位であった。
- ・また、退棟日の属する前週1週間のリハビリテーションの実施状況をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均40.0単位、回復期リハビリテーション病

棟入院料2算定病棟では平均32.7単位であった。

- ・次に、「筋骨格系疾患群」について入棟日の属する翌週1週間のリハビリテーションの実施状況をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均28.4単位、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平均22.2単位であった。
- ・また、退棟日の属する前週1週間のリハビリテーションの実施状況をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均30.4単位、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平均23.6単位であった。
- ・主たる原因疾患別に平均在棟日数をみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「脳神経系疾患群」87.7日、「筋骨格系疾患群」56.0日などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では「脳神経系疾患群」84.0日、「筋骨格系疾患群」49.6日などとなっていた。
- ・退棟後の居場所についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では「在宅」67.9%が最も多く、次いで「介護老人保健施設」8.1%などとなっていた。また、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟でも「在宅」71.6%が最も多く、次いで「介護老人保健施設」8.8%などとなっていた。
- ・退棟時における日常生活機能評価の変化についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均3.6点改善、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平均2.9点改善であった。
- ・また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均3.6点改善、加算無しの病棟では平均3.6点改善であった。
- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均3.8点改善、加算無しの病棟では平均3.3点改善であった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均3.7点改善、加算無しの病棟では平均3.2点改善であった。

- ・次に、「脳神経系疾患群」についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算定病棟では平均4.2点改善、回復期リハビリテーション病棟入院料2算定病棟では平均4.4点改善であった。
- ・また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均4.2点改善、加算無しの病棟では平均4.5点改善であった。
- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均4.3点改善、加算無しの病棟では平均4.1点改善であった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均4.2点改善、加算無しの病棟では平均4.0点改善であった。

- ・さらに、「筋骨格系疾患群」についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料1算

定病棟では平均 2.4 点改善、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では平均 1.9 点改善であった。

- ・また、重症患者回復病棟加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均 2.4 点改善、加算無しの病棟では平均 2.1 点改善であった。
- ・同様に、リハビリテーション充実加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均 2.7 点改善、加算無しの病棟では平均 2.2 点改善であった。
- ・さらに、休日リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平均 2.4 点改善、加算無しの病棟では平均 2.2 点改善であった。
- ・退棟決定の状況についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では「特に問題なく、予定通りに退棟できた」58.5%が最も多く、次いで「予定よりも早く退棟できた」14.0%などとなっていた。
- ・また、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟でも「特に問題なく、予定通りに退棟できた」62.4%が最も多く、次いで「予定よりも早く退棟できた」14.0%などとなっていた。
- ・退棟後の通院先についてみると、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟では「他院の外来」42.4%が最も多いが、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟では「自院の外来」38.7%が最も多くなっていた。
- ・また、退院後の方針については、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 算定病棟、回復期リハビリテーション病棟入院料 2 算定病棟のいずれにおいても「リハビリを利用しない」27.6%、37.9%が最も多くなっていた。
- ・なお、退院後に介護保険のリハビリを利用した患者について、サービス内容をみると、「通院リハビリ」68.1%、71.2%、「訪問リハビリ」21.4%、20.3%となっていた。

2. 亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病院

- ・亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病院の開設者についてみると「医療法人」55.7%が最も多く、次いで「公的医療機関」27.7%「その他」10.4%などとなっていた。
- ・併設施設・事業所についてみると「居宅介護支援事業所」39.6%が最も多く、次いで「訪問看護ステーション」36.6%、「通所リハビリテーション事業所」27.0%などとなっていた。
- ・届出しているリハビリテーション料についてみると「運動器リハビリテーション料（Ⅰ）」83.4%が最も多く、次いで「呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）」67.1%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）」51.5%などとなっていた。
- ・平成 21 年 6 月と平成 23 年 6 月の診療報酬の算定状況についてみると、平成 21 年 6 月の「亜急性期入院医療管理料 1」の算定病院は 72.3%であったが、平成 23 年 6 月の「亜急性期入院医療管理料 1」の算定病院は 91.6%であった。
- ・また、平成 23 年 6 月の「リハビリテーション提供体制加算」の算定病院は 24.8%であっ

た。

- ・病院全体の許可病床数についてみると「150床以上 199床以下」22.5%が最も多く、次いで「100床以上 149床以下」17.8%、「50床以上 99床以下」15.8%などとなっており、平均202.1床であった。
- ・また、病床種類別にみると、亜急性期入院医療管理料1の算定病床は平均11.5床（病床利用率82.8%）、亜急性期入院医療管理料2の算定病床は平均1.7床（病床利用率82.8%）であった。
- ・平成23年6月に疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」4.3%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」17.3%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」6.5%、「運動器リハビリテーション料」3.2%、「呼吸器リハビリテーション料」10.1%であった。
- ・疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者の平成21年6月と平成23年6月の平均在院日数をみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」22.7日、24.9日、「脳血管疾患等リハビリテーション料」82.2日、70.5日、「運動器リハビリテーション料」51.2日、53.4日、「呼吸器リハビリテーション料」50.0日、53.4日であった。
- ・平成21年6月1日時点、平成23年6月1日時点に疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」1.2%、0.9%、「脳血管疾患等リハビリテーション料」9.3%、9.9%、「運動器リハビリテーション料」3.8%、3.7%、「呼吸器リハビリテーション料」7.2%、8.2%であった。
- ・疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合、そのうち要介護認定を受けている患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」15.0%、2.4%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」41.2%、8.9%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」15.6%、6.4%、「運動器リハビリテーション料」19.7%、3.7%、「呼吸器リハビリテーション料」18.6%、4.7%であった。
- ・通所リハビリテーションの実施状況についてみると、「実施していない」77.5%、「実施している」19.3%であった。
- ・通所リハビリテーションの実施施設について、平成23年6月における実施日数をみると、「26日」50.0%、「22日」28.2%などとなっており、平均24.8日であった。また、1施設当たりの利用者延べ人数をみると1施設当たり610.7人であった。なお、「1時間以上2時間未満」の利用者延べ数は15.6人（2.6%）であった。
- ・また、通所リハビリテーションに従事する1施設当たり職員数は専従9.8人、専任4.9人であった。
- ・機能訓練室の状況については「医療保険と介護保険で別の機能訓練室を利用」65.4%、「医療保険と介護保険で1つの機能訓練室を利用」34.6%であった。

- ・利用者の送迎状況については「実施している」91.0%、「実施していない」9.0%であった。
- ・また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況についてみると、「実施していない」91.8%、「実施している」3.2%であった。
- ・さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して実施していない理由を尋ねたところ、「通所リハビリに専従する人員を確保できない」44.2%が最も多く、「利用者の送迎体制を整えることが困難」40.7%、次いで「通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる」36.1%などとなっていた。
- ・また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携していない」59.6%、「連携している」27.2%となっていた。さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している施設に対して、連携している外部の介護サービス事業者数を尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均 18.3 事業所、通所リハビリテーション事業所は平均 4.7 事業所であった。
- ・また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している事業所に対して、連携している外部のサービス事業者への紹介患者数（平成 23 年 6 月）について尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均 4.6 人、通所リハビリテーション事業所は平均 1.8 人であった。
- ・退院支援の実施状況についてみると、「実施している」92.8%、「実施していない」5.0%であった。また、実施施設のうち 88.8%の施設で「（退院支援の担当部署）設置している」との回答であった。
- ・なお、退院支援の担当部署の従事する 1 施設当たり職員数は専従 2.2 人、専任 1.7 人であり、主な活動内容としては「退院後の居場所に関する調整」95.5%、「利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援」93.7%、「要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整」92.2%などとなっていた。
- ・また、退院支援の実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携している」80.5%、「連携していない」14.4%となっていた。さらに、退院支援の実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している施設に対して、連携している外部の介護サービス事業者数を尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均 24.1 事業所、通所リハビリテーション事業所は平均 23.8 事業所、介護保険施設は平均 14.7 施設であった。
- ・職員体制についてみると、1 施設当たり 219.2 人（常勤 195.0 人、非常勤 24.2 人（常勤換算））であった。
- ・また、平日・土曜日・日曜日における医療保険によるリハビリテーションに係る業務の専任・専従職員の出勤状況についてみると、土曜日の出勤職員数（常勤換算）は平日の 59.2%、日曜日の出勤職員数（常勤換算）は平日の 29.9%であった。
- ・地域連携診療計画管理料の届出状況についてみると、「届出無し」68.8%、「届出有り」22.5%であった。また、地域連携診療計画退院時指導料の届出状況についてみると、「届出有り」

45.5%、「届出無し」48.5%であった。

- ・なお、大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平成21年度と平成22年度の平均在院日数をみると、大腿骨頸部骨折は53.1日、50.3日であり、脳卒中は64.7日、62.9日であった。
- ・東日本大震災による影響についてみると、「影響を受けていない」84.7%、「影響を受けた」12.1%であった。また、「影響を受けた」と回答のあった施設にその内容を尋ねたところ、「外来患者が減少した」46.9%が最も多く、次いで「入院患者が減少した」36.7%、「入院患者の平均在院日数が長くなった」20.4%などとなっていた。
- ・亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病棟の算定している診療報酬についてみると、「亜急性期入院医療管理料1」94.8%、「亜急性期入院医療管理料2」5.2%、「リハビリテーション提供体制加算」20.9%であった。
- ・1病棟当たり病床数及び入院患者数をみると、亜急性期入院医療管理料1算定病床は8.2床、6.7人、亜急性期入院医療管理料2算定病床は13.1床、9.9人であった。
- ・平成21年6月、平成23年6月の平均在院日数は、亜急性期入院医療管理料1算定病床では43.2日、38.5日、亜急性期入院医療管理料2算定病床では30.8日、27.9日であった。
- ・また、平成21年6月、平成23年6月の病床利用率は、亜急性期入院医療管理料1算定病床は84.7%、83.6%、亜急性期入院医療管理料2算定病床では76.1%、76.6%であった。
- ・亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病棟の医師の配置人数についてみると、亜急性期入院医療管理料1算定病棟では40床当たり専従0.2人、専任6.3人、亜急性期入院医療管理料2算定病棟では40床当たり専従0.8人、専任4.9人であった。
- ・また、医師の配置人数について、リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では40床当たり専従0.2人、専任9.4人、加算無しの病棟では40床当たり専従0.2人、専任5.4人であった。
- ・次に、亜急性期入院医療管理料の算定病室を有する病棟のコメディカルの配置人数についてみると、亜急性期入院医療管理料1算定病棟では40床当たり専従23.2人、専任8.3人、亜急性期入院医療管理料2算定病棟では40床当たり専従21.4人、専任8.0人であった。
- ・また、コメディカルの配置人数について、リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では40床当たり専従23.0人、専任13.5人、加算無しの病棟では40床当たり専従23.1人、専任7.1人であった。
- ・亜急性期入院医療管理料1算定病床の平成23年4月から6月までの3カ月における新入棟患者の日常生活機能評価についてリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病床では平均5.3点、加算無しの病床では平均4.9点であった。
- ・亜急性期入院医療管理料1算定病床の平成23年4月から6月までの3カ月における新入棟患者の主たる原因疾患についてリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算の有無に関わらず「その他の疾患」28.3%、37.5%が最も多かった。

- ・ 亜急性期入院医療管理料 1 算定病床の平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月における新入棟患者の合併症等の状態についてリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、「合併症を有する状態」との回答は、加算有りの病棟で 29.5%、加算無しの病棟で 26.3%であった。また、「回復期リハビリテーションを必要とする状態」については、加算有りの病棟で 58.4%、加算無しの病棟で 40.9%であった。
- ・ 亜急性期入院医療管理料 1 算定病床の平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月における新入棟患者の入棟前の居場所についてリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算の有無に関わらず「自院の急性期病床」79.3%、72.6%が最も多かった。
- ・ 亜急性期入院医療管理料 1 算定病床から、平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月に退棟した患者について、入棟時に日常生活機能評価が 10 点以上だった患者で、退棟時に 3 点以上改善していた患者の割合をリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 10.8%、加算無しの病棟では 7.9%であった。
- ・ 亜急性期入院医療管理料 1 算定病床から、平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月に退棟した患者について、退棟後の居場所が「在宅」であった割合をリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 72.7%、加算無しの病棟では 77.2%であった。
- ・ 亜急性期入院医療管理料 1 算定病床から、平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月に退棟した患者について、退院時リハビリテーション指導料の算定割合をリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 50.1%、加算無しの病棟では 42.4%であった。
- ・ 同様に、介護支援連携指導料の算定割合をリハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では 13.8%、加算無しの病棟では 8.8%であった。
- ・ 亜急性期入院医療管理料 2 算定病床の平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月における新入棟患者の入棟前の居場所についてみると、「自院の亜急性期入院医療管理料算定病床以外からの転床」が 98.4%であった。
- ・ 亜急性期入院医療管理料 2 算定病床から、平成 23 年 4 月から 6 月までの 3 カ月に退棟した患者について、入棟時に日常生活機能評価が 10 点以上だった患者で、退棟時に 3 点以上改善していた患者の割合は 63.7%であった。
- ・ 退棟後の居場所が「在宅」であった割合は 82.2%であった。
- ・ また、退院時リハビリテーション指導料の算定割合は 30.6%、介護支援連携指導料の算定割合は 3.1%であった。
- ・ 標準算定日数内のリハビリテーションの実施状況を、平日・土曜日・日曜日別に 1 人 1 日当たり実施単位数でみると、亜急性期入院医療管理料 1 算定病棟では平日 2.6 単位、土曜日 1.6 単位、日曜日 0.4 単位、亜急性期入院医療管理料 2 算定病棟では平日 2.5 単位、土曜日 1.4 単位、日曜日 0.7 単位であった。

- ・また、リハビリテーション提供体制加算の算定の有無別にみると、加算有りの病棟では平日 3.8 単位、土曜日 3.3 単位、日曜日 1.5 単位、加算無しの病棟では平日 2.8 単位、土曜日 0.5 単位、日曜日 0.0 単位であった。
- ・次に、標準算定日数内のリハビリテーションの実施状況を、平日・土曜日・日曜日別に 1 人 1 日当たり実施単位数でみると、亜急性期入院医療管理料 1 算定病棟では平日 0.2 単位、土曜日 0.1 単位、日曜日 0.1 単位、亜急性期入院医療管理料 2 算定病棟では平日 0.2 単位、土曜日 0.2 単位、日曜日 0.2 単位であった。
- ・病棟における退院支援の実施状況についてみると、「実施している」84.3%、「実施していない」7.6%であった。なお、退院支援の専従する 1 病棟当たり職員数は 2.6 人であり、主な活動内容としては「退院後の居場所に関する調整」88.7%、「利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援」87.7%などとなっていた。
- ・平成 23 年 6 月 1 カ月間に亜急性期入院医療管理料 1 算定病床から退棟した患者について、性別をみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「男性」33.4%、「女性」66.6%、加算無しの病棟では「男性」36.4%、「女性」63.6%であった。また、平均年齢は、加算有りの病棟は 74.6 歳、加算無しの病棟は 74.2 歳であった。
- ・要介護度についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「非該当・未申請」23.8%が最も多く、次いで「介護保険の対象外」14.7%、「要介護 3」9.2%などとなっていた。また、加算無しの病棟でも「非該当・未申請」26.2%が最も多く、次いで「介護保険の対象外」16.7%、「要介護 2」7.6%などとなっていた。
- ・介護者の状況についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「独居ではないが、日中は家族が仕事等で不在」27.5%が最も多く、次いで「常時、介護者（家族・友人等）が 1 人いる」27.1%などとなっていた。また、加算無しの病棟は「常時、介護者（家族・友人等）が 1 人いる」28.0%が最も多く、次いで「独居ではないが、日中は家族が仕事等で不在」25.7%などとなっていた。
- ・入棟時の主たる原因疾患についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」27.7%が最も多く、次いで「その他の疾患」22.8%などとなっていた。また、加算無しの病棟でも「大腿骨、骨盤、脊椎等の骨折、二肢以上の多発骨折」35.6%が最も多く、次いで「その他の疾患」22.0%などとなっていた。
- ・また、主たる原因疾患別にみた発症・受傷日から入棟日までの平均日数をみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「脳神経系疾患群」36.7 日、「筋骨格系疾患群」28.1 日などとなっていた。また、加算無しの病棟では「脳神経系疾患群」59.4 日、「筋骨格系疾患群」37.7 日などとなっていた。
- ・次に、合併症等の状態をみると、「合併症を有する状態」の割合は、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では 28.9%、加算無しの病棟では 23.3%であった。

- ・また、「脳血管疾患群」と「筋骨格系疾患群」に区分してみると、「脳血管疾患群」ではリハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟で 40.3%、加算無しの病棟では 33.3%、「筋骨格系疾患群」ではリハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟で 25.3%、加算無しの病棟では 18.2%であった。
 - ・入棟前の居場所についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算の有無に関わらず、「自院の急性期病床」54.0%、61.8%が最も多く、次いで「在宅」20.8%、22.7%などとなっていた。
 - ・また、「脳神経系疾患群」と「筋骨格系疾患群」に区分してみると、「脳神経系疾患群」では、リハビリテーション提供体制加算の加算の有無に関わらず、「自院の急性期病床」45.5%、60.8%が最も多く、次いで「在宅」23.4%、22.5%などとなっていた。
 - ・「筋骨格系疾患群」でも、リハビリテーション提供体制加算の加算の有無に関わらず、「自院の急性期病床」55.6%、63.2%が最も多く、次いで「在宅」20.4%、22.9%などとなっていた。
 - ・入棟時の日常生活機能評価についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では平均 4.6 点、加算無しの病棟では平均 3.9 点であった。
 - ・また、主たる原因疾患別に日常生活機能評価をみると、「脳神経系疾患群」はリハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟で平均 7.3 点、加算無しの病棟で平均 6.5 点であった。
 - ・「筋骨格系疾患群」では、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟で平均 3.8 点、加算無しの病棟で平均 3.1 点であった。
-
- ・入棟日の属する翌週 1 週間のリハビリテーションの実施状況をみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では平均 20.8 単位、加算無しの病棟では平均 10.2 単位であった。
 - ・また、退棟日の属する前週 1 週間のリハビリテーションの実施状況をみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では平均 21.2 単位、加算無しの病棟では平均 10.9 単位であった。
 - ・主たる原因疾患別に平均在棟日数をみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「脳神経系疾患群」41.3 日、「筋骨格系疾患群」39.3 日などとなっていた。また、加算無しの病棟では「脳神経系疾患群」39.6 日、「筋骨格系疾患群」33.6 日などとなっていた。
 - ・退棟後の居場所についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算の有無に関わらず、「在宅」76.0%、77.7%が最も多く、次いで「介護老人保健施設」6.9%、5.4%などとなっていた。
 - ・退棟時における日常生活機能評価の変化についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では平均 3.0 点改善、加算無し病棟では平均 2.4 点改善であった。

- ・次に、「脳神経系疾患群」についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では平均 5.7 点改善、加算無し病棟では平均 4.8 点改善であった。
- ・さらに、「筋骨格系疾患群」についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では平均 1.8 点改善、加算無し病棟では平均 1.4 点改善であった。
- ・退棟決定の状況についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算有りの病棟では「特に問題なく、予定通りに退棟できた」65.8%が最も多く、次いで「予定よりも早く退棟できた」12.0%などとなっていた。
- ・また、加算無しの病棟でも「特に問題なく、予定通りに退棟できた」65.0%が最も多く、次いで「予定よりも早く退棟できた」8.4%などとなっていた。
- ・退棟後の通院先についてみると、リハビリテーション提供体制加算の加算の有無に関わらず、「自院の外来」50.1%、60.5%が最も多く、次いで「他院の外来」20.6%、12.0%などとなっていた。
- ・また、退院後の方針については、リハビリテーション提供体制加算の加算の有無に関わらず、「リハビリを利用しない」32.6%、38.0%が最も多く、次いで「医療保険のリハビリを利用」24.2%、19.5%などとなっていた。
- ・なお、退院後に介護保険のリハビリを利用した患者について、サービス内容をみると、「通所リハビリ」65.7%、62.6%、「訪問リハビリ」17.9%、17.8%となっていた。

3. その他の疾患別リハビリテーション料の届出病院

- ・その他の疾患別リハビリテーション料の届出病院の開設者についてみると「医療法人」52.2%が最も多く、次いで「公的医療機関」24.7%、「その他」11.8%などとなっていた。
- ・併設施設・事業所についてみると「通所リハビリテーション事業所」29.8%が最も多く、次いで「居宅介護支援事業所」28.7%、「訪問看護ステーション」27.0%などとなっていた。
- ・届出しているリハビリテーション料についてみると「運動器リハビリテーション料（Ⅰ）」59.0%が最も多く、次いで「呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）」43.3%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）」34.8%などとなっていた。
- ・病院全体の許可病床数についてみると「100 床以上 149 床以下」25.3%が最も多く、次いで「50 床以上 99 床以下」20.8%、「150 床以上 199 床以下」15.7%などとなっており、平均 203.2 床であった。
- ・平成 23 年 6 月に疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」1.9%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」34.1%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」9.4%、「運動器リハビリテーション料」10.8%、

「呼吸器リハビリテーション料」12.6%であった。

- ・疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者の平成21年6月と平成23年6月の平均在院日数をみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」23.7日、21.6日、「脳血管疾患等リハビリテーション料」149.2日、152.9日、「運動器リハビリテーション料」100.9日、120.0日、「呼吸器リハビリテーション料」42.2日、51.0日であった。
- ・平成21年6月1日時点、平成23年6月1日時点に疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」8.4%、4.8%、「脳血管疾患等リハビリテーション料」18.0%、21.1%、「運動器リハビリテーション料」11.2%、13.5%、「呼吸器リハビリテーション料」5.8%、8.9%であった。
- ・平成23年6月に疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合、そのうち要介護認定を受けている患者の割合についてみると、「心大血管疾患リハビリテーション料」0.0%、0.0%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」42.6%、5.0%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」54.1%、5.7%、「運動器リハビリテーション料」21.3%、4.0%、「呼吸器リハビリテーション料」34.4%、0.0%であった。
- ・通所リハビリテーションの実施状況についてみると、「実施していない」71.3%、「実施している」23.6%であった。
- ・通所リハビリテーションの実設施設について、平成23年6月における実施日数をみると、「26日」50.0%、「22日」21.4%などとなっており、平均23.3日であった。また、1施設当たりの利用者延べ人数をみると1施設当たり430.1人であった。なお、「1時間以上2時間未満」の利用者延べ数は35.5人（8.3%）であった。
- ・また、通所リハビリテーションに従事する1施設当たり職員数は専従8.0人、専任4.6人であった。
- ・機能訓練室の状況については「医療保険と介護保険で別の機能訓練室を利用」54.8%、「医療保険と介護保険で1つの機能訓練室を利用」45.2%であった。
- ・利用者の送迎状況については「実施している」97.6%、「実施していない」2.4%であった。
- ・また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況についてみると、「実施していない」89.9%、「実施している」5.1%であった。
- ・さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して実施していない理由を尋ねたところ、「通所リハビリに専従する人員を確保できない」43.8%が最も多く、次いで「利用者の送迎体制を整えることが困難」41.3%、「通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる」35.6%などとなっていた。
- ・また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携していない」67.5%、「連携している」20.0%となっていた。さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の

未実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している施設に対して、連携している外部の介護サービス事業者数を尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均 9.6 事業所、通所リハビリテーション事業所は平均 2.3 事業所であった。

- ・また、通所リハビリテーション（1 時間以上 2 時間未満）の未実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している事業所に対して、連携している外部のサービス事業者への紹介患者数（平成 23 年 6 月）について尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均 3.9 人、通所リハビリテーション事業所は平均 0.8 人であった。
- ・退院支援の実施状況についてみると、「実施している」79.2%、「実施していない」15.7%であった。また、実施施設のうち 76.6%の施設で「(退院支援の担当部署) 設置している」との回答であった。
- ・なお、退院支援の担当部署の従事する 1 施設当たり職員数は専従 2.3 人、専任 1.3 人であり、主な活動内容としては「退院後の居場所に関する調整」92.6%、「利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援」92.6%、「要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整」89.8%などとなっていた。
- ・また、退院支援の実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携している」68.8%、「連携していない」27.0%となっていた。さらに、退院支援の実施施設のうち、外部の介護サービス事業者との連携している施設に対して、連携している外部の介護サービス事業者数を尋ねたところ、居宅介護支援事業所は平均 16.5 事業所、通所リハビリテーション事業所は平均 14.4 事業所、介護保険施設は平均 11.9 施設であった。
- ・職員体制についてみると、1 施設当たり 224.8 人（常勤 198.4 人、非常勤 26.4 人（常勤換算））であった。
- ・また、平日・土曜日・日曜日における医療保険によるリハビリテーションに係る業務の専任・専従職員の出勤状況についてみると、土曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 45.8%、日曜日の出勤職員数（実人数）は平日の 15.8%であった。
- ・地域連携診療計画管理料の届出状況についてみると、「届出無し」66.3%、「届出有り」21.9%であった。また、地域連携診療計画退院時指導料の届出状況についてみると、「届出無し」68.0%、「届出有り」20.2%であった。
- ・なお、大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平成 21 年度と平成 22 年度の平均在院日数をみると、大腿骨頸部骨折は 54.8 日、49.9 日であり、脳卒中は 49.6 日、61.3 日であった。
- ・東日本大震災による影響についてみると、「影響を受けていない」80.3%、「影響を受けた」14.6%であった。また、「影響を受けた」と回答のあった施設にその内容を尋ねたところ、「外来患者が減少した」34.6%が最も多く、次いで「入院患者が減少した」26.9%などとなっていた。

4. 疾患別リハビリテーション料の届出診療所の概況

- ・疾患別リハビリテーション料の届出診療所の開設者についてみると「医療法人」68.9%が最も多く、次いで「個人」28.0%などとなっていた。
- ・併設施設・事業所についてみると「通所リハビリテーション事業所」26.5%が最も多く、次いで「居宅介護支援事業所」15.9%、「訪問リハビリテーション事業所」10.6%などとなっていた。
- ・届出しているリハビリテーション料についてみると「運動器リハビリテーション料（Ⅱ）」58.3%が最も多く、次いで「運動器リハビリテーション料（Ⅲ）」40.9%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅲ）」36.4%などとなっていた。
- ・診療所の種類についてみると「無床診療所」76.5%、「有床診療所」23.5%であった。
- ・平成23年6月に疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」27.6%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」21.9%、「運動器リハビリテーション料」4.9%であった。
- ・平成21年6月1日時点、平成23年6月1日時点に疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合についてみると、「脳血管疾患等リハビリテーション料」6.3%、4.7%、「運動器リハビリテーション料」4.6%、7.4%であった。
- ・平成23年6月に疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者のうち、標準的算定日数を超えて算定していた患者の割合、そのうち要介護認定を受けている患者の割合についてみると、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」71.5%、39.7%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）」84.7%、27.4%、「運動器リハビリテーション料」20.8%、6.4%であった。
- ・通所リハビリテーションの実施状況についてみると、「実施していない」66.7%、「実施している」25.0%であった。
- ・通所リハビリテーションの実施設について、平成23年6月における実施日数をみると、「26日」33.3%、「20日以内」27.3%、「22日」24.2%などとなっており、平均20.8日であった。また、1施設当たりの利用者延べ人数をみると1施設当たり473.9人であった。なお、「1時間以上2時間未満」の利用者延べ数は30.4人（6.4%）であった。
- ・また、通所リハビリテーションに従事する1施設当たり職員数は専従5.2人、専任5.9人であった。
- ・機能訓練室の状況については「医療保険と介護保険で1つの機能訓練室を利用」60.6%、「医療保険と介護保険で別の機能訓練室を利用」36.4%であった。
- ・利用者の送迎状況については「実施している」81.8%、「実施していない」12.1%であった。
- ・また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の実施状況についてみると、「実施していない」80.3%、「実施している」8.3%であった。

- ・さらに、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して実施していない理由を尋ねたところ、「通所リハビリに専従する人員を確保できない」50.9%が最も多く、次いで「利用者の送迎体制を整えることが困難」50.0%、「通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる」45.3%などとなっていた。
- ・また、通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）の未実施施設に対して外部の介護サービス事業者との連携状況を尋ねたところ、「連携していない」79.2%、「連携している」8.5%となっていた。
- ・東日本大震災による影響についてみると、「影響を受けていない」66.7%、「影響を受けた」27.3%であった。また、「影響を受けた」と回答のあった施設にその内容を尋ねたところ、「外来患者が減少した」97.2%が最も多かった。

5. 疾患別リハビリテーションの外来患者の概況

- ・平成23年8月31日に疾患別リハビリテーション料を算定した外来患者について、性別・年齢をみると、「男性」46.3%、「女性」53.5%、平均年齢60.5歳であった。
- ・要介護度についてみると、「介護保険の対象外」33.8%が最も多く、次いで「非該当・未申請」32.0%などとなっていた。
- ・今回の受診時に算定したリハビリテーション料は「運動器リハビリテーション料」72.5%が最も多く、次いで「脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）」24.5%などとなっていた。また、標準算定日数の状況をみると、「前月中は標準算定日数以内であった」50.0%が最も多く、次いで「前月当初から標準算定日数を超えていた」32.4%などとなっていた。
- ・医学的観点から見た診察の必要が生ずる頻度についてみると、「月に1回程度の医師による診察でよい」64.5%が最も多く、次いで「週に1回、必ず医師による診察が必要」16.1%、「毎回必ず医師による診察が必要」8.5%などとなっていた。
- ・標準算定日数の状況として「前月途中に標準算定日数を超えた」及び「前月当初から標準算定日数を超えていた」患者について、その状態についてみると、「治療を継続することにより状態の改善が期待できると医学的に判断される」48.7%、「治療を継続することにより状態の維持が期待できると医学的に判断される」45.2%となっていた。
- ・さらに、「治療を継続することにより状態の維持が期待できると医学的に判断される」と回答のあった患者について、介護保険によるリハビリテーションを利用しない理由についてみると、「維持期のリハビリは現行の13単位内で提供できるから」61.0%が最も多く、次いで「患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから」28.2%、「通所リハビリでは個別リハビリが受けられないから」17.9%などとなっていた。

6. がん患者リハビリテーション料の届出病院の概況

- ・がん患者リハビリテーション料の届出病院の開設者についてみると「公的医療機関」と「そ

- の他」が26.5%で最も多く、次いで「国」22.1%、「医療法人」20.6%などとなっていた。
- ・また、がん診療連携拠点病院の指定状況についてみると、「都道府県がん診療連携拠点病院」及び「がん診療連携拠点病院の指定は受けていない」が38.2%、「地域がん診療連携拠点病院」17.6%となっていた。
 - ・届出しているリハビリテーション料についてみると「呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）」97.1%が最も多く、次いで「運動器リハビリテーション料（Ⅰ）」86.8%、「脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）」64.7%などとなっていた。
 - ・平成22年度においてがん患者リハビリテーション料を算定した在院患者延べ数についてみると、「血液腫瘍により当該入院中に化学療法又は造血幹細胞移植を行った患者」36.6%が最も多く、次いで「原発性脳腫瘍又は転移性脳腫瘍の患者で当該入院中に手術又は放射線治療が施行された患者」29.6%、「食道がん・肺がん・縦隔腫瘍・胃がん、肝臓がん、胆嚢がん、膵臓がん、大腸がん」と診断され、入院中に閉鎖循環式麻酔により手術が施行された患者」14.9%などとなっていた。
 - ・職種別にみた、がん患者に係るリハビリテーション計画作成への関与状況についてみると、「必ず関与」との回答は医師85.3%、理学療法士76.5%、看護師72.1%、作業療法士44.1%、言語聴覚士26.5%、准看護師10.3%、社会福祉士4.4%となっていた。
 - ・がんセンターボードの設置状況についてみると、「設置している」60.3%、「設置していない」35.3%であった。また、設置施設に対してがんセンターボードの開催頻度を尋ねたところ、「月1～2回」46.3%、「週1回程度」34.1%などとなっていた。さらに、がんセンターボードへの参加職種については、「医師」及び「看護師」が100.0%であった。
 - ・がん患者リハビリテーション料の創設による改善点について尋ねたところ、「術前からリハビリテーションを提供できるようになった」50.0%が最も多く、次いで「スタッフのリハビリテーションに対する意識が向上した」48.5%、「化学療法等徐々に身体に変化がある場合でも早期介入が可能になった」45.6%などとなっていた。
 - ・東日本大震災による影響についてみると、「影響を受けていない」82.4%、「影響を受けた」14.7%であった。また、「影響を受けた」と回答のあった施設にその内容を尋ねたところ、「外来患者が減少した」と「人員体制の影響により、リハビリの実施単位数が増加した」が30.0%で最も多くなっていた。

診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成23年度調査）
リハビリテーション見直しの影響に関する実態調査

- 特に指定がある場合を除いて、平成23年6月1日現在の状況についてお答えください。
- 数値を記入する設問で、該当する方等が無い場合は「0」（ゼロ）をご記入ください。

■本調査票のご記入日・ご記入者について下表にご記入下さい。

調査票ご記入日	平成23年（ ）月（ ）日
ご記入担当者名	
連絡先電話番号	
連絡先FAX番号	

■貴院の概況についてお伺いします。

問1 貴院の**開設者**について該当するものを1つお選びください。

- 01 国（厚生労働省,独立行政法人国立病院機構,国立大学法人,独立行政法人労働者健康福祉機構 等）
- 02 公的医療機関（都道府県,市町村,一部事務組合,日赤,済生会,北海道社会事業協会,厚生連,国民健康保険団体連合会）
- 03 社会保険関係団体（全国社会保険協会連合会,厚生年金事業振興団,船員保険会,健康保険組合,共済組合,国民健康保険組合）
- 04 医療法人
- 05 個人
- 06 その他（公益法人,私立学校法人,社会福祉法人,医療生協,会社 等）

問2 貴院の同一法人（法人が異なっても実質的に同一経営の場合も含む）が、同一又は隣接の敷地内で運営している、**介護施設・事業所**として該当するものを全てお選びください。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 01 介護老人福祉施設 | 09 通所リハビリテーション事業所 |
| 02 介護老人保健施設 | 10 短期入所生活介護事業所 |
| 03 訪問介護事業所 | 11 短期入所療養介護事業所 |
| 04 訪問入浴介護事業所 | 12 特定施設入居者生活介護事業所 |
| 05 訪問看護事業所（06以外） | 13 居宅介護支援事業所 |
| 06 訪問看護ステーション | 14 小規模多機能型居宅介護事業所 |
| 07 訪問リハビリテーション事業所 | 15 認知症対応型共同生活介護事業所 |
| 08 通所介護事業所 | |

問3 貴院で平成23年6月1日時点に届出を行っているリハビリテーション料について、該当する全てに○をつけてください。

01 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	09 呼吸器リハビリテーション料 (I)
02 心大血管疾患リハビリテーション料 (II)	10 呼吸器リハビリテーション料 (II)
03 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)	11 難病患者リハビリテーション料
04 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II)	12 障害児 (者) リハビリテーション料
05 脳血管疾患等リハビリテーション料 (III)	13 がん患者リハビリテーション料
06 運動器リハビリテーション料 (I)	14 集団コミュニケーション療法料
07 運動器リハビリテーション料 (II)	
08 運動器リハビリテーション料 (III)	

■貴院の入院患者等の概況についてお伺いします。

問4 平成21年6月1カ月間、平成23年6月1カ月間の算定状況として該当する全てに○をつけてください。

	平成21年6月		平成23年6月	
	01 算定あり	02 算定なし	01 算定あり	02 算定なし
1 回復期リハビリテーション病棟入院料 1	01 算定あり	02 算定なし	01 算定あり	02 算定なし
2 回復期リハビリテーション病棟入院料 2	01 算定あり	02 算定なし	01 算定あり	02 算定なし
3 重症患者回復病棟加算*	01 算定あり	02 算定なし	01 算定あり	02 算定なし
4 休日リハビリテーション提供体制加算*	/		01 算定あり	02 算定なし
5 リハビリテーション充実加算*	/		01 算定あり	02 算定なし
6 亜急性期入院医療管理料 1	01 算定あり	02 算定なし	01 算定あり	02 算定なし
7 亜急性期入院医療管理料 2	01 算定あり	02 算定なし	01 算定あり	02 算定なし
8 リハビリテーション提供体制加算*	/		01 算定あり	02 算定なし

※3、4、5は回復期リハビリテーション病棟入院料の加算、8は亜急性期入院医療管理料の加算です。

問5 平成23年6月1日時点の許可病床数、並びに6月1カ月間の在院患者延べ数をご記入ください。

	許可病床数		6月1カ月間の在院患者延べ数*	
	床	延べ	床	人
1 一般病床				
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料				
【再掲】亜急性期入院医療管理料 1				
【再掲】亜急性期入院医療管理料 2				
【再掲】障害者施設等入院基本料				
2 療養病床 (医療保険適用)				
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料				
3 療養病床 (介護保険適用)				
4 精神病床				
5 結核病床				
6 感染症病床				

※在院患者延べ数は、例えば、該当する1人の入院患者が5日間入院していた場合は5人として計算してください。

問6 平成23年6月1カ月間における、疾患別リハビリテーション料、障害児（者）リハビリテーション料を算定した入院患者延べ数*等をご記入ください。		
1 心大血管疾患リハビリテーション料を算定した入院患者延べ数	延べ	人
【再掲】標準的算定日数を超えて算定した入院患者延べ数	延べ	人
2 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外の場合）を算定した入院患者延べ数	延べ	人
【再掲】標準的算定日数を超えて算定した患者延べ数	延べ	人
3 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群の場合）を算定した入院患者延べ数	延べ	人
【再掲】標準的算定日数を超えて算定した入院患者延べ数	延べ	人
4 運動器リハビリテーション料を算定した入院患者延べ数	延べ	人
【再掲】標準的算定日数を超えて算定した入院患者延べ数	延べ	人
5 呼吸器リハビリテーション料を算定した入院患者延べ数	延べ	人
【再掲】標準的算定日数を超えて算定した入院患者延べ数	延べ	人
6 障害児（者）リハビリテーション料を算定した入院患者延べ数	延べ	人

※**在院患者延べ数**は、例えば、該当する1人の入院患者が5日間入院していた場合は5人として計算してください。

問7 平成21年6月、平成23年6月の疾患別リハビリテーション料算定患者の平均在院日数*をご記入ください。				
	平成21年6月		平成23年6月	
1 心大血管疾患リハビリテーション料の算定患者	.	日	.	日
2 脳血管疾患等リハビリテーション料の算定患者	.	日	.	日
【再掲】廃用症候群以外の場合	.	日	.	日
【再掲】廃用症候群の場合	.	日	.	日
3 運動器リハビリテーション料の算定患者	.	日	.	日
4 呼吸器リハビリテーション料の算定患者	.	日	.	日

※**平均在院日数**は、平成21年6月、平成23年6月に疾患別リハビリテーション料を算定していた入院患者について、以下の式に基づき、小数点第2位を切り上げ小数点第1位までご記入ください。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{6月中の該当する在院患者延数}}{(\text{6月中の該当する新入院患者数} + \text{6月中の該当退院患者数}) \times 0.5}$$

問8 平成21年6月1日時点、平成23年6月1日時点で疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者のうち、標準的算定日数を超えて算定した患者の割合*をご記入ください。				
	平成21年6月1日		平成23年6月1日	
1 心大血管疾患リハビリテーション料の算定患者	.	%	.	%
2 脳血管疾患等リハビリテーション料の算定患者	.	%	.	%
【再掲】廃用症候群以外の場合	.	%	.	%
【再掲】廃用症候群の場合	.	%	.	%
3 運動器リハビリテーション料の算定患者	.	%	.	%
4 呼吸器リハビリテーション料の算定患者	.	%	.	%

※**標準的算定日数を超えて算定した患者の割合**は、平成21年6月1日時点、平成23年6月1日時点で疾患別リハビリテーション料を算定した入院患者について、以下の式に基づき、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までご記入ください。

$$\text{標準的算定日数を超えて算定した患者の割合} = \frac{\text{該当する入院患者のうち標準的算定日数を超えて算定した患者数}}{\text{該当する入院患者数}}$$

■貴院の外来患者等の概況についてお伺いします。

問9 平成23年6月1カ月間における、疾患別リハビリテーション料、障害児（者）リハビリテーション料を算定した外来患者延べ数*等をご記入ください。		
1	心大血管疾患リハビリテーション料を算定した外来患者延べ数	延べ 人
	【再掲】標準的算定日数を超えて算定した外来患者延べ数	延べ 人
	【再々掲】介護保険における要介護認定を受けている外来患者延べ数	延べ 人
2	脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外の場合）を算定した外来患者延べ数	延べ 人
	【再掲】標準的算定日数を超えて算定した外来患者延べ数	延べ 人
	【再々掲】介護保険における要介護認定を受けている外来患者延べ数	延べ 人
3	脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群の場合）を算定した外来患者延べ数	延べ 人
	【再掲】標準的算定日数を超えて算定した外来患者延べ数	延べ 人
	【再々掲】介護保険における要介護認定を受けている外来患者延べ数	延べ 人
4	運動器リハビリテーション料を算定した外来患者延べ数	延べ 人
	【再掲】標準的算定日数を超えて算定した外来患者延べ数	延べ 人
	【再々掲】介護保険における要介護認定を受けている外来患者延べ数	延べ 人
5	呼吸器リハビリテーション料を算定した外来患者延べ数	延べ 人
	【再掲】標準的算定日数を超えて算定した外来患者延べ数	延べ 人
	【再々掲】介護保険における要介護認定を受けている外来患者延べ数	延べ 人
6	障害児（者）リハビリテーション料を算定した外来患者延べ数	延べ 人

※外来患者延べ数は、例えば、該当する1人の外来患者が6月中に5日間受診した場合は5人として計算してください。

■貴院における通所リハビリテーションの実施状況についてお伺いします。

問10 貴院では、通所リハビリテーションを実施していますか。

01 実施している (⇒問10-1～10-4へ)

02 実施していない (⇒問11へ)

問10-1 平成23年6月1カ月間の通所リハビリテーションの実施日数、利用者延べ数*をご記入ください。

1 通所リハビリテーションの実施日数		日
2 介護保険における通所リハビリテーション費を算定した利用者延べ数	延べ	人
【再掲】 1時間以上 2時間未満	延べ	人
【再掲】 2時間以上 3時間未満	延べ	人
【再掲】 3時間以上 4時間未満	延べ	人
【再掲】 4時間以上 6時間未満	延べ	人
【再掲】 6時間以上 8時間未満	延べ	人

※利用者延べ数は、例えば1人の利用者が6月中に5回利用した場合は5人として計算してください。

問10-2 当該部署に従事する職員数(実人数)をご記入ください。

	専 従*		専 任*	
1 医 師		人		人
2 看 護 師		人		人
3 准 看 護 師		人		人
4 理学療法士		人		人
5 作業療法士		人		人
6 言語聴覚士		人		人
7 その他の職種		人		人

※専従とは、原則として当該部署の業務のみに従事することをいいます。

専任とは、当該部署での業務とその他の部署等での業務を兼務していることをいいます。

問10-3 貴院の機能訓練室の状況として該当する方をお選びください。

01 医療保険のリハビリと介護保険のリハビリで1つの機能訓練室を利用している

02 医療保険のリハビリと介護保険のリハビリで別の機能訓練室を利用している

問10-4 貴院における利用者の送迎の実施状況として該当する方をお選びください。

01 実施している

02 実施していない

《問11・問12は通所リハビリテーション（所要時間1時間以上2時間未満）を実施していない場合にご回答ください》

問11 貴院で通所リハビリテーション（所要時間1時間以上2時間未満）を実施していない理由として該当するものを全てお選びください。

- 01 貴院にとって、維持期のリハビリは現行の13単位の使い勝手がよい
- 02 貴院にとって、通所リハビリに専従する人員を確保できない
- 03 貴院にとって、外来の医師の負担が重くなる
- 04 貴院にとって、通所リハビリのために別途場所の確保が必要となる
- 05 貴院にとって、通所リハビリの報酬では採算がとれない
- 06 貴院にとって、利用者の送迎体制を整えることが困難
- 07 貴院にとって、ケアマネジャーとの連携をとることが負担である
- 08 貴院にとって、介護報酬の請求事務の負担が大きい
- 09 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きい
- 10 患者にとって、要介護認定の申請が負担である
- 11 通所リハビリテーション（所要時間1時間以上2時間未満）の制度が新設されたことを知らなかった
- 12 その他（ ）

問12 自院に医療保険で通院している患者の介護保険によるリハビリテーションへの移行を目的として、外部の介護サービス事業者と連携していますか。

- 01 連携している（⇒問12-1、12-2へ）
- 02 連携していない（⇒問13へ）

問12-1 連携している外部の介護サービス事業者数をご記入ください。

1 連携している外部の居宅介護支援事業所	事業所
2 連携している外部の介護保険による通所リハビリテーション事業所	事業所

問12-2 平成23年6月1カ月間に居宅介護支援事業所、通所リハビリテーション事業所に紹介した患者数をご記入ください。

1 連携している外部の居宅介護支援事業所	人
2 連携している外部の介護保険による通所リハビリテーション事業所	人

■貴院の職員体制についてお伺いします。

問14 貴院において平成23年6月1日時点で雇用している職員数をご記入ください。					
		常 勤		非 常 勤 (常勤換算※1)	
1 医 師		人	.	人	人
	(再掲) 日本リハビリテーション医学会認定臨床医	人	.	人	人
	(再掲) 日本リハビリテーション医学会専門医	人	.	人	人
	(再掲) リハビリテーション科の医師	人	.	人	人
2 看 護 師		人	.	人	人
3 准 看 護 師		人	.	人	人
4 看護補助者		人	.	人	人
5 薬 剤 師		人	.	人	人
6 理学療法士		人	.	人	人
6 作業療法士		人	.	人	人
7 言語聴覚士		人	.	人	人
8 臨床心理士		人	.	人	人
9 義肢装具士		人	.	人	人
10 柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師		人	.	人	人
11 ソーシャルワーカー※3		人	.	人	人
	(再掲) 社会福祉士の資格保有者	人	.	人	人

※1. 非常勤職員の常勤換算の計算方法

貴院の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第一位まで(小数点第二位を切り上げ)ご記入ください。
例：1週間の所定労働時間が40時間の病院で、週4日(各日5時間)勤務の看護師が1人いる場合

$$\text{非常勤看護師数} = \frac{4日 \times 5時間 \times 1人}{40時間} = 0.5人$$

※2. ソーシャルワーカーとは、患者等が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図るための業務の従事者のことをいいます。

問15 貴院において医療保険によるリハビリテーションに係る業務に専任※、あるいは専従※している職員のうち、平成23年6月15日(水)、18日(土)、19日(日)に出勤した人数(実人数)をご記入ください。						
			常 勤		非 常 勤	
① 6月15日(水)	1 医 師	専 任	人	人	人	人
	2 看 護 師	専 従	人	人	人	人
	3 准 看 護 師	専 従	人	人	人	人
	4 理学療法士	専 従	人	人	人	人
	5 作業療法士	専 従	人	人	人	人
	6 言語聴覚士	専 従	人	人	人	人
	7 柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	人	人	人	人
② 6月18日(土)	1 医 師	専 任	人	人	人	人
	2 看 護 師	専 従	人	人	人	人
	3 准 看 護 師	専 従	人	人	人	人
	4 理学療法士	専 従	人	人	人	人
	5 作業療法士	専 従	人	人	人	人
	6 言語聴覚士	専 従	人	人	人	人
	7 柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	人	人	人	人
③ 6月19日(日)	1 医 師	専 任	人	人	人	人
	2 看 護 師	専 従	人	人	人	人
	3 准 看 護 師	専 従	人	人	人	人
	4 理学療法士	専 従	人	人	人	人
	5 作業療法士	専 従	人	人	人	人
	6 言語聴覚士	専 従	人	人	人	人
	7 柔道整復師・あん摩マッサージ指圧師	専 従	人	人	人	人

※専任とは、理学療法等を実施中の患者についての医学的な管理に責任を持ち、緊急事態には適切に対応できる医師をいいます。

ただし、専任の医師は一部他の業務に従事することが可能です。

※専従とは、原則としてリハビリテーションに係る業務のみに従事することをいいます。

■地域連携クリティカルパスの導入状況についてお伺いします。

問16 貴院では大腿骨頸部骨折および脳卒中に係る地域連携診療計画管理料、または地域連携診療計画退院時指導料の届出をしていますか。 なお、いずれについても「02 届出無し」の場合は、問18へお進みください。		
1 地域連携診療計画管理料	01 届出有り (⇒問17へ)	02 届出無し
2 地域連携診療計画退院時指導料	01 届出有り (⇒問17へ)	02 届出無し

問17 平成21年度と平成22年度の大腿骨頸部骨折及び脳卒中の入院患者の平均在院日数*をご記入ください。			
		平成21年度	平成22年度
1 大腿骨頸部骨折の入院患者の平均在院日数		. 日	. 日
【再掲】 地域連携診療計画管理料の算定患者の平均在院日数		. 日	. 日
【再掲】 地域連携診療計画退院時指導料の算定患者の平均在院日数		. 日	. 日
2 脳卒中の入院患者の平均在院日数		. 日	. 日
【再掲】 地域連携診療計画管理料の算定患者の平均在院日数		. 日	. 日
【再掲】 地域連携診療計画退院時指導料の算定患者の平均在院日数		. 日	. 日

※平均在院日数は、平成21年度、平成22年度における大腿骨頸部骨折や脳卒中による入院患者について、以下の式に基づき、小数点第2位を切り上げ小数点第1位までご記入ください。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{該当する在院患者延数}}{(\text{該当する新入院患者数} + \text{該当する退院患者数}) \times 0.5}$$

■本年3月の東日本大震災が貴院に与えた影響についてお伺いします。

問18 本年3月の東日本大震災が貴院に与えた影響として、該当するもの全てをお選びください。 なお、選択肢中の（増加・減少）、（厚く・薄く）などについては、いずれかをお選びください。	
01 入院患者数が（増加・減少）した	
02 外来患者数が（増加・減少）した	
03 入院患者の平均在院日数が（長く・短く）なった	
04 入院患者の増減の影響により、リハビリテーションを担当する人員体制が（厚く・薄く）なった	
05 人員体制への影響により、リハビリテーションの実施単位数が（増加・減少）した	
06 その他（	）
07 影響を受けていない	

■最後に、本調査に関連した事項でご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。

診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成23年度調査）
回復期リハビリテーション病棟におけるリハビリテーション見直しの影響調査

- ◎特に指定がある場合を除いて、平成23年6月1日現在の状況についてお答えください。
- ◎数値を記入する設問で、該当する方等が無い場合は「0」（ゼロ）をご記入ください。
- ◎病棟番号には任意の番号を振って、他の病棟票と区別できるようにしてください。また、貴棟から退棟した患者の状態像等の記入をお願いしている【退棟患者票】の「病棟番号」欄には、ここで記入いただく病棟番号と同じ番号をご記入ください。

病棟番号	
------	--

■貴棟の概況についてお伺いします。

問1 貴棟で算定している診療報酬として該当するもの全てに○をつけてください。	
01 回復期リハビリテーション病棟入院料1 ⇒ 施設基準の取得日 平成__年__月	
02 回復期リハビリテーション病棟入院料2 ⇒ 施設基準の取得日 平成__年__月	
03 重症患者回復病棟加算	
04 休日リハビリテーション提供体制加算	
05 リハビリテーション充実加算	

問2 貴棟の平成23年6月1日0時時点の病床数、入院患者数をご記入ください。			
	病 床 数		入院患者数
1 一般病床		床	人
2 療養病床		床	人
3 合 計（1+2）		床	人
【再掲】回復期リハビリテーション病棟入院料の非適応患者			人
【再々掲】回復期リハビリテーション病棟入院料の算定上限日数を超えた患者			人
【再々掲】回復期リハビリテーション病棟入院料の算定対象外の疾患の患者			人

問3 貴棟の平成21年6月、平成23年6月の平均在院日数、病床利用率を小数点第1位まで（小数点第2位を切り上げ）ご記入ください。			
	平成21年6月		平成23年6月
1 平均在院日数 ^{※1} （小数点第2位を切り上げ）	.	日	.
2 病床利用率 ^{※2} （小数点第2位を四捨五入）	.	%	.

※1. 平均在院日数は平成21年6月、平成23年6月の平均在院日数をご記入ください。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{6月の在棟患者延数}}{(\text{6月の新入棟患者数} + \text{6月の退棟患者数}) \times 0.5}$$

※2. 病床利用率は平成21年6月、平成23年6月の病床利用率をご記入ください。

$$\text{病床利用率} = \frac{\text{6月の在棟患者延のべ数}}{\text{6月の月間日数} \times \text{月末病床数}}$$

■貴棟の人員配置についてお伺いします。

問4 貴棟における 医師の配置状況 を専任、専従の別にご記入ください。			
		専 従 [※]	専 任 [※] (実人数)
1	医 師		人
	【再掲】日本リハビリテーション医学会認定臨床医		人
	【再掲】日本リハビリテーション医学会専門医		人

※**専従**とは、原則として貴棟の業務のみに従事することをいいます。

専任とは、貴棟での業務とその他の部署等での業務を兼務していることをいいます。

問5 貴棟における 看護師、准看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーの配置状況 について、専従、専任の別にご記入ください。 なお、専任職員については、常勤換算した上で小数点第1位までご記入ください。			
		専 従	専 任 (常勤換算 ^{※1})
1	看 護 師		. 人
2	准 看 護 師		. 人
3	看護補助者		. 人
4	薬 剤 師		. 人
5	理学療法士		. 人
6	作業療法士		. 人
7	言語聴覚士		. 人
8	ソーシャルワーカー ^{※2}		. 人
	【再掲】社会福祉士の資格保有者		. 人

※1. **専任（他部署の業務を兼務している）職員の常勤換算の計算方法**

貴院の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第一位まで（小数点第二位を切り上げ）ご記入ください。

例：1週間の所定労働時間が40時間の病院で、貴棟に週2日（各日3時間）勤務の看護師が1人と、週3日（各日5時間）勤務の看護師が2人いる場合

$$\text{専任看護師数} = \frac{(2日 \times 3時間 \times 1人) + (3日 \times 5時間 \times 2人)}{40時間} = 0.9人$$

※2. **ソーシャルワーカー**とは、患者等が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図るための業務の従事者のことをいいます。

■貴棟における新入棟患者の状況についてお伺いいたします。

問6 平成23年4月1カ月間における新入棟患者（かつ回復期リハビリテーション病棟入院料の適応患者）について、ご記入ください。				
1 平成23年4月における新入棟患者			人	
2 1の新入棟患者の入棟時の日常生活機能評価について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 また、入棟時の日常生活機能評価の平均得点を小数点第1位までご記入ください。 なお、①～⑤の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。				
① 0点		人	④ 10～14点	人
② 1～4点		人	⑤ 15～19点	人
③ 5～9点		人		
1の患者の入棟時の日常生活機能評価の平均得点（小数点第1位まで）			点	
3 1の新入棟患者の入棟時の主たる原因疾患について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑨の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。				
① 脳血管疾患		人	③ 頭部外傷	人
② 脊髄損傷		人	④ その他の脳神経系疾患	人
⑤ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の骨折、二肢以上の多発骨折				人
⑥ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の神経、筋、靭帯損傷				人
⑦ 股関節又は膝関節の置換手術後の状態				人
⑧ 外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群				人
⑨ その他の疾患				人
4 1の新入棟患者の状態等について、それぞれ該当する人数をご記入ください。				
① 合併症を有する状態			人	
② 中心静脈栄養を行っている状態			人	
③ 重度の認知症を有する状態			人	
④ 気管切開を有する状態			人	
⑤ 人工透析を行っている状態			人	
⑥ 家族等の身寄りがいない状態			人	
5 1の新入棟患者の入棟前の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑰の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。				
自 院	① 他の回復期リハビリテーション病棟			人
	② ①を除く一般病床			人
	③ ①を除く療養病床			人
	④ ①～③を除くその他の病床			人
他 院	⑤ 回復期リハビリテーション病棟 [病院]			人
	⑥ ⑤を除く一般病床 [病院]			人
	⑦ ⑤を除く療養病床 [病院]			人
	⑧ ⑤～⑦を除くその他の病床 [病院]			人
	⑨ 有床診療所			人
そ の 他	⑩ 介護老人保健施設（老人保健施設）			人
	⑪ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）			人
	⑫ 認知症高齢者グループホーム			人
	⑬ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）			人
	⑭ 高齢者専用賃貸住宅			人
	⑮ 障害者支援施設			人
	⑯ 在宅			人
⑰ その他			人	

問7 平成23年5月1カ月間における新入棟患者（かつ回復期リハビリテーション病棟入院料の適応患者）について、ご記入ください。					
1 平成23年5月における新入棟患者				人	
2 1の新入棟患者の入棟時の日常生活機能評価について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 また、入棟時の日常生活機能評価の平均得点を小数点第1位までご記入ください。 なお、①～⑤の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。					
① 0点		人	④ 10～14点	人	
② 1～4点		人	⑤ 15～19点	人	
③ 5～9点		人			
1の患者の入棟時の日常生活機能評価の平均得点（小数点第1位まで）			.	点	
3 1の新入棟患者の入棟時の主たる原因疾患について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑨の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。					
① 脳血管疾患		人	③ 頭部外傷	人	
② 脊髄損傷		人	④ その他の脳神経系疾患	人	
⑤ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の骨折、二肢以上の多発骨折				人	
⑥ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の神経、筋、靭帯損傷				人	
⑦ 股関節又は膝関節の置換手術後の状態				人	
⑧ 外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群				人	
⑨ その他の疾患				人	
4 1の新入棟患者の状態等について、それぞれ該当する人数をご記入ください。					
① 合併症を有する状態				人	
② 中心静脈栄養を行っている状態				人	
③ 重度の認知症を有する状態				人	
④ 気管切開を有する状態				人	
⑤ 人工透析を行っている状態				人	
⑥ 家族等の身寄りがいない状態				人	
5 1の新入棟患者の入棟前の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑰の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。					
自 院	① 他の回復期リハビリテーション病棟				人
	② ①を除く一般病床				人
	③ ①を除く療養病床				人
	④ ①～③を除くその他の病床				人
他 院	⑤ 回復期リハビリテーション病棟 [病院]				人
	⑥ ⑤を除く一般病床 [病院]				人
	⑦ ⑤を除く療養病床 [病院]				人
	⑧ ⑤～⑦を除くその他の病床 [病院]				人
	⑨ 有床診療所				人
そ の 他	⑩ 介護老人保健施設（老人保健施設）				人
	⑪ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）				人
	⑫ 認知症高齢者グループホーム				人
	⑬ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）				人
	⑭ 高齢者専用賃貸住宅				人
	⑮ 障害者支援施設				人
	⑯ 在宅				人
⑰ その他				人	

問8 平成23年6月1カ月間における新入棟患者（かつ回復期リハビリテーション病棟入院料の適応患者） について、ご記入ください。							
1 平成23年6月における新入棟患者			<input type="text"/>	人			
2 1の新入棟患者の入棟時の日常生活機能評価 について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 また、入棟時の日常生活機能評価の 平均得点 を小数点第1位までご記入ください。 なお、①～⑤の合計が 1 の新入棟患者数と同じになるようにしてください。							
①	0点	<input type="text"/>	人	④	10～14点	<input type="text"/>	人
②	1～4点	<input type="text"/>	人	⑤	15～19点	<input type="text"/>	人
③	5～9点	<input type="text"/>	人				
1の患者の入棟時の日常生活機能評価の平均得点 （小数点第1位まで）			<input type="text"/>	.	<input type="text"/>		点
3 1の新入棟患者の入棟時の主たる原因疾患 について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑨の合計が 1 の新入棟患者数と同じになるようにしてください。							
①	脳血管疾患	<input type="text"/>	人	③	頭部外傷	<input type="text"/>	人
②	脊髄損傷	<input type="text"/>	人	④	その他の脳神経系疾患	<input type="text"/>	人
⑤	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の骨折、二肢以上の多発骨折		<input type="text"/>			<input type="text"/>	人
⑥	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の神経、筋、靭帯損傷		<input type="text"/>			<input type="text"/>	人
⑦	股関節又は膝関節の置換手術後の状態		<input type="text"/>			<input type="text"/>	人
⑧	外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群		<input type="text"/>			<input type="text"/>	人
⑨	その他の疾患		<input type="text"/>			<input type="text"/>	人
4 1の新入棟患者の状態等 について、それぞれ該当する人数をご記入ください。							
①	合併症を有する状態		<input type="text"/>			<input type="text"/>	人
②	中心静脈栄養を行っている状態		<input type="text"/>			<input type="text"/>	人
③	重度の認知症を有する状態		<input type="text"/>			<input type="text"/>	人
④	気管切開を有する状態		<input type="text"/>			<input type="text"/>	人
⑤	人工透析を行っている状態		<input type="text"/>			<input type="text"/>	人
⑥	家族等の身寄りがいない状態		<input type="text"/>			<input type="text"/>	人
5 1の新入棟患者の入棟前の居場所 について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑰の合計が 1 の新入棟患者数と同じになるようにしてください。							
自 院	①	他の回復期リハビリテーション病棟		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	②	①を除く一般病床		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	③	①を除く療養病床		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	④	①～③を除くその他の病床		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
他 院	⑤	回復期リハビリテーション病棟 [病院]		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	⑥	⑤を除く一般病床 [病院]		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	⑦	⑤を除く療養病床 [病院]		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	⑧	⑤～⑦を除くその他の病床 [病院]		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	⑨	有床診療所		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
そ の 他	⑩	介護老人保健施設（老人保健施設）		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	⑪	介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	⑫	認知症高齢者グループホーム		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	⑬	有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	⑭	高齢者専用賃貸住宅		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	⑮	障害者支援施設		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
	⑯	在宅		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人
⑰	その他		<input type="text"/>		<input type="text"/>	人	

■貴病棟における退棟患者の状況についてお伺いいたします。

問9 平成23年4月1カ月間における退棟患者（かつ回復期リハビリテーション病棟入院料の適応患者）について、ご記入ください。			
1 平成23年4月における退棟患者			人
2 1の退棟患者のうち、入棟時の日常生活機能評価が10点以上の患者			人
3 2の患者のうち、退棟時の日常生活機能評価が3点以上改善していた患者			人
4 1の退棟患者の退棟後の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑩の合計が1の退棟患者数と同じになるようにしてください。			
在宅	① 在宅		人
	② 他の回復期リハビリテーション病棟		人
自 院	③ ②を除く一般病床		人
	④ ②を除く療養病床		人
	⑤ ②～④を除くその他の病床		人
他 院	⑥ 回復期リハビリテーション病棟 [病院]		人
	⑦ ⑥を除く一般病床 [病院]		人
	⑧ ⑥を除く療養病床 [病院]		人
	⑨ ⑥～⑧を除くその他の病床 [病院]		人
そ の 他	⑩ 有床診療所		人
	⑪ 介護老人保健施設（老人保健施設）		人
	⑫ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）		人
	⑬ 認知症高齢者グループホーム		人
	⑭ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）		人
	⑮ 高齢者専用賃貸住宅		人
	⑯ 障害者支援施設		人
⑰ 死亡		人	
⑱ その他		人	

問10 平成23年5月1カ月間における退棟患者（かつ回復期リハビリテーション病棟入院料の適応患者）について、ご記入ください。			
1 平成23年5月における退棟患者			人
2 1の退棟患者のうち、入棟時の日常生活機能評価が10点以上の患者			人
3 2の患者のうち、退棟時の日常生活機能評価が3点以上改善していた患者			人
4 1の退棟患者の退棟後の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑱の合計が1の退棟患者数と同じになるようにしてください。			
在宅	① 在宅		人
	② 他の回復期リハビリテーション病棟		人
自 院	③ ②を除く一般病床		人
	④ ②を除く療養病床		人
	⑤ ②～④を除くその他の病床		人
他 院	⑥ 回復期リハビリテーション病棟 [病院]		人
	⑦ ⑥を除く一般病床 [病院]		人
	⑧ ⑥を除く療養病床 [病院]		人
	⑨ ⑥～⑧を除くその他の病床 [病院]		人
そ の 他	⑩ 有床診療所		人
	⑪ 介護老人保健施設（老人保健施設）		人
	⑫ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）		人
	⑬ 認知症高齢者グループホーム		人
	⑭ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）		人
	⑮ 高齢者専用賃貸住宅		人
	⑯ 障害者支援施設		人
⑰ 死亡		人	
⑱ その他		人	

問11 平成23年6月1カ月間における退棟患者（かつ回復期リハビリテーション病棟入院料の適応患者）について、ご記入ください。			
1	平成23年6月における退棟患者		人
2	1の退棟患者のうち、入棟時の日常生活機能評価が10点以上の患者		人
3	2の患者のうち、退棟時の日常生活機能評価が3点以上改善していた患者		人
4	1の退棟患者の退棟後の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑩の合計が1の退棟患者数と同じになるようにしてください。		
在宅	① 在宅		人
	自 院	② 他の回復期リハビリテーション病棟	人
		③ ②を除く一般病床	人
		④ ②を除く療養病床	人
	⑤ ②～④を除くその他の病床	人	
他 院	⑥ 回復期リハビリテーション病棟 [病院]	人	
	⑦ ⑥を除く一般病床 [病院]	人	
	⑧ ⑥を除く療養病床 [病院]	人	
	⑨ ⑥～⑧を除くその他の病床 [病院]	人	
	⑩ 有床診療所	人	
そ の 他	⑪ 介護老人保健施設（老人保健施設）	人	
	⑫ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	人	
	⑬ 認知症高齢者グループホーム	人	
	⑭ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	人	
	⑮ 高齢者専用賃貸住宅	人	
	⑯ 障害者支援施設	人	
	⑰ 死亡	人	
	⑱ その他	人	

問12 貴棟の平成23年1月～6月の6カ月間の在宅復帰率 ^{※1} 、重症患者回復率 ^{※2} をご記入ください。			
1	平成23年1月～6月の6カ月間における在宅復帰率（小数点第一位まで）	.	%
2	平成23年1月～6月の6カ月間における重症患者回復率（小数点第一位まで）	.	%

※1. 在宅復帰率の計算方法は以下の通りです。

$$\text{在宅復帰率} = \frac{\text{1月～6月の6カ月間に他の保険医療機関へ転院した者等を除く患者数}}{\text{1月～6月の6カ月間に貴棟から退棟した患者数}}$$

※2. 重症患者回復率の計算方法は以下の通りです。なお、重症の患者とは、日常生活機能評価で10点以上の患者のことをいいます。

$$\text{重症患者回復率} = \frac{\text{1月～6月の6カ月間に退棟した重症の患者（入院期間が通算される再入院の患者を除く）であって、入棟時と比較し日常生活機能評価が3点以上改善した患者数}}{\text{1月～6月の6カ月間に貴棟に入棟していた重症の患者数}}$$

■貴病棟におけるリハビリテーションの実施体制についてお伺いたします。

問13 貴棟で、平成23年6月15日(水)、18日(土)、19日(日)に実施した疾患別リハビリテーションについて、その実施対象者数と実施単位数をご記入ください。

6月15日(水)	リハビリテーションの実施対象者数 () 人
1 脳血管疾患等(廃用症候群以外)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
2 脳血管疾患等(廃用症候群)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
3 運動器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
4 心大血管疾患	理学療法 () 単位
5 呼吸器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
6月18日(土)	リハビリテーションの実施対象者数 () 人
1 脳血管疾患等(廃用症候群以外)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
2 脳血管疾患等(廃用症候群)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
3 運動器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
4 心大血管疾患	理学療法 () 単位
5 呼吸器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
6月19日(日)	リハビリテーションの実施対象者数 () 人
1 脳血管疾患等(廃用症候群以外)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
2 脳血管疾患等(廃用症候群)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
3 運動器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
4 心大血管疾患	理学療法 () 単位
5 呼吸器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位

問14 貴棟で、平成23年6月15日(水)、18日(土)、19日(日)に算定上限日数を超えた患者に対して実施した疾患別リハビリテーションについて、その実施対象者数と実施単位数をご記入ください。

6月15日(水)	リハビリテーションの実施対象者数 () 人
1 脳血管疾患等(廃用症候群以外)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
2 脳血管疾患等(廃用症候群)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
3 運動器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
4 心大血管疾患	理学療法 () 単位
5 呼吸器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
6月18日(土)	リハビリテーションの実施対象者数 () 人
1 脳血管疾患等(廃用症候群以外)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
2 脳血管疾患等(廃用症候群)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
3 運動器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
4 心大血管疾患	理学療法 () 単位
5 呼吸器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
6月19日(日)	リハビリテーションの実施対象者数 () 人
1 脳血管疾患等(廃用症候群以外)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
2 脳血管疾患等(廃用症候群)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
3 運動器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
4 心大血管疾患	理学療法 () 単位
5 呼吸器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位

≪平日と比較して、土曜や日曜におけるリハビリテーションの実施単位数が少ない場合にご回答ください≫

問15 平日と比較して、土曜や日曜におけるリハビリテーションの実施単位数が少ない理由について具体的に記入ください。

--

■貴棟の退院支援体制についてお伺いします。

問16 貴棟では退院支援*を実施していますか。

01 実施している (⇒問16-1、問16-2へ)

02 実施していない (⇒問17へ)

※退院支援とは、関係職種によって退院支援計画の作成、退院先の検討、退院後の必要なサービスの紹介等を行うことをいいます。

問16-1 貴棟において退院支援に専従している職員数(実人数)をご記入ください。

1 看護師		人
2 准看護師		人
3 ソーシャルワーカー*3		人
【再掲】社会福祉士の資格保有者		人
4 事務職員		人
5 その他の職種		人

※1. 専従とは、原則として当該業務のみに従事することをいいます。

※2. ソーシャルワーカーとは、患者等が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図るための業務の従事者のことをいいます。

問16-2 退院支援の内容として該当するもの全てに○をつけてください。

- 01 入院中の治療方針に関する説明と退院までの見通しの説明
- 02 継続的な療養管理が可能な状態となるまでの期間と退院日の設定
- 03 退院後の居場所に関する調整
- 04 患者や家族に対するカウンセリングと精神的支援
- 05 患者への治療に係る目標管理と退院指導
- 06 家族への介護技術と医療技術の指導
- 07 要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整
- 08 利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援
- 09 退院当日や退院後の療養相談
- 10 退院後の定期的な患者の状態確認
- 11 その他 ()

問17 貴棟では、退院時リハビリテーション指導料*1、介護支援連携指導料*2に該当する入院患者の退院時の指導等を実施していますか。

1 退院時リハビリテーション指導料に該当する指導

01 ほぼ全ての患者に実施

02 一部の患者には実施

03 実施していない

2 介護支援連携指導料に該当する指導

01 ほぼ全ての患者に実施

02 一部の患者には実施

03 実施していない

※1. 退院時リハビリテーション指導料に該当する指導は、入院患者の退院に際し、患者の病床、患家の家屋構造、介護力等を考慮しながら、患者又はその家族等退院後患者の看護に当たる者に対して、リハビリテーションの観点から退院後の療養上必要と考えられる指導を行うことをいいます。

※2. 介護支援連携指導料に該当する指導は、入院の原因となった疾患・障害や入院時に行った患者の心身の状況等の総合的な評価の結果を踏まえ、退院後に介護サービスを導入することが適当であると考えられ、また、本人も導入を望んでいる患者が、退院後により適切な介護サービスを受けられるよう、入院中から居宅介護支援事業者等の介護支援専門員(ケアマネジャー)と連携し退院後のケアプラン作成につなげることをいいます。

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。

診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成23年度調査）
亜急性期入院医療管理料算定病棟におけるリハビリテーション見直しの影響調査

◎特に指定がある場合を除いて、平成23年6月1日現在の状況についてお答えください。

◎数値を記入する設問で、該当する方等が無い場合は「0」（ゼロ）をご記入ください。

◎病棟番号には任意の番号を振って、他の病棟票と区別できるようにしてください。また、貴棟から退棟した患者の状態像等の記入をお願いしている【退棟患者票】の「病棟番号」欄には、ここで記入いただく病棟番号と同じ番号をご記入ください。

病棟番号	
------	--

■貴棟の概況についてお伺いします。

問1 貴棟で算定している診療報酬として該当するもの全てに○をつけてください。	
01	亜急性期入院医療管理料1 ⇒ 施設基準の取得日 平成__年__月
02	亜急性期入院医療管理料2 ⇒ 施設基準の取得日 平成__年__月
03	リハビリテーション提供体制加算

問2 貴棟の平成23年6月1日0時時点の病床数、入院患者数をご記入ください。			
	病 床 数	入 院 患 者 数	
1	亜急性期入院医療管理料1の算定病床	床	人
	【再掲】亜急性期入院医療管理料1の算定上限日数を超えた患者		人
2	亜急性期入院医療管理料2の算定病床	床	人
	【再掲】亜急性期入院医療管理料2の算定上限日数を超えた患者		人
3	1及び2以外の一般病床	床	人
4	合 計（1 + 2 + 3）	床	人

問3 貴棟の平成21年6月、平成23年6月の平均在院日数、病床利用率を小数点第1位まで（小数点第2位を切り上げ）ご記入ください。			
	平成21年6月	平成23年6月	
1	平均在院日数 ^{※1} （小数点第2位を切り上げ）	日	日
	【再掲】亜急性期入院医療管理料算定病床の平均在院日数	日	日
2	病床利用率 ^{※2} （小数点第2位を四捨五入）	%	%
	【再掲】亜急性期入院医療管理料算定病床の病床利用率	%	%

※1. 平均在院日数は平成21年6月、平成23年6月の平均在院日数をご記入ください。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{6月の在棟患者延数}}{(\text{6月の新入棟患者数} + \text{6月の退棟患者数}) \times 0.5}$$

※2. 病床利用率は平成21年6月、平成23年6月の病床利用率をご記入ください。

$$\text{病 床 利 用 率} = \frac{\text{6月の在棟患者延のべ数}}{\text{6月の月間日数} \times \text{月末病床数}}$$

■貴棟の人員配置についてお伺いします。

問4 貴棟における 医師の配置状況 を専任、専従の別にご記入ください。					
		専 従 [※]		専 任 [※] (実人数)	
1	医 師		人		人
	【再掲】日本リハビリテーション医学会認定臨床医		人		人
	【再掲】日本リハビリテーション医学会専門医		人		人

※**専従**とは、原則として貴棟の業務のみに従事することをいいます。

専任とは、貴棟での業務とその他の部署等での業務を兼務していることをいいます。

問5 貴棟における 看護師、准看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーの配置状況 について、専従、専任の別にご記入ください。 なお、専任職員については、常勤換算した上で小数点第1位までご記入ください。					
		専 従		専 任 (常勤換算 ^{※1})	
1	看 護 師		人	.	人
2	准 看 護 師		人	.	人
3	看護補助者		人	.	人
4	薬 剤 師		人	.	人
5	理学療法士		人	.	人
6	作業療法士		人	.	人
7	言語聴覚士		人	.	人
8	ソーシャルワーカー ^{※2}		人	.	人
	【再掲】社会福祉士の資格保有者		人	.	人

※1. **専任（他部署の業務を兼務している）職員の常勤換算の計算方法**

貴院の1週間の所定労働時間を基本として、下記のように常勤換算して小数第一位まで（小数点第二位を切り上げ）ご記入ください。

例：1週間の所定労働時間が40時間の病院で、貴棟に週2日（各日3時間）勤務の看護師が1人と、週3日（各日5時間）勤務の看護師が2人いる場合

$$\text{専任看護師数} = \frac{(2日 \times 3時間 \times 1人) + (3日 \times 5時間 \times 2人)}{40時間} = 0.9人$$

※2. **ソーシャルワーカー**とは、患者等が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図るための業務の従事者のことをいいます。

■貴棟における新入棟患者（かつ亜急性期入院医療管理料1の適応患者）の状況についてお伺いいたします。

問6 平成23年4月1カ月間における新入棟患者（かつ亜急性期入院医療管理料1の適応患者）について、ご記入ください。						
1 平成23年4月における新入棟患者					人	
2 1の新入棟患者の入棟時の日常生活機能評価について、それぞれ該当する人数をご記入ください。また、入棟時の日常生活機能評価の平均得点を小数点第1位までご記入ください。なお、①～⑤の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。						
① 0点		人	④ 10～14点		人	
② 1～4点		人	⑤ 15～19点		人	
③ 5～9点		人				
1の患者の入棟時の日常生活機能評価の平均得点（小数点第1位まで）					点	
3 1の新入棟患者の入棟時の主たる原因疾患について、それぞれ該当する人数をご記入ください。なお、①～⑨の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。						
① 脳血管疾患		人	③ 頭部外傷		人	
② 脊髄損傷		人	④ その他の脳神経系疾患		人	
⑤ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の骨折、二肢以上の多発骨折						
⑥ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の神経、筋、靭帯損傷						
⑦ 股関節又は膝関節の置換手術後の状態						
⑧ 外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群						
⑨ その他の疾患						
4 1の新入棟患者のうち、それぞれ該当する人数をご記入ください。						
① 回復期リハビリテーションを必要とする患者					人	
② ①のうち、合併症を有する患者					人	
5 1の新入棟患者の状態等について、それぞれ該当する人数をご記入ください。						
① 合併症を有する状態					人	
② 中心静脈栄養を行っている状態					人	
③ 重度の認知症を有する状態					人	
④ 気管切開を有する状態					人	
⑤ 人工透析を行っている状態					人	
⑥ 家族等の身寄りがいない状態					人	
6 1の新入棟患者の入棟前の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。なお、①～⑰の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。						
自 院	① 急性期病床*					人
	② ①以外の一般病床					人
	③ 療養病床					人
	④ ①～③を除くその他の病床					人
他 院	⑤ 急性期病床* [病院]					人
	⑥ ⑤以外の一般病床					人
	⑦ 療養病床 [病院]					人
	⑧ ⑤～⑦を除くその他の病床 [病院]					人
	⑨ 有床診療所					人
そ の 他	⑩ 介護老人保健施設（老人保健施設）					人
	⑪ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）					人
	⑫ 認知症高齢者グループホーム					人
	⑬ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）					人
	⑭ 高齢者専用賃貸住宅					人
	⑮ 障害者支援施設					人
	⑯ 在宅					人
⑰ その他					人	

※急性期病床とは、7対1入院基本料等（7対1入院基本料、10対1入院基本料を算定している病棟（一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料及び専門病院入院基本料に限る。）、総合入院体制加算、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料並びに脳卒中ケアユニット入院医療管理料のいずれか）に係る届出病床を指す。

問7 平成23年5月1カ月間における新入棟患者（かつ亜急性期入院医療管理料1の適応患者）について、ご記入ください。						
1 平成23年5月における新入棟患者					人	
2 1の新入棟患者の入棟時の日常生活機能評価について、それぞれ該当する人数をご記入ください。また、入棟時の日常生活機能評価の平均得点を小数点第1位までご記入ください。なお、①～⑤の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。						
① 0点		人	④ 10～14点		人	
② 1～4点		人	⑤ 15～19点		人	
③ 5～9点		人				
1の患者の入棟時の日常生活機能評価の平均得点（小数点第1位まで）					点	
3 1の新入棟患者の入棟時の主たる原因疾患について、それぞれ該当する人数をご記入ください。なお、①～⑨の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。						
① 脳血管疾患		人	③ 頭部外傷		人	
② 脊髄損傷		人	④ その他の脳神経系疾患		人	
⑤ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の骨折、二肢以上の多発骨折						
⑥ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の神経、筋、靭帯損傷						
⑦ 股関節又は膝関節の置換手術後の状態						
⑧ 外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群						
⑨ その他の疾患						
4 1の新入棟患者のうち、それぞれ該当する人数をご記入ください。						
① 回復期リハビリテーションを必要とする患者					人	
② ①のうち、合併症を有する患者					人	
5 1の新入棟患者の状態等について、それぞれ該当する人数をご記入ください。						
① 合併症を有する状態					人	
② 中心静脈栄養を行っている状態					人	
③ 重度の認知症を有する状態					人	
④ 気管切開を有する状態					人	
⑤ 人工透析を行っている状態					人	
⑥ 家族等の身寄りがいない状態					人	
6 1の新入棟患者の入棟前の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。なお、①～⑰の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。						
自 院	① 急性期病床					人
	② ①以外の一般病床					人
	③ 療養病床					人
	④ ①～③を除くその他の病床					人
他 院	⑤ 急性期病床 [病院]					人
	⑥ ⑤以外の一般病床					人
	⑦ 療養病床 [病院]					人
	⑧ ⑤～⑦を除くその他の病床 [病院]					人
	⑨ 有床診療所					人
そ の 他	⑩ 介護老人保健施設（老人保健施設）					人
	⑪ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）					人
	⑫ 認知症高齢者グループホーム					人
	⑬ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）					人
	⑭ 高齢者専用賃貸住宅					人
	⑮ 障害者支援施設					人
	⑯ 在宅					人
	⑰ その他					人

問8 平成23年6月1カ月間における新入棟患者（かつ亜急性期入院医療管理料1の適応患者）について、ご記入ください。						
1 平成23年4月における新入棟患者					人	
2 1の新入棟患者の入棟時の日常生活機能評価について、それぞれ該当する人数をご記入ください。また、入棟時の日常生活機能評価の平均得点を小数点第1位までご記入ください。なお、①～⑤の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。						
① 0点		人	④ 10～14点		人	
② 1～4点		人	⑤ 15～19点		人	
③ 5～9点		人				
1の患者の入棟時の日常生活機能評価の平均得点（小数点第1位まで）					点	
3 1の新入棟患者の入棟時の主たる原因疾患について、それぞれ該当する人数をご記入ください。なお、①～⑨の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。						
① 脳血管疾患		人	③ 頭部外傷		人	
② 脊髄損傷		人	④ その他の脳神経系疾患		人	
⑤ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の骨折、二肢以上の多発骨折						
⑥ 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の神経、筋、靭帯損傷						
⑦ 股関節又は膝関節の置換手術後の状態						
⑧ 外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群						
⑨ その他の疾患						
4 1の新入棟患者のうち、それぞれ該当する人数をご記入ください。						
① 回復期リハビリテーションを必要とする患者					人	
② ①のうち、合併症を有する患者					人	
5 1の新入棟患者の状態等について、それぞれ該当する人数をご記入ください。						
① 合併症を有する状態					人	
② 中心静脈栄養を行っている状態					人	
③ 重度の認知症を有する状態					人	
④ 気管切開を有する状態					人	
⑤ 人工透析を行っている状態					人	
⑥ 家族等の身寄りがいない状態					人	
6 1の新入棟患者の入棟前の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。なお、①～⑰の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。						
自 院	① 急性期病床					人
	② ①以外の一般病床					人
	③ 療養病床					人
	④ ①～③を除くその他の病床					人
他 院	⑤ 急性期病床 [病院]					人
	⑥ ⑤以外の一般病床					人
	⑦ 療養病床 [病院]					人
	⑧ ⑤～⑦を除くその他の病床 [病院]					人
	⑨ 有床診療所					人
そ の 他	⑩ 介護老人保健施設（老人保健施設）					人
	⑪ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）					人
	⑫ 認知症高齢者グループホーム					人
	⑬ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）					人
	⑭ 高齢者専用賃貸住宅					人
	⑮ 障害者支援施設					人
	⑯ 在宅					人
	⑰ その他					人

■貴病棟における退棟患者（かつ亜急性期入院医療管理料1の適応患者）の状況についてお伺いいたします。

問9 平成23年4月1カ月間における退棟患者（かつ亜急性期入院医療管理料1の適応患者）について、ご記入ください。			
1 平成23年4月における退棟患者			人
2 1の退棟患者のうち、入棟時の日常生活機能評価が10点以上の患者			人
3 2の患者のうち、退棟時の日常生活機能評価が3点以上改善していた患者			人
4 1の退棟患者の退棟後の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑯の合計が1の退棟患者数と同じになるようにしてください。			
在宅 自 院	① 在宅		人
	② 一般病床		人
	③ 療養病床		人
	④ ②～③を除くその他の病床		人
他 院	⑤ 一般病床 [病院]		人
	⑥ 療養病床 [病院]		人
	⑦ ⑤～⑥を除くその他の病床 [病院]		人
	⑧ 有床診療所		人
そ の 他	⑨ 介護老人保健施設（老人保健施設）		人
	⑩ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）		人
	⑪ 認知症高齢者グループホーム		人
	⑫ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）		人
	⑬ 高齢者専用賃貸住宅		人
	⑭ 障害者支援施設		人
	⑮ 死亡		人
⑯ その他		人	
5 1の退棟患者のうち、退院時リハビリテーション指導料の算定患者			人
6 1の退棟患者のうち、介護支援連携指導料の算定患者			人

問10 平成23年5月1カ月間における退棟患者（かつ亜急性期入院医療管理料1の適応患者）について、ご記入ください。			
1 平成23年5月における退棟患者			人
2 1の退棟患者のうち、入棟時の日常生活機能評価が10点以上の患者			人
3 2の患者のうち、退棟時の日常生活機能評価が3点以上改善していた患者			人
4 1の退棟患者の退棟後の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑯の合計が1の退棟患者数と同じになるようにしてください。			
在宅 自 院	① 在宅		人
	② 一般病床		人
	③ 療養病床		人
	④ ②～③を除くその他の病床		人
他 院	⑤ 一般病床 [病院]		人
	⑥ 療養病床 [病院]		人
	⑦ ⑤～⑥を除くその他の病床 [病院]		人
	⑧ 有床診療所		人
そ の 他	⑨ 介護老人保健施設（老人保健施設）		人
	⑩ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）		人
	⑪ 認知症高齢者グループホーム		人
	⑫ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）		人
	⑬ 高齢者専用賃貸住宅		人
	⑭ 障害者支援施設		人
	⑮ 死亡		人
⑯ その他		人	
5 1の退棟患者のうち、退院時リハビリテーション指導料の算定患者			人
6 1の退棟患者のうち、介護支援連携指導料の算定患者			人

問11 平成23年6月1カ月間における退棟患者(かつ亜急性期入院医療管理料1の適応患者)について、ご記入ください。			
1	平成23年6月における退棟患者		人
2	1の退棟患者のうち、入棟時の日常生活機能評価が10点以上の患者		人
3	2の患者のうち、退棟時の日常生活機能評価が3点以上改善していた患者		人
4	1の退棟患者の退棟後の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑯の合計が1の退棟患者数と同じになるようにしてください。		
在宅	① 在宅		人
	自 院	② 一般病床	人
		③ 療養病床	人
		④ ②～③を除くその他の病床	人
他 院	⑤ 一般病床 [病院]	人	
	⑥ 療養病床 [病院]	人	
	⑦ ⑤～⑥を除くその他の病床 [病院]	人	
	⑧ 有床診療所	人	
そ の 他	⑨ 介護老人保健施設 (老人保健施設)	人	
	⑩ 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	人	
	⑪ 認知症高齢者グループホーム	人	
	⑫ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス)	人	
	⑬ 高齢者専用賃貸住宅	人	
	⑭ 障害者支援施設	人	
	⑮ 死亡	人	
⑯ その他	人		
5	1の退棟患者のうち、退院時リハビリテーション指導料の算定患者		人
6	1の退棟患者のうち、介護支援連携指導料の算定患者		人

■貴棟における新入棟患者（かつ亜急性期入院医療管理料2の適応患者）の状況についてお伺いたします。

問12 平成23年4月1カ月間における新入棟患者（かつ亜急性期入院医療管理料2の適応患者）について、ご記入ください。		
1 平成23年4月における新入棟患者		人
2 1の新入棟患者の入棟前の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～③の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。		
① 自宅や介護施設等から直接入院		人
② 自院の亜急性期入院医療管理料を算定する病床以外からの転床		人
②のうち、自院の急性期病床*からの転床		人
③ 他院からの転院		人
③のうち、他院の急性期病床*からの転床		人

※急性期病床とは、7対1入院基本料等（7対1入院基本料、10対1入院基本料を算定している病棟（一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料及び専門病院入院基本料に限る。）、総合入院体制加算、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料並びに脳卒中ケアユニット入院医療管理料のいずれか）に係る届出病床を指す。

問13 平成23年5月1カ月間における新入棟患者（かつ亜急性期入院医療管理料2の適応患者）について、ご記入ください。		
1 平成23年5月における新入棟患者		人
2 1の新入棟患者の入棟前の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～③の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。		
① 自宅や介護施設等から直接入院		人
② 自院の亜急性期入院医療管理料を算定する病床以外からの転床		人
②のうち、自院の急性期病床*からの転床		人
③ 他院からの転院		人
③のうち、他院の急性期病床*からの転床		人

問14 平成23年6月1カ月間における新入棟患者（かつ亜急性期入院医療管理料2の適応患者）について、ご記入ください。		
1 平成23年6月における新入棟患者		人
2 1の新入棟患者の入棟前の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～③の合計が1の新入棟患者数と同じになるようにしてください。		
① 自宅や介護施設等から直接入院		人
② 自院の亜急性期入院医療管理料を算定する病床以外からの転床		人
②のうち、自院の急性期病床*からの転床		人
③ 他院からの転院		人
③のうち、他院の急性期病床*からの転床		人

■貴病棟における退棟患者（かつ亜急性期入院医療管理料2の適応患者）の状況についてお伺いいたします。

問15 平成23年4月1カ月間における退棟患者(かつ亜急性期入院医療管理料2の適応患者)について、ご記入ください。			
1 平成23年4月における退棟患者			人
2 1の退棟患者のうち、入棟時の日常生活機能評価が10点以上の患者			人
3 2の患者のうち、退棟時の日常生活機能評価が3点以上改善していた患者			人
4 1の退棟患者の退棟後の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑯の合計が1の退棟患者数と同じになるようにしてください。			
在宅	① 在宅		人
	自 院	② 一般病床	人
		③ 療養病床	人
		④ ②～③を除くその他の病床	人
他 院	⑤ 一般病床 [病院]	人	
	⑥ 療養病床 [病院]	人	
	⑦ ⑤～⑥を除くその他の病床 [病院]	人	
	⑧ 有床診療所	人	
そ の 他	⑨ 介護老人保健施設（老人保健施設）	人	
	⑩ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	人	
	⑪ 認知症高齢者グループホーム	人	
	⑫ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	人	
	⑬ 高齢者専用賃貸住宅	人	
	⑭ 障害者支援施設	人	
	⑮ 死亡	人	
⑯ その他	人		
5 1の退棟患者のうち、退院時リハビリテーション指導料の算定患者			人
6 1の退棟患者のうち、介護支援連携指導料の算定患者			人

問16 平成23年5月1カ月間における退棟患者(かつ亜急性期入院医療管理料2の適応患者)について、ご記入ください。			
1 平成23年5月における退棟患者			人
2 1の退棟患者のうち、入棟時の日常生活機能評価が10点以上の患者			人
3 2の患者のうち、退棟時の日常生活機能評価が3点以上改善していた患者			人
4 1の退棟患者の退棟後の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑯の合計が1の退棟患者数と同じになるようにしてください。			
在宅	① 在宅		人
	自 院	② 一般病床	人
		③ 療養病床	人
		④ ②～③を除くその他の病床	人
他 院	⑤ 一般病床 [病院]	人	
	⑥ 療養病床 [病院]	人	
	⑦ ⑤～⑥を除くその他の病床 [病院]	人	
	⑧ 有床診療所	人	
そ の 他	⑨ 介護老人保健施設（老人保健施設）	人	
	⑩ 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	人	
	⑪ 認知症高齢者グループホーム	人	
	⑫ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム（ケアハウス）	人	
	⑬ 高齢者専用賃貸住宅	人	
	⑭ 障害者支援施設	人	
	⑮ 死亡	人	
⑯ その他	人		
5 1の退棟患者のうち、退院時リハビリテーション指導料の算定患者			人
6 1の退棟患者のうち、介護支援連携指導料の算定患者			人

問17 平成23年6月1カ月間における退棟患者(かつ亜急性期入院医療管理料2の適応患者)について、 ご記入ください。			
1	平成23年6月における退棟患者		人
2	1の退棟患者のうち、入棟時の日常生活機能評価が10点以上の患者		人
3	2の患者のうち、退棟時の日常生活機能評価が3点以上改善していた患者		人
4	1の退棟患者の退棟後の居場所について、それぞれ該当する人数をご記入ください。 なお、①～⑯の合計が1の退棟患者数と同じになるようにしてください。		
在宅	① 在宅		人
	自 院	② 一般病床	人
		③ 療養病床	人
		④ ②～③を除くその他の病床	人
他 院	⑤ 一般病床 [病院]	人	
	⑥ 療養病床 [病院]	人	
	⑦ ⑤～⑥を除くその他の病床 [病院]	人	
	⑧ 有床診療所	人	
そ の 他	⑨ 介護老人保健施設 (老人保健施設)	人	
	⑩ 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	人	
	⑪ 認知症高齢者グループホーム	人	
	⑫ 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス)	人	
	⑬ 高齢者専用賃貸住宅	人	
	⑭ 障害者支援施設	人	
	⑮ 死亡	人	
⑯ その他	人		
5	1の退棟患者のうち、退院時リハビリテーション指導料の算定患者		人
6	1の退棟患者のうち、介護支援連携指導料の算定患者		人

■貴病棟におけるリハビリテーションの実施体制についてお伺いたします。

問18 貴棟で、平成23年6月15日(水)、18日(土)、19日(日)に、亜急性期入院医療管理料の適応患者に対して実施した疾患別リハビリテーションについて、その実施対象者数と実施単位数をご記入ください。	
6月15日(水)	リハビリテーションの実施対象者数 () 人
1 脳血管疾患等(廃用症候群以外)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
2 脳血管疾患等(廃用症候群)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
3 運動器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
4 心大血管疾患	理学療法 () 単位
5 呼吸器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
6月18日(土)	リハビリテーションの実施対象者数 () 人
1 脳血管疾患等(廃用症候群以外)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
2 脳血管疾患等(廃用症候群)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
3 運動器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
4 心大血管疾患	理学療法 () 単位
5 呼吸器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
6月19日(日)	リハビリテーションの実施対象者数 () 人
1 脳血管疾患等(廃用症候群以外)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
2 脳血管疾患等(廃用症候群)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
3 運動器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
4 心大血管疾患	理学療法 () 単位
5 呼吸器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位

問19 貴棟で、平成23年6月15日(水)、18日(土)、19日(日)に、亜急性期入院医療管理料の算定上限日数を超えた患者に対して実施した疾患別リハビリテーションについて、その実施対象者数と実施単位数をご記入ください。	
6月15日(水)	リハビリテーションの実施対象者数 () 人
1 脳血管疾患等(廃用症候群以外)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
2 脳血管疾患等(廃用症候群)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
3 運動器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
4 心大血管疾患	理学療法 () 単位
5 呼吸器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
6月18日(土)	リハビリテーションの実施対象者数 () 人
1 脳血管疾患等(廃用症候群以外)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
2 脳血管疾患等(廃用症候群)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
3 運動器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
4 心大血管疾患	理学療法 () 単位
5 呼吸器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
6月19日(日)	リハビリテーションの実施対象者数 () 人
1 脳血管疾患等(廃用症候群以外)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
2 脳血管疾患等(廃用症候群)	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位 言語聴覚療法 () 単位
3 運動器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位
4 心大血管疾患	理学療法 () 単位
5 呼吸器	理学療法 () 単位 作業療法 () 単位

◀平日と比較して、土曜や日曜におけるリハビリテーションの実施単位数が少ない場合にご回答ください▶

問20 平日と比較して、土曜や日曜におけるリハビリテーションの実施単位数が少ない理由について具体的に記入ください。

■貴棟の退院支援体制についてお伺いします。

問21 貴棟では退院支援*を実施していますか。

01 実施している (⇒問21-1、問21-2へ)

02 実施していない (⇒本間で終了です)

※退院支援とは、関係職種によって退院支援計画の作成、退院先の検討、退院後の必要なサービスの紹介等を行うことをいいます。

問21-1 貴棟において退院支援に専従*¹している職員数(実人数)をご記入ください。

1 看護師		人
2 准看護師		人
3 ソーシャルワーカー* ²		人
【再掲】社会福祉士の資格保有者		人
4 事務職員		人
5 その他の職種		人

※1. 専従とは、原則として当該業務のみに従事することをいいます。

※2. ソーシャルワーカーとは、患者等が地域や家庭において自立した生活を送ることができるよう、患者や家族の抱える心理的・社会的な問題の解決・調整を援助し、社会復帰の促進を図るための業務の従事者のことをいいます。

問21-2 退院支援の内容として該当するもの全てに○をつけてください。

- 01 入院中の治療方針に関する説明と退院までの見通しの説明
- 02 継続的な療養管理が可能な状態となるまでの期間と退院日の設定
- 03 退院後の居場所に関する調整
- 04 患者や家族に対するカウンセリングと精神的支援
- 05 患者への治療に係る目標管理と退院指導
- 06 家族への介護技術と医療技術の指導
- 07 要介護認定の支援や介護サービスに係る紹介や調整
- 08 利用可能な社会資源・制度に関する情報提供や利用の支援
- 09 退院当日や退院後の療養相談
- 10 退院後の定期的な患者の状態確認
- 11 その他 ()

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。

診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成23年度調査）
回復期リハビリテーションにおけるリハビリテーション見直しの影響調査

- 平成23年6月1カ月間に、回復期リハビリテーション病棟から退棟した全ての患者（ただし、回復期リハビリテーション病棟入院料の適応患者のみ）の状況について、該当患者1人につき本調査票1部を可能な範囲でご記入ください。
- 病棟番号は、当該患者が退棟した病棟についての【病棟票】に記入された番号と同じ番号をご記入ください。

病棟番号	
------	--

■患者の基本的事項

1 性別	01 男性 02 女性	2 年齢	(6月1日現在) _____ 歳
3 要介護度	01 要介護認定を受けている ⇒ (要支援1・要支援2・要介護1・要介護2・要介護3・要介護4・要介護5) 02 要介護認定の申請を行ったが、非該当であった 03 介護保険の被保険者であるが、要介護認定を受けていない 04 介護保険の対象年齢・対象疾病でない		
4 発症・受傷前の居宅での介護者の状況 (○は1つ)	01 独居であり、介護者は全くいない 02 独居ではないが、家族等が高齢・病気等のため、介護者は全くいない 03 独居ではないが、日中は家族が仕事等で不在 04 常時、介護者（家族・友人等）が1人いる 05 常時、介護者（家族・友人等）が複数いる		

■入棟時の状況

1 発症・受傷日	平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日	2 入棟日	平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日	
3 原因疾患 (○は1つ)	01 脳血管疾患 03 頭部外傷 02 脊髄損傷 04 その他の脳神経系疾患 05 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の骨折、二肢以上の多発骨折 06 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の神経、筋、靭帯損傷 07 股関節又は膝関節の置換術後の状態 08 外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群 09 その他 (_____)			
4 状態像等 (○はいくつでも)	01 合併症を有する状態 (具体的内容: _____) 02 中心静脈栄養を行っている状態 04 気管切開を有する状態 03 重度の認知症を有する状態 05 人工透析を行っている状態			
5 入棟前の居場所 (○は1つ)	01 在宅 10 07~09以外の他の病院のその他の病床 02 自院の急性期病床 ^注 11 有床診療所 03 自院の他の回復期リハビリテーション病棟 12 介護老人保健施設 (老人保健施設) 04 02~03以外の自院の一般病床 13 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 05 02~03以外の自院の療養病床 14 認知症高齢者グループホーム 06 02~05以外の自院のその他の病床 15 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス) 07 他の病院の回復期リハビリテーション病棟 16 高齢者専用賃貸住宅 08 07以外の他の病院の一般病床 17 障害者支援施設 09 07以外の他の病院の療養病床 18 その他			
6 日常生活機能評価	① 床上安静の指示	点	⑧ 口腔清潔	点
	② どちらかの手を胸元まで持ち上げられる	点	⑨ 食事摂取	点
	③ 寝返り	点	⑩ 衣服の着脱	点
	④ 起き上がり	点	⑪ 他者への意思の伝達	点
	⑤ 座位保持	点	⑫ 診療・療養上の指示が通じる	点
	⑥ 移乗	点	⑬ 危険行動	点
	⑦ 移動方法	点		
7 バーセル指数	① 食事	点	⑥ 平地歩行	点
	② 移乗	点	⑦ 階段昇降	点
	③ 整容	点	⑧ 更衣	点
	④ トイレ動作	点	⑨ 排便コントロール	点
	⑤ 入浴	点	⑩ 排尿コントロール	点
8 FIM	① 運動項目 (13項目合計)	点	② 認知項目 (5項目合計)	点

注) 急性期病床とは、7対1入院基本料等 (7対1入院基本料、10対1入院基本料を算定している病棟 (一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料及び専門病院入院基本料に限る。)、総合入院体制加算、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料並びに脳卒中ケアユニット入院医療管理料のいずれか) に係る届出病床を指す。

《 裏面に続きます 》


■入棟期間中に実施したリハビリテーションの単位数

		入棟日の属する週の 翌週 1 週間		退棟日の属する週の 前週 1 週間	
1 脳血管疾患等リハビリテーション (廃用症候群以外)	理学療法		単位		単位
	作業療法		単位		単位
	言語聴覚療法		単位		単位
2 脳血管疾患等リハビリテーション (廃用症候群)	理学療法		単位		単位
	作業療法		単位		単位
	言語聴覚療法		単位		単位
3 心大血管疾患リハビリテーション	理学療法		単位		単位
4 運動器リハビリテーション	理学療法		単位		単位
	作業療法		単位		単位
5 呼吸器リハビリテーション	理学療法		単位		単位
	作業療法		単位		単位
6 入棟期間中に1週間以上リハビリテーションを中止したことの有無			01 有り	02 無し	

■退棟時の状況

1 退棟日	平成23年6月____日				
2 退棟後の居場所 (○は1つ)	01 在宅				11 有床診療所
	02 自院の急性期病床				12 介護老人保健施設 (老人保健施設)
	03 自院の他の回復期リハビリテーション病棟				13 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)
	04 02~03 以外の自院の一般病床				14 グループホーム
	05 02~03 以外の自院の療養病床				15 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス)
	06 02~05 以外の自院のその他の病床				16 高齢者専用賃貸住宅
	07 他の病院の回復期リハビリテーション病棟				17 障害者支援施設
	08 07 以外の他の病院の一般病床				18 死亡
	09 07 以外の他の病院の療養病床				19 その他
	10 07~09 以外の他の病院のその他の病床				
3 退棟時の転帰 (○は1つ)	01 治癒	03 不変	05 死亡		
	02 軽快	04 悪化	06 その他		
4 日常生活機能評価	① 床上安静の指示	点	⑧ 口腔清潔	点	
	② どちらかの手を胸元まで持ち上げられる	点	⑨ 食事摂取	点	
	③ 寝返り	点	⑩ 衣服の着脱	点	
	④ 起き上がり	点	⑪ 他者への意思の伝達	点	
	⑤ 座位保持	点	⑫ 診療・療養上の指示が通じる	点	
	⑥ 移乗	点	⑬ 危険行動	点	
	⑦ 移動方法	点			
5 バースル指数	① 食事	点	⑥ 平地歩行	点	
	② 移乗	点	⑦ 階段昇降	点	
	③ 整容	点	⑧ 更衣	点	
	④ トイレ動作	点	⑨ 排便コントロール	点	
	⑤ 入浴	点	⑩ 排尿コントロール	点	
6 FIM	① 運動項目 (13項目合計)	点	② 認知項目 (5項目合計)	点	
7 退棟決定の状況 (○は1つ)	01 予定よりも早く退棟できた				
	02 特に問題なく、予定通りに退棟できた				
	03 病状悪化等の理由により、退棟が延びていた				
	04 入所・入院する施設の都合で、退棟が延びていた				
	05 在宅に戻る予定だったが、家族の受け入れ態勢が整わず、退棟が延びていた				
	06 在宅に戻る予定だったが、介護保険サービスの利用開始待ちのため、退棟が延びていた				
	07 その他 ()				

■退棟後の状況 (退棟後の居場所が「病院」「有床診療所」「老健」「障害者支援施設」以外の場合)

1 通院先	01 自院の外来	02 他院の外来	03 なし	04 不明
2 退院後の方針	01 介護保険のリハビリを利用	02 医療保険のリハビリを利用	03 リハビリを利用しない	04 不明
	 該当するサービスに○をしてください (通所リハビリ・訪問リハビリ・その他)			

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。

診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成23年度調査）
 亜急性期入院医療管理料1算定病棟におけるリハビリテーション見直しの影響調査

- 平成23年6月1カ月間に、亜急性期入院医療管理料1の算定病棟から退棟した患者のうち、リハビリテーション料を算定した全ての患者（ただし、亜急性期入院医療管理料1の適応患者のみ）の状況について、該当患者1人につき本調査票1部を可能な範囲でご記入ください。
- 病棟番号は、当該患者が退棟した病棟についての【病棟票】に記入された番号と同じ番号をご記入ください。

病棟番号	
------	--

■患者の基本的事項

1 性別	01 男性 02 女性	2 年齢	(6月1日現在) _____ 歳
3 要介護度	01 要介護認定を受けている ⇒ (要支援1・要支援2・要介護1・要介護2・要介護3・要介護4・要介護5) 02 要介護認定の申請を行ったが、非該当であった 03 介護保険の被保険者であるが、要介護認定を受けていない 04 介護保険の対象年齢・対象疾病でない		
4 発症・受傷前の居宅での介護者の状況 (○は1つ)	01 独居であり、介護者は全くいない 02 独居ではないが、家族等が高齢・病気等のため、介護者は全くいない 03 独居ではないが、日中は家族が仕事等で不在 04 常時、介護者（家族・友人等）が1人いる 05 常時、介護者（家族・友人等）が複数いる		

■入棟時の状況

1 発症・受傷日	平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日	2 入棟日	平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日
3 原因疾患 (○は1つ)	01 脳血管疾患 03 頭部外傷 02 脊髄損傷 04 その他の脳神経系疾患 05 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の骨折、二肢以上の多発骨折 06 大腿骨、骨盤、脊椎、股関節、膝関節等の神経、筋、靭帯損傷 07 股関節又は膝関節の置換術後の状態 08 外科手術又は肺炎等の治療時の安静による廃用症候群 09 その他 (_____)		
4 状態像等 (○はいくつでも)	01 合併症を有する状態 (具体的内容: _____) 02 中心静脈栄養を行っている状態 04 気管切開を有する状態 03 重度の認知症を有する状態 05 人工透析を行っている状態		
5 入棟前の居場所 (○は1つ)	01 在宅 10 07～09以外の他の病院のその他の病床 02 自院の急性期病床 ^注 11 有床診療所 03 自院の回復期リハビリテーション病棟 12 介護老人保健施設 (老人保健施設) 04 02～03以外の自院の一般病床 13 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム) 05 02～03以外の自院の療養病床 14 認知症高齢者グループホーム 06 02～05以外の自院のその他の病床 15 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス) 07 他の病院の回復期リハビリテーション病棟 16 高齢者専用賃貸住宅 08 07以外の他の病院の一般病床 17 障害者支援施設 09 07以外の他の病院の療養病床 18 その他		
6 日常生活機能評価	① 床上安静の指示 点 ② どちらかの手を胸元まで持ち上げられる 点 ③ 寝返り 点 ④ 起き上がり 点 ⑤ 座位保持 点 ⑥ 移乗 点 ⑦ 移動方法 点	⑧ 口腔清潔 点 ⑨ 食事摂取 点 ⑩ 衣服の着脱 点 ⑪ 他者への意思の伝達 点 ⑫ 診療・療養上の指示が通じる 点 ⑬ 危険行動 点	
7 バースル指数	① 食事 点 ② 移乗 点 ③ 整容 点 ④ トイレ動作 点 ⑤ 入浴 点	⑥ 平地歩行 点 ⑦ 階段昇降 点 ⑧ 更衣 点 ⑨ 排便コントロール 点 ⑩ 排尿コントロール 点	
8 FIM	① 運動項目 (13項目合計) 点	② 認知項目 (5項目合計) 点	

注) 急性期病床とは、7対1入院基本料等 (7対1入院基本料、10対1入院基本料を算定している病棟 (一般病棟入院基本料、特定機能病院入院基本料及び専門病院入院基本料に限る。)、総合入院体制加算、救命救急入院料、特定集中治療室管理料、ハイケアユニット入院医療管理料並びに脳卒中ケアユニット入院医療管理料のいずれか) に係る届出病床を指す。


■入棟期間中に実施したリハビリテーションの単位数

		入棟日の属する週の 翌週 1 週間		退棟日の属する週の 前週 1 週間	
1 脳血管疾患等リハビリテーション (廃用症候群以外)	理学療法		単位		単位
	作業療法		単位		単位
	言語聴覚療法		単位		単位
2 脳血管疾患等リハビリテーション (廃用症候群)	理学療法		単位		単位
	作業療法		単位		単位
	言語聴覚療法		単位		単位
3 心大血管疾患リハビリテーション	理学療法		単位		単位
4 運動器リハビリテーション	理学療法		単位		単位
	作業療法		単位		単位
5 呼吸器リハビリテーション	理学療法		単位		単位
	作業療法		単位		単位
6 入棟期間中に1週間以上リハビリテーションを中止したことの有無			01 有り	02 無し	

■退棟時の状況

1 退棟日	平成23年6月____日				
2 退棟後の居場所 (○は1つ)	01 在宅		11 有床診療所		
	02 自院の急性期病床		12 介護老人保健施設 (老人保健施設)		
	03 自院の他の回復期リハビリテーション病棟		13 介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)		
	04 02~03 以外の自院の一般病床		14 グループホーム		
	05 02~03 以外の自院の療養病床		15 有料老人ホーム・軽費老人ホーム (ケアハウス)		
	06 02~05 以外の自院のその他の病床		16 高齢者専用賃貸住宅		
	07 他の病院の回復期リハビリテーション病棟		17 障害者支援施設		
	08 07 以外の他の病院の一般病床		18 死亡		
	09 07 以外の他の病院の療養病床		19 その他		
	10 07~09 以外の他の病院のその他の病床				
3 退棟時の転帰 (○は1つ)	01 治癒		03 不変		05 死亡
	02 軽快		04 悪化		06 その他
4 日常生活機能評価	① 床上安静の指示	点	⑧ 口腔清潔	点	
	② どちらかの手を胸元まで持ち上げられる	点	⑨ 食事摂取	点	
	③ 寝返り	点	⑩ 衣服の着脱	点	
	④ 起き上がり	点	⑪ 他者への意思の伝達	点	
	⑤ 座位保持	点	⑫ 診療・療養上の指示が通じる	点	
	⑥ 移乗	点	⑬ 危険行動	点	
	⑦ 移動方法	点			
5 バースル指数	① 食事	点	⑥ 平地歩行	点	
	② 移乗	点	⑦ 階段昇降	点	
	③ 整容	点	⑧ 更衣	点	
	④ トイレ動作	点	⑨ 排便コントロール	点	
	⑤ 入浴	点	⑩ 排尿コントロール	点	
6 FIM	① 運動項目 (13 項目合計)	点	② 認知項目 (5 項目合計)	点	
7 退棟決定の状況 (○は1つ)	01 予定よりも早く退棟できた				
	02 特に問題なく、予定通りに退棟できた				
	03 病状悪化等の理由により、退棟が延びていた				
	04 入所・入院する施設の都合で、退棟が延びていた				
	05 在宅に戻る予定だったが、家族の受け入れ態勢が整わず、退棟が延びていた				
	06 在宅に戻る予定だったが、介護保険サービスの利用開始待ちのため、退棟が延びていた				
	07 その他 ()				

■退棟後の状況 (退棟後の居場所が「病院」「有床診療所」「老健」「障害者支援施設」以外の場合)

1 通院先	01 自院の外来	02 他院の外来	03 なし	04 不明
2 退院後の方針	01 介護保険のリハビリを利用	02 医療保険のリハビリを利用	03 リハビリを利用しない	04 不明
	 該当するサービスに ○をしてください (通所リハビリ・訪問リハビリ・その他)			

設問は以上です。ご協力まことにありがとうございました。

診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成23年度調査）
外来リハビリテーションの実態調査

●平成23年8月31日（水）に、外来において疾患別リハビリテーション料を算定した全ての患者を対象とします。該当患者1人につき本調査票1部を可能な範囲でご記入ください。

■患者の基本的事項

1 性別	01 男性 02 女性	2 年齢	(8月1日現在) _____ 歳
3 要介護度	01 要介護認定を受けている ↳ 要介護度 < 要支援1・要支援2・要介護1・要介護2・要介護3・要介護4・要介護5 > 02 要介護認定の申請を行ったが、非該当であった 03 介護保険の被保険者であるが、要介護認定を受けていない 04 介護保険の対象年齢・対象疾病でない		
4 発症・受傷日	平成_____年_____月_____日		
5 初診日	平成_____年_____月_____日		

■平成23年7月1カ月間に実施したリハビリテーションの実施状況

1 対象疾患	具体的な疾患名：		
2 標準算定日数	01 7月中は標準算定日数以内であった 02 7月途中に標準算定日数を超えた 03 7月当初から標準算定日数を超えていた		
4 診療実日数	7月中 _____日		
5 実施単位数	理学療法（ ）単位	作業療法（ ）単位	言語療法（ ）単位

■今回の受診時に算定したリハビリテーション料

01 心大血管疾患リハビリテーション料	04 運動器リハビリテーション料
02 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群以外）	05 呼吸器リハビリテーション料
03 脳血管疾患等リハビリテーション料（廃用症候群）	06 障害児（者）リハビリテーション料

■医学的観点から見た診察の必要頻度について

現在、外来でリハビリテーションを提供する際には、毎回、医師が診察することを必要としています。医学的観点から見た場合に、医師が診察する必要が生ずる頻度はどの程度ですか。

01 毎回必ず医師による診察が必要	03 月に1回程度の医師による診察でよい
02 週に1回、必ず医師による診察が必要	04 その他（ ）

■当該患者がリハビリテーション料の標準算定日数を超えている場合にのみご回答ください。

1 患者の状態	01 治療を継続することにより状態の 改善 が期待できると医学的に判断される
	02 治療を継続することにより状態の 維持 が期待できると医学的に判断される

◀02の場合にのみ、介護保険によるリハビリテーションを利用しない理由として該当するもの全てをお選びください▶

01 患者にとって、要介護認定の申請が負担であるから
02 ケアマネジャーと連携が取れず、ケアプランにリハビリテーションが含まれていないから
03 維持期のリハビリは現行の13単位内で提供できるから
04 自院・近隣で通所リハビリを提供していないから
05 通所リハビリでは個別リハビリが受けられないから
06 通所リハビリではリハビリの質が不明であるから
07 患者にとって、医療から介護へ移行することに対する心理的抵抗感が大きいから
08 現在、通院に当たり、訪問介護による送迎を利用しているから
09 その他（ ）

診療報酬改定の結果検証に係る調査（平成23年度調査）

がん患者リハビリテーション創設の影響に関する実態調査

- 特に指定がある場合を除いて、平成23年6月1日現在の状況についてお答えください。
- 数値を記入する設問で、該当する方等が無い場合は「0」（ゼロ）をご記入ください。

■本調査票のご記入日・ご記入者について下表にご記入下さい。

調査票ご記入日	平成23年（ ）月（ ）日
ご記入担当者名	
連絡先電話番号	
連絡先FAX番号	

■貴院の概況についてお伺いします。

問1 貴院の開設者について該当するものを1つお選びください。

- 01 国（厚生労働省,独立行政法人国立病院機構,国立大学法人,独立行政法人労働者健康福祉機構 等）
- 02 公的医療機関（都道府県,市町村,一部事務組合,日赤,済生会,北海道社会事業協会,厚生連,国民健康保険団体連合会）
- 03 社会保険関係団体（全国社会保険協会連合会,厚生年金事業振興団,船員保険会,健康保険組合,共済組合,国民健康保険組合）
- 04 医療法人
- 05 個人
- 06 その他（公益法人,私立学校法人,社会福祉法人,医療生協,会社 等）

問2 貴院はがん診療連携拠点病院の指定状況として該当するものをお選びください。

- 01 都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受けている
- 02 地域がん診療連携拠点病院の指定を受けていない
- 03 指定は受けていない

問3 貴院で平成23年6月1日時点に届出を行っているリハビリテーション料について、該当する全てに○をつけてください。	
01 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	09 呼吸器リハビリテーション料 (I)
02 心大血管疾患リハビリテーション料 (II)	10 呼吸器リハビリテーション料 (II)
03 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)	11 難病患者リハビリテーション料
04 脳血管疾患等リハビリテーション料 (II)	12 障害児 (者) リハビリテーション料
05 脳血管疾患等リハビリテーション料 (III)	13 がん患者リハビリテーション料
06 運動器リハビリテーション料 (I)	14 集団コミュニケーション療法料
07 運動器リハビリテーション料 (II)	
08 運動器リハビリテーション料 (III)	

問4 平成22年度のがん患者リハビリテーション料を算定した在院患者延べ数*をご記入ください。		
1 食道がん・肺がん・縦隔腫瘍・胃がん、肝臓がん、胆嚢がん、膵臓がん、大腸がんと診断され、入院中に閉鎖循環式麻酔により手術が施行された患者	延べ	人
2 舌がん、口腔がん、咽頭がん、喉頭がん、その他頸部リンパ節郭清を必要とするがんにより入院し、当該入院中に放射線治療あるいは閉鎖循環式麻酔による手術が施行された患者	延べ	人
3 乳がんに対し、腋窩リンパ節郭清を伴う悪性腫瘍手術が施行された患者	延べ	人
4 骨軟部腫瘍又はがんの骨転移により当該入院中に患肢温存術又は切断術、創外固定又はピン固定等の固定術、化学療法もしくは放射線治療が施行された患者	延べ	人
5 原発性脳腫瘍又は転移性脳腫瘍の患者で当該入院中に手術又は放射線治療が施行された患者	延べ	人
6 血液腫瘍により当該入院中に化学療法又は造血幹細胞移植を行った患者	延べ	人

※在院患者延べ数は、例えば、該当する1人の入院患者が5日間入院していた場合は5人として計算してください。

《問5は、平成22年度のがん患者リハビリテーション料を算定した患者がない場合にご回答ください》

問5 貴院でがん患者リハビリテーション料の算定をしていない理由について具体的にご記入ください。

問6 がんリハビリテーションに係るリハビリテーション計画を作成する際に、各職種が関与している状況について、選択してください。			
1 医師	01 必ず関与している	02 必要に応じ関与している	03 関与していない
2 看護師	01 必ず関与している	02 必要に応じ関与している	03 関与していない
3 准看護師	01 必ず関与している	02 必要に応じ関与している	03 関与していない
4 理学療法士	01 必ず関与している	02 必要に応じ関与している	03 関与していない
5 作業療法士	01 必ず関与している	02 必要に応じ関与している	03 関与していない
6 言語聴覚士	01 必ず関与している	02 必要に応じ関与している	03 関与していない
7 社会福祉士	01 必ず関与している	02 必要に応じ関与している	03 関与していない
8 その他（具体的な職種についてもご記入ください）			
(職種)	01 必ず関与している	02 必要に応じ関与している	03 関与していない
(職種)	01 必ず関与している	02 必要に応じ関与している	03 関与していない
(職種)	01 必ず関与している	02 必要に応じ関与している	03 関与していない

問7 貴院におけるカンサーボードの設置状況、開催頻度、参加している職種（複数回答）についてご回答ください。		
1 設置状況	01 設置している	02 設置していない
2 開催頻度 (該当する1つに○)	01 毎日	04 月1～2回
	02 週2～3回程度	05 数カ月に1度
	03 週1回程度	06 特に開催頻度を定めていない
3 参加職種 (該当する全てに○)	01 医師	05 作業療法士
	02 看護師	06 言語聴覚士
	03 准看護師	07 社会福祉士
	04 理学療法士	08 その他（)

問8 がん患者リハビリテーション料の創設により、改善の見られた点を全てお選びください。	
01	術前からリハビリテーションを提供できるようになった
02	化学療法等徐々に身体に変化がある場合でも早期介入が可能になった
03	合併症が減少した
04	転倒等のインシデントが減少した
05	バーセル指数やFIM等による評価を導入し、患者の状態像の把握ができた
06	患者の状態像の早期回復が図られた
07	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等のリハビリ関係職種の病棟の来棟頻度が増えた
08	スタッフのリハビリテーションに対する意識が向上した
09	その他（)
10	特に変化はない

